06 年度以降（春） 03～05 年度（春）	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 英語学とは英語の言語学であり，言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である．英語学は英語という言語のさまざまな面を科学的に研究する分野である．この講義では，英語の音・語・文・意味・用法に関する特徴がどのように研究されるかを概観する． **講義概要**: 人間がどのような音を用いるか，英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される．文の最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される．統語論は，語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつか，どのように説明するのが適切であるかを研究する．意味論は，文がどのような意味内容を表すかを扱う．文の意味内容を理解するためには，語句の文における機能，語の意味や語の結合の意味計算，語の修飾関係などを知る必要がある．文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である．	1. 英語学とは何か：英語の言語学的研究，言語学の研究領域 2. 音声学（1）：音声学と音韻論，音声学の諸分野 3. 音声学（2）：子音と母音の特徴と種類 4. 音韻論（1）：英語の母音・子音体系，母音の種類，子音の種類 5. 音韻論（2）：音韻操作・過程，強勢・リズム・音調 6. 形態論（1）：語の基本構造，形態素の種類と語の構成 7. 形態論（2）：語形成の方法，派生接辞と屈折接辞，複合語 8. 統語論（1）：語句のまとまり，語順の役割 9. 統語論（2）：文法機能の決定，統語構造の説明 10. 統語論（3）：統語構造の句構造標識による説明，句構造標識の表す情報，抽象的構造と派生 11. 意味論（1）：意味解釈の諸相，語彙的曖昧性と非曖昧化，構造上の曖昧性，語の意味分析，意味素性 12. 意味論（2）：文の意味分析，動詞の意味素性による意味解釈，移動構文の意味解釈 13. 語用論（1）：発話行為，直示表現，会話の含意と協調の原則 14. 語用論（2）：言内・言外の意味，前提と主張，情報構造
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: プリントを配布 **参考書**: 安井稔（1987）『英語学概論』（開拓社）	出席状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる．

06 年度以降（秋） 03～05 年度（秋）	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 英語学とは英語の言語学であり，言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である．英語学は英語という言語のさまざまな面を科学的に研究する分野である．この講義では，英語の音・語・文・意味・用法に関する特徴がどのように研究されるかを概観する． **講義概要**: 人間がどのような音を用いるか，英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される．文の最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される．統語論は，語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつか，どのように説明するのが適切であるかを研究する．意味論は，文がどのような意味内容を表すかを扱う．文の意味内容を理解するためには，語句の文における機能，語の意味や語の結合の意味計算，語の修飾関係などを知る必要がある．文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である．	1. 英語学とは何か：英語の言語学的研究，言語学の研究領域 2. 音声学（1）：音声学と音韻論，音声学の諸分野 3. 音声学（2）：子音と母音の特徴と種類 4. 音韻論（1）：英語の母音・子音体系，母音の種類，子音の種類 5. 音韻論（2）：音韻操作・過程，強勢・リズム・音調 6. 形態論（1）：語の基本構造，形態素の種類と語の構成 7. 形態論（2）：語形成の方法，派生接辞と屈折接辞，複合語 8. 統語論（1）：語句のまとまり，語順の役割 9. 統語論（2）：文法機能の決定，統語構造の説明 10. 統語論（3）：統語構造の句構造標識による説明，句構造標識の表す情報，抽象的構造と派生 11. 意味論（1）：意味解釈の諸相，語彙的曖昧性と非曖昧化，構造上の曖昧性，語の意味分析，意味素性 12. 意味論（2）：文の意味分析，動詞の意味素性による意味解釈，移動構文の意味解釈 13. 語用論（1）：発話行為，直示表現，会話の含意と協調の原則 14. 語用論（2）：言内・言外の意味，前提と主張，情報構造
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: プリントを配布 **参考書**: 安井稔（1987）『英語学概論』（開拓社）	出席状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる．

06 年度以降（春） 03～05 年度（春）	英語学入門 英語学概論 a	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
impossible, intolerable はどちらも下線部の逆を意味する形容詞であるが、2番目の文字は m と n で異なる. また、incomplete は n だが、intolerable の n とは舌の位置が違うのに気づくだろうか. 同じような違いが実は日本語の「乾杯」「関東」「関係」の「ん」の発音にもある. また、日本語には「上がる／上げる」や「続く／続ける」のように意味や発音に共通部分が多いペアがあるが、英語でも rise/raise や continue（自・他動詞同形）というように、同じような動詞のペアがある. これらの共通性は実は日英語に限ったことではなく、世界中の言語に広くみられる. この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていく. 扱うデータは英語が中心であるが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げる. また、不幸にして母国語を持たない、もしくは失ってしまった事例や、絵を語の代わりに使うコミュニケーションの可能性について考察する. さらに、実際的な英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらえると思う.	1. 無意識の言語知識 2. 英語の音のしくみ 3. 様々な音韻現象　（クイズ 1） 4. 英語の単語の成り立ち　（クイズ 2） 5. 続き　（クイズ 3） 6. 英語の文構造　（クイズ 4） 7. 続き　（クイズ 5） 8. 続き　（クイズ 6） 9. 子供の言語獲得　（クイズ 7） 10. 言語障害　（クイズ 8） 11. 絵文字によるコミュニケーション（クイズ 9） 12. 私たちにとって言語とは何か（クイズ 10） 13. 続き 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。プリントを配布する。	授業の最初に簡単な復習クイズを行う（上記の授業計画参照）。評価はこのクイズ（20%）と定期試験（80%）による。

06 年度以降（秋） 03～05 年度（秋）	英語学入門 英語学概論 a	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
impossible, intolerable はどちらも下線部の逆を意味する形容詞であるが、2 番目の文字は m と n で異なる. また、incomplete は n だが、intolerable の n とは舌の位置が違うのに気づくだろうか. 同じような違いが実は日本語の「乾杯」「関東」「関係」の「ん」の発音にもある. また、日本語には「上がる／上げる」や「続く／続ける」のように意味や発音に共通部分が多いペアがあるが、英語でも rise/raise や continue（自・他動詞同形）というように、同じような動詞のペアがある. これらの共通性は実は日英語に限ったことではなく、世界中の言語に広くみられる. この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていく. 扱うデータは英語が中心であるが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げる. また、不幸にして母国語を持たない、もしくは失ってしまった事例や、絵を語の代わりに使うコミュニケーションの可能性について考察する. さらに、実際的な英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらえると思う.	1. 無意識の言語知識 2. 英語の音のしくみ 3. 様々な音韻現象　（クイズ 1） 4. 英語の単語の成り立ち　（クイズ 2） 5. 続き　（クイズ 3） 6. 英語の文構造　（クイズ 4） 7. 続き　（クイズ 5） 8. 続き　（クイズ 6） 9. 子供の言語獲得　（クイズ 7） 10. 言語障害　（クイズ 8） 11. 絵文字によるコミュニケーション（クイズ 9） 12. 私たちにとって言語とは何か（クイズ 10） 13. 続き 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。プリントを配布する。	授業の最初に簡単な復習クイズを行う（上記の授業計画参照）。評価はこのクイズ（20%）と定期試験（80%）による。

03～05 年度（春）	英語学概論 b	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
[目標] 英語学(Enlgish linguistics)の学問研究から得られた英語についての知見を紹介することを通じ、高校時代までに習ってきた英語の知識（単語の意味・イントネーション・語法・構文）のうちで間違って習った点を正しながら、さらに一歩掘り下げ、正しい知識であっても、なぜそのように言えて別の言い方ができないのかということを中心に解説する。したがってこの講義を受講すると、例えば、高校時代に楽器には定冠詞を付けて play the guitar と言わなければならないと教わるが、冠詞を付けなくとも、あるいは a と the のどちらを付けてもよく、ただ単にギターという楽器にたいする意味づけの仕方が異なるだけであるということがわかるようになる。 [概要] 右の授業計画に沿い、高校時代までに学習してきた英語の知識にたいし、「どうしてそうは言えてもこうは言えないのか？」という素朴な疑問に対し、英語学(English linguistics)の観点からの説明を試みる。	第 1 回：ガイダンス 第 2 回：不定冠詞付き名詞は何を意味するか？ 第 3 回：定冠詞付き名詞は何を意味するか？ 第 4 回：数えられる名詞と数えられない名詞 第 5 回：時制と相（現在時制と過去時制・進行相） 第 6 回：時制と相（完了相） 第 7 回：モダリティ（命題態度表現） 第 8 回：モダリティ（発話態度表現） 第 9 回：動詞の意味と構文（自他の交替） 第 10 回：動詞の意味と構文（構文交替のメカニズムを探る） 第 11 回：存在を表す構文（There 構文、はだか存在文、提示文） 第 12 回：否定の意味（文否定と構成素否定・二重否定） 第 13 回：否定の意味（部分否定と全体否定） 第 14 回：否定の意味 （much・any/some・few/a few/several） 第 15 回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：本学の講義支援ポータルサイトを通じてプリントを配布する。 参考書：授業中に適宜紹介する。	課題と小テストおよび定期試験で決める。

03～05 年度（秋）	英語学概論 b	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
[目標] 英語学(Enlgish linguistics)の学問研究から得られた英語についての知見を紹介することを通じ、高校時代までに習ってきた英語の知識（単語の意味・イントネーション・語法・構文）のうちで間違って習った点を正しながら、さらに一歩掘り下げ、正しい知識であっても、なぜそのように言えて別の言い方ができないのかということを中心に解説する。したがってこの講義を受講すると、例えば、高校時代に楽器には定冠詞を付けて play the guitar と言わなければならないと教わるが、冠詞を付けなくとも、あるいは a と the のどちらを付けてもよく、ただ単にギターという楽器にたいする意味づけの仕方が異なるだけであるということがわかるようになる。 [概要] 右の授業計画に沿い、高校時代までに学習してきた英語の知識にたいし、「どうしてそうは言えてもこうは言えないのか？」という素朴な疑問に対し、英語学(English linguistics)の観点からの説明を試みる。	第 1 回：ガイダンス 第 2 回：不定冠詞付き名詞は何を意味するか？ 第 3 回：定冠詞付き名詞は何を意味するか？ 第 4 回：数えられる名詞と数えられない名詞 第 5 回：時制と相（現在時制と過去時制・進行相） 第 6 回：時制と相（完了相） 第 7 回：モダリティ（命題態度表現） 第 8 回：モダリティ（発話態度表現） 第 9 回：動詞の意味と構文（自他の交替） 第 10 回：動詞の意味と構文（構文交替のメカニズムを探る） 第 11 回：存在を表す構文（There 構文、はだか存在文、提示文） 第 12 回：否定の意味（文否定と構成素否定・二重否定） 第 13 回：否定の意味（部分否定と全体否定） 第 14 回：否定の意味 （much・any/some・few/a few/several） 第 15 回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：本学の講義支援ポータルサイトを通じてプリントを配布する。 参考書：授業中に適宜紹介する。	課題と小テストおよび定期試験で決める。

06 年度以降（春） 03～05 年度（春）	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学・文化概論 a	担当者	前沢浩子・片山亜紀 原　成吉・上野直子

講義目的、講義概要	授業計画
いまや英語圏は世界中に広がっている。そのなかでも「間大西洋地域」を中心に、歴史と世界の動きのなかから生まれた文学と文化のエッセンスを紹介する。14 回の講義を通して、文学表現のおもしろさを味わうとともに、文学・文化と政治・社会との複雑な関係にも気づいてほしい。 4 名の教員で担当し、各担当教員は専門とする地域とトピックについて講義を行う。授業で扱う地域は、イギリス連合王国、アメリカ合衆国、カリブ諸地域が中心となるが、その他の英語圏にも目配りしつつ進めたい。（第 1 回～3 回、前沢。第 4 回～7 回、片山。第 8 回～10 回、原。第 11 回～14 回、上野。）	第 1 回：ユニオンジャックとシェイクスピア 第 2 回：18 世紀の市民社会とジャーナリズム 第 3 回：フランス革命とイギリス・ロマン派 第 4 回：フランケンシュタインとはだれか 第 5 回：ジェイン・オースティンの世界 第 6 回：ヴィクトリア時代の子どもたち 第 7 回：教養小説の変容 第 8 回：デモクラシーとホイットマン 第 9 回：冷戦とビート文学 第 10 回：ヴェトナム戦争とロックミュージック 第 11 回：西欧史の背中の臍＝カリブと英語圏のひろがり 第 12 回：言葉を持たぬ「キャリバン」から文学の豊穣まで 第 13 回：ディアスポラの世界地図・言葉という故郷 第 14 回：ユニオンジャックに「黒」はない？
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。	定期試験による。詳細は開講時に説明する。

06 年度以降（秋） 03～05 年度（秋）	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学・文化概論 a	担当者	前沢浩子・片山亜紀 島田啓一・上野直子

講義目的、講義概要	授業計画
いまや英語圏は世界中に広がっている。そのなかでも「間大西洋地域」を中心に、歴史と世界の動きのなかから生まれた文学と文化のエッセンスを紹介する。14 回の講義を通して、文学表現のおもしろさを味わうとともに、文学・文化と政治・社会との複雑な関係にも気づいてほしい。 4 名の教員で担当し、各担当教員は専門とする地域とトピックについて講義を行う。授業で扱う地域は、イギリス連合王国、アメリカ合衆国、カリブ諸地域が中心となるが、その他の英語圏にも目配りしつつ進めたい。（第 1 回～3 回、前沢。第 4 回～7 回、片山。第 8 回～10 回、島田。第 11 回～14 回、上野。）	第 1 回：ユニオンジャックとシェイクスピア 第 2 回：18 世紀の市民社会とジャーナリズム 第 3 回：フランス革命とイギリス・ロマン派 第 4 回：フランケンシュタインとはだれか 第 5 回：ジェイン・オースティンの世界 第 6 回：ヴィクトリア時代の子どもたち 第 7 回：教養小説の変容 第 8 回：ピューリタンの宗教と社会 第 9 回：アメリカン･ルネッサンスを読む 第 10 回：アメリカのユダヤ人文学 第 11 回：西欧史の背中の臍＝カリブと英語圏のひろがり 第 12 回：言葉を持たぬ「キャリバン」から文学の豊穣まで 第 13 回：ディアスポラの世界地図・言葉という故郷 第 14 回：ユニオンジャックに「黒」はない？
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。	定期試験による。詳細は開講時に説明する。

03～05 年度（春）	英語圏の文学・文化概論 b	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
イギリスの歴史から 3 つの時代を取り上げ、それぞれの時代の文化について理解を深めることを目指す。3 つの時代はいずれも女王が君主となり、新たな文化が生み出された時代である。それぞれの時代の文化について、文学、宗教、科学の 3 つの視点から論じる。 取り上げる 3 つの時代は下記のとおりである。 1. エリザベス一世の時代 2. ヴィクトリアの時代 3. エリザベス二世の時代 この 3 人の女王の治世は、初期近代(early-modern)、近代(modern)、ポストモダン(postmodern)と区分される時代にあたっている。それぞれの時代の文化を理解することによって、近代がどのように成立し、変容してきたのかが見えてくる。それぞれの時代の様相を示す英文テキストを読みながら、各時代の文化について考えていきたい。	1. Elizabeth I の時代(1)：宗教改革と近代の始まり 2. Elizabeth I の時代(2)：Shakespeare と近代英語 3. Elizabeth I の時代(3)：Shakespeare と大衆娯楽 4. Elizabeth I の時代(3)：Bacon と近代科学 5. Victoria の時代(1)：世界の工場と大英帝国 6. Victoria の時代(2)：Dickens を読んだ中流市民 7. Victoria の時代(3)：Dickens が描いた貧困層 8. Victoria の時代(4)：Darwin と進化論 9. Elizabeth II の時代(1)：Pax Britannica の終焉 10. Elizabeth II の時代(2)：Becket と不条理演劇 11. Elizabeth II の時代(3)：The Beatles と若者文化 12. Elizabeth II の時代(4)：羊の Dolly と遺伝子の時代 13. Elizabeth II の時代(5)：Bridget Jones と消費文化 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。参考文献は追って知らせる。	学期末試験の成績で評価する。

06 年度以降（春） 03～05 年度（春）	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 b	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この２つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただいて、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般的に言われていることの問い直しから始まるからです。なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。	**Ⅰ．コミュニケーション理論のフロンティア** １．講義概要、研究チームの編成 ２．科学技術的なコミュニケーション理論 ３．人間主義的なコミュニケーション理論 ４．批判実践的なコミュニケーション理論 **Ⅱ．文化研究への招待** ５．比較文化論の問題 ６．文化本質主義と文化相対主義の問題 ７．文化の政治性とは何か？ **Ⅲ．レトリック研究への招待** ８．レトリック研究とは何か？ ９．誰かを説得しようとしている自分 １０．知らぬ間に説得されている自分 **Ⅳ．発表と審査** １１．発表、審査：Day 1 １２．発表、審査：Day 2 １３．まとめ、クイズ １４．フォーラム「現代文化とコミュニケーション」
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリント配布予定、参考書：『異文化コミュニケーション研究法』(有斐閣)、『説得コミュニケーションを学ぶ人のために』（世界思想社）	①クイズ（１回：10%） ②発表（準備・発表・審査：80%） ③フォーラムへの参加（10%）

06 年度以降（秋） 03～05 年度（秋）	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この２つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただいて、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般的に言われていることの問い直しから始まるからです。なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。	**Ⅰ．コミュニケーション理論のフロンティア** １．講義概要、研究チームの編成 ２．科学技術的なコミュニケーション理論 ３．人間主義的なコミュニケーション理論 ４．批判実践的なコミュニケーション理論 **Ⅱ．文化研究への招待** ５．比較文化論の問題 ６．文化本質主義と文化相対主義の問題 ７．文化の政治性とは何か？ **Ⅲ．レトリック研究への招待** ８．レトリック研究とは何か？ ９．誰かを説得しようとしている自分 １０．知らぬ間に説得されている自分 **Ⅳ．発表と審査** １１．発表、審査：Day 1 １２．発表、審査：Day 2 １３．まとめ、クイズ １４．フォーラム「現代文化とコミュニケーション」
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリント配布予定、参考書：『異文化コミュニケーション研究法』(有斐閣)、『説得コミュニケーションを学ぶ人のために』（世界思想社）	①クイズ（１回：10%） ②発表（準備・発表・審査：80%） ③フォーラムへの参加（10%）

06 年度以降(春) 03～05 年度(春)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテクストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。 表象（represent）された言語は政治的であり、表象の代理・代用（re-present）可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏（特にアメリカ）の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなろう。 **講義概要** 講義では 1 テーマを 3 ないし 4 回の授業で扱う。テクストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータームの解説を加えながら講義を進めていく。	1　Course Orientation 2　Hollywood and Hypercommercialism 3　Hollywood and Hypercommercialism 4　Hollywood and Hypercommercialism 5　Hollywood and Hypercommercialism 6　Advertisement and Public Culture 7　Advertisement and Public Culture 8　Advertisement and Public Culture 9　Advertisement and Public Culture １０　Desire, Sexuality and Power in Music Video １１　Desire, Sexuality and Power in Music Video １２　Desire, Sexuality and Power in Music Video １３　Desire, Sexuality and Power in Music Video １４　フォーラム（現代文化とコミュニケーション）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示する。	定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況等による総合評価

06 年度以降(秋) 03～05 年度(秋)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 b	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテクストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。 表象（represent）された言語は政治的であり、表象の代理・代用（re-present）可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏（特にアメリカ）の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなろう。 **講義概要** 講義では 1 テーマを 3 ないし 4 回の授業で扱う。テクストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータームの解説を加えながら講義を進めていく。	1　Course Orientation 2　Hollywood and Hypercommercialism 3　Hollywood and Hypercommercialism 4　Hollywood and Hypercommercialism 5　Hollywood and Hypercommercialism 6　Advertisement and Public Culture 7　Advertisement and Public Culture 8　Advertisement and Public Culture 9　Advertisement and Public Culture １０　Desire, Sexuality and Power in Music Video １１　Desire, Sexuality and Power in Music Video １２　Desire, Sexuality and Power in Music Video １３　Desire, Sexuality and Power in Music Video １４　フォーラム（現代文化とコミュニケーション）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示する。	定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況等による総合評価

06 年度以降（春） 03～05 年度（春）	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 b	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。 講義は大きく分けて、「国際関係の歴史と展開」（第２～５週）と「国際社会の構造と変化」（第６～11）「グローバル化の中の国際社会」（第 12～第 14 週）の３つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。 この授業では、２年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージできるよう考慮しながら進めます。 なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	**１．イントロダクション（第１週）** ＊国際社会、国際関係論とは何かを概説します。 **２.国際関係の歴史と展開（第２～５週）** ＊20 世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、③冷戦崩壊などを扱います。 **３.国際社会の構造と変化（第６～11 週）** ＊国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。 **４.グローバル化の中の国際社会（第 12～14 週）** ＊1990 年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。具体的には、①国境を越えたヒトの移動、②新しい形の脅威と安全保障、③地球環境問題の展開などを扱います。 （初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。	学期末試験の成績に基づいて成績をつけます。

06 年度以降（秋） 03～05 年度（秋）	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 a	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。 講義は大きく分けて、「国際関係の歴史と展開」（第２～５週）と「国際社会の構造と変化」（第６～11）「グローバル化の中の国際社会」（第 12～第 14 週）の３つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。 この授業では、２年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージしてもらえるよう考慮しながら進めます。 なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	**１．イントロダクション（第１週）** ＊国際社会、国際関係論とは何かを概説します。 **２.国際関係の歴史と展開（第２～５週）** ＊20 世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明し、同時に基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、③冷戦崩壊などを扱います。 **３.国際社会の構造と変化（第６～11 週）** ＊国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。 **４.グローバル化の中の国際社会（第 12～14 週）** ＊1990 年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。具体的には、①国境を越えたヒトの移動、②新しい形の脅威と安全保障、③地球環境問題の展開などを扱います。 （初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。	学期末試験の成績に基づいて成績をつけます。

06 年度以降（春） 03～05 年度（春）	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
半期の授業を通じて、国際関係研究（study of international relations）とはどのような学問なのかを理解してもらう。最終的には、教員による説明をただ受動的に聞くのではなく、授業内容を批判的に聞き、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。 毎回の授業の冒頭では、学生諸君に日々変化する国際情勢に関心を持ってもらうために、その週の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を 30 分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。 また授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。 この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。 なお私語は厳禁、真剣に学ぼうとする学生の邪魔をするものには、即座に退室してもらう。	第 1 回：国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス 第 2 回：国際関係論はなぜ生まれたのか～戦争観の変化 第 3 回：国際関係はなぜ生まれたのか～E. H. カーと国際関係論 第 4 回：国際関係における国家～近代国家から国民国家へ 第 5 回：国際関係における国家～国家の安全と国際関係の安定 第 6 回：国際関係の分析枠組み～K. ウォルツ 第 7 回：国際関係の分析枠組み～イラク戦争 第 8 回：戦争と平和の問題～政治制度としての戦争 第 9 回：戦争と平和の問題～積極的平和と消極的平和 第 10 回：戦争と平和の問題～国際関係における秩序 第 11 回：戦争と平和の問題～国際関係における正義 第 12 回：国際政治を見る眼～リアリズムとリベラリズム 第 13 回：国際政治を見る眼～マルキシズム 第 14 回：まとめ（質疑応答）
テキスト、参考文献	**評価方法**
第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布する	不定期に実施するリアクションペーパーの提出（40%）と定期試験（60%）による評価。

09 年度以前(春)	英語音声学	担当者	青柳 真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をより深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について触れることにより、その面白さを紹介し、これ以降の音声関係の科目履修への導入とする。 講義概要 音声学の基礎の講義であり、指定テキストは初習者のもので基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでくることが必須となる。 メッセージ 第一回目の授業前にテキストを入手し、第 1 章(pp. 2-7)を読んでくること。	1. 第 1 章 「音声学とは」 学際的領域, 理論と応用, 音声の情報 2. 第 2 章 「発声のメカニズム」 器官(発声, 共鳴, 調音) 3. 第 3 章 「音声表記」 IPA, 分類(気流, 声帯振動, 調音位置/方法) 4. 第 4 章 「母音」 分類 (高低/前後, 円唇), 基本母音 5. 母音(2) 日本語との比較, スペリングと母音, アクセントと母音 6. 第 5 章 「子音」 有声/無声, 調音位置/方法, 阻害音/共鳴音 7. 子音(2) 日本語との比較 8. 第 6 章 「音節」 音節構造と強勢(第二アクセント)と母音 9. 音節(2) ﾓｰﾗ/音節, 音節の連続によるアクセント/リズム 10. 第 7 章 「語強勢」 11. 語強勢(2) フット/リズム 日本語と英語 12. 第 8 章「音縮小」 第 9 章「同時調音」 13. 第 10 章「イントネーション」 14. 音声科学の発展 (言語学、心理学、工学・教育・医療・政策・社会学, etc.)
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤寧, 佐藤努『現代の英語音声学』金星堂 (1997) その他 配布資料	出席、クイズや課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。単位認定には 2/3 以上の出席が求められる。出席は厳しい。

09 年度以前 (秋)	英語音声学	担当者	青柳 真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をより深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について触れることにより、その面白さを紹介し、これ以降の音声関係の科目履修への導入とする。 講義概要 音声学の基礎の講義であり、指定テキストは初習者のもので基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでくることが必須となる。 メッセージ 第一回目の授業前にテキストを入手し、第 1 章(pp. 2-7)を読んでくること。	1. 第 1 章 「音声学とは」 学際的領域, 理論と応用, 音声の情報 2. 第 2 章 「発声のメカニズム」 器官(発声, 共鳴, 調音) 3. 第 3 章 「音声表記」 IPA, 分類(気流, 声帯振動, 調音位置/方法) 4. 第 4 章 「母音」 分類 (高低/前後, 円唇), 基本母音 5. 母音(2) 日本語との比較, スペリングと母音, アクセントと母音 6. 第 5 章 「子音」 有声/無声, 調音位置/方法, 阻害音/共鳴音 7. 子音(2) 日本語との比較 8. 第 6 章 「音節」 音節構造と強勢(第二アクセント)と母音 9. 音節(2) ﾓｰﾗ/音節, 音節の連続によるアクセント/リズム 10. 第 7 章 「語強勢」 11. 語強勢(2) フット/リズム 日本語と英語 12. 第 8 章「音縮小」 第 9 章「同時調音」 13. 第 10 章「イントネーション」 14. 音声科学の発展 (言語学、心理学、工学・教育・医療・政策・社会学, etc.)
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤寧, 佐藤努『現代の英語音声学』金星堂 (1997) その他 配布資料	出席、クイズや課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。単位認定には 2/3 以上の出席が求められる。出席は厳しい。

09 年度以前（春）	英語音声学	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 自然な速度で話される言語音を観察し多角的に研究するのが音声学という学問である。このコースではその基礎となる知識の体得を主眼とし、日常に見られる音現象の解明、英語リスニングを困難にしている要因も検討する。日本語と英語に見られる様々な音現象を体系的に比較することで、発音/リスニング能力の向上も図る。 概要 前半は主に個別音の分類及び特徴を学習する。後半ではより大きな文脈（単語～文単位）で音がどう変化するかを考察し、日本語の音韻体系との比較検討を進める。 注）発音記号の確認、及び英語での専門用語も頻出するので、授業には英和あるいは英英辞典を持参のこと。携帯電話の辞書機能は使用禁止とする。	1. コース概要；音声学とは 言語学としての音声学；関連領域への実用性 2. 一般音声学（1） 音声器官；音の分類；その他の音 3. 一般音声学（2） 副次調音；音の分類基準；音素と音韻体系 4. 日本語の音韻体系 母音；子音；拗音；特殊モーラ 5. 英語の母音　－アメリカ英語を基にした体系 6. 英語の子音（1）－日英語比較 7. 英語の子音（2）－個別の子音体系 8. 英語の音連続　－母音と/r/；子音結合の問題 9. 英語のつづり字と発音　－規則性の有無；フォニックス 10. 音節とモーラ 日本語におけるモーラの概念；シラブルとモーラの関係 11. 日本語のプロソディー ピッチ；リズム；イントネーション 12. 英語のプロソディー アクセント；リズム；イントネーション 13. 連続発音における音変化 脱落；弱化；挿入；同化 14. 科学としての音声学 工学/医療/教育/音楽とのコラボレーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
牧野武彦著『日本人のための英語音声学レッスン』 （大修館書店、2005 年）	試験の他に課題提出や出席率を加味して総合評価する。 授業回数の 3/4 以上の出席を単位認定の必須条件とする。

09 年度以前（秋）	英語音声学	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 自然な速度で話される言語音を観察し多角的に研究するのが音声学という学問である。このコースではその基礎となる知識の体得を主眼とし、日常に見られる音現象の解明、英語リスニングを困難にしている要因も検討する。日本語と英語に見られる様々な音現象を体系的に比較することで、発音/リスニング能力の向上も図る。 概要 前半は主に個別音の分類及び特徴を学習する。後半ではより大きな文脈（単語～文単位）で音がどう変化するかを考察し、日本語の音韻体系との比較検討を進める。 注）発音記号の確認、及び英語での専門用語も頻出するので、授業には英和あるいは英英辞典を持参のこと。携帯電話の辞書機能は使用禁止とする。	1. コース概要；音声学とは 言語学としての音声学；関連領域への実用性 2. 一般音声学（1） 音声器官；音の分類；その他の音 3. 一般音声学（2） 副次調音；音の分類基準；音素と音韻体系 4. 日本語の音韻体系 母音；子音；拗音；特殊モーラ 5. 英語の母音　－アメリカ英語を基にした体系 6. 英語の子音（1）－日英語比較 7. 英語の子音（2）－個別の子音体系 8. 英語の音連続　－母音と/r/；子音結合の問題 9. 英語のつづり字と発音　－規則性の有無；フォニックス 10. 音節とモーラ 日本語におけるモーラの概念；シラブルとモーラの関係 11. 日本語のプロソディー ピッチ；リズム；イントネーション 12. 英語のプロソディー アクセント；リズム；イントネーション 13. 連続発音における音変化 脱落；弱化；挿入；同化 14. 科学としての音声学 工学/医療/教育/音楽とのコラボレーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
牧野武彦著『日本人のための英語音声学レッスン』 （大修館書店、2005 年）	試験の他に課題提出や出席率を加味して総合評価する。 授業回数の 3/4 以上の出席を単位認定の必須条件とする。

03～05 年度（春）	スピーチ・クリニック	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。そのためにも自分の発音を再確認し、自信をもって教えられるようにすることを目的とする。 実践を通して、子音、母音、弱形、音の同化、連接、強勢とリズム、抑揚などについて発音仕方の再確認とその教授法を学ぶ。講義にはプリントを用いるが、中学校・高校の教科書等を教材として用い、実際に教授法を工夫し、発表する。 聞き取りの力をつけるために授業時に Quiz を、課外用に dictation の宿題を出す。USB を用意すること。 英語教育に関心のある２年生以上を対象とする**半期完結科目**。免許課程登録者でなくても履修可。 **受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。** 定員は２５名。受講希望者は春学期の最初の授業に必ず出席すること。	1. Introduction 2. Pre-test, 英語の母音の特徴 3. 〃 4. 〃 (Presentation & Quiz) 5. 英語の子音の特徴 6. 〃 7. 〃 (Presentation & Quiz) 8. まとめ（対話や散文等を用いた練習）, 音声提出(1) 9. 英語の強勢とリズム 10. 〃 (Presentation & Quiz) 11. 英語のイントネーション 12. 〃 (Presentation & Quiz) 13. 英語の音変化 14. 〃 (Presentation & Quiz), 音声提出(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントおよび『５分間　英語発音』南雲堂 参考文献：P. Avery and S. Ehrlich, *Teaching American English Pronunciation*, OUP.　その他、授業中に随時紹介する。	出席状況　2/3 以上出席していること 平常点：Presentation　&Quiz 10%、宿題　20% 音声提出：30% 期末試験：40%

03～05 年度（秋）	スピーチ・クリニック	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。そのためにも自分の発音を再確認し、自信をもって教えられるようにすることを目的とする。 実践を通して、子音、母音、弱形、音の同化、連接、強勢とリズム、抑揚などについて発音仕方の再確認とその教授法を学ぶ。講義にはプリントを用いるが、中学校・高校の教科書等を教材として用い、実際に教授法を工夫し、発表する。 聞き取りの力をつけるために授業時に Quiz を、課外用に dictation の宿題を出す。USB を用意すること。 英語教育に関心のある２年生以上を対象とする**半期完結科目**。免許課程登録者でなくても履修可。 **受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。** 定員は２５名。受講希望者は秋学期の最初の授業に必ず出席すること。	1. Introduction 2. Pre-test, 英語の母音の特徴 3. 〃 4. 〃 (Presentation & Quiz) 5. 英語の子音の特徴 6. 〃 7. 〃 (Presentation & Quiz) 8. まとめ（対話や散文等を用いた練習）, 音声提出(1) 9. 英語の強勢とリズム 10. 〃 (Presentation & Quiz) 11. 英語のイントネーション 12. 〃 (Presentation & Quiz) 13. 英語の音変化 14. 〃 (Presentation & Quiz), 音声提出(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントおよび『５分間　英語発音』南雲堂 参考文献：P. Avery and S. Ehrlich, *Teaching American English Pronunciation*, OUP.　その他、授業中に随時紹介する。	出席状況　2/3 以上出席していること 平常点：Presentation　&Quiz 10%、宿題　20% 音声提出：30% 期末試験：40%

06 年度以降（春）	Lecture Workshop I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English. Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each seven-week lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester. There are two objectives for the courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the content topics that will be presented. These courses are short seven-week courses and active participation and attendance will be an important part of the overall evaluation.	Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "Introduction to narratives", "Introduction to Africa", "Introduction to Asian Englishes", and "Introduction to American History through Music".
テキスト、参考文献	**評価方法**
Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.

06 年度以降（秋）	Lecture Workshop II	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English. Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each seven-week lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester. There are two objectives for these courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the content topics that will be presented. These courses are short seven-week courses and active participation and attendance will be an important part of the overall evaluation.	Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "Introduction to narratives", "Introduction to Africa", "Introduction to Asian Englishes", and "Introduction to American History through Music".
テキスト、参考文献	**評価方法**
Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ （再履修者は秋学期のみ開講）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week class develops the range of English language skills (but with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives: The following are the macro-level objectives for this course: 1. To give students maximum opportunities to communicate (speak, listen, read and write). 2. To build student confidence in interpersonal communication. 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution.	授業予定は各担当教員から説明がなされる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Individual instructors are free to select their own text material, including any supplementary teaching material, and to use it in the manner they feel will best complete the above objectives.	Individual instructors are asked to determine a system of grading that is fair and consistent to the students, and best measures the classroom performance and overall improvement of the students' communicative abilities.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ （再履修は春学期のみ開講）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week class helps students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives: The following are the macro-level objectives for this course: 1. To develop in the students a good grounding in the organization skills of speech communication and writing. 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills. 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a large group context.	授業予定は各担当教員から説明がなされる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Individual instructors are free to select their own text material, including any supplementary teaching material, and to use it in the manner they feel will best complete the above objectives.	Individual instructors are asked to determine a system of grading that is fair and consistent to the students, and best measures the classroom performance and overall improvement of the students' communicative abilities.

06 年度以降（春）	Comprehensive English Ⅲ （再） Comprehensive English Ⅳ （再）	担当者	P. Mckevilly

講義目的、講義概要	授業計画
第 1 回目の授業時にアナウンスします。	第 1 回目の授業時にアナウンスします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示をする	開講時に指示をする

06 年度以降(秋)	Comprehensive English Ⅳ （再） Comprehensive English Ⅲ （再）	担当者	P. Mckevilly

講義目的、講義概要	授業計画
第 1 回目の授業時にアナウンスします。	第 1 回目の授業時にアナウンスします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示をする	開講時に指示をする

06 年度以降（春） 03～05 年度（春）	Reading Strategies I 英語リーディング・ストラティジーズ a （再履修クラスは春秋ともに開講）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
[目標] 英語の語彙を増やしながら、英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解スキルを学習する。 [概要] 各担当教員が選定した教材を用いる。 読解スキルとしては、Previewing and Predicting; Recognizing patterns in paragraphs; Recognizing patterns of text organization などが含まれる。 ５月には、図書館の利用方法に慣れるため、クラス別に図書館ガイダンスが行われる。	各担当教員が開講時に説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が指示する。	各担当教員が開講時に説明する。

06 年度以降（秋） 03～05 年度（秋）	Reading Strategies Ⅱ 英語リーディング・ストラティジーズ b （再履修クラスは春秋ともに開講）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
[目標] 「Reading Strategies I」に引き続き、英語の語彙力をつけながら、外国の文化や文学を理解する力をつける。また、「Reading Strategies I」 で身につけた基礎的な読解スキルを定着させ、発展させる。 [概要] 各教員が選定した教材を用いる。 秋学期は、次のような読解スキルを学ぶ。Previewing and Predicting; Recognizing patterns of text organization; Making inferences; Outlining など。	各担当教員が開講時に説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が指示する。	各担当教員が開講時に説明する。

06 年度以降（春） 03～05 年度（春）	Reading StrategiesⅣ （再） 英語専門講読入門 b （再）	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では小説を精読していく。英語学科に所属している者としては「なんとなく分かる」で読み進めるのでは不足だろう。ゆっくりでもいいので英語をきちんと分析しながら読み、文脈などを詳細に理解することを授業の目的とする。そのため授業参加前に必ず辞書を引いて予習してくること、そして辞書を丹念に読むことは必須。 まずは H. G. Wells の *The Country of the Blind* から。これを学期内に読み終わったら、同レベルの別の小説を紹介していく。	１．イントロダクション ２－１４．小説の精読
テキスト、参考文献	**評価方法**
H. G. Wells *The Country of the Blind*. London: Penguin Books, 2005. (Pocket Penguin Series 41) のコピーを配布する。	授業への参加（教室にいるだけではダメ・3 回以上の欠席は不可)、レポート。

06 年度以降（秋） 03～05 年度（秋）	Reading StrategiesⅢ （再） 英語専門講読入門 a （再）	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期同様、小説を精読していきます。英語学科に所属している者としては「なんとなく分かる」で読み進めるのでは不足だろう。ゆっくりでもいいので英語をきちんと分析しながら読み、文脈などを詳細に理解することを授業の目的とする。そのため授業参加前に必ず辞書を引いて予習してくること、そして辞書を丹念に読むことは必須。 まずは Robert Graves の *Caligula* から。これを学期内に読み終わったら、同レベルの別の小説を紹介していく。	１．イントロダクション ２－１４．小説の精読
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert Graves. *Caligula*. London: Penguin Books, 2005. (Pocket Penguin Series 56) のコピーを配布する。	授業への参加（教室にいるだけではダメ・3 回以上の欠席は不可)、レポート。

06 年度以降（春） 03～05 年度（春）	Reading Strategies Ⅲ　（再） 英語専門講読入門 a（再）	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の第一の目的は英語を駆使する能力の向上にあります。英文和訳の作業は和訳そのものが目的ではありません。それは、日本語を母国語とする者が英文を記す能力、話す能力を上達させ、磨きをかけるのに欠かせない作業でもあります。 テキストは現代のイギリスかアメリカの素直で読みやすく親しみやすい作家のエッセイないし文学作品を使います。たとえば、実用英語の検定試験の成績を伸ばすのに、TOEIC のテストに直接かかわるテキストだけを専ら学習しても､それだけで大きく成績を上げるのは無理でしょう。日常生活の色々な局面が登場して、情的にも知的にも興味深くて味わい深い優れたテキストの鑑賞は語学力向上に欠かせないものです。予習と復習は必ずしてください。それを面倒がるようでは、外国語を習得する作業がどういうものかを少しも理解していないことと同一なのです。	授業は英語を日本語に置き換えていく作業だけではありません。英文をできるだけ自分のものにするのに必要な作業をいろいろ取り入れます。 最初の授業時に辞書の使い方、授業の進め方などに関し大切なことをお話します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
検討中	レポート、平素の小テスト、平常点

06 年度以降（秋） 03～05 年度（秋）	Reading Strategies Ⅳ　（再） 英語専門講読入門 b（再）	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の第一の目的は英語を駆使する能力の向上にあります。英文和訳の作業は和訳そのものが目的ではありません。それは、日本語を母国語とする者が英文を記す能力、話す能力を上達させ、磨きをかけるのに欠かすことができない作業なのです。 テキストは現代のイギリスかアメリカの素直で読みやすく親しみやすい作家のエッセイないし文学作品を使います。たとえば、実用英語の検定試験の成績を伸ばすのに、TOEIC のテストに直接かかわるテキストだけを専ら学習しても､それだけで大きく成績を上げるのは無理でしょう。日常生活の色々な局面が登場して、情的にも知的にも興味深くて味わい深い優れたテキストの鑑賞は語学力向上に欠かせないものです。予習と復習は必ずしてください。それを面倒がるようでは、外国語を習得する作業がどういうものかを少しも理解していないことと同一なのです。	授業は英語を日本語に置き換えていく作業だけではありません。英文をできるだけ自分のものにするのに必要な作業をいろいろ取り入れます。 最初の授業時に辞書の使い方、授業の進め方など大切なことをお話します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
検討中	レポート、平素の小テスト、平常点

06 年度以降（春） 03～05 年度（春）	Writing Strategies 英語ライティング・ストラティジーズ a	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term-long class in which students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and move on to the introductory academic writing. Accuracy is the main focus; however, students should be provided with some free writing exercises where they can practice fluency at the same time. The objectives of this class are to help students: 1. to write grammatical sentences. 2. to increase their awareness of the common grammatical problems in writing made by EFL students. 3. to introduce self-help strategies so that they can analyze their problems and revise their writing. (ex. Teachers should use an error awareness sheet in order to help their students become aware of what their errors are and to help them decide which errors to work on first.)	Recommended Topics: Verb tenses Sentence structure Modals (necessity, certainty etc.) Conditional Passives Relative Clauses Noun Clauses Free writing/Rush writing
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.	The decision is left to the discretion of individual instructors.

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
The students will be taught how to write a unified, coherent paragraph which is a basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Overall Objectives: 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (ex. topic sentence, supporting sentences). 2. To teach the various patterns of paragraph organizations. 3. To help students write clear and focused structures. 4. To help students analyze their problems and revise their writing. Students should write at least four 150-word-long paragraphs and have a chance to revise them.	Recommended Topics: What is a paragraph? Planning what they write Topic vs. topic sentence Writing a topic sentence of a paragraph Supporting topic sentences (ex. giving examples, enumeration, giving a definition, cause and effect, comparison and contrast) Revising what they write Free writing/ Rush writing
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.	The decision is left to the discretion of individual instructors.

06 年度以降 03～05 年度	Paragraph Writing 英語ライティング・ストラティジーズ b	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
The students will be taught how to write a unified, coherent paragraph which is a basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Overall Objectives: 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (ex. topic sentence, supporting sentences). 2. To teach the various patterns of paragraph organizations. 3. To help students write clear and focused structures. 4. To help students analyze their problems and revise their writing. Students should write at least four 150-word-long paragraphs and have a chance to revise them.	Recommended Topics: What is a paragraph? Planning what they write Topic vs. topic sentence Writing a topic sentence of a paragraph Supporting topic sentences (ex. giving examples, enumeration, giving a definition, cause and effect, comparison and contrast) Revising what they write Free writing/ Rush writing
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.	The decision is left to the discretion of individual instructors.

06 年度以降（春）	Basic Essay Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing about familiar ideas to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives: 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' basic essay (ex. introduction, a thesis statement, supporting details, conclusion). 2. To teach the various patterns of essay organizations. 3. To help students plan and revise an essay. 4. To help students write clear and focused paragraphs. Students should write at least one 5-paragraph-level essay including an introduction and a conclusion and have a chance to revise it.	Recommended Topics: Brainstorming and narrowing down the topic Writing an introduction Writing cohesive paragraphs Writing a conclusion Narrating (ex. unforgettable event) Describing (ex. a person you admire, a favorite place, a celebration, a process) Explaining (ex. the origin of a name, your learning style) Informing (ex. an event, a famous person) Evaluating (ex. a movie, a story, an event, a person) Summarizing (ex. a movie, a story)
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.	The decision is left to the discretion of individual instructors. However, not only the final product but also the process of writing should be evaluated.

06 年度以降（秋）	Basic Essay Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing about familiar ideas to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives: 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' basic essay (ex. introduction, a thesis statement, supporting details, conclusion). 2. To teach the various patterns of essay organizations. 3. To help students plan and revise an essay. 4. To help students write clear and focused paragraphs. Students should write at least one 5-paragraph-level essay including an introduction and a conclusion and have a chance to revise it.	Recommended Topics: Brainstorming and narrowing down the topic Writing an introduction Writing cohesive paragraphs Writing a conclusion Narrating (ex. unforgettable event) Describing (ex. a person you admire, a favorite place, a celebration, a process) Explaining (ex. the origin of a name, your learning style) Informing (ex. an event, a famous person) Evaluating (ex. a movie, a story, an event, a person) Summarizing (ex. a movie, a story)
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.	The decision is left to the discretion of individual instructors. However, not only the final product but also the process of writing should be evaluated.

06 年度以降（春）	E-learning I	担当者	木村　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 英語学科 1 年 Group A と交流文化学科の学生を対象とする．Reading Strategies, Paragraph Writing/Basic Essay Writing などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着，向上させることを目的とする． [概要] • １週目の説明会で，オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に集合のこと • ２週目は PC 教室で教材に実際にアクセスしてもらうので，大学のネットワークへのログインパスワードが分かるようにしておくこと • 通常授業期間中は学内もしくは自宅 PC から指定のオンライン教材にアクセスし，自律学習を進める • ３週目以降隔週に対面授業を行うので指定教室に集合すること • 自律学習が捗々しくない場合は，特別対面授業を行う．メールや掲示板等で対象者の呼び出しを行うので注意すること • 内容は，主に語彙学習とライティング	1. 全体説明会 2. PC ガイダンス, Criterion (1) 3. 自習＋Criterion (2) 4. Criterion (3)，ガイダンス，単語テスト(1) 5. 自習＋Criterion (4) 6. Criterion (5)，ガイダンス，単語テスト(2) 7. 自習＋Criterion (6) 8. Criterion (7)，ガイダンス，単語テスト(3) 9. 自習＋Criterion (8) 10. Criterion (9)，ガイダンス，単語テスト(中間まとめ) 11. 自習＋Criterion (10) 12. Criterion (11)，ガイダンス，単語テスト(4) 13. 自習＋Criterion (12) 14. Criterion (13)，ガイダンス，単語テスト(5) 定期試験（全範囲）
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン教材　（ALC と Criterion）	日々のオンライン学習の履歴，対面授業への出席，７回のテストの得点を総合的に評価する

06 年度以降（秋）	E-learning II	担当者	木村　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 英語学科 1 年 Group A と交流文化学科の学生を対象とする. Reading Strategies, Paragraph Writing/Basic Essay Writing などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着，向上させることを目的とする． [概要] • １週目の説明会で、オンラインで提出するエッセイ(Criterion)に関する追加課題の説明をするので必ず出席すること • 通常授業期間中は学内もしくは自宅 PC から指定のオンライン教材にアクセスし，自律学習を進める • 隔週に対面授業を行うので指定教室に集合する • 自律学習が捗々しくない場合は，特別対面授業を行う．メールや掲示板等で対象者の呼び出しを行うので注意すること • 内容は，主に語彙学習とライティング	1. 全体説明会，Criterion (1) 2. PC ガイダンス, Criterion (1) peer feedback 3. 自習＋Criterion (2) 4. Criterion (3)，ガイダンス，単語テスト(1) 5. 自習＋Criterion (4) 6. Criterion (5)，ガイダンス，単語テスト(2) 7. 自習＋Criterion (6) 8. Criterion (7)，ガイダンス，単語テスト(3) 9. 自習＋Criterion (8) 10. Criterion (9)，ガイダンス，単語テスト(中間まとめ) 11. 自習＋Criterion (10) 12. Criterion (11)，ガイダンス，単語テスト(4) 13. 自習＋Criterion (12) 14. Criterion (13)，ガイダンス，単語テスト(5) 定期試験（全範囲）
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン教材　（ALC と Criterion）	日々のオンライン学習の履歴，対面授業への出席，７回のテストの得点を総合的に評価する

06 年度以降（春）	E-learning I	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 英語学科1年Group B とC の学生を対象とする． Reading Strategies, Writing Strategies/Paragraph Writing などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着，向上させることを目的とする． 【概要】 ・1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に集合のこと ・2週目はPC教室で教材に実際にアクセスしてもらうので、大学のネットワークへのログインパスワードが分かるようにしておくこと ・ 通常授業期間中は学内もしくは自宅PC から指定のオンライン教材にアクセスし，自律学習を進める ・ 3週目以降隔週に対面授業を行うので指定教室に集合すること ・ 自律学習が捗々しくない場合は，特別対面授業を行う．メールや掲示板等で対象者の呼び出しを行うので注意すること ・ 学習内容は，語彙，リーディング，ライティング	1. 全体説明会 2. PC ガイダンス, Criterion (1) 3. 自習 4. ALC テスト(1)，Criterion (2) 5. 自習 6. ALC テスト(2)，Criterion (3) 7. 自習 8. ALC テスト(3)，Criterion (4) 9. 自習 10. 中間試験(テスト(1)-(3)), Criterion (5) 11. 自習 12. ALC テスト(4)，Criterion (6) 13. 自習 14. ALC テスト(5)，Criterion (7) 定期試験（全範囲）
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン教材 （ALC と Criterion）	日々のオンライン学習の履歴，対面授業への出席，7 回のテストの得点を総合的に評価する

06 年度以降（秋）	E-learning II	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 英語学科1 年Group B とC の学生を対象とする． Reading Strategies, Paragraph Writing/Basic Essay Writing などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着，向上させることを目的とする． 【概要】 ・1週目の説明会で、オンラインで提出するエッセイ(Criterion)に関する追加課題の説明をするので必ず出席すること ・ 通常授業期間中は学内もしくは自宅PC から指定のオンライン教材にアクセスし，自律学習を進める ・ 隔週に対面授業を行うので指定教室に集合する ・ 自律学習が捗々しくない場合は，特別対面授業を行う．メールや掲示板等で対象者の呼び出しを行うので注意すること ・ 学習内容は，語彙，リーディング，ライティング	1. 全体説明会 2. PC ガイダンス, Criterion (1) 3. 自習 4. テスト(1)，Criterion (2) 5. 自習 6. テスト(2)，Criterion (3) 7. 自習 8. テスト(3)，Criterion (4) 9. 自習 10. 中間試験（テスト(1)-(3)）, Criterion (5) 11. 自習 12. テスト(4)，Criterion (6) 13. 自習 14. テスト(5)，Criterion (7) 定期試験（全範囲）
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン教材 （ALC と Criterion）	日々のオンライン学習の履歴，対面授業への出席，7 回のテストの得点を総合的に評価する

06 年度以降	Pronunciation Practice	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では，より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。 講義概要 LL 教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について、練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。	各担当者による。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当者による。	各担当者による。

06 年度以降	Pronunciation Practice	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では，より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。 講義概要 LL 教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について、練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。	各担当者による。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当者による。	各担当者による。

06 年度以降	Introductory Grammar	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。 講義は、以下の内容からなる。 1. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違えやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。 2. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。 3. 1 と 2 の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEIC や TOEFL 等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。	授業予定は各担当教員から説明がなされる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が指示する。	各担当教員が開講時に説明する。

06 年度以降	Introductory Grammar	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。 講義は、以下の内容からなる。 1. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違えやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。 2. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。 3. 1 と 2 の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEIC や TOEFL 等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。	授業予定は各担当教員から説明がなされる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が指示する。	各担当教員が開講時に説明する。

08年度（春）	Comprehensive English Ⅲ（HONORS）	担当者	Ed. Franco

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly group discussions. The class seeks to provide an enjoyable and interesting way to read and discuss current issues in order to improve verbal reasoning skills. The class will use English newspaper articles to study issues of national and international political and social significance. Students will prepare an article every week and come to class prepared to present it in their own words.	Week 1: Introduction Week 2: Article # 1 Week 3: Article # 2 Week 4: Article # 3 Week 5: Article # 4 Week 6: Article # 5 Week 7: Article # 6 Week 8: Article # 7 Week 9: Article # 8 Week 10: Article # 9 Week 11: Article # 10 Week 12: Article # 11 Week 13: Article # 12 Week 14: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Daily Yomiuri	Assessment will be based on attendance and class participation.

08年度（秋）	Comprehensive English Ⅳ（HONORS）	担当者	Ed. Franco

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly group discussions. The class seeks to provide an enjoyable and interesting way to read and discuss current issues in order to improve verbal reasoning skills. The class will use English newspaper articles to study issues of national and international political and social significance. Students will prepare an article every week and come to class prepared to present it in their own words.	Week 1: Introduction Week 2: Article # 1 Week 3: Article # 2 Week 4: Article # 3 Week 5: Article # 4 Week 6: Article # 5 Week 7: Article # 6 Week 8: Article # 7 Week 9: Article # 8 Week 10: Article # 9 Week 11: Article # 10 Week 12: Article # 11 Week 13: Article # 12 Week 14: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Daily Yomiuri	Assessment will be based on attendance and class participation.

08 年度（春）	Comprehensive English Ⅲ （HONORS）	担当者	J.J. Duggan

講義目的、講義概要	授業計画
The stated overall objectives of the Comprehensive English III course are: 1) To teach students the skills involved in effective group discussion. 2) To improve reading comprehension skills using topical reading material. 3) To develop verbal reasoning skills. With these goals in mind, in the first semester, we will work on advancing the group discussion skills that have been introduced to you in your freshman year by working on reading, understanding, and discussing content-based material of a topical nature from various media resources. The concept of intercultural communication will also be introduced into our group discussion topics. Your instructor will be selecting the articles and preparing the assigned tasks and activities to be used in this semester. As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.	Week 1: Course introduction and explanation. Week 2: Participating in group discussions (text handout) Week 3: Reading & Discussion I. Week 4: Reading & Discussion II. Quiz Week 5: Understanding intercultural communication. (text handout) Week 6: Reading & Discussion III. Week 7: Reading & Discussion IV. Quiz. Week 8: Selected Reading & Discussion. Week 9: Selected Reading & Discussion. Week 10: Selected Reading & Discussion. Week 11: Selected Reading & Discussion. Week 12: Selected Reading & Discussion. Week 13: Selected Reading & Discussion. Week 14: Consolidation & Review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Selected readings from text, media and online sources.	Grading will be based on class participation, assignments, quizzes and a final assessment.

08 年度(秋)	Comprehensive English Ⅳ （HONORS）	担当者	J.J. Duggan

講義目的、講義概要	授業計画
The stated overall objectives of the Comprehensive English IV course are: 1) To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 2) To teach students how to prepare and lead a class presentation /discussion. 3) To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion. With these goals in mind, in the second semester, students, working individually or in pairs, will research, select, prepare, and then present and lead class discussion in a topic & reading of their choosing. It is the students' responsibility to prepare for this and to be ready to present on their assigned day. It is the responsibility of the other students to do the assigned reading as well as complete the assigned tasks outside of class so as to be ready to participate in discussing and sharing your opinions inside of class. As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.	Week 1: Course introduction and presentation schedule setup. Week 2: Outline of presentation techniques. Week 3: Practice of presentation techniques. Week 4: Student presentation(s). Week 5: Student presentation(s). Week 6: Student presentation(s). Week 7: Student presentation(s). Week 8: Student presentation(s). Week 9: Student presentation(s). Week 10: Student presentation(s). Week 11: Student presentation(s). Week 12: Student presentation(s). Week 13: Student presentation(s). Week 14: Consolidation & Review. Final Paper due.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Selected readings from text, media and online sources.	Grading will be based on class participation, assignments, and a final paper.

08 年度（春）	Comprehensive English Ⅲ (HONORS)	担当者	J.N.Wendel

講義目的、講義概要	授業計画	
This course is designed to develop students' communication skills. Specifically, through a variety of readings on current issues taken from newspapers and magazines (e.g., The Independent, The Guardian, The International Herald Tribune, The Economist, Time, Newsweek) students will be participating in discussions and debates on issues presented in the articles and the historical and cultural background underlying the interpretations of the articles. Students will be evaluated through a number of quizzes based on the readings and discussions, and by a term paper that explores an area of interest.	Week 1	Orientation
	Weeks 2-3	Article #1
	Weeks 4-5	Article #2
	Weeks 6-7	Article #3
	Weeks 8-9	Article #4
	Weeks 10-11	Article #5
	Weeks 12-13	Article #6
	Week 14	Final quiz

テキスト、参考文献	評価方法
There is no set text for this course. Articles will be distributed to students at no cost throughout the semester.	Participation 30% Quizzes 40% Term paper 30%

08 年度（秋）	Comprehensive English Ⅳ (HONORS)	担当者	J.N.Wendel

講義目的、講義概要	授業計画	
This course is a continuation of Comprehensive English III (Honors). This course is designed to develop students' communication skills. Specifically, through a variety of readings on current issues taken from newspapers and magazines (e.g., The Independent, The Guardian, The International Herald Tribune, The Economist, Time, Newsweek) students will be participating in discussions and debates on issues presented in the articles and the historical and cultural background underlying the interpretations of the articles. Students will be evaluated through a number of quizzes based on the readings and discussions, and by a term paper that explores an area of interest.	Week 1	Orientation
	Weeks 2-3	Article #1
	Weeks 4-5	Article #2
	Weeks 6-7	Article #3
	Weeks 8-9	Article #4
	Weeks 10-11	Article #5
	Weeks 12-13	Article #6
	Week 14	Final quiz

テキスト、参考文献	評価方法
There is no set text for this course. Articles will be distributed to students at no cost throughout the semester.	Participation 30% Quizzes 40% Term paper 30%

08 年度（春）	Comprehensive English Ⅲ	担当者	A. Zollinger

講義目的、講義概要	授業計画
The first semester of this course is designed to develop students' reading comprehension and reasoning skills and the ability to participate effectively in group and class discussion. Course content will include readings and short, English-subtitled film excerpts on issues related to culture and diversity. Homework preparation will be critical as students will be called upon to answer prepared questions and present their individual interpretations and opinions in class.	1. Course Introduction 2. Broken Families and Adoption 3. Broken Families and Adoption 4. Socio-Economic Class: Coach or First Class 5. Socio-Economic Class: Coach or First Class 6. Social Conformity: Malvina Reynold's "Little Boxes" 7. Social Conformity: Malvina Reynold's "Little Boxes" 8. The Deaf World 9. The Deaf World 10. Racism and Intolerance: Billie Holiday's "Strange Fruit" 11. Racism and Intolerance: Billie Holiday's "Strange Fruit" 12. Gender and Household Responsibilities 13. Gender and Household Responsibilities 14. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
All required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), participation in group activities (30%), and the completion of in-class and homework assignments (50%).

08 年度（秋）	Comprehensive English Ⅳ	担当者	A. Zollinger

講義目的、講義概要	授業計画
The second semester of this course is designed to develop students' ability to work successfully in a group. Formed into teams of four or five, students will work in coordination to prepare and deliver collaborative group presentations and lead subsequent class discussions. Similar to the first semester, presentations will focus on issues relating to culture and diversity. Students will have a number of related topics to choose from. Full participation by all members will be critical to the success of the group. Students are encouraged to attend all class sessions so as not to hinder the progress of the group.	1. Course Introduction 2. Explanation and organization of presentation groups 3. Group meeting and preparation for presentations 4. Group meeting and preparation for presentations 5. Group 1 presentation 6. Group 1 presentation and discussion 7. Group 2 presentation 8. Group 2 presentation and discussion 9. Group 3 presentation 10. Group 3 presentation and discussion 11. Group 4 presentation 12. Group 4 presentation and discussion 13. Group 5 presentation 14. Group 5 presentation and discussion
テキスト、参考文献	**評価方法**
Reading materials will be supplied by students and the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), participation in group activities (30%), the completion of in-class and homework assignments (25%), and achievement on a presentation (25%).

08 年度（春）	Comprehensive English Ⅲ	担当者	D. Kennedy

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of the course this semester is to help students read critically, articulate opinions, present logical support for these opinions, and participate actively in group discussions. During the first semester the focus will be on holding extended, meaningful, effective discussions in English. While there will be a variety of topics presented by the instructor, students are welcome to suggest others. Active participation in English is required.	The following is a tentative schedule for discussion, though the actual topics may change to accommodate students' interests. 1. Introduction 2. What makes a good discussion? 3. Media culture 4. Video games 5. Reality TV 6. Fashion 7. Advertising 8. Intelligence 9. International competitions 10. Mobile phones 11. Manners and etiquette 12. Review for speaking test 13. Speaking test and course review 14. Feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be provided by the instructor.	Grades will be based on attendance, participation, homework, and a short speaking evaluation.

08 年度（秋）	Comprehensive English Ⅳ	担当者	D. Kennedy

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of the course this semester is to help students actively present a meaningful issue of their choice to the class and lead a group discussion. After spending time planning and preparing, each week will be devoted to one group presentation and discussion. Emphasis will again be placed on opinions and reasoning, though students will also be expected to provide factual information as support. Active participation in English is required.	1. Introduction 2. Project information 3. Preparation 4. Preparation 5. Practice 6. Group presentation and discussion I 7. Group presentation and discussion II 8. Group presentation and discussion III 9. Group presentation and discussion IV 10. Group presentation and discussion V 11. Group presentation and discussion VI 12. Group presentation and discussion VII 13. Group presentation and discussion VIII 14. Course review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be provided by the instructor.	Grades will be based on attendance, participation, homework, and a substantial presentation.

08 年度（春）	Comprehensive English Ⅲ	担当者	D. L. Blanken

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this class: to hone your speaking and analytic skills beyond the level of first--year work. The format will be: (1) role playing based on situations presented in the textbook, followed by (2) exchanging opinions and ideas on the role play scenarios. There is great leeway in choice of situations and role play approach-the textbook is minimalist in its dealings with grammar and rules. The role play can derive from a game, a chart or illustration, even a short poem or tongue twister or joke in the book. Students will give their opinions "in" and "out of" character-they will speak, sometimes as themselves and sometimes as the person whose role they play. There will then be analysis of how/why the roles were chosen and presented. You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.	Week 1: Introduction; how to "plot" a role play Week 2: Situation-choosing, role play prepping Week 3: Group/Pair 1-2, Role play 1a Week 4: Group/Pair 3-4, Role play 1b Week 5: Group/Pair 5-6, Role play 1c Week 6: Group/Pair 7-8, Role play 1d Week 7: Critique of methods and procedures Week 8: Group/Pair 1-2, Role play 2a Week 9: Group/Pair 3-4, Role play 2b Week 10: Group/Pair 5-6, Role play 2c Week 11: Group/pair 7-8, Role play 2d Week 12: Supplemental use of text Week 13: Final analysis of materials Week 14: Extra credit Work Handouts will complement the textbook, which is *English On Tap*. Certain prints will concern class methods and procedures.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: *English on Tap* Authors: D. Lee Blanken & Associates Publisher: Urban Productions, Ltd.	Grades will be compiled from weekly oral work, or your "opinions" (50%), oral work in the lead group, or your "role playing" (30%), and occasional Qs&As with the teacher (25%).

08 年度（秋）	Comprehensive English Ⅳ	担当者	D. L. Blanken

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this class: to hone your speaking and analytic skills beyond the level of first--year work. The format will be: (1) role playing based on situations presented in the textbook, followed by (2) exchanging opinions and ideas on the role play scenarios. There is great leeway in choice of situations and role play approach-the textbook is minimalist in its dealings with grammar and rules. The role play can derive from a game, a chart or illustration, even a short poem or tongue twister or joke in the book. Students will give their opinions "in" and "out of" character-they will speak, sometimes as themselves and sometimes as the person whose role they play. There will then be analysis of how/why the roles were chosen and presented. You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.	Week 1: Introduction; how to "plot" a role play Week 2: Situation-choosing, role play prepping Week 3: Group/Pair 1-2, Role play 1a Week 4: Group/Pair 3-4, Role play 1b Week 5: Group/Pair 5-6, Role play 1c Week 6: Group/Pair 7-8, Role play 1d Week 7: Critique of methods and procedures Week 8: Group/Pair 1-2, Role play 2a Week 9: Group/Pair 3-4, Role play 2b Week 10: Group/Pair 5-6, Role play 2c Week 11: Group/pair 7-8, Role play 2d Week 12: Supplemental use of text Week 13: Final analysis of materials Week 14: Extra credit Work Handouts will complement the textbook, which is *English On Tap*. Certain prints will concern class methods and procedures.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: *English on Tap* Authors: D. Lee Blanken & Associates Publisher: Urban Productions, Ltd.	Grades will be compiled from weekly oral work, or your "opinions" (50%), oral work in the lead group, or your "role playing" (30%), and occasional Qs&As with the teacher (25%).

08 年度（春）	Comprehensive English Ⅲ	担当者	D. McCann

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed. Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester.	The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions.
テキスト、参考文献	**評価方法**
A selection of authentic language materials	Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities

08 年度（秋）	Comprehensive English Ⅳ	担当者	D. McCann

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed. Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester.	The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions.
テキスト、参考文献	**評価方法**
A selection of authentic language materials	Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities

08年度（春）	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Ed. Franco

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly group discussions. The class seeks to provide an enjoyable and interesting way to read and discuss current issues in order to improve verbal reasoning skills. The class will use English newspaper articles to study issues of national and international political and social significance. Students will prepare an article every week and come to class prepared to present it in their own words.	Week 1: Introduction Week 2: Article # 1 Week 3: Article # 2 Week 4: Article # 3 Week 5: Article # 4 Week 6: Article # 5 Week 7: Article # 6 Week 8: Article # 7 Week 9: Article # 8 Week 10: Article # 9 Week 11: Article # 10 Week 12: Article # 11 Week 13: Article # 12 Week 14: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Daily Yomiuri	Assessment will be based on attendance and class participation.

08年度（秋）	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Ed. Franco

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly group discussions. The class seeks to provide an enjoyable and interesting way to read and discuss current issues in order to improve verbal reasoning skills. The class will use English newspaper articles to study issues of national and international political and social significance. Students will prepare an article every week and come to class prepared to present it in their own words.	Week 1: Introduction Week 2: Article # 1 Week 3: Article # 2 Week 4: Article # 3 Week 5: Article # 4 Week 6: Article # 5 Week 7: Article # 6 Week 8: Article # 7 Week 9: Article # 8 Week 10: Article # 9 Week 11: Article # 10 Week 12: Article # 11 Week 13: Article # 12 Week 14: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Daily Yomiuri	Assessment will be based on attendance and class participation.

08 年度（春）	Comprehensive English　Ⅲ	担当者	L.K. Hawkins

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to provide the students with structured, yet interesting format to improve both their vocabulary, and knowledge of practical English grammar, for the purpose of advancing their English language　fluency.　This will be accomplished through the use of video lessons. The students will watch one scene from a video each week, and will then study the vocabulary, sentence patterns and, idioms presented in that scene.	1. Introduction and orientation 2. Scene 1 3. Scene 2 4. Scene 3 5. Scene 4 6. Scene 5 7. Scene 6 8. Scene 7 9. Scene 8 10. Scene 9 11. Scene 10 12. Test 13. Presentation 14. Presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text will be used in this class. All materials will be provided by the teacher.	Attendance, Participation, Test and Presentation

08 年度（秋）	Comprehensive English　Ⅳ	担当者	L.K. Hawkins

講義目的、講義概要	授業計画
Same as 1st semester.	Same as 1st semester.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Same as the 1st semester.	Same as the 1st semester.

08 年度（春）	Comprehensive English Ⅲ	担当者	N. Hamilton

講義目的、講義概要	授業計画
The objectives of this course are to train students in the necessary skills for group discussion and presentation. To this end, we will examine a wide range of topical issues taken from everyday life and modern 21st Century culture. Students will select some of these topics themselves, but some will be selected by the Instructor, who will act as a Co-ordinator and Facilitator for the course. Throughout the course, the use of multi media will be used and instruction will be given on how to use mass media to enhance Presentation Skills. In the Spring Semester, the focus will be on developing these skills. The focus will be, as the title of the course suggests, the development of each student`s basic English Language Skills. This Instructor believes that English learning should be fun, and enjoyable, and will strive to make the learning atmosphere relaxed and friendly, thereby enhancing learning ability!	1. Introductions/Getting to know you. 2. Newspapers and magazines and how to choose a topic for discussion. 3. Presentation Skills 4. Presentation Skills 5. Presentation Skills 6. Presentation Skills 7. Newspaper Presentations 8. Newspaper Presentations 9. Newspaper Presentations 10. Movie Reports 11. Movie Reports 12. Newspaper Presentations 13. Newspaper Presentations 14. Final Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will either be provided by the Instructor or by the students themselves, in the form of preparation for Presentations..	Students will be graded on a continuous assessment basis. There will be no final examination. Attendance, participation , presentations and general attitudes will determine the students` success or failure.

08 年度（秋）	Comprehensive English Ⅳ	担当者	N. Hamilton

講義目的、講義概要	授業計画
The objectives of this course are similar to those of the Spring Semester. However, in the Autumn Semester students will get the chance to demonstrate their skills in the form of multi-media presentations. We will examine together the different ways to use modern mass media in the production of various presentations. Students will have the opportunity to develop their own personal Digital Diaries about some aspect of their own lives, and also to make and present group Digital Presentations, using the media available. Again, the atmosphere of the class will be relaxed and friendly, with the emphasis on the enjoyment of learning a second language.	1. Introduction to the Autumn Semester 2. Using multi media in Presentations 3. Brainstorming ideas 4. Scriptwriting 5. Peer revision/editing 6. Using pictures/video clips 7. Use of music in presentations 8. Putting it all together 9. Final Editing 10. Preparing for delivery 11. Individual Presentations 12. Individual Presentations 13. Group Presentations 14. Group Preesentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will either be provided by the Instructor or by the students themselves, in the form of preparation for Presentations.	Students will be graded on the basis of continuous assessment. There will be no final examination, but attendance, participation, presentation, and general attitudes will determine success or failure in this course.

08 年度（春）	Comprehensive English Ⅲ	担当者	P.Apps

講義目的、講義概要	授業計画
This is the second year oral communication course. It is designed for students with intermediate level abilities in listening and speaking. Emphasis is placed on the students to motivate themselves in the classroom. The students will be expected to participate in discussions in the classroom and give opinions on a wide variety of topics.	The topics studied in this course are • Identity Theft • Advertising • Endurance • The English Language • Culture
テキスト、参考文献	**評価方法**
Northstar Listening and Speaking Three　(New Edition) by Helen S Solorzano and Jennifer P.L. Schmidt	Evaluation 1)　Class attendance 20% 2) Class Attitude 20% 3)　Tests and assignments 60%

08 年度（秋）	Comprehensive English Ⅳ	担当者	P. Apps

講義目的、講義概要	授業計画
This is the second year oral communication course. It is designed for students with intermediate level abilities in listening and speaking. Emphasis is placed on the students to motivate themselves in the classroom. The students will be expected to participate in discussions in the classroom and give opinions on a wide variety of topics.	The topics studied in this course are. • Marriage • Ecology • Story Telling • Discipline at home • Australian Stolen Generation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Northstar Listening and Speaking Three　(New Edition) by Helen S Solorzano and Jennifer P.L. Schmidt Publisher Pearson Longman	Evaluation 1)　Class attendance 20% 2) Class Attitude 20% 3)　Tests and assignments 60%

08 年度（春）	Comprehensive English Ⅲ	担当者	R. J. Burrows

講義目的、講義概要	授業計画
Reading & Discussion This is a reading course which seeks to develop students' ability to: a) enjoy & understand articles within a time limit b) employ a variety of reading techniques to improve speed & comprehension c) understand & discuss the writer's opinion d) learn how to find the outline of , & summarize an article In addition to regular reading practice, students will have ample opportunity to widen their vocabulary knowledge, practice various reading skills and find & discuss the author's opinion.	1. Introductory Class 2. Scanning 3. Speed Reading 4. International Marriage 5. Family Rivalry 6. Longevity 7. Outlining 8. International Organ Trade 9. Medical Ethics 10. Assisted Suicide 11. Summarizing 12. Destruction of the Rainforest 13. 21st Century Zoos 14.Course Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
'Study Skills for College English' (Keio Uni.) An English-English dictionary & a new A4 or B4 sized binder or folder are required	30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Assignment

08 年度(秋)	Comprehensive English Ⅳ	担当者	R. J. Burrows

講義目的、講義概要	授業計画
Presentation & Discussion This is a course which seeks to develop students' ability to: a) present their ideas & opinions to an audience b) methodically prepare formal presentations with visual aids c) question & discuss their own & other class members' ideas In addition to skills development, students will have a number of opportunities to present their ideas & opinions on topics of interest to them, to other class members	1. Course Introduction 2. Self-introductions 3 +4. Notes & Prompt Cards 5 + 6. Preparing an Outline 7 + 8. Using Visuals 9 + 10. Book/Movie Review 11 + 12 + 13 Persuasive Presentation 14. Course Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
'Study Skills for College English' (Keio Uni.) An English-English dictionary & an A4 or B4 sized folder or binder are required	30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation

08 年度（春）	Comprehensive English Ⅲ	担当者	R. Durham

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in, communicate in, and make presentations in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) research, learn about, and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting discussions about those topics,* in English; and d) research and 'give' (present) a DYNAMIC English *class presentation*.	(* Note: This is a ***tentative*** weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking *student suggestions for* **INTERNATIONAL** *topics/themes which they would like to learn & study.* Week 3: Choosing an Academic Research topic. Discussion of recent **International News** articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Week 4: Focusing your research topic. / Collecting and summarizing relevant articles for your reseach topic. Week 5: Student research/discussion about a variety of themes which they choose, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest. Week 6: Organizing the articles you've collected about your Academic research topic. Summarizing the relevant information. Class discussions. Week 7: Preparations for making presentations & discussions. International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners ('EQ')***. Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment. Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for class presentations. Week 10: Student presentations & class discussion. Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. Week 12: Further student presentations & class discussion. Week 13: Final presentations. If time remains: discussing & explaining plans for the Summer. Week 14: Continuous assessment; discussing Summer plans & destinations. Video and/or listening exercise.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. ***IF*** a textbook is truly necessary, one will be chosen.	You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***research & present*** your topic; how well you *work together* with other class members; and so on.Your grade will be *tentatively* & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (20%); rk/test(s)/presentations (30%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.**Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes***, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F");b) lateness will also affect your grade in this course. (**One late = 1/2 absence**.)

08 年度（秋）	Comprehensive English Ⅳ	担当者	R. Durham

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to MORE EFFECTIVELY: a) think in, communicate in, and make presentations in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) research, learn about, and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *MORE DYNAMIC, interesting discussions about those topics,* in English; and d) research and 'give' (present) a DYNAMIC & EFFECTIVE English *class presentation*.	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your Summer Break, using modern English. Students will be asked to consider what Academic research/presentation topics appeal to them. Week 2: Asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to research & make presentations about. Continuouis assessments. Week 3: Suggested: Researching ***festivals in different countries*** :Hallowe'en, Christmas, and other occasions chosen by students. Discussion of **International News** (articles and/or News Videos). Week 4: Choosing a country and *Fall/Winter festival* about which to make a presentation. Reminder of effective English presentation-giving techniques. Week 5: Hallowe'en video and discussion. Students collect, organize, and summarize news articles, books, Internet sources, re: a chosen topic. Week 6: Reminder to avoid plagiarism when researching/ presenting. Preparation for presentations. Ongoing assessments. Week 7: Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (& recommendations) of those short presentation 'intros'. Week 8: Further short 'demo' presentations; peer-assessment & recommendations, re: those 'demo' presentations. Week 9: Finalizing preparations and practice for presentations. Discussion of News articles and/or video about international topics. Week 10: Class presentations & discussions. Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. Discussions of Christmas customs in various countries. Week 12: Further class presentations & discussions. Week 13: Final class presentations/ discussions. If time permits: Christmas video and/or Christmas song exercise/ discussion. Week 14: Continuous assessment; discussion re: New Year's events, and New Year's Resolutions. Video and/or listening exercise.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We will mostly be using reseacrh materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion, **IF** a textbook is necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you research, summarize, and present information in English; how well you *work together* with other class members; and so on.Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (30%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.**Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. **You must NOT miss more than three classes, for any reason.** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (**One late = 1/2 absence**.)

08 年度（春）	Comprehensive English Ⅲ	担当者	T.J.Fotos

講義目的、講義概要	授業計画
第 1 回目の授業時にアナウンスします。	第 1 回目の授業時にアナウンスします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示をする	開講時に指示をする

08 年度(秋)	Comprehensive English Ⅳ	担当者	T.J.Fotos

講義目的、講義概要	授業計画
第 1 回目の授業時にアナウンスします。	第 1 回目の授業時にアナウンスします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示をする	開講時に指示をする

08 年度（春）	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Martin Darling

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is for students to develop the ability to read and analyze various kinds of subject matter, and express/detail their understanding through individual and group presentations: summarizing; identifying main ideas; and debating. The instructor will provide authentic materials from a variety of sources for outside and in-class reading. Students will be guided on how to express their own opinions and ideas with greater confidence, and how to take an opposing opinion. Students will be called on to manage classroom discussions with one or two students serving as discussion leaders. As a solid vocabulary is essential for better understanding of language overall, students will be required to keep an account of the new lexical items they come across in the reading. By the end of this course, students will have become good group discussion leaders and will be able to express themselves with logic and clarity.	Week 1: Course introduction and policies Week 2: Task: Reading & Discussions Week 3: Review & lecture on role of group members Week 4: Task: identifying main ideas from readings Week 5: Reading & Discussions Week 6: Task: creating outlines & summarizing Week 7: Reading & Discussions Week 8: Task: analyzing information Week 9: Reading & Discussions Week 10: Project Preparation Week 11: Presentations Week 12: Presentations Continued Week 13: Collecting & analyzing feedback Week 14: Wrap up and review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Interchange 3 (Third Edition) Student's Book B	Grades will be based on attendance, active participation, and evaluations.

08 年度（秋）	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Martin Darling

講義目的、講義概要	授業計画
Continuation of first semester. Points for further consideration: ・Students will need a notebook and a good English- English dictionary.	Week 1: Course introduction and policies Week 2: Reading task; brainstorming Week 3: Presentation task; brainstorming Week 4: Presentations; collecting feedback Week 5: Presentations Continued Week 6: Reading task; analyzing feedback Week 7: Reading & Discussions Week 8: Task: analyzing information Week 9: Presentations Continued Week 10: Reading task; drawing conclusions Week 11: Reading & Discussions Week 12: Project Preparation Week 13: Presentations Week 14: Wrap up and review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Interchange 3 (Third Edition) Student's Book B	Grades will be based on attendance, active participation, and evaluations.

08 年度（春）	Reading Strategies Ⅲ（HONORS）	担当者	A. Zollinger

講義目的、講義概要	授業計画
Reading Strategies Ⅲ（Honors) is an advanced-level reading course designed to help students develop effective skills, strategies and practices for improving their reading and vocabulary. Based on a variety of readings selected for their relevance, sentiment and humor, it is the aim of the instructor that through the course of the semester students come to develop a genuine fondness for and interest in reading English. Focus readings will include essays and book excerpts from authors including David Sedaris, Barack Obama, Raymond Carver, Sarah Vowell, Malcolm Gladwell, Nick Hornsby and Junot Diaz.	1. Course Introduction 2. Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read 3. Reading 1: Introduction to author and theme / First read 4. Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises 5. Reading 1: Group discussion / Final read and review 6. Reading 2: Introduction to author and theme / First read 7. Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises 8. Reading 2: Group discussion / Final read and review 9. Reading 3: Introduction to author and theme / First read 10. Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises 11. Reading 3: Group discussion / Final read and review 12. Reading 4: Introduction to author and theme / First read 13. Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises 14. Reading 4: Group discussion / Final read and review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), participation in classroom discussions (20%), the completion of in-class and homework assignments (30%), and achievement on a final report (30%).

08 年度（秋）	Reading Strategies Ⅳ（HONORS）	担当者	A. Zollinger

講義目的、講義概要	授業計画
Reading Strategies Ⅳ（Honors) is an advanced-level reading course designed to help students develop effective skills, strategies and practices for improving their reading and vocabulary. Based on a variety of readings selected for their relevance, sentiment and humor, it is the aim of the instructor that through the course of the semester students come to develop a genuine fondness for and interest in reading English. Focus readings will include essays and book excerpts from authors including David Sedaris, Barack Obama, Raymond Carver, Sarah Vowell, Malcolm Gladwell, Nick Hornsby and Junot Diaz.	1. Course Introduction 2. Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read 3. Reading 1: Introduction to author and theme / First read 4. Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises 5. Reading 1: Group discussion / Final read and review 6. Reading 2: Introduction to author and theme / First read 7. Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises 8. Reading 2: Group discussion / Final read and review 9. Reading 3: Introduction to author and theme / First read 10. Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises 11. Reading 3: Group discussion / Final read and review 12. Reading 4: Introduction to author and theme / First read 13. Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises 14. Reading 4: Group discussion / Final read and review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), participation in classroom discussions (20%), the completion of in-class and homework assignments (30%), and achievement on a final report (30%).

08 年度（春）	Reading Strategies Ⅲ（HONORS）	担当者	N.H Jost

講義目的、講義概要	授業計画
This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their reading skills and to further develop critical thinking skills. The reading material chosen for this class will look at some of the issues that face us today as they appear in print. Students in this class will have to the opportunity to learn the different skills to become effective and efficient readers. This includes the abilities to skim and to scam, to improve vocabulary and to synthesize the material read. Students are required to have a notebook for this class which will include articles taken from various sources with written summaries.	Week 1: Course introduction Week 2: Reading material one Week 3: Continued; skimming Week 4: Reading material two Week 5: Continued; scanning Week 6: Reading material three Week 7: Continued; speed reading Week 8: Reading material four Week 9: Continued; vocab. acquisition Week 10: Reading material five Week 11: Continued; graded readers Week 12: Reading material six Week 13: Final projects Week 14: Final projects
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printed reading materials will be provided by the instructor.	Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks

08 年度（秋）	Reading Strategies Ⅳ（HONORS）	担当者	N.H Jost

講義目的、講義概要	授業計画
This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their reading skills and to further develop critical thinking skills. The reading material chosen for this class will look at some of the issues that face us today as they appear in print. Students in this class will have to the opportunity to learn the different skills to become effective and efficient readers. This includes the abilities to skim and to scam, to improve vocabulary and to synthesize the material read. Students are required to have a notebook for this class which will include articles taken from various sources with written summaries.	Week 1: Course introduction Week 2: Reading material one Week 3: Continued; skimming Week 4: Reading material two Week 5: Continued; scanning Week 6: Reading material three Week 7: Continued; speed reading Week 8: Reading material four Week 9: Continued; vocab. acquisition Week 10: Reading material five Week 11: Continued; graded readers Week 12: Reading material six Week 13: Final projects Week 14: Final projects
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printed reading materials will be provided by the instructor.	Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks

08 年度（春）	Reading Strategies Ⅲ（HONORS）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
目的 科目名に示されているとおり、「読む力」をつけることを目的とするクラスですが、本講義では「読む力」のなかでも以下の四つの力を養いたいと考えています。 １．高度な文章を精読し理解する力。 ２．構成（文章の構造）を読む力。 ３．批判的に読む力。 これらは、レポートや論文を「書く」ための基礎力として欠かすことができません。また４．速く多量に読む能力、５．情報収集力の強化、６．主体的な学習への取り組みを副次的な目的とします。 授業について 他の HONORS クラスとは異なり、授業は主に日本語で行います。bilingual でない限り、外国語で書かれた高度なテキストをほんとうに理解したといえるのは、その内容を清明かつ論理的な母語（受講生の多くにとっては日本語）で表現しえたときだと考えるからです。	内容 トピックとしては、グローバル化の諸問題を、コロニアリズム(ニューコロニアリズム)、人と文化の移動、混淆、衝突などに焦点をあてながら考えていきたいと思います。 1. Introduction (mainly in English) 2—5 もうひとつの 9-11—“The Algebra of Infinite Justice” by Arundhati Roy （本エッセイは、1997 年に Booker 賞を受賞し、一躍世界的な作家となった、ニューデリー在住のインド人作家の、アメリカの「テロとの戦い」に対する批判的エッセイです。テロリズムを生むのは「冷えきった絶望だ」というフレーズが読者をはっとさせるでしょう。） 6—14 *A Small Place*　by Jamaica Kincaid を読む （テキストの紹介は、左下のスペースをみてください。わずか 81 頁の薄い本。使われている単語レベルもむつかしくはありません。しかし、一頁を理解するのに一時間かかるような箇所もある、手ごわいテキストです。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント+ A Small Place	平常点と試験。

08 年度（秋）	Reading Strategies Ⅳ（HONORS）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト *A Small Place* の紹介 1988 年のペンギン版には次のような紹介文があります。「観光客でアンティーガにいったら、きっとこんなものを見る・・・」自分が幼年期を過ごした故郷、ずたずたにされたパラダイスについて語る、キンケイドの力みなぎる作品は、そんな一文ではじまる。タイトルの小さな島とは、アンティーガのこと、9 マイル×12 マイルの西インド諸島に浮かぶ島だ。そこには息をのむ美しい自然がある——雲ひとつない空、目も眩む青い海と壮大な夕暮れ。けれど、そこには、自然の美とはあまりにも対照的なものもある。観光客の目にはみえないものがあるのだ。圧倒的な政治腐敗、ぼろぼろの学校や病院、過去の植民地時代の負の遺産。パッションのこもったキンケイドの文章は、わたしたちに否応なく考えさせるのだ。生まれてはじめて、美しい風景の裏側に暮らす人々のことを考えさせるのだ——彼らの歴史、習慣、そして微笑むくちびるに宿る言われないままの言葉・・・ 観光という贅沢ができる側の人間、つまり The First World に暮らす私たちが、必ず一度は読まねばならないといってもよい一冊です。	春学期の進行によって決定します。春学期終了時に詳細をお知らせするとともに、reading material をお渡しします。秋学期は、主に論説文や論文を読み、目的のなかの２と３に重点をおきます。なお、目的４，５，６は年間を通じて、常に念頭においておくべきものと考えています。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	平常点と試験。

08 年度（春）	Reading Strategies Ⅲ	担当者	J.N.Wendel

講義目的、講義概要	授業計画
This course is intended to develop students' reading skills. Each week, we will evaluate both the content and structure of an essay. Each essay focuses on a particular topic dealing with language and, as we will see, the authors use a variety of rhetorical and structural devices for effectively framing their descriptions, explanations and arguments. Every student will find something of interest in lively assortment of essays we will cover during the semester. Students will be required to write several reaction papers for selected essays and to participate in class discussions.	Week 1. Why learn about language Week 2. How Many Languages are there in the World? Week 3. What's the Difference between Dialects and Languages? Week 4. What was the Original Language? Week 5. Do All Languages Come from the Same Source? Week 6. What Language Did Adam and Eve Speak? Week 7. Why do Languages Change? Week 8. Is Pidgin English Just Bad English? Week 9. How Many Kinds of Writing Systems are there? Week 10. Where did Writing Come From? Week 11. Where Does Grammar Come From? Week 12. Do All Languages have the Same Grammar? Week 13. How do Babies Learn their Mother Tongue? Week 14. Do Animals Use Language?
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Five-Minute Linguist. E.M. Rickerson & Barry Hilton. Equinox Publishing. (2006)	Participation 20% Assignments 80%

08 年度（秋）	Reading Strategies Ⅳ	担当者	J.N.Wendel

講義目的、講義概要	授業計画
This is a continuation of the Reading Strategies III. This course is intended to develop students' reading skills. Each week, we will evaluate both the content and structure of an essay. Each essay focuses on a particular topic dealing with language and, as we will see, the authors use a variety of rhetorical and structural devices for effectively framing their descriptions, explanations and arguments. Every student will find something of interest in lively assortment of essays we will cover during the semester. Students will be required to write several reaction papers for selected essays and to participate in class discussions.	Week 1. How does the Brain Cope with Multiple Languages? Week 2. Does our Language Influence The Way We Think? Week 3. What's the Right Way to Put Words Together? Week 4. Is British English the Best English? Week 5. Why do People Fight over Language? Week 6. What does it Mean to be Bilingual? Week 7. What is 'Speaking in Tongues'? Week 8. What happens if you are Raised without Language? Week 9. Do Deaf People Everywhere use the Same Sign Language? Week 10. Why do Languages Die? Week 11. Can a Threatened Language be Saved? Week 12. Why do American Southerners Talk that Way? Week 13. What Causes Foreign Accents? Week 14. How are the Sounds of Language Made?
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Five-Minute Linguist. E.M. Rickerson & Barry Hilton. Equinox Publishing. (2006)	Participation 20% Assignments 80%

08 年度（春）	Reading Strategies　Ⅲ	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この授業は、１年次の RSI, II に引き続き、みなさんのリーディングのスキルを上げてもらうことが目的です。具体的には、 　＊語彙を増やすこと 　＊速読力を養うこと 　＊精読力を養うこと をねらいとします。 講義概要 　授業の前半を使って、TOEIC/ TOEFL のリーディング問題を解きます。リーディングの基礎となる文法や語法の知識の確認と、速読のトレーニングをします。 　授業の後半では、Nick Hornby の *About a Boy*（1999）を原文で精読します。みなさんはヒュー・グラント主演の同タイトルの映画を見たことがあるかもしれませんが、原作は映画とは結末がかなり違っており、映画にはないユーモアや口語表現もたくさんふくまれ、現代イギリスの家族や文化や社会についても学べます。毎回 10～20 ページを精読し、原作ならではの魅力を味わいます。	１．イントロダクション 　＊読み方を説明しますので、受講を希望する人はかならず出席してください。 ２～13. 　TOEIC/ TOEFL 問題 ＋ *About a Boy* 講読 　＊テキストは受講者の様子を見つつ、春学期中に大半を読んでしまう予定です。 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Nick Hornby, *About a Boy*（1999）. *DUO で購入のこと。 参考文献は授業中に適宜指示します。	毎回の課題、授業への参加、学期末試験を総合評価。 欠席が４回を越える場合は評価の対象となりません。

08 年度（秋）	Reading Strategies　Ⅳ	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期の RSIII に引き続き、リーディングのスキルをさらに高めつつ、ライティングと有機的に結びつけます。速読のトレーニングを続けるほか、精読によって文学作品を味わったうえで、自分なりの作品への評価を英文エッセイにまとめます。 講義概要 　授業の前半では、引き続き TOEIC/ TOEFL のリーディング問題を解きます。 　後半では、*About a Boy* が春学期に読み切れなかった場合は、残りを読み進めます。その後、書評や映画評などを読んで、文学作品や映画作品についての語り方を研究します。そのうえで Nick Hornby が編んだ短編集 *Speaking with the Angel*（2001）からいくつか作品を読み、今度は各自で書評を書きます。この短編集は、『ブリジットジョーンズ』の Helen Fielding や、『トレインスポッティング』の Irvine Welsh など、現代イギリスの人気作家 12 人が作品を寄稿したもので、風変わりな設定や思いがけない展開が盛りだくさんです。イギリスの「いま」を味わいつつ、感想を自分の英語にまとめるトレーニングをします。	春学期に続けて、以下のことをやります。 ・ TOEIC/ TOEFL 問題 ・ About a Boy 講読 ・ 書評、映画評の読み方、書き方 ・ *Speaking with the Angel* 講読 ・ 書評を実際に書いてみる 何回目に何をやるのかは、春学期の進度を踏まえたうえで、秋学期の第一回目に提示します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Nick Hornby ed., *Speaking with the Angel*（2001）. 参考文献は授業中に適宜指示します。	毎回の課題、授業への参加、英文エッセイを総合評価。 欠席が４回を越える場合は評価の対象となりません。

08 年度（春）	Reading Strategies　Ⅲ	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
目的に応じた英文の読み方を習得しながら、語彙力や批判的読解力に加えて英語でのプレゼンテーションとライティングのスキルを高めるという、欲張りな授業目的を設定しています。これらの目的を達成するために、(1) 徹底した音読練習と名文の暗記、(2) 中級レベルの英文の精読と多読、(3) 教材の内容についてのプレゼンテーションとディスカッション、(4) 学習テーマの理解を深めるためのシミュレーション・ゲーム等のホリスティックな学習方法を用意しています。 春学期は、年間を通して行われる音読練習の意義と練習方法の説明、スキャニング、スキミング、メモやノートの取り方等の基本技術を学習（復習？）するところから始まります。次に、平易な文で書かれた伝統的な異文化間コミュニケーション論の教材を用いながら、要旨のまとめ方と英語でのプレゼンテーションの仕方について実践を通して学びます。更に、「異文化間コミュニケーション」に関する様々な誤解を解消しながら、日本の大学生が英語でコミュニケートする際の問題点や弱点、強みについて考察します。こうした一連の学習の成果は、学期末に教材の書評（book review）を英語で執筆するという形で確認されることになります。	1. 導入 2. RSI&II の復習 3. 心を読む／読まれる 4. Culture and communication (pp. 1-7) 5. Intercultural communication (pp.8-16) 6. Verbal messages (pp.17-23) 7. Verbal messages (pp.23-31) 8. Verbal messages (pp.32-36) 9. Nonverbal communication (pp.37-45) 10. Nonverbal communication (pp.45-58) 11. Nonverbal communication (pp.58-67) 12. Becoming more effective (pp.68-76) 13. Becoming more effective (pp.76-83) 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
サモーバー・L・A 他（2002）『現代英文テキスト　異文化との出会い』研究社。 国弘正雄、千田潤一（2004）『英会話・ぜったい・音読　続挑戦編』講談社。	プレゼンテーション（40%）、音読テスト（20%）、書評（英文で 500~1,000 語程度）（30%）、授業参加（10%）

08 年度（秋）	Reading Strategies　Ⅳ	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、周囲の環境の変化に伴う戸惑いや葛藤について扱った寓話を異文化適応理論や文化理論の知見を借りながら批判的・分析的に読みます。寓話の精読と内容に関するプレゼンテーションやディスカッション、関連文献の速読と精読、シミュレーション・ゲームへの参加により、留学や仕事、婚姻、或いは紛争や貧困などの理由で国や地域を越えて生活することの意味や、外国語を学んだり国際的（グローバル）な分野の学問をしたりすることの意義についての理解を深めます。秋学期と同様に、学期末には英語で書評を執筆していただきます。 授業参加が非常に重視されますので、積極的に発言し意見交換をしながら語学力と思考力を向上させたい人の受講を望みます。また、授業担当者も英語の学習者であり、英語が支配的になっている国際的な場面での倫理的なコミュニケーションの在り方を模索中であること、授業は日英両言語で行われること、4 分の 1 以上の欠席は不可になることを理解のうえ、授業に臨んでください。	1. 導入 2. *Who moved my cheese?*を独りで読む 3. あなたの異文化適応能力は？ 4. Culture shock and cross-cultural adjustment（Levine & Adelman, 1993） 5. A gathering (pp.21-24) 6. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 25-36) 7. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 37-46) 8. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 47-56) 9. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 57-66) 10. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 67-76) 11. A discussion (pp. 77-94) 12. The story behind the story (pp.12-18) 13. カルチャーショックという名のプレゼント 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Johnson, S. (1998). *Who moved my cheese?* London: Vermilion. その他のプリント教材	プレゼンテーション（40%）、音読テスト（20%）、書評（英文で 500~1,000 語程度）（30%）、授業参加（10%）

08 年度（春）	Reading Strategies　Ⅲ	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英字新聞からいくつか記事を読んで、vocabulary の増やし方を学びます。続いて英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察しながら、多種多様な会話表現を覚えていこうと思います。また実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してみてください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。 教室ではお互いの翻訳を確認しながら、テキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱い。公欠扱いは一切なし。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。	最初の数回で、英字新聞の記事をもとに vocabulary を増やす読み方を試してみて、次に英米の現代演劇の台本をテキストにして取り組んでいきます。教室で読む演劇テキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにしていますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 そのスケジュール次第で、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげ、その英訳版をテキストにしたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
原則はプリントで配布します。 ミュージカル台本をテキストにすることも考えています。 参考文献は授業中に言及する予定です。	毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。このテスト成績が学期末集計時に 50%未満の場合、単位を認めません。観劇レポート（450-500 字）2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。

08 年度（秋）	Reading Strategies　Ⅳ	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英字新聞からいくつか記事を読んで、vocabulary の増やし方を学びます。続いて英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察しながら、多種多様な会話表現を覚えていこうと思います。また実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してみてください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。 教室ではお互いの翻訳を確認しながら、テキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱い。公欠扱いは一切なし。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。	最初の数回で、英字新聞の記事をもとに vocabulary を増やす読み方を試してみて、次に英米の現代演劇の台本をテキストにして取り組んでいきます。教室で読む演劇テキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにしていますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 そのスケジュール次第で、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげ、その英訳版をテキストにしたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
秋学期はプリントではなくて、1 冊本をテキストにすることも考えられます（予定では裁判員制度を思わせる戯曲です）。 参考文献は授業中に言及する予定です。	毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。このテスト成績が学期末集計時に 50%未満の場合、単位を認めません。観劇レポート（450-500 字）2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。

08 年度（春）	Reading Strategies　Ⅲ	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英語の読解力を高めることである。使用するテキストは，認知科学の観点から書かれた言語学の入門書である。これを精読することにより，理論言語学の考え方を知ることができるだけでなく，英語そのものに対する理解も深まるはずである。 授業では，下記のテキストの第 1 部“The fundamental arguments” と 第 2 部 “The organization of mental grammar”の前半部分を読む予定である。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は，鍛練とか修練ということばによって特徴づけられるような，ときとして忍耐を必要とする，学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ，それを並べかえるだけでよしとするようなことをせず，真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。丹念な読みを通して，日本語らしさ，英語らしさとは何かについても学ぶことができるはずである。	第 1 回 オリエンテーション（出席は必須） 第 2 回～第 13 回 テキストの第 1 部と第 2 部の前半部分の講読 第 14 回 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Jackendoff, Ray (1993) *Patterns in the Mind: Language and Human Nature*. New York: Harvester Wheatsheaf.	担当部分の発表や定期試験の結果により評価する。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

08 年度（秋）	Reading Strategies　Ⅳ	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英語の読解力を高めることである。使用するテキストは，認知科学の観点から書かれた言語学の入門書である。これを精読することにより，理論言語学の考え方を知ることができるだけでなく，英語そのものに対する理解も深まるはずである。 授業では，下記のテキストの第 2 部“The organization of mental grammar”の後半部分と第 3 部“Evidence for the biological basis of language”を読む予定である。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は，鍛練とか修練ということばによって特徴づけられるような，ときとして忍耐を必要とする，学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ，それを並べかえるだけでよしとするようなことをせず，真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。丹念な読みを通して，日本語らしさ，英語らしさとは何かについても学ぶことができるはずである。	第 1 回 オリエンテーション（出席は必須） 第 2 回～第 13 回 テキストの第 2 部の後半部分と第 3 部の講読 第 14 回 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Jackendoff, Ray (1993) *Patterns in the Mind: Language and Human Nature*. New York: Harvester Wheatsheaf.	担当部分の発表や定期試験の結果により評価する。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

08 年度（春）	Reading Strategies　Ⅲ	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。	最初の授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
アメリカ史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。	筆記試験をします。平常点も３０％ほど考慮します。 欠席が授業回数の１／３を超えた場合、単位を与えません。遅刻は３回で欠席１回分にカウントします。

08 年度（秋）	Reading Strategies　Ⅳ	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ。	最初の授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期と同じ。

08 年度（春）	Reading Strategies Ⅲ	担当者	佐藤　勉

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんは物語を読むのが好きですか。好きで、好きでたまらないという受講生にはきっと面白く、またためになること請け合いです。物語の読み方には、好きで読むタイプ、時間つぶしで読むタイプ、そして本格的に読むタイプとありますが、そのいずれのタイプにも物語に読みの戦略というものがあることを知ると一層高度な読みができ、また人間の奥深さに感動することができます。このような、いわば専門的な読みへのイントロにこの授業は大いに役立つと思います。いろいろな物語がありますが,ここでは非常に分かりやすいO' Henryの物語をまず聞き読みをしますが、そこには人の心が見事に表現され、いろいろな物語の読解の基本を学ぶことができます。勿論、語彙の習得、さらに必要な文法事項などにも触れて多読の準備をしていきます。そのために一番取り組みやすい物語テキストを選びました。このRS IIIの目標は専門購読へ進むための読みの戦略的技術を習得することを目標とします。このRS IIIを希望する受講生はそのことを念頭において参加してください。授業は受講生による注釈の作成と提出などを合わせた輪読形式による発表になります。従って順番で発表する時に休むことはできません。もし事情で出席できない時は自分で次の人に代替を依頼しておくことが大切です。	この授業で扱うものは優れた短い物語で、以下の作品をListeningと共に学習します。 1．2．Stories by O' Henry *The Last Leaf* 3．4．Story by Oscar Wilde *The Happy Prince* 5．6．Story by W. Irving *Rip Van Winkle* 7．8．Story by Maupassant *The Diamond Necklace* 9．10. Story by B. Malamud *The Magic Barrel* 11．12. Story by T. Williams *Portrait of a Girl in the Glass* 13．14. Story by Roald Dahl *Parson's Pleasure* その他に授業の進行状況によって時間があればそのほかの短編を読みます。これらはすべてハンドアウトを用意します.この他に「Supplementary Readings for Reading Strategies III & IV」(プリント）から宿題としていくつかを読んでもらいます。その読み方は授業の時に指示致します。VHS, DVDを活用したいと思います。

テキスト、参考文献	評価方法
プリントを用意しますので教科書を購入することはありません。	平常点（これは予習の課題、授業中での発表などが入る） 出席点（これは春学期の全出席の３分の１以上で与える） 定期試験の点数（これが評価の中心です）

08 年度（秋）	Reading Strategies Ⅲ	担当者	佐藤　勉

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の目標はさらに進んだ物語を読んでいきます。主として読む作品は現代作家 の作品が中心になります。 勿論、映画を見て参考にしてもらいますが、基本はベースとなった短編作品と戯曲として作者自ら書き直したシナリオを合わせて鑑賞すると、その比較によって作者の意図や作品自体の意味、その言葉の変化、あるいは舞台や映画のための状況設定のあり方、説明など様々なことを学びます。つまり、文学作品を活字と映像の両方からアプローチする予定のです。扱う作品はかなりのひねり、とサスペンスがきいていて読む者をひきつけます。 またその他の作品についても作家の持つ特異性が見事に表現されている作品ばかりです。授業が順調に進展するように受講生にしっかりと協力を御願いしたいと願っています。授業は春学期と同じく順番に発表してもらいます。もし事情で発表の時に出席できない時には次の人に代替を依頼しておくことが大切です。私の授業では出席と発表を特に重視します。従って、担当の時に勝手に休むと他の人に迷惑となりますので気をつけましょう　特に割り当てられたところができなくなると減点されます。	授業計画： 以下の作品を読む予定にしています。 1．2．R. Dahlの *The Landlady* 3．4．J. C. Oatesの *In the Region of Ice* 続きを読みます。 5．6．Somerset Maughamの *The Treasure* 7．8．Mary Lavinの *Mother* 9．10. 続きを読みます 11．12.　Roald Dahlの *The Butler* 13．14. Ernest Hemingwayの *The End of Something* しかし、各週の授業の進み具合によって予定している作品を全部読みきることができないこともあることをご承知置き下さい。秋学期にもから宿題としていくつかを読んできてもらいます。その読み方は授業の時に指示致します。また必要に応じてVHS、あるはDVDを活用して「物語」の面白さを学び、授業にアクセントを付けていきます。

テキスト、参考文献	評価方法
The Glass Menagerie(Action Edition)　鶴見書店版 を売店で購入してください。その他のものはプリントを渡します。	平常点（これは予習の課題、授業中での発表などが入る） 出席点（これは春学期の全出席の３分の１以上で与える） 定期試験の点数（これが評価の中心です）

08 年度（春）	Reading Strategies　Ⅲ	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
将来の専門分野研究につながる学術語彙を増やし、速読や精読に必要となる読解技術の向上を目指すことを本授業の目的とする。 本授業では、グローバリゼーションに関する入門書を主たるテキストとして使用し、基礎概念を学び著者の意図を正しく理解し、批評的な読み方を訓練する。 授業では、小テストや発表（個人、グループ）を行う予定である。毎週読んできたものを前提に授業を進める。 秋学期は春学期と同じテキストを使用する予定でいるので、春学期と秋学期の両方の受講が望ましい。	第 1 回　オリエンテーション 第 2～4 回 Globalization: a contested concept 第 5～7 回　Is globalization a new phenomenon? 第 8～10 回 The economic dimension of globalization 第 11～13 回 The political dimension of globalization 第 14 回　グループ発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
Manfred B. Steger. Globalization: A very Short Introduction, Oxford: Oxford University Press, 2009.（価格は 1,000 円程）、さらに英文資料を配布予定。	出席、授業態度、発表、課題、学期末試験の総合評価とする。3 回を超えて欠席したものは、単位修得の権利を失う。

08 年度（秋）	Reading Strategies　Ⅳ	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
将来の専門分野研究につながる学術語彙を増やし、速読や精読に必要となる読解技術の向上を目指すことを本授業の目的とする。 本授業では、グローバリゼーションに関する入門書を主たるテキストとして使用し、基礎概念を学び著者の意図を正しく理解し、批評的な読み方を訓練する。 授業では、小テストや発表（個人、グループ）を行う予定である。毎週読んできたものを前提に授業を進める。 秋学期は春学期と同じテキストを使用する予定でいるので、春学期と秋学期の両方の受講が望ましい。	第 1 回　　オリエンテーション 第 2～4 回　The cultural dimension of globalization 第 5～7 回　The ideological dimension of globalization 第 8～10 回 Challenges to globalism 第 11 ~13 回 Assessing the future of globalism 第 14 回　グループ発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
Manfred B. Steger. Globalization: A very Short Introduction, Oxford: Oxford University Press, 2009.（価格は 1,000 程）、さらに英文資料を配布予定。	出席、授業態度、小テスト、課題、発表の総合評価とする。3 回を超えて欠席したものは、単位修得の権利を失う。

08 年度（春）	Reading Strategies　Ⅲ	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
先ず第一の目的は、１年時に学んだことを基に、更に速読(faster reading)のスキルを実践的に学ぶ。　第二に時間が許せば、終わりの 10-15 分位を使って、直読（direct reading）による読みの訓練を目指す。直読とは、我々が、（日本語の）新聞などを読んで直ぐ分かるように、英文をその場で読んで直ぐ分かることである。　第三に自由読書(pleasure reading)として課外で読んでいただく。速読の実践の為である。なお、日程などの詳細は、以下の通り。 自由読書、課題と日程 A. 課題 指定されたテキストだけでは、読む量に限界もあり、自分の好きな英文を読むというメリットをも活かすため、150 頁程度の英文を課外で自由に読んでもらう。(参考までにリーディング・リストは別途配布する。) B.　日程 a. 5 月 13 日（水）　指定された用紙にタイトル他を決めて申告する。 b. 6 月 10 日（水）　中間報告会（タイトル変更、可） c. 7 月 15 日（水）　提出（直接、教室で）	1．「ダイアナ妃は皇太子の愛人の存在を知らなかった」 2．「妻帯の牧師、神父も増えている」 3．「白人のキリスト教分派」 4．「対立する東アジア、東南アジアの 2 つの仏教」 5．「就業の許されない女性を救うため」 6．「カリフォルニアでは親権まで認める」 7．「7-8 歳の少女婚約や複雑な交換婚」 8．「シングル・マザーも悪くない？」 9．「同棲婚の是非」 10.「イヌイットに離婚無し」 11.「姓、名はこうして決まる」 12.「夫婦別姓運動はますます高まる」 13.「観光名所バリ島にある土俗的ルール」 14.「合掌造りには結婚厳禁の秘話も」
テキスト、参考文献	**評価方法**
大橋久利、BAXTER,Blake 『21 世紀の結婚・姓・社会』（成美堂　2008 年） その他適宜プリント使用。	A.:　期末テスト　８０％ B:　自由読書　２０％

08 年度（秋）	Reading Strategies　Ⅳ	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
RSIII に引き続いて、速読のスキルの仕上げをした後、やや精読（intensive reading）近い学びを心がける。文章の中での言葉遣いや、文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。紀行文ではあるが、イギリス詩の代表的詩人たちを紹介した文章である。また直読、自由読書も引き続き実践していただく。詳細は以下の通り。 自由読書：日程 a. 10 月 14 日（水）指定された用紙にタイトルほかを決めて申告する。 b. 11 月 4 日（水）中間報告会（タイトル変更、可） c.　1 月 13 日（水）提出（直接、教室で）	1．「核家族は近代化の象徴だ」 2．「いまも生きている母系社会」 3．「弊害も多い中国の一人っ子政策」 4．「変化するシンガポール」 5．「大統領選の争点にもなるアメリカ」 6．「日本におけるジェンダーの問題」 7．「まだ残る前近代的な女性蔑視」 8．「日本の人口 2050 には 8,800 万人に」 9-14 チョーサー、シェークスピア、ミルトン、ワーズワース、ホプキンズ、T.S.エリオットらのふるさとを訪ねるピーター・ミルワード氏の文章を味わいながら読む。
テキスト、参考文献	**評価方法**
1．初めは、上記テキストの続き 2．ピーター・ミルワード著　『英国詩のふるさと』 （金星堂、１９９３年)、その他プリント。	A.:　期末テスト　８０％ B:　自由読書　２０％

08 年度（春）	Reading Strategies　Ⅲ	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
文法をいくら知識として覚えていても、その応用力がなければ、英語を十分に読みこなせるようにはならない。 「なんとなく解かる」という曖昧な読み方をつづけていたのでは、いつまでたっても、細かな内容やニュアンスを読み取れるようにはならないのである。そこで当講座では、英文法の応用力アップを目的として授業を進めていきたい。 なお、授業の３分の１以上を欠席した場合、単位は認められない。	当授業では、学生は文法の応用力アップを目的としていろいろな英文の解読に取り組むことになる。内容の委細については、今の時点では未定であるが、ＴＯＥＩＣ®の文法問題を広く用いたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	平常の授業での評価

08 年度（秋）	Reading Strategies　Ⅳ	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	出席、平常の授業での評価

08 年度（春）	Reading Strategies Ⅲ	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
Classic Rock の中から代表的な26曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。50年のRockの歴史から 生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。CD、DVDなとは担当者が用意する。 2人1組のレポーターを中心にディスカッション形式でおこなう。レポーターは、発表前に疑問や問題点をメーリング・リストで受講者に送る。それをもとに各自がそれぞれの解釈を持ちより、クラスでディスカッションする。個々の作品が生まれた政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティヴに “Rock Culture”を考える。	1.“America” by Paul Simon 2.“Eleanor Rigby” by the Beatles 3.“The Boxer” by Paul Simon 4.“Across the Universe” by the Beatles 5.“Me and Bobby McGee” by Janis Joplin 6.“Big Yellow Taxi” by Joni Michell 7.“Sweet Baby James” by James Taylar 8.“California” by Joni Michell 9.“Good Night Saigon” by Billy Joel 10.“The River” by Bruce Springsteen 11.“Luka” by Suzanne Vega 12.“At Seventeen” by Janis Ian 13.“The Last Resort” by the Eagles 14.“Heart of Gold” by Neil Young

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは担当者がプリントを用意する。 参考資料: DVD: The History of Rock ’n’ Roll (5pc)	プリゼンテーションとレポート（ワープロで約 4,000 字程度の作品論）によって決める。欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合には、評価の対象とはしない。

08 年度（秋）	Reading Strategies Ⅳ	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、Bob Dylan の代表的な１５曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。50年のRockの歴史から 生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。CD、DVDなとは担当者が用意する。 2人1組のレポーターを中心にディスカッション形式でおこなう。レポーターは、発表前に疑問や問題点をメーリング・リストで受講者に送る。それをもとに各自がそれぞれの解釈を持ちより、クラスでディスカッションする。個々の作品が生まれた政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティヴにアメリカ文化論を考える。	1. Blowin’ in the Wind 2. A Hard Rain’s A-Gonna Fall 3. Don’t Think Twice, It’s All Right 4. Masters of War 5. Mr.Tambourine Man 6. My Back Pages 7. Like a Rolling Stone 8. Desolation Row 9. All along theWatchtower 10. Idiot Wind 11. One More a Cup of Coffee (Valley Below) 12. Sara 13. Harricane 14. Jokerman

テキスト、参考文献	評価方法
http://www.bobdylan.com/#/songs　よりダウンロード可。	プリゼンテーションとレポート（ワープロで約 4,000 字程度の作品論）によって決める。欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合には、評価の対象とはしない。

08 年度（春）	Reading Strategies Ⅲ	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
ヨーロッパの文化について述べた文章を読む。	各時間、各一章ずつ読む。 なお、授業時には、名簿順に席に着いていただく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Appreciating European Culture　また、変更の場合あり。	出席を評価する。また、毎授業時での発表等も評価し、更に定期試験の結果を評価する。

08 年度（秋）	Reading Strategies Ⅳ	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じる	春学期に準じる
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期の続きを読む。	春学期に準じる。

08 年度（春）	Reading Strategies　Ⅲ	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：アメリカ児童文学を読む Louis Sachar, *Holes*（2000）を読む。1999 年にアメリカでニューベリー賞を受けベストセラーとなった児童文学である。英語は比較的平易であるが、巧みに組み立てられた物語の構造や、一人の平凡な少年の成長の過程など、大人が読んでも十分に読み応えがある。全部で 230 ページほどの長さだが、14 週間で読み切る予定である。物語の中に引き込まれて読書を楽しむという経験を英語（の授業）でする契機にしてほしい。 毎週、ある程度の長さを読んでくることと、部分的に精読することを並行して行う。毎回、授業の最初に小テストを行う。（1）指定された範囲を読んで状況や筋書きなどの内容をきちんと読みとれたか、（2）精読用に選んだ部分について細かな表現や語彙を正確にとらえているかを、授業中に確認する。	1. 授業の進め方についての説明と Chapters 1-2 2. Chapters 3-5 3. Chapters 6-8 4. Chapters 9-12 5. Chapters 13-16 6. Chapters 17-20 7. Chapters 21-24 8. Chapters 25-28 9. Chapters 29-32 10. Chapters 33-36 11. Chapters 37-40 12. Chapters 41-44 13. Chapters 45-48 14. Chapters 49-50 とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Louis Sacher, *Holes*, New York: Yearling Books, 2000.	毎回の小テストと宿題のワークシートで成績評価をする。 4 回以上の欠席があった場合、成績評価の対象としない。

08 年度（秋）	Reading Strategies　Ⅳ	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：イギリス児童文学を読む J. K. Rowling, *Harry Potter and the Philosopher's Stone*（1997）を読む。すでに世界的な現象になっている Harry Potter の第 1 作であるが、映画や翻訳で楽しむことと原文で読むことの違いをあらためて確かめてみる。児童文学とはいえ、英語は必ずしも平易というわけではない。イギリスらしい表現や語彙、人物によって異なる口調など、丹念に読むことによって、ストーリー展開を伝える媒介となる「英語」の面白さがわかってくる。 「翻訳ではわからない面白さ」を実感することがこの授業の目標である。毎週、1 章ずつ精読してきてもらい、毎回、その範囲について小テストを行う。	1. Chapter 1 2. Chapter 2 3. Chapter 3 4. Chapter 4 5. Chapter 5 6. Chapter 6 7. Chapter 7 8. Chapter 8 9. Chapter 9 10. Chapter 10 11. Chapter 11 12. Chapter 12 13. Chapter 13 14. Chapter 14
テキスト、参考文献	**評価方法**
J. K. Rowling, *Harry Potter and the Philosopher's Stone*, London: Bloomsbury, 1997.	毎回の小テストで成績評価をする。 4 回以上の欠席があった場合、成績評価の対象としない。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （Japanese Art & Culture） 英語専門講読 a （Japanese Art & Culture）	担当者	A. Zollinger

講義目的、講義概要	授業計画
Reading for this course will focus on preparing students to attend featured art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the 2009 spring semester. Drawing from corresponding academic articles, catalogues and texts, students will study the profiles and backgrounds of the artists, the artists' characteristic painting styles, the common themes and iconography of selected paintings, and the cultural context from which the works were produced. Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, respond to prepared comprehension questions, and introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion. Interested students are encouraged to take this course alongside my 特別セミナー (Edo-Period Painting & the Art of Noh Masks), providing a basic vocabulary and foundation in Japanese art.	Featured exhibitions for focus reading will include two from the following: • 出光美術館「日本の美・発見 I : 水墨画の輝き —雪舟・等伯から鉄斎まで—」 2009 年 4 月 25 日～5 月 31 日 • 三の丸尚蔵館「国の花、華やぐ」（仮称） 2009 年 3 月 28 日～6 月 14 日 • 江戸東京博物館「写楽 幻の肉筆画 : ギリシャに眠る日本美術～マノスコレクションより」 2009 年 7 月 4 日～9 月 6 日 Following a general introduction, classes 1 through 7 will include reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), participation in classroom discussions (20%), the completion of homework assignments (20%), and achievement on quizzes (20%) and on a final report (20%).

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （Japanese Art & Culture） 英語専門講読 b （Japanese Art & Culture）	担当者	A. Zollinger

講義目的、講義概要	授業計画
Reading for this course will focus on preparing students to attend featured art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the 2009 fall semester. Drawing from corresponding academic articles, catalogues and texts, students will study the profiles and backgrounds of the artists, the artists' characteristic painting styles, the common themes and iconography of selected paintings, and the cultural context from which the works were produced. Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, respond to prepared comprehension questions, and introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion. Interested students are encouraged to take this course alongside my 特別セミナー (Edo-Period Painting & the Art of Noh Masks), providing a basic vocabulary and foundation in Japanese art.	Featured exhibitions for focus reading will include one or both of the following: • 根津美術館 (Following major renovations, the museum is scheduled to reopen in October 2009 with a major exhibition featuring the collection's most important works) • 三井記念美術館「特別展 ZESHIN・江戸最後の名匠－欧米人が愛した柴田是真の漆工と絵画－」 12 月 5 日～2 月 7 日 Following a general introduction, classes 1 through 7 will include reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), participation in classroom discussions (20%), the completion of homework assignments (20%), and achievement on quizzes (20%) and on a final report (20%).

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （Culture and Communication） 英語専門講読 a （Culture and Communication）	担当者	C.B. Ikeguchi

講義目的、講義概要	授業計画
This course hopes to develop different levels of necessary reading skills students lack in this age of audio media technology. Reading materials focus on building vocabulary and idioms, progressing on to the more demanding skills of interpretation and reading behind the lines. Topics for reading focus on students major areas of interest and study.	I. Orientation class objectives, method and evaluation 2. “Window of the soul” Face and emotions 3. Topic 1 continued 4. “How close is close” Bubble of space 5. Topic 2 continued 6. “My time, your time” Concepts of time 7. Topic 3 continued 8. “The sound of silence” Communication style 1 9. Topic 4 continued 10. “Who are you?” Gender and communication 11. Topic 5 continued 12. Summary 13. enrichment reading 14. Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced on the first day of class.	Summative evaluation of class participation: short reading tests and report, as well as term-end exams. To really benefit from the course, students are required to review each lesson and study beforehand.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （Culture and Communication） 英語専門講読 b （Culture and Communication）	担当者	C.B. Ikeguchi

講義目的、講義概要	授業計画
Classes in the second semester hope to achieve the same objectives, and cover the same scope and sequence as those in the first semester. Reading materials will focus on similar topics of students’ interest and areas of study as in the previous term.	I. Orientation: class objectives, method and evaluation 2. “Do you know me?” Disclosure 3. Topic 6 continued 4. “Praise or flattery?” Communication style 2 5. Topic 7 continued 6. “Stop and listen” Self Assertion 7. Topic 8 continued 8. “What’s the difference?” Culture values 9. Topic 9 continued 10. “People in a box” Stereotypes 11. Topic 10 continued 12. Summary 13. enrichment reading 14. Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced on the first day of class.	Summative evaluation of class participation: short reading tests and report, as well as term-end exams. Students are strongly advised to pre-view and review the weekly lessons.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門購読 I （Education&Culture） 英語専門購読 a （Education&Culture）	担当者	J.J. Duggan

講義目的、講義概要	授業計画
Subtitled “A Year in a Japanese School through the Eyes of an American Anthropologist and Her Children,”*Japanese Lessons* recounts the author’s experiences as an American parent with two children in a Japanese elementary school, and her observations of the classrooms, school, and curricula from the views of both an anthropologist as well as a parent. By reading and discussing the observations made by the author, it is hoped that students will achieve a better understanding and perception of not just the Japanese education system, but life in Japan and other cultures. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor. As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.	Week 1: Introduction. Week 2: Selected chapter. Week 3: Selected chapter. Week 4: Selected chapter. Week 5: Selected chapter. Week 6: Selected chapter. Week 7: Selected chapter. Week 8: Selected chapter. Week 9: Selected chapter. Week 10: Selected chapter. Week 11: Selected chapter. Week 12: Selected chapter. Week 13: Selected chapter. Week 14: Review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Benjamin, G. *Japanese Lessons*. (New York University Press).	Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門購読Ⅱ（Education&Culture） 英語専門購読 b （Education&Culture）	担当者	J.J. Duggan

講義目的、講義概要	授業計画
Subtitled “A Year in a Japanese School through the Eyes of an American Anthropologist and Her Children,”*Japanese Lessons* recounts the author’s experiences as an American parent with two children in a Japanese elementary school, and her observations of the classrooms, school, and curricula from the views of both an anthropologist as well as a parent. By reading and discussing the observations made by the author, it is hoped that students will achieve a better understanding and perception of not just the Japanese education system, but life in Japan and other cultures. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor. As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.	Week 1: Introduction. Week 2: Selected chapter. Week 3: Selected chapter. Week 4: Selected chapter. Week 5: Selected chapter. Week 6: Selected chapter. Week 7: Selected chapter. Week 8: Selected chapter. Week 9: Selected chapter. Week 10: Selected chapter. Week 11: Selected chapter. Week 12: Selected chapter. Week 13: Selected chapter. Week 14: Review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Benjamin, G. *Japanese Lessons*. (New York University Press).	Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （Journeys into Amazonia） 英語専門講読 a （Journeys into Amazonia）	担当者	J.N.Wendel

講義目的、講義概要	授業計画
Through the eyes of scientist Mark Plotkin, we will travel to the Amazon rain forests and live among its inhabitants. Mark Plotkin is a rare breed among scientists: an ethnobotanist—that is, a scientist who specializes in the study of the relationships between plants and indigenous cultures. This is a serious book, and Plotkin is following on his passion for a special class of plants: those plants that have been used for generations by shamans (indigenous healers) for their curative and spiritual powers. This class is for advanced students who themselves have a passion for getting behind the story. While reading through Plotkin's adventures, we will discuss the many urgent ethical, moral, and scientific issues that his account raises. Throughout the semester, you will be asked to read two or three additional short articles relevant to our discussions. At the end of the semester, each student will give a presentation based on one of the issues we have been covering.	Week 1 Orientation Weeks 2-3 Through the emerald door Weeks 4-5 The search for the black caiman Weeks 6-7 Among the Maroons Weeks 8-9 Under the double rainbow Weeks 10-12 A recipe for poison Weeks 13-14 Presentations
テキスト	**評価方法**
Tales of a Shaman's Apprentice. Mark J. Plotkin. Penguin Books. (1993)	Students will be evaluated according to the quality of their contributions to the class discussions, their insights into the issues presented by the author, and their term paper and presentation.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （Journeys into Amazonia） 英語専門講読 b （Journeys into Amazonia）	担当者	J.N.Wendel

講義目的、講義概要	授業計画
This is a continuation of Eigo Senmon Koudoku I. Through the eyes of scientist Mark Plotkin, we will travel to the Amazon rain forests and live among its inhabitants. Mark Plotkin is a rare breed among scientists: an ethnobotanist—that is, a scientist who specializes in the study of the relationships between plants and indigenous cultures. This is a serious book, and Plotkin is following on his passion for a special class of plants: those plants that have been used for generations by shamans (indigenous healers) for their curative and spiritual powers. This class is for advanced students who themselves have a passion for getting behind the story. While reading through Plotkin's adventures, we will discuss the many urgent ethical, moral, and scientific issues that his account raises. Throughout the semester, you will be asked to read two or three additional short articles relevant to our discussions. At the end of the semester, each student will give a presentation based on one of the issues we have been covering.	Week 1 Orientation Weeks 2-3 Across the savannahs of the Sipaliwini Weeks 4-5 Witch doctor of the Wayanas Weeks 6-7 The semen of the sun Weeks 8-9 Return to Kwamala Weeks 10-12 Review and presentation preparation Weeks 13-14 Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （James Joyce） 英語専門講読 a （James Joyce）	担当者	Michael Hood

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce. During the spring term, we will focus on Joyce's collection of short stories, *Dubliners* and begin reading his semi-autobiographical novel *A Portrait of the Artist as a Young Man.* Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature. This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: Araby Week 3: Araby (video) Week 4: Eveline Week 5: Two Gallants Week 6: A Painful Case Week 7: The Dead Week 8: The Dead (video) Week 9: Review, Nora (video) Week 10: Nora (video) Week 11: Introduction to A Portrait of the Artist Week 12: Portrait, Chapter 1 Week 13: Portrait, Chapter 2 Week 14: Final
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Portable James Joyce (Penguin)	Grades will be determined based on participation, one test, and a final paper.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （James Joyce） 英語専門講読 b （James Joyce）	担当者	Michael Hood

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce. During the fall term, we will finish *A Portrait of the Artist as a Young Man* and read excerpts from Joyce's most important novel, *Ulysses.* We will finish the course with a short introduction to Joyce's final and most enigmatic work, *Finnegans Wake.* Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature. This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Week 1: Portrait, Chapter 3 Week 2: Portrait, Chapters 4 & 5 Week 3: Portrait (video) Week 4: Review of Portrait Week 5: Introduction to Ulysses Week 6: Telemachus, Nestor (video) Week 7: Calypso, Hades (video) Week 8: Cyclops, The Wandering Rocks (video) Week 9: The Sirens, Circe (video) Week 10: Ithaca, Penelope (video) Week 11: Review of Ulysses Week 12: Finnegans Wake Week 13: Finnegans Wake Week 14: Final
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Portable James Joyce (Penguin)	Grades will be determined based on participation, one test, and a final paper.

06～08年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（Education） 英語専門講読a（Education）	担当者	N.H Jost

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed with several goals in mind. It sets out to help students (1) build effective reading skills; (2) improve their active vocabulary; (3) gain in understanding of authentic reading material; and (4) develop more advanced discussion skills. The materials selected for this class will be introduced during the first lecture. Class time will center on lectures and discussions. This class may be of particular interest for those students who are interested in improving their overall English abilities. Each week students will be required to read 12-15 pages and to be prepared to discuss the main themes.	Week 1: Course Introduction Week 2: Lecture and discussion Week 3: Lecture and discussion Week 4: Lecture and discussion Week 5: Quiz & Lecture Week 6: Lecture and discussion Week 7: Lecture and discussion Week 8: Lecture and discussion Week 9: Lecture and discussion Week 10: Quiz & Lecture Week 11: Lecture and discussion Week 12: Lecture and discussion Week 13: Quiz & Lecture Week 14: Concluding Lecture
テキスト、参考文献	**評価方法**
The text for class will be decided at a later date.	Final grades are based on class participation, quizzes, reports and final exam.

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（Education） 英語専門講読b（Education）	担当者	N.H Jost

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed with several goals in mind. It sets out to help students (1) build effective reading skills; (2) improve their active vocabulary; (3) gain in understanding of authentic reading material; and (4) develop more advanced discussion skills. The materials selected for this class will be introduced during the first lecture. Class time will center on lectures and discussions. This class may be of particular interest for those students who are interested in improving their overall English abilities. Each week students will be required to read 12-15 pages and to be prepared to discuss the main themes.	Week 1: Course Introduction Week 2: Lecture and discussion Week 3: Lecture and discussion Week 4: Lecture and discussion Week 5: Quiz & Lecture Week 6: Lecture and discussion Week 7: Lecture and discussion Week 8: Lecture and discussion Week 9: Lecture and discussion Week 10: Quiz & Lecture Week 11: Lecture and discussion Week 12: Lecture and discussion Week 13: Quiz & Lecture Week 14: Concluding Lecture
テキスト、参考文献	**評価方法**
The text for class will be decided at a later date.	Final grades are based on class participation, quizzes, reports and final exam.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ　（音声のしくみと獲得・習得） 英語専門講読 a　（音声のしくみと獲得・習得）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1年生の「英語音声学」で学んだことを基に、音声の一般的特徴について今度は英語で読み理解を深め、さらに、「こどもの第一言語音声習得」および「第二言語（または外国語）音声の習得」について学ぶ。 テキストは比較的やさしい入門書ではあるが、専門的な内容についてある程度まとまった分量を継続して読み進めることにより、正確な読解力と分析的な視点を養う。 講義概要 まず母音や子音について復習した後に、音節やストレス、イントネーションといった1年生では少ししか触れなかったことをより詳しく学ぶ。次いで、第一言語、第二言語習得を音声面を中心に見ていく。 毎回の指定範囲の予習が前提となり、小テストで確認する。英文の構造とその内容を正確に理解するよう精読の練習をする。また各章の分担担当者は配布資料を使用して内容のまとめを発表する。これについて教員が補足、解説をし、また質疑応答・議論を行う。 メッセージ 昨年度、専門講読を履修した学生でも、新たな項目があるので発見があるはずである。 毎週2時間程度（個人差あり）の読み訓練が必要と思われるが、少しずつ慣れていけるはずなので、是非チャレンジして欲しい。一緒に頑張りましょう。	1. Ch-1 Introduction, Segmental review 2. Ch-1 Vowels and Consonants (2), Exercises 3. Ch-2 Phonology 4. Ch-2 Phonology (2) 5. Ch-2 Phonology (3), Exercises 6. Ch-6 Syllable 7. Ch-6 Syllable (2) 8. Ch-6 Syllable (3), Exercises 9. Ch-7 Stress and Intonation 10. Ch-7 Stress and Intonation (2) 11. Ch-7 Stress and Intonation (3), Exercises 12. Ch-8 Structural Factors in 2nd Language Phonology 13. Ch-8 2nd Language Phonology (2) 14. Ch-8 2nd Language Phonology (3), Exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: Mehmet Yavas. 2005. *Applied English Phonology.* Blackwell. (ISBN 1-4051-0872-X) その他 配布資料. 参考書: 1) Parker & Rliley. 2005. *Linguistics for Non-linguists*, 4th ed. Pearson. 2) O'Grady. 2005. *How Children Learn Language*. Cambridge.	授業参加（準備・参加）、小テスト、発表、試験の総合評価による。 各項で最低限をクリアすること。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ　（音声のしくみと獲得・習得） 英語専門講読 b　（音声のしくみと獲得・習得）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 春学期に引き続き読み進め，さらなる理解と読解力を養う。 講義概要 春学期に同じ	1. Review of 2nd Language phonology 2. P-8 First-Language Acquisition: phonology 3. P-8 First-Language Acquisition: phonology (2) 4. P-8 First-Language Acquisition: morphology, Exercises 5. P-9 Second-Language Acquisition: phonology 6. P-9 Second-Language Acquisition: morphology (2) 7 Exercises 8. O-2 p. 12, How children find words 9. O-6 p.143, Talking and talk 10. O-6 Talking and talk (2) 11. O-6 Talking the talk (3), Review 12. Selected topic (1) Syllable structure 13. Selected topic (2) Head-turning and sucking techniques 14. Review Exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: Mehmet Yavas. 2005. *Applied English Phonology.* Blackwell. (ISBN 1-4051-0872-X) その他 配布資料. 参考書: 1) Parker & Rliley. 2005. *Linguistics for Non-linguists*, 4th ed. Pearson. 2) O'Grady. 2005. *How Children Learn Language*. Cambridge.	授業参加（準備・参加）、小テスト、発表、試験の総合評価による。 各項で最低限をクリアすること。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I　(Exploring Language Teaching) 英語専門講読 a　(Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English*. You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. Reflecting on your own learning 3. Approach, method, and technique 4. An eclectic approach 5. Teaching by principles 6. Motivation in the classroom 7. Teaching across age levels 8. Teaching across proficiency levels 9. Sociopolitical and institutional contexts 10. Techniques, textbooks, and technology 11. Interactive language teaching 12. Sustaining interaction through group work 13. Classroom management 14. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義支援システムとハンドアウト使用 （cf. Teaching by Principles, H.D. Brown, Longman）	Oral presentations, reading assignments and summary, self evaluation

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II　(Exploring Language Teaching) 英語専門講読 b　(Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English*. You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. Integrating the four skills 3. Teaching listening 4. Teaching speaking 5. Teaching reading 6. Teaching writing 7. Teaching vocabulary 8. Teaching pronunciation 9. Form-focused instruction 10. Language assessment I 11. Language assessment II 12. Strategies-based instruction 13. An all-English approach 14. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義支援システムとハンドアウト使用 （cf. Teaching by Principles, H.D. Brown, Longman）	Oral presentations, reading assignments and summary, self evaluation

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （米国の東アジア政策） 英語専門講読 a （米国の東アジア政策）	担当者	阿部　純一

講義目的、講義概要	授業計画
米国でオバマ政権がスタートした。金融危機の深まるなかで国内経済の再建に直面しつつ、なおイラク・アフガンでの戦争への対処や国際テロとの戦いなど、過去のいかなる政権よりも重い課題を背負ったオバマ大統領にとり、東アジアの比重は軽いようにも見える。ブッシュ政権の単独主義的外交によって損なわれてしまった米国の威信とリーダーシップを、オバマ政権は多国間協調外交のなかで取り戻そうと構想しているが、そのカギをにぎるのが日本と中国という東アジアの 2 大国である。同盟国である日本にはより大きな役割を期待し、台頭著しい中国には国際秩序形成における共通の責任を訴え、米国との協調を求めることになる。東アジアにはまた、中国の急速な軍事力強化、北朝鮮の核問題、東シナ海をめぐる日中の対立があり、日米中の協調が試されるケースも想定される。授業では、こうした論点を取り上げ、オバマ政権の東アジア外交をリアルタイムに近い形でフォローしていく。	授業では、事前に配布した教材をもとに報告を担当する学生がレジュメ(A4 で 2 枚厳守)を用意し、それに基づき教材の内容についてプレゼンテーションを行う。 プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事項や問題につき、討論する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
シンクタンクのレポート、新聞記事など、最新のトピックを扱ったものから教材を選択し、毎回配布する。	成績評価は、学生のプレゼンテーション、授業における気論への積極的参加、出席を基に行う。理由の如何を問わず 3 回以上の欠席は不可。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （米国の東アジア政策） 英語専門講読 b （米国の東アジア政策）	担当者	阿部　純一

講義目的、講義概要	授業計画
（春学期に同じ）	（春学期に同じ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
（春学期に同じ）	（春学期に同じ）

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I　(アメリカの広告研究 ①) 英語専門講読 a　(アメリカの広告研究 ①)	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、「世界を震撼させたアメリカの広告」を批判的に分析することによって、消費者としてではなく、文化批評家として広告をとらえ、私たちの生きる後期資本主義社会について考えていきます。 授業形式は、グループ・ワークとグループ発表が中心となります。 学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。	1. Course Overview 2. Introduction 3. P.T. Barnum 4. Lydia E. Pinkham's Vegetable Compound 5. Pears' Soap 6. Pepsodent 7. Listerine 8. The Queensboro Corporation 9. The Kid in Upper 4 10. De Beers 11. Coke and Christmas 12. The Volkswagen Beetle 13. Presentations (1) 14. Presentations (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
James B. Twitchell, *Twenty Ads That Shook the World* (2001, Three Rivers Press, Reprint 版).	①参加状況：30%（理由にかかわらず 4 回以上の欠席で成績が F となります。）　②その他（発表やクイズ）：70%

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II　(アメリカの広告研究 ②) 英語専門講読 b　(アメリカの広告研究 ②)	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続きです。目的や授業形式は春学期と同じです。 学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。	1. Course Overview 2. Miss Clairol's "Does She … or Doesn't She?" 3. The Marlboro Man 4. The Hathaway Man 5. Anacin and the Unique Selling Proposal 6. LBJ vs. Barry Goldwater 7. She's Very Charlie 8. Absolut 9. Apple's *1984* 10. The Rise and Fall and Rise of the Infomercial 11. Nike and Michael Jordan 12. Presentations (1) 13. Presentations (2) 14. Feedback Session
テキスト、参考文献	**評価方法**
James B. Twitchell, *Twenty Ads That Shook the World* (2001, Three Rivers Press, Reprint 版).	①参加状況：30%（理由にかかわらず 4 回以上の欠席で成績が F となります。）　②その他（発表やクイズ）：70%

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I（小さき人々の歴史 －変化する英国社会を読むー） 英語専門講読 a（小さき人々の歴史 －変化する英国社会を読むー）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
2004 年の英国のベスト・セラーのひとつ、Andrea Levy の *Small Island*（全 439 頁）を読みます。この小説は出版の年に Whitbread Book of the Year と Orange Prize for Fiction を、翌年には Common Wealth Writers' Prize を受賞。2007 年には、史上最大規模のリーディング・プロジェクトが英国全土で展開されました。これほどまでにひろく読まれることになった作品、その魅力はなにでしょか。 おもしろい構成をしています。1948 と Before とそれぞれ題されたセクションが交互に登場し、各セクションに属する章のひとつひとつには、Queenie、Hortense、Gilbert、Bernard と、主要登場人物の名前がついています。 1948 年とは、実は英国の現代史にとって大きな意味をもつ年です。その年の 6 月、英国が現在のような、多人種・他民族・多文化社会へと変貌していく大きなモメントとなる出来事があったのです。1948 年 6 月 23 日、429 人のジャマイカ人移民を乗せた船が、ティルベリー港に到着しました。戦後の（旧）植民地から英国への大量移民の幕開けです。「母国」の戦後復興の労働力として植民地からやってきた黒い肌の英国籍の人々は、よりよい生活を夢みながら、船を下りました。しかし彼らを待ち受けていた現実は、期待とは大きく異なるものでした。一方、移民を受け入れ側の白い英国人たちの生活もいやおうなく変化していき	1. Introduction –小さき人々の戦争と記憶の小説 2. Prologue—I thought I'd been to Africa. 3.<1948> chap1+2—幻滅のロンドン(1) 4. <Before>chap3-5—Hortense のジャマイカ、成長と失恋 5. chap6-8—Gilbert と Hortense 6. <1948>chap9&10—幻滅のロンドン(2) 7.<Before> chap11-14—英国空軍軍人 Gilbert の夢と失望 8. chap15-17—Gilbert と Queenie の出会い、差別と友情 9. chap18-19—Gilbert の再出発 10. <1948> chap20-22—それぞれの 1948。 Hortense, Gilbert &Queenie 11.<Before> chap23-24—Queenie の幼年時代と青春 12. chap25-27—Queenie と Bernard 出会い、結婚、すれ違う二人、そして戦争へ 13. chap28-29—戦場へと去る Berard と Queenie の恋 14. まとめの講義+レポート指導 授業は原則として、1. 全体での導入　2. グループワーク　3. 全体での確認　4. プレゼンテーションの構成で行ないます。また春学期の 1 回目と 14 回目、秋学期の 1 回目、13 回目、14 回目をのぞいて、授業時間の 30%-50%ほどは英語で行ないますので、そのつもりで（↓に続く）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Andrea Levy, *Small Island* ＋ ハンドアウト テキストは版を統一するために、講師が一括して Amazon でとりよせ、第一回目の授業で購入していただきます。	授業への参加（単なる出席ではない）、小テスト、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価します。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II（小さき人々の歴史 －変化する英国社会を読むー） 英語専門講読 b（小さき人々の歴史 －変化する英国社会を読むー）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
（上からの続き） ます。*Small Island* は、英国社会のこの激動の時期と、そこにいたるまでの歴史を、普通の人々の人生を丹念に語ることで描き出します。 歴史とは何でしょう。年表に羅列されるいわゆる歴史上の出来事をつなげたものでしょうか。伝記の主人公たちの人生を総合したものでしょうか。それだけではないでしょう。*Small Island* を読むと、生きられた人生の数だけ歴史の貌があるのだと実感するはずです。Hortense と Gilbert はジャマイカ生まれの黒人。白人の Queenie は英国の田舎のブッチャーの娘。Beranard はロンドン生まれの銀行員の息子。第二次世界大戦と戦後の移民という歴史の動きが、大西洋を隔てた場所にそれぞれ異なる背景をもって生まれた四人の人生をロンドンで交差させます。 作者は両親が 1948 年に英国に移民してきた、ロンドン生まれのジャマイカ系英国人女性。移民第二世代のブラック・ブリティッシュの作家が描く、「小さき人々の歴史」を読みながら、英国社会の変化についても考察します。 テキストを深く理解するには、本文の精読のみならず、歴史・文化・社会についての様々なリサーチも必要ですので、文献検索能力も身につけていただくつもりです。	1. レポートへのコメント 2. <1948>chap30-32—日常の闘い：現実を知る Gilbert と強気の新参者 Hortense 3. chap33-34—三日目のロンドン：Hortense&数年ぶりのロンドン：行方不明の Bernard の帰還 4. <Before>chap35-38—Bernard の戦争 5. chap39-42—Bernard の戦争 6. chap43-45—Bernard の戦争 7. <1948> chap46-48—癒えぬ戦争の傷 8. chap49-51—Hortense の挫折 9. chap52-53—衝撃の事実：Queenie の恋の結果 10. chap54-55—誤解・告白・理解 11. chap56-57—誤解・告白・理解 12. chap58-59—それぞれの出発 13. 講義 Changing Britannia (1) 14. 講義 Changing Britannia (2) 受講してください。また、一回の授業で読む頁数は 20 頁から 30 頁ほどです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期と同じ。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （Gary Snyder と宮沢賢治、そして「翻訳」） 英語専門講読 a （Gary Snyder と宮沢賢治、そして「翻訳」）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
タイトルどおり、Gary Snyder の宮沢賢治訳を読み、このふたりの詩人がいかに同じか／違うかを探る。さらに、「翻訳」という問題についても考える。 獨協で二度もリーディングをした、ピュリッツァー賞受賞詩人、Gary Snyder。Snyder が宮沢賢治の何に魅かれて翻訳までをしたのか、その翻訳のテクニカルな部分、さらには、「翻訳」という行為には、どのような意味があるのか、そういったことを考えてみたい。	1) introduction 2) Snyder の初期の詩、”Riprap,” “PiuteCreek,” “Thin Ice,” “Toji,” “Water” など。 3) 同上 4) 同上 5) “Reflactive Index,” “The Snow on Saddle Mountain” 6) “Spring and Ashura” 7) 同上 8) “Cloud Semaphore,” “The Scene” 9) “A Break,” “Dawn” 10) “Some Views Concerning the Proposed Site of a National Park” 11)～14) “Cow,” “Floating World Picture: Spring in the Kitagami Mountains 1”
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Back Country (New Directions)、その他の参考文献は、適宜、紹介する。	レポートとプレゼンテイション。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II（Gar0y Snyder と宮沢賢治、そして「翻訳」） 英語専門講読 b （Gary Snyder と宮沢賢治、そして「翻訳」）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じく、Gary Snyder の宮沢賢治訳を読む。それが終わったところで、Ezra Pound の中国詩の訳を読む。そうすることによって、「翻訳」とは何か、という問題を、さらに突き詰めていく。	1) レポートの返却、及び講評。 2)Floating World Picture:Spring in the KItakami Mountans 2” 3) “Orders” 4) “Distant Labor” 5) “The Politicians” 6) “Moon, Son of Heaven” 7) “Daydreaming on the Trail” 8) “The Great Power Line Pole” 9) “Pine Needles” 10) “Thief” 11) Ezra Pound, “The Jewel Stairs’ Grievance” 12) Pound, “The River-Merchant’s Wife: A Letter” 13) Snyder のビデオ。 14) まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上。	同上。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門購読 I (ディズニー・アニメの歴史をたどる) 英語専門購読 a (ディスニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じ、『白雪姫』から『ジャングル・ブック』まで、Walt Disney 存命中の長編アニメーション映画を中心に、Disney 映画の軌跡をたどります。Disney 映画と、それを核として広がる壮大な Disney 文化の世界は、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものです。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。 授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。 全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自（skeptical な観かたで）視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。	1. 春学期コース・オリエンテーション 2. Launching the Animated Feature 3. Seven Dwarfs for Snow White 4. New Tools 1 5. New Tools 2 6. Disney's Folly 7. Pinocchio 8. Fantasia 9. Bambi 10. Economizing: Dumbo 11. The New Studio, The Strike, and the War 1 12. The New Studio, The Strike, and the War 2 13.Cinderella Restores the Glory 14. 春学期の総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thomas, Bob, *Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast*, Hyperion, New York, 1991. 他の参考文献等については、授業中に随時紹介。	出席、授業への貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門購読Ⅱ(ディズニー・アニメの歴史をたどる) 英語専門購読 b (ディスニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期から引き続き、Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じて、Disney 映画の軌跡をたどります。 秋学期は、Walt の存命中の作品だけでなく、Walt 亡き後のスタジオの作品（『リトル・マーメイド』まで）も扱います。受講者の皆さんには、引き続きテキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。 春学期と同じく、授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。 全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自（skeptical な観かたで）視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。	1. The Anthology Features 2. Alice, Peter, Lady and the Tramp 1 (Alice) 3. Alice, Peter, Lady and the Tramp 2 (Peter Pan) 4. Alice, Peter, Lady and the Tramp 3 (L&T) 5. Sleeping Beauty Awakens 6. Walt Disney's Last Films 7. Carrying on the Tradition 8. The Black Cauldron 9. A New Regime and a Rebirth 10. A New Regime and a Rebirth 11. Who Framed Roger Rabbit 12. Triumph: The Little Mermaid 13. The Rescuers Down Under 14. 秋学期の総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thomas, Bob, *Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast*, Hyperion, New York, 1991. 他の参考文献等については、授業中に随時紹介。	出席、授業への貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ（アメリカ黒人の歴史） 英語専門講読ａ（アメリカ黒人の歴史）	担当者	岡田　誠一

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカ黒人文化の流れを学ぶことがこの授業の目標である。絵、風刺漫画、写真、ちらし、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストに使う予定。 将来如何なる職業に就こうが必ず役に立つ英語力を、原書をじっくり読むことによって培うのも、この授業のもうひとつの目標である。 今年度は、奴隷制を廃止させようとして立ちあがったかの有名なジョン・ブラウン、南部へ何度も足を運び奴隷を逃亡させたハリエット・タブマン、網の目のように張りめぐらされた地下鉄道、空前のベストセラーと南北戦争との関係、などを中心に、奴隷が解放された頃のアメリカについて学ぶ。 なお、アメリカ黒人文化を知るための一助として、黒人英語やアメリカ南部についてのビデオ、また、黒人に関係する映画などを鑑賞する予定である。 この授業を受けるには、アメリカ黒人やその文化について興味を抱いていることが必要条件。 毎回、必ず予習をして授業に臨むこと。	・　フレデリック・ダグラスとジョン・ブラウン ・　奴隷制に反対する政治家たち ・　全国的な政治集会に参加し始めた黒人 ・　勇敢な黒人女性ハリエット・タブマンの活躍 ・　当時存在した「地下鉄道」とは何だったのか ・　「エジプトの仕事」とは何か？ ・　1950 年の逃亡奴隷法と北部 ・　盛んに行われていた黒人の誘拐 ・　自らの奴隷時代について語る黒人たち などについて学んでいく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
A Pictorial History of Blackamericans からの抜粋（プリント）を使用する。 参考文献は授業中適宜指示する。	出席状況、予習をして授業に臨んだか否か、授業中の発言や質問、期末の試験、などにより評価が決定される。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（アメリカ黒人の歴史） 英語専門講読ｂ（アメリカ黒人の歴史）	担当者	岡田　誠一

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	・　『アンクル・トムの小屋』と切り落とされた黒い耳 ・　聖書に次ぐベスト・セラーとは何か ・　ジョン・ブラウンのあまりにも無謀な計画 ・　いよいよリンカーンが出現 ・　分裂したアメリカ ・　南北戦争での黒人の働き ・　黒人の教育 ・　北軍側に逃亡した黒人はどう呼ばれたか ・　北軍に引き渡された戦利品「プランター号」 ・　北軍で活躍する黒人たち ・　南北戦争終わる などについて学ぶ予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ（映画批評） 英語専門講読 a （映画批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画（予定）
講義目的 映画を諸哲学的立場から批評した論文を精読する。論文の精読を通して映像テクストの表象分析とはいかなるものであるかを考察する。講義においては以下の３点が探求のテーマとなる。１）理論とは何か、２）批評とは何か、３）レトリック研究とは何か。これら３点のテーマについて、映画の綿密なテクスト分析を実践し、この映画の可能性に含まれた文化政治的意義を探っていく。 **講義概要** 映像という表象手段によってコミュニケートされる映画をテクストとして、レトリック理論の基礎としての諸哲学を学んでいく。映像というレトリックの手段が哲学を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を綿密に読み込み、さらに理論的な背景を加味しながら理解していく。この講座の目的はあくまでもレトリック理論の探求であり、映画をエンターテイメントとして楽しむことではない。如何にして理論的な「読み」の重要性を映画というテクストを通じて見いだすことができるか。これが、学生が講義と活発な討論で探求する主題となる。したがって、テクストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め必ず各自で観ておくこと。これらの時間を要する予習への心構えがない学生は受講を遠慮すること。	1. Course Orientation 2. Being-Towards-Death and Taking Pleasure in Beauty: James Bond And Existentialism 3. Being-Towards-Death and Taking Pleasure in Beauty: James Bond And Existentialism 4. How to Live (and How to Die) 5. How to Live (and How to Die) 6. Bond and Phenomenology: Shaken, Not Stirred 7. Bond and Phenomenology: Shaken, Not Stirred 8. He Who Eats Meat Wins: Appetite, Power, and Nietzsche in the Novels of Ian Fleming 9. He Who Eats Meat Wins: Appetite, Power, and Nietzsche in the Novels of Ian Fleming 10. James Bond: A Niezschean for the Cold War 11. James Bond: A Niezschean for the Cold War 12. Bond as Chivalric, Comic Hero 13. Bond as Chivalric, Comic Hero 14. Wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
James Bond and Philosophy: Questions are Forever. ed. by James B. South and Jacob M. Held. (Chicago; La Salle, Il: Open Court, 2006)	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価する。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（映画批評） 英語専門講読 b （映画批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画（予定）
同上	1. The Moral Status of the Double-O Agent: Thinking about the License to Kill 2. The Moral Status of the Double-O Agent: Thinking about the License to Kill 3. "Just a Stupid Policeman": Bond and the Rule of Law 4. "Just a Stupid Policeman": Bond and the Rule of Law 5. "Don't' You Men Know Any Other Way?" Punishment Beyond Retributivism and Deterrence 6. "Don't' You Men Know Any Other Way?" Punishment Beyond Retributivism and Deterrence 7. The Epistemology of James Bond: The Logic of Abduction 8. The Epistemology of James Bond: The Logic of Abduction 9. James Bond and Q: Heidegger's Technology, or "You're Not a Sportsman, Mr. Bond" 10. James Bond and Q: Heidegger's Technology, or "You're Not a Sportsman, Mr. Bond" 11. James Bond and the Philosophy of Technology: It's More than Just the Gadgets of Q Branch 12. James Bond and the Philosophy of Technology: It's More than Just the Gadgets of Q Branch 13. "That Fatal Kiss": Bond, Ethics, and the Objectification of Women 14. "That Fatal Kiss": Bond, Ethics, and the Objectification of Women
テキスト、参考文献	**評価方法**
James Bond and Philosophy: Questions are Forever. ed. by James B. South and Jacob M. Held. (Chicago; La Salle, Il: Open Court, 2006)	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価する。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ（イギリスの現代小説） 英語専門講読ａ（イギリスの現代小説）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　すぐれた小説は、現実をコトバで変革してやろうという熱意に突き動かされているものです。ましてや現代の小説ともなれば、私たち自身の現実に直接つながることもたくさん出てきます。 　この授業では、そうしたすぐれた現代小説のひとつを精読します。主人公は、スコットランドはネス湖のほとりに住む、21 際のちょっとぼんやりした女の子。語彙もそれほど難しくなく、舞台もきわめて日常的ですが、ジェンダー問題への言及あり、同性愛や同性愛嫌悪への言及あり、水資源をめぐるグローバルな政治への言及ありで、現実の生きがたさをどう変革していくかを、しなやかでユーモアをふくんだ形で問題提起しています。 　この授業では、それらを的確に受け止め、そしてそれらの表現がどのような背景のもとでなされているのかを理解していきます。 講義概要 　春学期にテキスト前半を読む予定です。毎回 10 ページ弱について、受講者のプレゼンテーションを中心に読み進めます。	１．イントロダクション ２～１４．作品の精読 ＊　作品前半からいくつか抜粋します。授業選択の参考にしてください。 ・ “Let me tell you about when I was a girl, our grandfather says.” ・ “She was the most beautiful boy I had ever seen in my life.” ・ “Some stories always need telling more than others.” ・ “Words.　Look what they can do.”
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ali Smith, *Girl Meets Boy* (2007) 参考文献は授業中に提示します。	授業への参加度、学期末試験を総合評価。 ただし欠席が４回を越える場合は評価対象としません。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（イギリスの現代小説） 英語専門講読ｂ（イギリスの現代小説）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期に準じます。 講義概要 　受講者のプレゼンテーション中心で､テキスト後半を読む予定です。	１．イントロダクション ２～１４．作品の精読 ＊　作品後半からいくつか抜粋します。 ・ “He knows, more than most, that the imagination doesn’t have a gender.” ・ “I was a she was a he was a we were a girl and a girl and a boy and a boy” ・ “IN NO COUNTRY IN THE WORLD RIGHT NOW ARE WOMEN’S WAGES EQUAL TO MEN’S WAGES.” ・ “Reader, I married him/her.”
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ali Smith, *Girl Meets Boy* (2007) 参考文献は授業中に提示します。	授業への参加度と学期末試験を総合評価。 ただし欠席が４回を越える場合は評価対象としません。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I (アメリカ文学: John Steinbeck の文学を読む) 英語専門講読 a (アメリカ文学: John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
『怒りの葡萄』(*The Grapes of Wrath*, 1939)、『エデンの東』(*The East of Eden*, 1952)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞したJohn Steinbeck(1902-1968) は、20世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二作品の他、多様のジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、『ハツカネズミと人間』(*Of Mice and Men,1937)*を中心に彼の作品を扱ってゆく。 毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。更に、映画と作品を比較したり、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆきたい。	1: Introduction: 作家John Steinbeckと代表作品を紹介 2: *Of Mice and Men* の時代背景 3: *Of Mice and Men* の精読　part 1 4: " " 5: " " 6: *Of Mice and Men* の精読　part 2 7: " " 8: " " 9: *Of Mice and Men* の精読　part 3 10: " " 11: " " 13: *Of Mice and Men* の映画鑑賞 14: Review /　レポート回収

テキスト、参考文献	評価方法
John Steinbeck, *Of Mice and Men,* Nan'un-do	出席（30%）、授業中の発表、提出物(30%)、期末レポート(40%)を総合的に評価。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ(アメリカ文学: John Steinbeck の文学を読む) 英語専門講読 b (アメリカ文学: John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同様。	1: 前期レポートの返却と寸評 2: *Of Mice and Men* の精読　part 4 3: " " 4: " " 5: *Of Mice and Men* の精読　part 5 6: " " 7: " " 8: *Of Mice and Men* の精読　part 6 9: " " 10: " " 11: *Of Mice and Men* の映画と小説を比較 12: 批評を読む 13: " 14: Review /　レポート回収

テキスト、参考文献	評価方法
John Steinbeck, *Of Mice and Men,* Nan'un-do	出席（30%）、授業中の発表、提出物(30%)、期末レポート(40%)を総合的に評価。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ(アジア太平洋地域の政治･経済･国際関係) 英語専門講読 a (アジア太平洋地域の政治･経済･国際関係)	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は３つあります。第１に、国際関係論や地域研究（area studies）にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第２に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第３に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。 テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。 なお、金子担当の英語専門講読Ⅰ（春）とⅡ（秋）は継続して履修することを条件とします。また、本授業の受講者数には上限があります。初回の授業で１時間程度の英文読解力を計るためのテスト（国際政治経済の時事問題に関する英文和訳）を実施します。	第１回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 第２回～第 14 回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, *Regional Outlook: Southeast Asia 2009-2000*, ISEAS, 2009（近刊）.（150 ページ前後、価格は 2000 円程度)。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。 ・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。

テキスト、参考文献	評価方法
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はない。	出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が３回に達した時点で履修者リストから除外する。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ(アジア太平洋地域の政治･経済･国際関係) 英語専門講読 b (アジア太平洋地域の政治･経済･国際関係)	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および進め方については、英語専門講読Ⅰと同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、金子担当の英語専門講読Ⅰ（春）とⅡ（秋）は継続性が強いため、本授業の履修については英語専門講読Ⅰ（春学期：金子担当）を履修していることを条件にします。また、本授業の受講者数には上限があります。	第１回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 第２回～第 14 回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2010*, ISEAS, 2009（予定）.（350 ページ前後、価格は 2300 円程度)。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。(内容の概略は以下の Web サイトで検索が可能：http://bookshop.iseas.edu.sg/) ・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。

テキスト、参考文献	評価方法
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。	出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が３回に達した時点で履修者リストから除外します。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ　（生成文法入門） 英語専門講読ａ　（生成文法入門）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の１つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。 読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくことになりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。	1 Introduction 2 Overview 3 Overview 4 Overview 5 Phrase Structure 6 Phrase Structure 7 Phrase Structure 8 Binding 9 Binding 10 Binding 11 Empty Pronoun PRO 12 Empty Pronoun PRO 13 Review 14 Review ※上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社	出席率、授業参加率、レポート、試験の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ　（生成文法入門） 英語専門講読ｂ　（生成文法入門）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の１つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。 読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくことになりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。	1 Anaphors 2 Anaphors 3 Anaphors 4 Government 5 Government 6 Types of Subject 7 Types of Subject 8 Types of Subject 9 Pronouns 10 Pronouns 11 Referential Expressions 12 Referential Expressions 13 Review 14 Review ※上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社	出席率、授業参加率、レポート、試験の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ（食と農からアメリカ社会を考える）月4 英語専門講読 a （食と農からアメリカ社会を考える）月4	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
ローカルな視点からグローバルな問題を考えることを念頭に、食・農と市民社会、先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）という２つのテーマを連続して勉強します。前半はアメリカの農村社会学者 Lyson (2004)の *Civic Agriculture* を教材として、グローバル企業の手に委ねられた私達の食と農を市民社会につなぎ直す(reconnecting)ための方途を考えます。提起されている問題は、日本においても全く同様であり、食と農を題材として、グローバル化にどう向き合っていくかは地球市民にとっての大切な素養です。講義を進めるにあたっては２つのことを念頭におきます。第１は、ネイティブの研究者が著した比較的専門性のある単行本を読むための基礎的なスキルについて学ぶます。そのため、専門用語の少ない平易な本（日本語でいえば、やさしめの新書レベル）を教材として選定しました。第２は、食料や農業問題の基礎的知識がない学生を念頭に、教員からの補足的なレクチャー、体験談を適宜織り込み、こうした問題領域に興味を持ってもらえるよう配慮します。進捗の速度は、実際のクラスのメンバーのレベルに合わせて、柔軟に設定していきます。文献は、上級レベル（TOEIC700 台後半～）の学生には、やや平易すぎる可能性があるので、留意して下さい。	1. 授業の進め方について 2. Community Agriculture and Local Food Systems 3. How American Agriculture Was Made Modern (1) 4. How American Agriculture Was Made Modern (2) 5. The Industrialization and Consolidation of Agriculture and Food Production in the United States 6. The Global Supply Chain 7. 教員によるレクチャーと討論（食と農の今日的問題） 8. Toward a Civic Agriculture (1) 9. Toward a Civic Agriculture (2) 10. Toward a Civic Agriculture (3) 11. Civic Agriculture and Community Agriculture Development 12. From Commodity Agriculture and Civic Agriculture 13. 教員によるレクチャーと討論（オルタナティヴな農業への展望） 14. 全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thomas A. Lyson、 *Civic Agriculture: Reconnecting Farm, Food, and Community* (Tufts University Press, 2004) ※各自で購入して下さい。	出席点およびレジメとプレゼンの内容により評価を行います。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（食と農からアメリカ社会を考える）月4 英語専門講読 b （食と農からアメリカ社会を考える）月4	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
前期の学習を踏まえ、さらに専門的な文献の輪読を行います。取り上げる文献は、アメリカ、世界、そして日本の「食」「農」「環境」に関する社会科学分野の雑誌論文、報告書等です。受講生が当該分野の興味ある文献を検索し、持ち寄り、輪読、発表、議論に発展させます。	授業では、事前に配布した文献をもとに担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関するプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションを行う。最後に、教員が講評とアドバイスを行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
※前期（英語専門講読Ⅰ）の進捗状況をみながら、必要に応じて指示します。	出席点およびレジメとプレゼンの内容により評価を行います。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ（地球市民のためのフェアトレード入門）金3 英語専門講読 a （地球市民のためのフェアトレード入門）金3	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
ローカルな視点から地球全体の課題を考えることを念頭に、食・農と市民社会、先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）という２つのテーマを連続して勉強します。後半は、目線を地球全体に移し、最近､注目が高まっているフェアトレードについて考えます。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODA などの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。 講義の進め方は、前期（英語専門講読Ⅰ）と同様ですが、前期の教材の進捗状況によって、本教材（Decarlo (2007) *Fair Trade: A Beginner's Guide*）へ移るタイミングが前後する可能性がありますので、留意して下さい。 ２つのテーマに共通することは、身の回りのできることから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。	1. 授業の進め方について 2. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore? 3. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives 4. Why is Fair Trade so popular? 5. Fair Trade principles and practices 6. Fair Trade histories 7. 教員によるレクチャーと討論（予定） 8. Yes, but does it work? 9. Ordinary people making Fair Trade extraordinary 10. Will free trade ever be fair? 11. The future of Fair Trade 12. Daily life with Fair Trade 13. 教員によるレクチャーと討論（予定） 14. 全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Jacqueline Decarlo, *Fair Trade: A Beginner's Guide* (Oneworld Publications, 2007) ※各自で購入して下さい。	出席点およびレジメとプレゼンの内容により評価を行います。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（地球市民のためのフェアトレード入門）金3 英語専門講読 b （地球市民のためのフェアトレード入門）金3	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
前期の学習を踏まえ､さらに専門的な文献の輪読を行います。取り上げる文献は、フェアトレードに関する社会科学分野の雑誌論文、報告書、欧米 NGO ホームページ等です。受講生が当該分野の興味ある文献を検索し、持ち寄り、輪読、発表、議論に発展させます。	授業では、事前に配布した文献をもとに担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関するプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションを行う。最後に、教員が講評とアドバイスを行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
※前期（英語専門講読Ⅰ）の進捗状況をみながら、必要に応じて指示します。	出席点およびレジメとプレゼンの内容により評価を行います。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （SLA 実証研究論文） 英語専門講読 a （SLA 実証研究論文）	担当者	木村　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 第二言語習得(SLA: second language acquisition)研究の中の，特に「実証的研究」を扱う英語論文を講読する．それにより，SLA に関する知識を得るとともに，研究論文で用いられる英語表現を知ることを目的とする．加えて，複雑ではあっても論理的な研究デザインを読み解くために繰り返し対象論文を読み，ロジカルな思考の訓練，さらなる英語力増強をも目指していく． [概要] 「人間はどのようにして自分の母語以外の言語（第二言語）を身に付けていくのか？」ということは，自身英語学習者であるわれわれにとって非常に身近なテーマである．また，より良い英語学習法・教育法を追い求めるなかで，教師や研究者たちはさまざまな「実証研究」を行っている．たとえば，「A という教え方と B という教え方のどちらが効果的なのか？」,「日本人の英語語彙力を正確に測れるテストはどのように作ったらよいのか？」といったものである．この講義では，そのような実証研究論文を講読する．さらに，それらの研究結果，方法論について批評・議論も行う．	1.　ガイダンス 2.　実証研究とは何か：講義，実証研究論文例 3.　論文（1）：内容理解の確認 4.　論文（1）：内容理解の確認 5.　論文（1）：ディスカッション 6.　論文（2）：内容理解の確認 7.　論文（2）：内容理解の確認 8.　論文（2）：ディスカッション 9.　論文（3）：内容理解の確認 10.　論文（3）：内容理解の確認 11.　論文（3）：ディスカッション 12.　論文（4）：内容理解の確認 13.　論文（4）：内容理解の確認 14.　論文（4）：ディスカッション＋まとめ ※ 論文を読解するのに必要程度の統計知識を身につけるため，夏休み期間中に「統計ゼミ」を実施するので参加を奨励する．（必修ではない．希望者のみ対象）詳細は授業中に説明する．
テキスト、参考文献	**評価方法**
日本国内で出版された，日本人英語学習について取り扱った英語論文．その都度コピーを配布する．	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する． 特に出席については，累積で失格，欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること．

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （SLA 実証研究論文） 英語専門講読 b （SLA 実証研究論文）	担当者	木村　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 春学期同様，SLA 研究の中の，特に「実証的研究」を行う研究論文を講読する． 秋学期は，より広い視野をもって SLA 研究を考えることを目指し，海外で出版された論文を取り入れる． [概要] 1）論文を読み，その内容について理解の確認を行う 2）その研究結果，方法論について批評・議論を行う 3）議論をもとに，より良い研究方法を提案する 秋学期は英語による議論も行う．上記 3）は簡易レポートを提出してもらう．	1.　ガイダンス 2.　論文（1）：内容理解の確認 3.　論文（1）：内容理解の確認 4.　論文（1）：内容理解の確認 5.　論文（1）：ディスカッション 6.　論文（2）：内容理解の確認 7.　論文（2）：内容理解の確認 8.　論文（2）：ディスカッション 9.　論文（3）：内容理解の確認 10.　論文（3）：内容理解の確認 11.　論文（3）：ディスカッション 12.　論文（4）：内容理解の確認 13.　論文（4）：内容理解の確認 14.　論文（4）：ディスカッション＋まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
日本国外で出版された，第二言語学習について取り扱った英語論文．その都度コピーを配布する．	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する． 特に出席については，累積で失格，欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること．

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （対人コミュニケーション理論） 英語専門講読 a （対人コミュニケーション理論）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This subject is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural contexts and develop an (inter)active attitude towards 'different cultures' and interpersonal communication. Towards these objectives, students will be asked to give short summary presentations, participate in various group activities, write a term paper and take a written examination. All the coursework will be done in English. This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development. ＊内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。	1. Introduction to the course 2. Introduction (pp. 1-5) 3. Communication by design (pp. 6-15) 4. Reality, perception and the project of self (pp. 16-23) 5. Vital cues (pp. 23-30) 6. Reading the signs (pp. 31-36) 7. The targeting of identity (pp. 36-43) 8. Exploration of the nature of identity (pp. 48-56) 9. The challenges of late modernity (pp. 57-63) 10. Self and social identities (pp. 66-73) 11. Roles: An introduction (pp. 73-79) 12. Roles found in groups (pp. 79-86) 13. Analysing interaction in groups (pp. 86-94) 14. Wrap-up

テキスト、参考文献	評価方法
Hill, A., Watson, J., Rivers, D. & Joyce, M. (2007). *Key themes in interpersonal communication*. Berkshire, UK: Open University Press. ＊ 各自で手配してください。	Oral presentations (40%), term paper (30%), exam (30%)

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （対人コミュニケーション理論） 英語専門講読 b （対人コミュニケーション理論）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This subject is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural contexts and develop an (inter)active attitude towards 'different cultures' and interpersonal communication. Towards these objectives, students will be asked to give short summary presentations, participate in various group activities, write a term paper and take a written examination. All the coursework will be done in English. This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development. ＊内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。	1. Introduction to the course 2. Social identities (pp. 96-100) 3. Ethnicity and language (pp. 100-108) 4. Gender identities (pp. 108-117) 5. Gender and non-verbal communication (pp. 117-123) 6. Non-verbal communication, culture and consumption (pp. 126-132) 7. Spatial behaviour (pp. 132-139) 8. Non-verbal communication, identity and consumption (pp. 139-145) 9. Cross-cultural communication (pp. 147-156) 10. THT: Cross-cultural profiles (pp. 156-162) 11. Ethnocentrism, stereotypes and prejudice (pp. 162-168) 12. Identity, culture and outsiders (pp. 170-176) 13. Disability: Becoming disabled (pp. 177-188) 14. Wrap-up

テキスト、参考文献	評価方法
Hill, A., Watson, J., Rivers, D. & Joyce, M. (2007). *Key themes in interpersonal communication*. Berkshire, UK: Open University Press. ＊ 各自で手配してください。	Oral presentations (40%), term paper (30%), exam (30%)

06～08年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（オーストラリアの詩） 英語専門講読ａ（オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的	授業計画
「なぜ生きるのか？」「どう生きたらいいのか？」「自分は何者か？」「何のために生まれてきたのか？」「なぜ生きている充実感を得られないのか？」「ときどきむなしくなる」「不安でしょうがない」「死んだらどこへ行くのか？」 どうしたら幸せに生きられるか、本当は最優先に考えるべきことだと思います。でも、私達は緊急な用事にいつも追われていて、幸福の追求を後回しにしてしまうと思いませんか。あるいは、こういった問題について考えることは労力と時間がかかるので、無意識に避けてしまう、とか。そしていつまでたっても不安から逃れられない……。 「何言ってんの？オーストラリアの詩と関係ないじゃん」とイラッとした方もいるかもしれません。ところがどっこい、「詩を学ぶ」って結局「生きることを学ぶ」ということじゃないのかなぁ、と思っています。本当にすごい詩は、私達の生き方に大きな影響を与えるのですよ。いや、ほんとに。そして、これが「言葉の力」なのです。 私たちは世界をあるがままに見ていません。同じものが目の前にあっても、みんなが同じように世界を見ている訳ではないのです。私たちは「言葉を通して」世界を見ます。 ↓　続きは下に続きます…。	私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます（便宜上、グループ発表となりますが、評価はグループ単位ではなく、個人単位です）。発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるか、他の学生を眠らせないためにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。（過去に受講してくださった学生達は、パワーポイントやYoutube等のサイトをスクリーンで見せながら解説したり、自作の紙芝居や演劇で再現したり、クイズ形式で他の学生に答えさせたり、黒板に美しくまとめて書いてくれたりなど、いろいろ楽しい授業を作り出してくれました。今年もとても楽しみにしています！） 春学期では、最初の４回で、「オーストラリアの歴史」「アボリジニの歴史」「アボリジニの神話・伝説」の概略を学びます。オーストラリア関連の映像も紹介します。背景を知った上で、アボリジニの人たちが、アボリジニ独自の言語で書いた詩（英訳されたものを配布します。ＣＤでアボリジニ独自の言語の音声を聴きます）、それから最初から英語で書いた詩、を読んでいきます。**（第一回目の授業でグループを作ります。必ず参加してくださいね。）**
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントして配布いたします。 参考文献は授業で随時紹介していきます。	学期末レポート、授業での参加度（発表、発言）、出席状況（欠席は4回以内。３０分以内の遅刻の場合、３分の１の欠席として計算します。）

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（オーストラリアの詩） 英語専門講読ｂ（オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的	授業計画、講義概要
↓　上からの続きです。 皆さんの頭の中には、どんな言葉で溢れていますか？いまどんな言葉を使って話していますか？ 人を支配しようとする時、「言葉を奪う」のは有効です。支配者が、支配者側の言語を強制的に使わせる、という事はよくありましたよね。今のところ、戦争時ではない日本では、そんな心配ないのでしょうか？バイト先で沢山のマニュアル語、使ってません？ついついWikipediaからそのまま拝借してレポートや発表で使っていません？確かに考えなくてすむので楽かもしれません。でも、いつまでも他人の言葉を使うのは、かなり危険、だと思いませんか？ 「言葉の力を体感すること」「自分の言葉で考え、語ること」、これが授業目的になります。授業時間だけでなく、生きている間ずっと、皆さんのお役に立てたら最高です。 あ、なぜオーストラリアなのか？についてですが、オーストラリアは宝の山ですよ～。多くの議論を生み出すことができますね。旅行・留学等の経験からオーストラリア大好き！という方、沢山いらっしゃいますよね。表面的な知識だけでなく、多角的に考察してみましょう。 それでは熱意のある方、お待ちしております！	春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。 春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。決して多くはない言葉のなかに、膨大な思い（思考、時空間、知識 etc）を垣間見ることになるでしょう。私はいい詩を読むと、もう単に「・・・すごい」という気持ちになってしまいます。それはもう、鳥肌ものです。皆さんとこの思いを共有できたら、とても嬉しく思います。 ＜春学期の講義概要＞ アボリジニの歴史や神話を踏まえた上で、彼らの詩を読んでいきます。ＣＤ、ビデオ、ＤＶＤを使用して、授業を進めることもあります。 ＜秋学期の講義概要＞ 入植者の血を引くものたちの詩を読んでいきます。詩人本人が朗読している詩もありますので、その場合は、ＣＤを利用して授業を進めます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期同様	春学期同様

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ（英語圏の現代演劇） 英語専門講読ａ（英語圏の現代演劇）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則 として、理由の如何を問わず、単位を認めません。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、理由の如何を問わず、単位を認めません。	教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 そのスケジュール次第で、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげ、その英訳版をテキストにしたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。Reading Strategies Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。参考文献は授業中に言及する予定です	毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。このテスト成績が学期末集計時に 50%未満の場合、単位を認めません。観劇レポート（450-500 字）2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（英語圏の現代演劇） 英語専門講読ｂ（英語圏の現代演劇）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則 として、理由の如何を問わず、単位を認めません。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、理由の如何を問わず、単位を認めません。	教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 そのスケジュール次第で、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげ、その英訳版をテキストにしたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。Reading Strategies Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。参考文献は授業中に言及する予定です	毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。このテスト成績が学期末集計時に 50%未満の場合、単位を認めません。観劇レポート（450-500 字）2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （認知文法） 英語専門講読 a （認知文法）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英語の読解力を高めることである。使用するテキストは，ロナルド・ラネカーによる認知文法の入門書である。これを精読することにより，認知文法の考え方を知ることができるだけでなく，英語そのものに対する理解も深まるはずである。 授業では，下記のテキストをはじめから読んでゆく。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は，鍛練とか修練ということばによって特徴づけられるような，ときとして忍耐を必要とする，学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ，それを並べかえるだけでよしとするようなことをせず，真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。丹念な読みを通して，日本語らしさ，英語らしさとは何かについても学ぶことができるはずである。	第 1 回 オリエンテーション（出席は必須） 第 2 回～第 13 回 テキストの第 1 部の講読 第 14 回 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Langacker, Ronald W. (2008) *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*. Oxford: Oxford University Press.	担当部分の発表や定期試験の結果により評価する。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （認知文法） 英語専門講読 b （認知文法）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英語の読解力を高めることである。使用するテキストは，ロナルド・ラネカーによる認知文法の入門書である。これを精読することにより，言語に対する認知文法の考え方を知ることができるだけでなく，英語そのものに対する理解も深まるはずである。 授業では，下記のテキストを春学期の続きから読んでゆく。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は，鍛練とか修練ということばによって特徴づけられるような，ときとして忍耐を必要とする，学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ，それを並べかえるだけでよしとするようなことをせず，真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。丹念な読みを通して，日本語らしさ，英語らしさとは何かについても学ぶことができるはずである。	第 1 回～第 13 回 春学期の続きから講読 第 14 回 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Langacker, Ronald W. (2008) *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*. Oxford: Oxford University Press.	担当部分の発表や定期試験の結果により評価する。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （ソローの『ウォールデン』を読む） 英語専門講読 a （ソローの『ウォールデン』を読む）	担当者	小林　愛明

講義目的、講義概要	授業計画
ヘンリー・デイヴィッド・ソロー(1817-62)の『ウォールデン』を一年かけて精読する。「自然」とは何か、また、「自然と共に暮らす」ということは一体どういうことなのか。彼の作品を通じて、これまでとは異なる“オルタナティブ”な視点がきっと見つかるはずだ。 また、『スカーレット・レター』、『白鯨』、『大鴉』、『若草物語』といった映像作品を通して、同時代の他の作家たちについても幅広く紹介していく。	1.　イントロダクション 2.　『ウォールデン』 3.　『ウォールデン』 4.　『ウォールデン』 5.　『ウォールデン』 6.　『スカーレット・レター』（映画） 7.　『ウォールデン』 8.　『ウォールデン』 9.　『ウォールデン』 10.　『ウォールデン』 11.　『白鯨』（映画） 12.　『ウォールデン』 13.　『ウォールデン』 14.　『ウォールデン』 15.　『ウォールデン』
テキスト、参考文献	**評価方法**
原文に関してはプリントして配布。 辞書は毎回必ず持参してくること。（電子辞書で OK）	プリゼンテーションとワープロによる 4,000 字程度の作品論を総合して決める。4 回以上欠席した場合やレポートに不備がある場合に関しては評価対象外となる。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （ソローの『ウォールデン』を読む） 英語専門講読 b （ソローの『ウォールデン』を読む）	担当者	小林　愛明

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、ソローの『ウォールデン』を精読していく。可能であれば「市民の反抗」も読みたいが、これに関してはその時の授業の進み具合による。	1.　イントロダクション&『大鴉』（映画） 2.　『ウォールデン』 3.　『ウォールデン』 4.　『ウォールデン』 5.　『ウォールデン』 6.　『若草物語』（映画） 7.　『ウォールデン』 8.　『ウォールデン』 9.　『ウォールデン』 10.　『ウォールデン』 11.　『グローリー』（映画） 12.　『ウォールデン』 13.　『ウォールデン』 14.　『ウォールデン』 15.　『ウォールデン』
テキスト、参考文献	**評価方法**
原文に関してはプリントして配布。 辞書は毎回必ず持参してくること。（電子辞書で OK）	プリゼンテーションとワープロによる 4,000 字程度の作品論を総合して決める。4 回以上欠席した場合やレポートに不備がある場合に関しては評価対象外となる。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（米国ユダヤ人史） 英語専門講読ａ（米国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。 使用するテキストはアメリカユダヤ人史の概説書です。	最初の授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高価なため、コピーを配布します。	毎回出席をとります。授業日数の１／３以上欠席された方は単位をあげません。遅刻３回で欠席１回にカウント。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（米国ユダヤ人史） 英語専門講読ｂ（米国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	最初の授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ　(物語を読んで楽しむ) 英語専門講読ａ　(物語を読んで楽しむ)	担当者	佐藤　勉

講義目的、講義概要	授業計画
優れた現代英米の物語を読んで、作品の構造、語りの技巧、物語内容などに触れ、読みの行為とはなにか、物語の面白さはどこにあるか、という点に焦点を当てて考えます。読むための技術を身につけることを目的とします。 そのためにいろいろな物語を取り上げたいのですが、時間の都合で数編ということになるでしょう。今年度は市販のテキストを使わないで、ハンドアウトを渡します。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりです。言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたり、作者がどんな文化的背景を物語の語りに織り込んでいるかを見極めたりします。最終的には物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえるように授業を進めていきます。授業では右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説・説明をする予定です。受講生に読んでもらいますので順番を守ることがなによりも大切な評価の要素です。	以下に学習する主なトピックスを挙げておきます。 1 . Character と characterization について 2 . Plot と plotting について 3 . Point of view と focalization について 4 . Setting と perspective について 5 . Style と tone について 6 . Theme と title について 7 . Structure と narration について 8 . Metaphor と allegory について 9 . Imagery と symbol について 10. Narrator と narratee について 11. Stereotype と paradox について 12. Irony と satire について 13. Analogy と allusion について 14. Connotation と denotation について 15. 物語と読者との関係について　その他
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはハンドアウトを配布しますので購入の必要はありません。参考文献は必要に応じて授業で挙げます。	成績評価は出席、定期試験によって行います。３分の２以上の授業出席がないと試験は受けられません。また授業で当てられているのに休むと他に出席していてもアウトになります。そこがこの授業の最も重要なポイントです。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ　(物語を読んで楽しむ) 英語専門講読ｂ　(物語を読んで楽しむ)	担当者	佐藤　勉

講義目的、講義概要	授業計画
優れた現代英米の物語を読んで、作品の構造、語りの技巧、物語内容などに触れ、読みの行為とはなにか、物語の面白さはどこにあるか、という点に焦点を当てて考えます。読むための技術を身につけることを目的とします。 そのためにいろいろな物語を取り上げたいのですが、時間の都合で数編ということになるでしょう。今年度は市販のテキストを使わないで、ハンドアウトを渡します。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりです。言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたり、作者がどんな文化的背景を物語の語りに織り込んでいるかを見極めたりします。最終的には物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえるように授業を進めていきます。授業では右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説・説明をする予定です。受講生に読んでもらいますので順番を守ることがなによりも大切な評価の要素です。	以下に学習する主なトピックスを挙げておきます。 1 . Character と characterization について 2 . Plot と plotting について 3 . Point of view と focalization について 4 . Setting と perspective について 5 . Style と tone について 6 . Theme と title について 7 . Structure と narration について 8 . Metaphor と allegory について 9 . Imagery と symbol について 10. Narrator と narratee について 11. Stereotype と paradox について 12. Irony と satire について、その他 13. Analogy と allusion について 14. Connotation と denotation について 15. 物語と読者との関係についてその他
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはハンドアウトを配布しますので購入の必要はありません。参考文献は必要に応じて授業で挙げます。	成績評価は出席、定期試験によって行います。３分の２以上の授業出席がないと試験が受けられません。また授業で当てられているのに休むと他に出席していてもアウトになります。そこがこの授業の最も重要なポイントです。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ（現代国際関係論） 英語専門講読ａ（現代国際関係論）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、現代国際関係の中でも貧困、人口問題、グローバリゼーション、開発、紛争などのイシューを扱う。教材としては、*Foreign Affairs*、*Current History*、 *The New York Times*、*Foreign Policy* などに掲載された論文や記事を使用する。短くまとめられた論文・記事を通して、国際関係の争点を理解し、分析する。 基本的にはグループ発表とその後のディスカッションにより進める。受講者が多い場合には、2，3 人のグループで発表してもらう。授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて、映像資料を用い、理解の向上に努めたい。 なお、第一回目の授業で、授業の詳細を説明し、また発表者を決めるので必ず出席すること。春学期と秋学期と両方の履修が望ましい。	1 週目　オリエンテーション、発表者決め 2 周目～14 週目　発表、ディスカッション （例） ・Friedman, Thomas L. ‘It’s a Flat World, After All’, *The New York Times*, April 3, 2005. ・Sachs, Jeffery D. ‘Can Extreme Poverty Be Eliminated?’, *Scientific American*, September 2005. ・Easterly, William. ‘The Ideology of Development’, *Foreign Policy*, July/August 2007.
テキスト、参考文献	**評価方法**
教員が用意し、適宜配布する。	出席、授業への参加状況、発表、学期末レポートの総合評価とする。3 回を超えて欠席したものは、単位修得の権利を失う。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（現代国際関係論） 英語専門講読ｂ（現代国際関係論）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、現代国際関係の中でも貧困、人口問題、グローバリゼーション、開発、紛争などのイシューに扱う。教材としては、*Foreign Affairs*、*Current History*、 *The New York Times*、*Foreign Policy* などに掲載された論文や記事を使用する。短くまとめられた論文・記事の読解を通して、国際関係の争点を理解し、分析する。 基本的にはグループ発表とその後のディスカッションにより進める。受講者が多い場合には、2，3 人のグループで発表してもらう。授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて、映像資料を用い、理解の向上に努めたい。 なお、第一回目の授業で、授業の詳細を説明し、また発表者を決めるので必ず出席すること。春学期と秋学期と両方の履修が望ましい。	1 週目　オリエンテーション、発表者決め 2 周目～14 週目　発表、ディスカッション （例） ・Sachs, Jeffery. ‘The Development Challenge’, *Foreign Affairs*, March/April 2005. ・Lancaster, Carol. ‘The New Face of Development’, *Current History*, January 2008. ・‘Call in the Blue Helmets’, *The Economist*, January 6,2007.
テキスト、参考文献	**評価方法**
教員が用意し、適宜配布する。	出席、授業への参加状況、発表、学期末レポートの総合評価とする。3 回を超えて欠席したものは、単位修得の権利を失う。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 I （アメリカ小説） 英語専門講読 a （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
まず第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に質問表にもとづく質疑応答・討論により作品理解を深めることを目的とします。 20 世紀最大のアメリカ作家と言われる William Faulkner の最高傑作 *The Sound and the Fury* (1929)に挑戦します。難解な小説と言われていますが、100%理解できなくても十分楽しめ、人間の想像力の素晴らしさを味わうことが出来る作品です。いくつかの例外はありますが、比較的平易な英語で書かれている箇所も多く、一般的に言われているほど英語学習者にとって読むことが困難な小説ではないと考えます。最近はインターネット上で難解な箇所を解き明かしてくれるサイトなども出現していますので、それらを利用すればさらに理解を深めることが出来るでしょう。アメリカ南部が舞台の作品ですが、「家族崩壊」、「初恋」、「兄弟間の愛憎」など現代の学生諸君にも十分理解・自己投影できる普遍性をもった作品と考えます。 質問表は教師が用意し、教師が討論の司会をしますが、途中から、学生諸君にプレゼンテーションや司会をしてもらうかもしれません。 授業で積極的に発言して、討論・意見交換に参加する学生の受講を希望します。	都合により、秋学期のみ週 2 回の授業を行います。従って、前半の 14 回の授業で、この小説の第 1 章と第 2 章の一部を行い、その範囲を定期試験期間中に「英語専門講読 I」の試験として出題、評価します。 第 1 回～10 回：第 1 章 第 11 回～14 回：第 2 章前半 受講者希望者には最初の部分のプリントを用意しますので中央棟 617 まで取りに来てください。 第 1 週（1、2 回）に授業の進め方などについての説明と「第 1 週の質問表」にもとづく質疑応答・討論による体験授業を行います。従って、左下の欄にある「第 1 週の質問表」に答えられるようプリントで最初の数ページを読んで来て下さい。 第 2 週（3、4 回）　前週に配布した質問表による質疑応答・討論と解説。約 20 ページ程度読む予定。 第 3 週（5、6 回）以降、同様な方法で毎回平均ほぼ 10～15 ページずつ読んでいく予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
William Faulkner, *The Sound and the Fury* (Vintage International, 1990) 参考文献：秋学期の授業計画の欄を参照	学期末の定期試験、および平常点（出席点ではありません。授業での発言による貢献度を加味します）

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （アメリカ小説） 英語専門講読 b （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
上記を参照。 第 1 週の質問表 (私の「英語圏の文学・文化概論」を履修した方には復習となります) 1. On the first line of the first page, the narrator writes, "I could see them hitting." What on earth are they hitting? 2. Why do you think Luster says, "Listen at you, now"? 3. The last paragraph of the first page is italicized. Why do you think is the sudden change in typography? 4. What does Benjamin [Benjy] want to do? Why do you think he wants to go out? 5. What is the first name of Benjamin's mother? 6. Where are Mother and Benjamin going in the carriage T.P. is driving? (Note what Mother tells Jason later.) 7. The first underlined passage on page eight goes: "Then those on one side stopped at the tall white post where the soldier was. But on the other side they went on smooth and steady, but a little slower." What is happening here? 8. What do you think is the content of the letter Uncle Maury asks Caddy to take to Mrs. Patterson?	都合により、秋学期のみ週 2 回の授業を行います。従って、後半の 14 回の授業で、この小説の第 2 章の一部と第 3 章、4 章を読み、その範囲を定期試験期間中に「英語専門講読 II」の試験として出題、評価します。 第 15 回～20 回：第 2 章後半 第 21 回～28 回：第 3 章、第 4 章 左記の質問表の解説が以下のサイトにありますので、参照してください。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit2faulkner.htm また下記のサイトにはこの作品の全文が掲載されており、その上、難解な箇所を読みやすくする工夫がなされています。受講希望者はぜひ参照しておいてください。 http://www.usask.ca/english/faulkner/
テキスト、参考文献	**評価方法**
William Faulkner, *The Sound and the Fury* (Vintage International, 1990) 参考文献：秋学期の授業計画の欄を参照	学期末の定期試験、および平常点（出席点ではありません。授業での発言による貢献度を加味します）

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （Applied Linguistics） 英語専門講読 a （Applied Linguistics）	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
外国語としての英語教育にかかわるいくつかの問題を取り上げ、関連した論文を読む。例えば、学習方略(learning strategies)や学習動機を高めるにはどのようなことをしたらよいか、各テーマに沿って指導方法として提唱されている方法を検証してみる。 また、毎回授業時間の一部で speed reading の訓練を行う。Skimming, scanning も含め、目的に合ったさまざまな読み方に慣れることを目指す。 課外に何冊かの本を読んで、発表してもらう予定。 英語での読書が好きで、英語教育に関心のある人向き。	1. Introduction (Speed Reading Test) 2. What is applied linguistics? 3. 〃 4. Good language learners 5. 〃 6. 〃　(Presentation) 7. Review & Book Report 8. Learning strategies 9. 〃 10. 〃　(Presentation) 11. Motivation 12. 〃 13. 〃　(Presentation) 14. Review & Book Report
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： ・プリント ・[速読用]　Paul Nation et al.: *Reading for Speed and Fluency 4*. Compass Publishing. 参考文献： 授業時に必要に応じて紹介する。	個人研究発表（Presentation）30% Book Report　20% 期末テスト　50%

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （Applied Linguistics） 英語専門講読 b （Applied Linguistics）	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は英語教育のスキル面に重きを置き、引き続き研究論文を読み、その一部分を実践してみる。 Speed reading の訓練も継続して行う。	1.Tasks for listening & speaking 2.　〃 3.　〃　(Presentation) 4. Tasks for reading & writing 5.　〃 6.　〃　(Presentation) 7. Review & Book Report 8. Word attack skills 9.　〃 10.　〃　(Presentation) 11. Teaching Grammar & Corpus linguistics 12.　〃 13.　〃　(Presentation) 14. Review & Book Report
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： ・プリント ・[速読用]　Paul Nation et al.: *Reading for Speed and Fluency 4*. Compass Publishing. 参考文献： 授業時に必要に応じて紹介する。	個人研究発表（Presentation）40% Book Report　20% 期末レポート　40%

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ｉ（イギリス児童文学） 英語専門講読ａ（イギリス児童文学）	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
「習うより慣れよ。」（Use makes perfect.）の観点より、面白くて易しい英語を多読することを、目的とする。（昨年の実績は、課外のレポートも含めて５０７頁であった。） Lang (Andrew,1844-1922)の『色分け昔話集』（全１２巻）の内、『ヴァイオレット昔話集』を読む。ラングはグリム同様編者に過ぎないが、中には翻訳・再話で少し変えているところもある。今回もなじみの話は少ないが、基本は同じ、夢とヒューマーとペイソスである。（１回２０頁相当を２人の共同責任で読んでもらう。） 参考文献 キャサリン・ブリグス編著　『妖精事典』　平野敬一他訳 冨山房　１９９２年	1. ガイダンス 2. *A Tale of theTontlawald* 3. *The finest Liar in the World* 4. *Story of three Wonderful Beggars* 5. *Schippeitaro* 6. *The Three Princes and their Beasts* 7. *The Goat's Ears of the Emperor Trojan* 8. *The Nine Pea-hens and the Golden Apples* 9. *The Lute Player* 10. *The Grateful Prince* 11. *The Child who came from an Egg* 12. *Stan Bolovan* 13. *The Two Frogs* 14. *The Story of a Gazelle*
テキスト	**評価方法**
Lang,Andrew, *The Violet Fairy Book*. Book Jungle, 2008	期末試験をする。　それとは別に課外に２０頁程度のものを読んでいただく。詳細は教室で指示する。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（イギリス児童文学） 英語専門講読ｂ（イギリス児童文学）	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
同上	1. *How a Fish swam in the Air* 2. *Two in a Sack* 3. *The Envious Neighbour* 4. *The Fairy of the Dawn* 5. *The Enchanted Knife* 6. *Jesper who herded the Hares* 7. *The Underground Workers* 8. *The History of Dwarf Long Nose* 9. *The Nunda, Eater of People* 10. *TheStory of Hassebu* 11. *The Maiden with the Wooden Hamlet* 12. *The Monkey and the Jelly-fish* 13. *The Headless Dwarfs* 14. *The Young man who would have his Eyes opened*
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （国際連合の組織と機能） 英語専門講読 a （国際連合の組織と機能）	担当者	鈴木　絢女

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、国際連合の出版物 *The United Nations Today* を主なテキストとして、（1）国連の組織、活動、改革の現状について知ること、（2）国際関係分野の理解に必要な英語力を身につけること、（3）適切な資料を用い、プレゼンテーションを行う能力を構築することを目的としています。 履修者は、毎週テキストの指定された部分を和訳します。また、テキストの理解を深めるために、関連するトピックについて資料を収集し、20 分程度のプレゼンテーションを行います。たとえば、国連の組織に関連する部分を和訳する回では、IMF や UNICEF などについて、組織や具体的な活動、問題点などを報告してもらいます	第 1 回：　イントロダクション 第 2 回～第 7 回：Chapter 1: The United Nations Organization の訳出。関連トピックに関するプレゼンテーション、討論。 第 8 回～第 14 回：Chapter 2: International Peace and Security の訳出。関連トピックに関するプレゼンテーション、討論。 ＊テキストはこちらで用意します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
The United Nations Today, New York: United Nations Department of Public Information, 2008.	出席率、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度を基準として評価します。単位取得には、2/3 以上の出席が必要です。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （国際連合の組織と機能） 英語専門講読 b （国際連合の組織と機能）	担当者	鈴木　絢女

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、国際連合の出版物 *The United Nations Today* を主なテキストとして、（1）国連の組織、活動、改革の現状について知ること、（2）国際関係分野の理解に必要な英語力を身につけること、（3）適切な資料を用い、プレゼンテーションを行う能力を構築することを目的としています。 履修者は、毎週テキストの指定された部分を和訳します。また、テキストの理解を深めるために、関連するトピックについて資料を収集し、20 分程度のプレゼンテーションを行います。たとえば、Human Rights について読む回に、各国や地域における人権保護状況について報告してもらいます。	第 1 回：　オリエンテーション 第 2 回～第 8 回：　Chapter 3: Economic and Social Development の訳出。関連トピックに関するプレゼンテーション、討論。 第 9 回～10 回：　Chapter 4: Human Rights の訳出。関連トピックに関するプレゼンテーション、討論。 第 11 回：　Chapter 5: Humanitarian Action の訳出。関連トピックに関するプレゼンテーション、討論。 第 12 回～13 回:　Chapter 6: International Law の訳出。関連トピックに関するプレゼンテーション、討論。 第 14 回：　Chapter 7: Decolonization の訳出。関連トピックに関するプレゼンテーション、討論。 ＊テキストはこちらで用意します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
The United Nations Today, New York: United Nations Department of Public Information, 2008.	出席率、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度を基準として評価します。単位取得には、2/3 以上の出席が必要です。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （生成英文法への誘い） 英語専門講読 a （生成英文法への誘い）	担当者	鈴木　英一

講義目的・講義概要	授業計画
講義目的: 言語学で最も説明力のある生成文法の基本的な考え方に基づいた英語の文構造の理解の仕方を，生成文法理論と英文法に大きな貢献をしているAndrew Radfordという言語学者の最近の著書を読み，英語の読解力を伸ばしながら，生成文法の研究方法と英語の文構造を理解する． **講義概要**: Andrew Radfordの*Minimalist Syntax: Exploring the structure of English*. (2004, Cambridge)の中の第6章“Wh-movement” (pp.188-240)の前半部を読みながら，英語の文のうちWh語を含むWh疑問文を詳しく検討する．特に，英語ではWh語が必ず〈文頭〉に移動されることに着目し，どのような規則・操作によってWh語が文頭に移動されるかを考える．加えて，特に問題となるWh語が主語として用いられているWh疑問文を詳しく考える．	1. Wh-questions (1) 2. Wh-questions (2) 3. Wh-movement as a copying operation 4. the copy theory of movement 5. Wh-movement as an operator movement 6. Wh-movement, EPP and the Attract Closest Principle 7. Wh-movement for multiple wh-questions 8. Explaining what moves where (1) 9. Explaining what moves where (2) 10. Remerger Constraint and Constituent Structure Constraint 11. Wh-subject questions (1) 12. Wh-subject questions (2) 13. Pied-Piping 14. Pied-Piping and Attract Closest Principle
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: Andrew Radford（2004）“Wh-Movement” *Minimalist Syntax: Exploring the structure of English*. Cambridge Univ. Press. pp. 188-240.	出席状況，授業の予習，授業中の発表，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる．

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （生成英文法への誘い） 英語専門講読 b （生成英文法への誘い）	担当者	鈴木　英一

講義目的・講義概要	授業計画
講義目的:（春学期と同じ） 言語学で最も説明力のある生成文法の基本的な考え方に基づいた英語の文構造の理解の仕方を，生成文法理論と英文法に大きな貢献をしているAndrew Radfordという言語学者の最近の著書を読み，英語の読解力を伸ばしながら，生成文法の研究方法と英語の文構造を理解する． **講義概要**:（春学期の続き） 秋学期は，春学期と同じテキスト，Andrew Radfordの*Minimalist Syntax: Exploring the structure of English*. (2004, Cambridge)の中の第6章“Wh-movement” (pp.188-240)の後半部を読みながら，Yes-No疑問文，感嘆文，Wh語をもつ関係詞節，thatを含む関係詞節，先行詞をもたない関係詞節を検討する．さらに，Wh語に他の要素が随伴する現象とWh語を移動する規則に適用されるWh島条件や二重Wh移動制約などの様々な条件・制約を考察する．	1. Pied-Piping and Constraint on Extraction Domain 2. Pied-Piping and Convergence Principle 3. Yes-No questions 4. Wh-exclamatives 5. Relative clause (1) 6. Relative clause (2) 7. Wh-island Constraint (1) 8. Wh-island Constraint (2) 9. Relative Pronoun Spellout Condition 10. That relatives (1) 11. That relatives (2) 12. Multiply Filled COMP Filter 13. Appositive relative clauses 14. Free relative clauses
テキスト・参考文献	**評価方法**
テキスト: Andrew Radford（2004）“Wh-Movement” *Minimalist Syntax: Exploring the structure of English*. Cambridge Univ. Press. pp. 188-240.	出席状況，授業の予習，授業中の発表，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる．

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I (Multi-Ethnic/Multi-Cultural Japan)火 2 英語専門講読 a (Multi-Ethnic/Multi-Cultural Japan)火 2	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションやポスト植民地主義的状況という視点から、現代日本について書かれた英語論文の読解・議論を通じて、現代日本の多民族・多文化的状況についての検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピックのなかから研究テーマを設定する。それぞれのグループは、個別の研究テーマに関連する文献の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。扱う題材は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、チャイナタウン、国際結婚などを予定している。 本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の購読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日的状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。	1. 趣旨説明・グループ分け （初回の授業でグループ分けを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。） 2. 各課題についての解説(1~2 回) 3. 基礎文献の購読・議論 個別の研究プロジェクトに取りかかる前の準備作業として、多文化・多民族という視点から日本社会を論じた文献の購読・議論を行なう。具体的には、テキスト欄に紹介した本のなかから、いくつかのチャプターを読んでいく。それゆえ、履修希望者はテキストを初回授業のときまでに用意しておくこと。なお扱う予定のチャプターは以下の通りである。 ・The Japan Phenomenon and the Social Science ・ Geographical and Generational Variations ・ Varieties in Work and Labor ・ Gender Stratification and the Family System ・ Minority Groups: Ethnicity and Discrimination ・ Popular Culture and Everyday Life
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sugimoto, Yoshio 2003. *An Introduction to Japanese Society (Second Edition)*. **Cambridge and New York: Cambridge University Press**.	授業における発表・議論(70%)、年度末レポート(30%)

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II (Multi-Ethnic/Multi-Cultural Japan)火 2 英語専門講読 b (Multi-Ethnic/Multi-Cultural Japan)火 2	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションやポスト植民地主義的状況という視点から、現代日本について書かれた英語論文の読解・議論を通じて、現代日本の多民族・多文化的状況についての検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピックのなかから研究テーマを設定する。それぞれのグループは、個別の研究テーマに関連する文献の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。扱う題材は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、チャイナタウン、国際結婚などを予定している。 本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の購読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日的状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。	春学期の英語専門購読 I の成果を踏まえた上で、各グループごとに個々の研究プロジェクトに取りかかる。 ・各グループごとに、指定された英語論文等を読み込みながら、議論を行なう。 ・ 中間発表 学期半ばに各グループごとに中間発表をしてもらう。 ・最終発表 学期末に各グループごとに最終発表をしてもらい、その成果をもとに年度末レポートを作成する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で、論文リスト（基本的には学術雑誌所収論文）を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。なお入手困難なものについては、担当者が配布する。	授業における発表・議論(70%)、年度末レポート(30%)

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I (Anthropology of Tourism, Indigenous Art and Peoples) 火3 英語専門購読 a (Anthropology of Tourism, Indigenous Art and Peoples) 火3	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションや(ポスト)植民地主義的状況下における文化の動態について、第三世界におけるアート・ツーリズム・先住民などを切り口としながら、文化人類学的・社会学的検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピック・地域のなかから 1 つを選び、個別の研究テーマに関連する英語論文の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。 具体的に取り上げる地域は、オーストラリア、メキシコ、インドネシア、タイなどを予定している。 なお本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、文化の収集や展示、ツーリズムといった現象が、第三世界にもたらす影響について批判的に分析するための視座を養うことを目的とする。	1. 趣旨説明。グループ分け。 （初回の授業でグループ分けを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。） 2. 課題についての解説（2 回） 観光人類学についての基本的な考えについての紹介。 3. 基礎文献の講読・発表(5~6 回) エスニック・ツーリズムや先住民アートに関する基礎的な論文の購読を通じて、個々の研究プロジェクトに取りかかるための準備作業を行なう。 4. 研究計画報告(5 回) 対象地域に関する基礎的なデータを Lonely Planet 等英語版ガイドブック、海外インターネット記事等を通じて収集し、各グループごとに発表してもらう。

テキスト、参考文献	評価方法
初回の授業で、論文リスト（基本的には学術雑誌所収論文）を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。なお入手困難なものについては、担当者が配布する。	授業における発表・議論(70%)、年度末レポート(30%)

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II (Anthropology of Tourism, Indigenous Art and Peoples) 火3 英語専門講読 b (Anthropology of Tourism, Indigenous Art and Peoples) 火3	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションや(ポスト)植民地主義的状況下における文化の動態について、第三世界におけるアート・ツーリズム・先住民などを切り口としながら、文化人類学的・社会学的検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピック・地域のなかから 1 つを選び、個別の研究テーマに関連する英語論文の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。 具体的に取り上げる地域は、オーストラリア、メキシコ、インドネシア、タイなどを予定している。 なお本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、文化の収集や展示、ツーリズムといった現象が、第三世界にもたらす影響について批判的に分析するための視座を養うことを目的とする。	春学期の英語専門講読 I の成果を踏まえた上で、各グループごとに個々の研究プロジェクトに取りかかる。 ・各グループごとに指定された英語論文等を読み込みながら、議論を行なう。 ・ 中間発表 学期半ばに各グループごとに中間発表をしてもらう。 ・最終発表 学期末に各グループごとに最終発表をしてもらい、その成果をもとに年度末レポートを各グループごとに作成する。

テキスト、参考文献	評価方法
初回の授業で、論文リスト（基本的には学術雑誌所収論文）を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。なお入手困難なものについては、担当者が配布する。	授業における発表・議論(70%)、年度末レポート(30%)

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （異文化理解の視点） 英語専門講読 a （異文化理解の視点）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，コミュニケーション論における専門的な文献（書籍・論文）を読むの必要な能力と知識を養うことを目的にしています．すなわち，より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り，研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します．春学期は特に，文献に書かれている内容を具体化する（日常生活の例を挙げる）ことを最大の目的にします． 授業は，グループワークが中心です．担当箇所についてのグループ発表の後，内容に関する質疑応答やディスカッション，担当者による補足説明と解説という形で進めていきます．グループ発表では，文献の内容を具体的に説明することが求められます．人は「コミュニケーションしないことはできない（cannot NOT communicate)」と言われるように，コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し，その経験の中にあふれていて，学生諸君も必ず体験していることです．このことを念頭に置いて，この授業を受講するすべての学生が活発に議論を戦わせ，活気あふれる教室にすることによって，毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています．目指すのは「学生の，学生による，学生のための授業」です．	1. 授業の概要，評価方法，レポート作成法など 2. グループ分け，教材配布など 3. 学習方法，レジュメ作成，プレゼン準備方法など 4. プレゼンテーション① 5. プレゼンテーション② 6. プレゼンテーション③ 7. プレゼンテーション④ 8. 中間まとめ 9. プレゼンテーション⑤ 10. プレゼンテーション⑥ 11. プレゼンテーション⑦ 12. プレゼンテーション⑧ 13. プレゼンテーション⑨ 14. 学期のまとめ ※ 理解度等により，授業進度が変わることもあります．
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピー教材を配布します． 心理学，社会学，物理学，統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など．	グループワーク（準備，発表の仕方，発表内容），授業への貢献度（質疑応答．議論への参加），学期末レポートまたは試験により評価します．

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （異文化理解の視点） 英語専門講読 b （異文化理解の視点）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，コミュニケーション論における専門的な文献（書籍・論文）を読むの必要な能力と知識を養うことを目的にしています．すなわち，より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り，研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します．秋学期では特に，文献中に見られるそれぞれに概念やそれらの違い，およびその関連性を正しく理解しながら読み進めていくことを最大の目的にします． 授業は，グループワークが中心です．担当箇所についてのグループ発表の後，内容に関する質疑応答やディスカッション，担当者による補足説明と解説という形で進めていきます．グループ発表では，文献の内容を具体的に説明することが求められます．人は「コミュニケーションしないことはできない（cannot NOT communicate)」と言われるように，コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し，その経験の中にあふれていて，学生諸君も必ず体験していることです．このことを念頭に置いて，この授業を受講するすべての学生が活発に議論を戦わせ，活気あふれる教室にすることによって，毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています．目指すのは「学生の，学生による，学生のための授業」です．	1. 秋学期の授業計画，教材配布など 2. プレゼンテーション⑩ 3. プレゼンテーション⑪ 4. プレゼンテーション⑫ 5. プレゼンテーション⑬ 6. プレゼンテーション⑭ 7. プレゼンテーション⑮ 8. 中間まとめ 9. プレゼンテーション⑯ 10. プレゼンテーション⑰ 11. プレゼンテーション⑱ 12. プレゼンテーション⑲ 13. プレゼンテーション⑳ 14. 学期のまとめ ※ 理解度等により，授業進度が変わることもあります．
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピー教材を配布します．心理学，社会学，物理学，統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など．	グループワーク（準備，発表の仕方，発表内容），授業への貢献度（質疑応答．議論への参加），学期末レポートまたは試験により評価します．

06～08年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（20世紀アメリカ　行動する女性作家･詩人） 英語専門講読ａ（20世紀アメリカ　行動する女性作家･詩人）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、２０世紀後半のアメリカの女性作家・詩人たちの作品（エッセイ、短篇小説、詩）を、精読あるいは多読しながら、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。	１．ガイダンス ２．日系アメリカ人の歴史と文化 ３．映像に見られる日系アメリカ人 ４．Janice Mirikitani ５．Janice Mirikitani ６．日系からアジア系へ ７．まとめ ８．アフリカ系アメリカ人の文化と歴史 ９．映像に見られるアフリカ系アメリカ人 １０．Alice Walker １１．Alice Walker １２．関連するインタビューの分析 １３．関連する評論の分析 １４．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。	小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。 なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（20世紀アメリカ　行動する女性作家･詩人） 英語専門講読ｂ（20世紀アメリカ　行動する女性作家･詩人）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に続き、２０世紀アメリカの有色系女性作家・詩人たちの作品（エッセイ、短篇小説、詩）を精読あるいは多読することで、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。	１．ガイダンス ２．ネイティヴ・アメリカンの歴史と文化 ３．Leslie Marmon Silko ４．Leslie Marmon Silko ５．映像に見られるネイティヴ・アメリカン ６．関連テーマの批評を読む ７．まとめ ８．境界からの声―チカーナという生き方 ９．Sandra Cisneros　（エッセイ） １０．Sandra Cisneros　（詩） １１．映像に見られるチカーナ １２．関連テーマの批評を読む　その１ １３．関連テーマの批評を読む　その２ １４．.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。	小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。なお、４回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（グローバルな眼でアジアを読む） 英語専門講読ａ（グローバルな眼でアジアを読む）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
米国のアジア専門誌『エイシアン・サーベイ』が、アジア各国の動向をレビューした特集号を取り上げます。 本授業では、２つの目標を設定しています。第１の目標は、世界トレンドとアジア各国事情を理解し、最新の国際情報を獲得することです。第２の目標は、英語の運用能力を高めることです。 ２週単位で授業が進みます。第１週に、受講生は担当するテーマに関して詳細なレジュメを用意してプレゼンテーションを行います。その際、新聞・雑誌・各種資料を活用し、テキストの内容を掘り下げる工夫が求められます。 第２週では、テキストの英文を理解する作業が行われます。例えば第１週にシンガポールに関するプレゼンがあり、第２週ではテキストに掲載されているシンガポールの記事を、英語に注目して質疑応答を行います。	１．オリエンテーション（第１週） 米国のアジア専門誌『エイシアン・サーベイ』を説明 国際情報ツールの説明 プレゼンの担当者とテーマの決定 ２．各担当者によるプレゼンと討論 （第２週～第１４週） ３．受講生が選択するテーマ群 アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど 南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、バングラデシュ、ネパールなど 東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）など
テキスト、参考文献	**評価方法**
Asian Survey　(A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2009.	受講生によるレジュメ作成とプレゼンテーション、出席と討論への貢献度によって評価します。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（グローバルな眼でアジアを読む） 英語専門講読ｂ（グローバルな眼でアジアを読む）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
米国のアジア専門誌『エイシアン・サーベイ』が、アジア各国の動向をレビューした特集号を取り上げます。 本授業では、２つの目標を設定しています。第１の目標は、世界トレンドとアジア各国事情を理解し、最新の国際情報を獲得することです。第２の目標は、英語の運用能力を高めることです。 ２週単位で授業が進みます。第１週に、受講生は担当するテーマに関して詳細なレジュメを用意してプレゼンテーションを行います。その際、新聞・雑誌・各種資料を活用し、テキストの内容を掘り下げる工夫が求められます。 第２週では、テキストの英文を理解する作業が行われます。例えば第１週にシンガポールに関するプレゼンがあり、第２週ではテキストに掲載されているシンガポールの記事を、英語に注目して質疑応答を行います。	１．秋学期オリエンテーション（第１週） 春学期の授業レビュー プレゼンの担当者とテーマの確認・再調整 ２．各担当者によるプレゼンと討論 （第２週～第１４週） ３．受講生が選択するテーマ群 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど 南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、バングラデシュ、ネパールなど 東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）など
テキスト、参考文献	**評価方法**
Asian Survey　(A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2009.	受講生によるレジュメ作成とプレゼンテーション、出席と討論への貢献度によって評価します。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読 Ⅰ（現代イギリス小説） 英語専門講読 a（現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、英国の作家ジョージ･オーエルの小説　*Nineteen Eighty-four*（1948年作品）を読む。 ここで描かれているのは、ビッグ･ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は３つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。 人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。オーエルを読み解くキーワードは、「人間らしさ(“decency”)」である。この２０世紀を代表する問題作を読みながら、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。	毎回、講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子をみて決定、調整する。折をみて、映画化された作品も授業内で紹介したい。学期末に試験またはレポートを課す。
テキスト、参考文献	**評価方法**
George Orwell *Nineteen Eighty-four* Penguin	出席、授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読 Ⅱ（現代イギリス小説） 英語専門講読 b（現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続き。	春学期の続き。
テキスト、参考文献	**評価方法**
George Orwell *Nineteen Eighty-four* Penguin	出席、授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ（現代国際関係論） 英語専門講読ａ（現代国際関係論）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
【授業の目的】 ① 現代国際関係における諸問題に対する関心を高め、理解を深めること。 ② プレゼンテーションを通じて、ものごとを筋道立てて説明し、発表する能力を身につけること。 【授業の流れ】 春学期は、教員が用意した英文テキストについて、あらかじめ指定された学生（またはグループ）が内容のサマリーを発表し、その後ディスカッションを進めます。 ＊ 受講者多数の場合には、グループ（2～3 人）を組み、グループごとに研究・発表してもらうことになります。 ＊ イギリスの王立国際問題研究所が発行する *World Today* から教員が選んだ雑誌記事を利用します。この授業に登録を希望する学生は、初回の授業開始までに第一回目の資料を個人研究室（６２８）で受け取り、読んでおくこと（小テスト実施）。**なお、初回の授業時に資料をもってきていない場合には、履修登録を認めない場合がある。**	１．この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに発表担当者（グループ分け）の決定（第１週） ２．各発表者（グループ）によるプレゼンテーション（第 2～第 13 週） ３．秋学期に向けたプレゼンテーションについてのガイダンス（第 14 週）
テキスト、参考文献	**評価方法**
上記を参照。	評価は次の３点による。①発表の担当(35%)、②ディスカッションへの貢献度(30%)、③レポート(35%)。欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（現代国際関係論） 英語専門講読ｂ（現代国際関係論）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、個人（もしくはグループ）が、特定のテーマについてパワーポイントを使って**プレゼンテーションを英語で行います**。テーマは国際関係に関する領域で、担当教員と相談のうえ決定します。発表者は、英語で発表する能力だけでなく、特定のテーマに関して調査をする能力が必要になります。 決して自己満足的な発表とならないように、常に「聞き手」を意識したプレゼンテーションを行うように心がけてください。 またプレゼンテーションのあとには、学生全員の参加するディスカッション（英語と日本語）を行いますので、担当グループは工夫して、ディスカッションが盛り上がるようにしてください。 **＊英語を人前で話す意思、勇気のない人は、受講をお断りします。**	１．秋学期のオリエンテーション（第１週） ２．個人（もしくはグループ）によるプレゼンテーション（第 2～13 週） 【注意事項】 毎回の発表終了後には、発表担当者を除く全学生に対して**授業用掲示板への投稿**を求めます。発表を受けて自分が考えたこと、疑問に思ったことなどを出来る限り詳しく書くこと。内容によっては、再投稿を求めます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
発表するグループが１週間前に英文の事前資料（A4 を 2 枚程度）を配布する。	評価は次の３点による。①発表の担当(35%)、②ディスカッションへの貢献度(35%)、③掲示板への投稿(30%)。なお欠席と遅刻の取り扱いは、春学期と同様とする。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ（インタビューやニュースのスクリプトを読む） 英語専門講読ａ（インタビューやニュースのスクリプトを読む）	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
読んで理解できない英語は、当然、聴いても理解できない。ただこのことは、往々にして忘れられがちである。 当講座は、“英会話”以上の英語（ニュース・インタビュー・スピーチ・レクチャーｅｔｃ）を聴いて理解できるようにするためにはどうしたらよいのか、そのスキルを会得するためのものである。このため、授業では、さまざまなジャンルのスクリプトを使って、聴解力アップのためのいろいろな読み方を体験してもらう。当講座は、いわば異文化間コミュニケーション実践のスキル・アップを目的としたものであると考えて欲しい。 なお、授業の３分の１以上を欠席した場合、単位は認められない。	聴解能力には、読解能力だけでなく、スピードもまた重要となってくる。そこで、学生には、文頭からの読み、予測読み、速読など（英語を聴いて理解するための読みの技術）を教えていきたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回ごとにスクリプトのプリントを使用	出席、平常授業での評価による

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（インタビューやニュースのスクリプトを読む） 英語専門講読ｂ（インタビューやニュースのスクリプトを読む）	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回ごとにスクリプトのプリントを使用	出席、平常授業での評価による

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （アメリカ現代詩を読む） 英語専門講読 a （アメリカ現代詩を読む）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
Gary Snyder (b.1930)の詩集 *The Back Country* をテキストに、自然、仏教、ネイティヴ・アメリカン、そしてエコロジーの視点から、「環太平洋文化圏」について考える。授業は、レポーターによる作品解釈、質疑応答を中心に進める。スナイダーについては、 http://en.wikipedia.org/wiki/Gary_Snyder を参照。	from FAR EAST (1) “Yase: September” & “Pine River” (2) “Vapor Trail” & “Mt. Hiei” (3) “Out West” & “Ami” (4) “The Public Bath” (5) “Asleep on the Train” & “Eight Sandbars on the Takano River” (6) “Four Poems for Robin” (7) “The Level” & “The Firing” (8) “Work to Do toward Town” & “Nansen” (9) “Six Years” ① (10) ”Six Years” ② (11) ”Six Years” ③ from FAR EAST (12) “Alysoun” & “To Hell with Your Fertility Cult” (13) “Marin-an” & “Six-Month Song in the Foothills (14) “Spring”
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト Gary Snyder, *The Back Country*. New York: New Directions, 1971. テキストは、各自 amazon.co.jp などを通して購入のこと。 参考文献 Timothy Gray, *Gary Snyder and the Pacific Rim: Creating Counter-Cultural Community*.. Iowa City: U. of Iowa P, 2006. Patric D. Murphy, *A Place for Wayfaring: The Poetry and Prose of Gary Snyder*. Corvallis, OR: Oregon State UP, 2000.	プリゼンテーションとタームペーパー（MLA のスタイルに準じた 4,000 字程度の作品論）を総合して決める。ただし欠席が 3 分の 1 を超えた場合は評価の対象としない。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （アメリカ現代詩を読む） 英語専門講読 b （アメリカ現代詩を読む）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
Gary Snyder (b.1930)の詩集 *The Back Country* をテキストに、自然、仏教、ネイティヴ・アメリカン、そしてエコロジーの視点から、「環太平洋文化圏」について考える。授業は、レポーターによる作品解釈、質疑応答を中心に進める。スナイダーについては、 http://en.wikipedia.org/wiki/Gary_Snyder を参照。	(1) “Trail Crew Camp at Bear Valley, 9,000 Feet. Northern Sierra—White Bone and Threads of Snowmelt Water” (2) “Fire in the Hole” (3) “Burning the Small Dead” & “Home from the Sierra” (4) “Fox Pine” (5) “A Heifer Clambers Up” (6) “August on Sourdough, a Visit from Dick Brewer” (7) “Oil” (8) “The Wipers Secret” (9) “After Work” (10) Rolling in at Twilight” (11) “Hitch Haiku” (12) “How to Make Stew in the Pinacate Desert Recipe for Locke and Drum” (13) “Sather” (14) ”For the Boy Who Was Dodger Point Lookout Fifteen Years Ago”
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト Gary Snyder, *The Back Country*. New York: New Directions, 1971.テキストは、各自 amazon.co.jp などを通して購入のこと。 参考文献 Timothy Gray, *Gary Snyder and the Pacific Rim: Creating Counter-Cultural Community*.. Iowa City: U. of Iowa P, 2006. Patric D. Murphy, *A Place for Wayfaring: The Poetry and Prose of Gary Snyder*. Corvallis, OR: Oregon State UP, 2000.	プリゼンテーションとタームペーパー（MLA のスタイルに準じた 4,000 字程度の作品論）を総合して決める。ただし欠席が 3 分の 1 を超えた場合は評価の対象としない。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I （欽定訳聖書を読む） 英語専門講読 a （欽定訳聖書を読む）	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
1611 年発行の King James Version「欽定訳聖書」の中からルカ福音書を読む。 学生諸君には、17 世紀初頭の英文と接し、マルコ福音書が読者に伝えようとしている内容に興味を持つ必要がある。勿論素手で理解できるものではないので、講師による新約聖書学による説明がある。テキストはプリント。	テキストの文章の難易度と、学生の予習能力に応じて授業を進めていく。 授業時には、名簿に従って席に着いていただく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Gospel According to ST.Luke	授業への出席、発表、テストの結果で評価する。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II （欽定訳聖書を読む） 英語専門講読 b （欽定訳聖書を読む）	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続く箇所を読む	春学期に準じる
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に準じる	春学期に準じる

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I (イギリスの文芸作品に親しむ) 英語専門講読 a (イギリスの文芸作品に親しむ)	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
Reading を通して語学力を身につける一つの方法は、好きな文章や英文らしい歯切れの良い文章を、手におえる範囲で(難しすぎるものはエネルギーのロスが多すぎます)くり返し黙読ないし音読して、発想やコロケーションをしっかり消化することでしょう(これは普遍的な方法であって、ネイティブスピーカーも母国語の能力を伸ばそうとするときには自然に行なっていると思います)。その場合、対象となる英文の発想が、それに相当する日本文の発想と異なる度合いが大きければ大きいほど、消化するのがむずかしくなります。この方法はその意志さえしっかりしていれば、だれでも身に付けられる方法です。 一つ一つの word, phrase がもつ基本的意味を綜合的に知っていること、一つ一つの sentence の基本的使い方を正確に把握していることが英語を実際に駆使するのに大変大切なのです。比ゆ的な例を挙げます。テレビのコマーシャルに「悩み無用(ナヤミムヨオ、783680)」というのがあります。これは 123…を、いち、に、さんとしか読めなかったら駄目で、ひとつ、ふたつ、みっつとも読むこと。0 はゼロにもなり英語のO(オー)にもなり丸にも通じる。この場合、読み方とか意味とかを総合的に知っているから、この言い回しが通じるのです。予習と復習は不可欠で、その努力を怠るようでは話になりません。	最初の授業時に授業の進め方、成績の出し方の細かな点、そして辞書の大切さ、適切で効果的な使い方などをお話します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
慎重に検討中	普段の授業に数回テストを行い、その総合点と平常点で評価する。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ(イギリスの文芸作品に親しむ) 英語専門講読 b (イギリスの文芸作品に親しむ)	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
Reading を通して語学力を身につける一つの方法は、好きな文章や英文らしい歯切れの良い文章を、手におえる範囲で(難しすぎるものはエネルギーのロスが多すぎます)くり返し黙読ないし音読して、発想やコロケーションをしっかり消化することでしょう(これは普遍的な方法であって、ネイティブスピーカーも母国語の能力を伸ばそうとするときには自然に行なっていると思います)。その場合、対象となる英文の発想が、それに相当する日本文の発想と異なる度合いが大きければ大きいほど、消化するのがむずかしくなります。これは、その意志さえあれば、だれでも身に付けられる方法です。 一つ一つの word, phrase がもつ基本的意味を綜合的に知っていること、一つ一つの sentence の基本的使い方を正確に把握していることが英語を実際に駆使するのに大変大切なのです。比ゆ的な例を挙げます。テレビのコマーシャルに「悩み無用(ナヤミムヨオ、783680)」というのがあります。これは 123…を、いち、に、さんとしか読めなかったら駄目で、ひとつ、ふたつ、みっつとも読むこと。0 はゼロにもなり英語のO(オー)にもなり丸にも通じる。この場合、読み方とか意味とかを総合的に知っているから、この言い回しが通じるのです。予習と復習は不可欠で、その努力を怠るようでは話になりません。	最初の授業時に授業の進め方、成績の出し方の細かな点、そして辞書の大切さ、適切で効果的な使い方などをお話します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
慎重に検討中	普段の授業に数回テストを行い、その総合点と平常点で評価する。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読Ⅰ（シェイクスピア入門） 英語専門講読ａ（シェイクスピア入門）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
シェイクスピアの恋愛悲劇 *Romeo and Juliet*（『ロミオとジュリエット』）を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に経験することを目的とする。 まずはシェイクスピアが「詩で芝居を書いた」ことを理解する。*Romeo and Juliet* のプロローグはソネットの形式で書かれている。イタリア・ルネサンスの影響を受けながら、近代英語の詩の言葉は洗練され、表現力を増していった。詩の形式や伝統の中で、シェイクスピアが人間の感情をいかに生き生きとした言葉で描いていったかを、丹念に読みながら理解していくことを目指す。 近代初期の英語の韻文に初めて触れるという人も多いと思うので、現代の日常的な英語との語義や語法の違いなどを少しずつ説明しながら読みなれていく。またいろいろな音声テープを聞き、またセリフを音読して、韻文の音のパターンに慣れる。作品への理解を深めるために、シェイクスピア時代の劇場や社会的背景、あるいはシェイクスピアの他の作品についても、必要に応じて説明する。また日本で翻訳上演のビデオなども見て、現代における文化を超えたシェイクスピア受容についても考える。	1. シェイクスピアについての概説と授業の進め方の説明 2. 精読 3. 精読 4. 精読 5. 精読 6. 精読 7. 小テスト 8. 精読 9. 精読 10. 精読 11. 精読 12. 精読 13. 精読 14. 精読
テキスト、参考文献	**評価方法**
大修館シェイクスピア双書　*Romeo and Juliet*	小テスト、学期末試験、平常点を総合して評価する。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（シェイクスピア入門） 英語専門講読ｂ（シェイクスピア入門）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
上に同じ。	春学期の続きを読む。 第 7 回目に小テストを行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
上に同じ。	上に同じ。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語専門講読 I（米国および英語圏カリブ海社会の黒人表現文化） 英語専門講読 a（米国および英語圏カリブ海社会の黒人表現文化）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
アフリカ系アメリカ人によるダイナミックな表現活動をみていく。短編の講読を中心とするが、作品の背後にある社会についても詳しく解説していく。 さまざまな文化活動の紹介では、書かれたものだけではなく、視聴覚資料を多用する。黒人表現文化の特徴を理解し、表現者たちがどのように歴史や社会を認識しているのか検討していく。 いま何が起きているのかについても紹介していくので、同時に身近な事柄とどう関連しているのか、アフリカ系アメリカ人の社会を理解することを通して、日本に生きる私たちは何を学ぶことができるのかを考えてみたい。	1　イントロダクション 2　アメリカ大陸の歴史と黒人 3　黒人表現文化の特徴 4　JAZZ　1 5　JAZZ　2 6　アリス・ウォーカー　1 7　アリス・ウォーカー　2 8　アリス・ウォーカー　3 9　ジャマイカ・キンケイド　1 １０　ジャマイカ・キンケイド　2 １１　ジャマイカ・キンケイド　3 １２　キャリル・フィリップス　1 １３　キャリル・フィリップス　2 １４　キャリル・フィリップス　3
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時にプリントを配布する。	平常点（授業への参加度など）40%　期末試験 60%

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語専門講読 II（米国および英語圏カリブ海社会の黒人表現文化） 英語専門講読 b（米国および英語圏カリブ海社会の黒人表現文化）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
アフリカ系アメリカ人によるダイナミックな表現活動をみていく。短編の講読を中心とするが、作品の背後にある社会についても詳しく解説していく。 さまざまな文化活動の紹介では、書かれたものだけではなく、視聴覚資料を多用する。黒人表現文化の特徴を理解し、表現者たちがどのように歴史や社会を認識しているのか検討していく。 いま何が起きているのかについても紹介していくので、同時に身近な事柄とどう関連しているのか、アフリカ系アメリカ人の社会を理解することを通して、日本に生きる私たちは何を学ぶことができるのかを考えてみたい。	1　レゲエ　1 2　レゲエ　2 3　ソウル　1 4　ソウル　2 5　ヒップホップ　1 6　ヒップホップ　2 7　ヒップホップ　3 8　ミステリー　1 9　ミステリー　2 １０　ミステリー　3 １１　ミステリー　4 １２　ジュノ・ディアス　1 １３　ジュノ・ディアス　2 １４　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時にプリントを配布する。	平常点（授業への参加度など）40%　期末試験 60%

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Academic Writing (火 1) 英語エッセイ・ライティング a (火 1)	担当者	E.J.ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning to write in a foreign language takes time, but it is very satisfying to be able to communicate your ideas in writing. The purpose of this course is to refine the skills acquired in the Basic Essay Writing course. Each student has a different level of skill in writing, but the only way to improve writing skills is to write. The course will introduce and give practice in collecting, organizing and presenting information in an academic environment.	1. Introduction to the course 2. Choosing topics 3. Critical reading 4. Summary 1 5. Summary 2 6. Book reports 7. Academic vocabulary 8. Choosing a topic – outlining 9. Academic patterns 10. Evaluating the first draft – common errors 11. Evaluating the second draft 12. Writing a summary of the final product 13. Sharing the final product 14. Wrap up This syllabus may be modified to better suit student needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will provided by the instructor. I will recommend dictionaries on the first day.	Attendance, preparation and participation in class 45%; Assignments and final paper 55%.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Academic Writing (火 1) 英語エッセイ・ライティング b (火 1)	担当者	E.J.ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to further refine academic writing skills. The more students practice the more enjoyable writing will become. There will be a number of short writing assignments following up on class work so that students have an opportunity to get feedback from their classmates as well as from me. There will be a short report at the end of the course which will combine the academic skills introduced in the course.	1. Introduction to the course 2. Choosing topics 3. Library research skills 4. Organizing information 5. Avoiding plagiarism - References 6. Presenting research 7. Academic vocabulary 8. Academic writing patterns 9. Narrowing topics and outlining 10. Writing up the body of the paper 11. Peer evaluation 12. Introductions and conclusions 13. Peer evaluation 14. Sharing the final product This syllabus may be modified to better suit student needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will provided by the instructor. I will recommend dictionaries on the first day.	Attendance, preparation and participation in class 45%; Assignments and final paper 55%.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Academic Writing (火 2) 英語エッセイ・ライティング a (火 2)	担当者	E.J.ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to give students an opportunity to improve their academic writing skills by producing a short paper on a topic of their choice in English at the end of the semester. This course is aimed at students who enjoy writing and who have had some experience of writing in English.	1. Introduction to the course 2. The structure of papers in English 3. Research skills 4. Critical summary writing 1 5. Critical summary 2 6. Avoiding plagiarism 7. References, quotation and citation 8. Narrowing topics and outlining 9. Academic writing patterns 10. Introductions and conclusions 11. Peer evaluation 12. Common errors in English 13. Writing summaries of papers 14. Sharing the final paper This syllabus may be modified to better suit student needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will provided by the instructor. I will recommend dictionaries on the first day.	Attendance, preparation and participation in class 45%; Assignments and final paper 55%.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Academic Writing (火 2) 英語エッセイ・ライティング b (火 2)	担当者	E.J. ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to give students an opportunity to further improve their academic writing skills by producing a short paper on a topic of their choice in English at the end of the semester. This course is aimed at students who enjoy writing and have had some experience of writing in English.	1. Introduction to the course 2. The structure of papers in English 3. Research skills 4. Critical summary writing 1 5. Critical summary writing 2 6. Avoiding plagiarism 7. References, quotation and citation 8. Narrowing topics and outlining 9. Academic writing patterns 10. Introductions and conclusions 11. Peer evaluation - redrafting 12. Common errors in English 13. Peer evaluation - Writing summaries of papers 14. Sharing the final paper This syllabus may be modified to better suit student needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will provided by the instructor. I will recommend dictionaries on the first day.	Attendance, preparation and participation in class 45%; Assignments and final paper 55%.

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティングa	担当者	Ed. Franco

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to achieve genuine communication for academic expression and writing. Most importantly, we hope to have fun improving our writing skills in order to help build the confidence and knowledge necessary for academic life. Students will analyze model writings, process their ideas into sentences and paragraphs looking for self-improvement. We will work on the skill of self-expression through many personalized activities as well as reviewing basic structures.	Week 1: Introduction Week 2: Chapter # 1 Week 3: Chapter # 1 Week 4: Chapter # 2 Week 5: Chapter # 2 Week 6: Chapter # 2 Week 7: Chapter # 3 Week 8: Chapter # 3 Week 9: Chapter # 3 Week 10: Chapter # 4 Week 11: Chapter # 4 Week 12: Chapter # 4 Week 13: Chapter # 5 Week 14: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Meyers, A., Gateways to Academic Writing. Pearson Longman.	Assessment will be based on attendance, class participation and the writing of a number of papers.

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティングb	担当者	Ed. Franco

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to achieve genuine communication for academic expression and writing. Most importantly, we hope to have fun improving our writing skills in order to help build the confidence and knowledge necessary for academic life. Students will analyze model writings, process their ideas into sentences and paragraphs looking for self-improvement. We will work on the skill of self-expression through many personalized activities as well as reviewing basic structures.	Week 1: Introduction Week 2: Chapter # 5 Week 3: Chapter # 5 Week 4: Chapter # 6 Week 5: Chapter # 7 Week 6: Chapter # 7 Week 7: Chapter # 7 Week 8: Chapter # 8 Week 9: Chapter # 8 Week 10: Chapter # 8 Week 11: Chapter # 8 Week 12: Chapter # 9 Week 13: Chapter # 9 Week 14: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Meyers, A., Gateways to Academic Writing. Pearson Longman.	Assessment will be based on attendance, class participation and the writing of a number of papers.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	J.Gray

講義目的、講義概要	授業計画
The prerequisite for this course is Paragraph Writing and Basic Essay Writing, no basics will be covered. In this course, we will attempt to produce an introductory academic composition according to the following schedule basically adhering to the chronological leading up to the development of the final draft Everything we will be covering from week to week (other than topic selection) will be needed to continue building the paper, paragraph by paragraph and point by point. In other words, you will need brainstorming for each main point, library research will be ongoing, and the collection and synthesizing of information will be constant. Goal: One 1000 word or more paper.	1. Course Introduction / Brainstorming and topic selection, Plagiarism 2. Library and On-line Research Skills, Using Electronic Data Base 3. Collecting and Synthesizing Information 4. First Draft Due Tuesday evening 9 pm by email Hard Copy Due in class today. 5. Peer Evaluation 6. Second Draft Due Tuesday evening 9 pm by email. Hard Copy Due in class today. 7. Peer Evaluation/Preparation for final draft. 8. Finishing the final draft. 9. Peer Evaluation 10. Final Draft Due Tuesday evening 9 pm by email 11. Writing a summary of the final product. 12. Final Powerpoint Presentation Day 1 13. Final Powerpoint Presentation Day 2 14. Wrap-up of this semester's work. **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
MLA Formatting and Style Guide, Purdue University http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/557/01/ Electronic Submission dokkyoacademicwriting@gmail.com	Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, participation, homework, final draft, and final presentation.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	J.Gray

講義目的、講義概要	授業計画
The prerequisite for this course is Paragraph Writing and Basic Essay Writing, no basics will be covered. In this course, we will attempt to produce an introductory academic composition according to the following schedule basically adhering to the chronological leading up to the development of the final draft Everything we will be covering from week to week (other than topic selection) will be needed to continue building the paper, paragraph by paragraph and point by point. In other words, you will need brainstorming for each main point, library research will be ongoing, and the collection and synthesizing of information will be constant. Goal: One 1000 word or more paper.	1. Course Introduction / Brainstorming and topic selection, Plagiarism 2. Library and On-line Research Skills, Using Electronic Data Base 3. Collecting and Synthesizing Information 4. First Draft Due Tuesday evening 9 pm by email Hard Copy Due in class today. 5. Peer Evaluation 6. Second Draft Due Tuesday evening 9 pm by email. Hard Copy Due in class today. 7. Peer Evaluation/Preparation for final draft. 8. Finishing the final draft. 9. Peer Evaluation 10. Final Draft Due Tuesday evening 9 pm by email 11. Writing a summary of the final product. 12. Final Powerpoint Presentation Day 1 13. Final Powerpoint Presentation Day 2 14. Wrap-up of this semester's work. **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
MLA Formatting and Style Guide, Purdue University http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/557/01/ Electronic Submission dokkyoacademicwriting@gmail.com	Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, participation, homework, final draft, and final presentation.

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	J.N.Wendel

講義目的、講義概要	授業計画
This is a continuation of the Academic Writing course from the Spring semester. For this semester, after a brief review period, students will write two extended essays. Each essay will be of around 1000 words in length. Each essay will be turned in with the student's portfolio which will include all the student's drafts, outlines, notes, and source materials. Students will be expected to carry out their own independent research for their essays using library and internet resources. The first topic for the and extended essay will be assigned by the teacher; the second topic will be chosen by each student. In addition to writing, students will be expected to read and analyze a series of essays both for structure and content.	Week 1 Orientation Weeks 2-3 Article #1 Weeks 4-5 Article #2 Weeks 6-7 Article #3 Weeks 8-9 Article #4 Weeks 10-11 Article #5 Weeks 12-13 Article #6 Week 14 Final quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set text for this course. Students will be given a variety of handouts and reading throughout the course.	Participation 20% Assignments 60% Test 20%

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	J.N.Wendel

講義目的、講義概要	授業計画
This is a continuation of the Academic Writing course from the Spring semester. For this semester, after a brief review period, students will write two extended essays. Each essay will be of around 1000 words in length. Each essay will be turned in with the student's portfolio which will include all the student's drafts, outlines, notes, and source materials. Students will be expected to carry out their own independent research for their essays using library and internet resources. The first topic for the and extended essay will be assigned by the teacher; the second topic will be chosen by each student. In addition to writing, students will be expected to read and analyze a series of essays both for structure and content.	Week 1 Orientation Weeks 2-3 Review—the five-paragraph essay Weeks 4-6 Extended essay #1 Weeks 7-12 Extended essay #2 Week 13 Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set text for this course. Students will be given a variety of handouts and reading throughout the course.	Participation 20% Assignments 60% Test 20%

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	J.Waldman

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.	1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. Diagnostic writing and Chapter 1 3. Prewriting techniques, peer editing: Chapter 2. 4. Review of paragraph basics, organizing a process essay: Chapter 4. 5. Organizing and expressing opinions, using transitions: Chapter 5 6. Quiz covering the first 5 Chapters of the textbook. 7. Organizing a five paragraph comparison / contrast essay: Chapter 6. 8. Describing and analyzing the steps in the problem / solution essay: Chapter 7 9. In – class timed comparison / contrast essay. 10. Review of structure of the five paragraph essay: Chapter 8. 11. Editing the essay for unity and coherence. 12. Writing summaries: Chapter 11. 13. Examples of the five paragraph essay with a review of common errors for preparation for final essay. . 14. Final in-class essay.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Success With College Writing Dorothy E. Zemach Lisa A. Rumisek Publisher –Macmillan Languagehouse	Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays..

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	J. Waldman

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.	1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. Diagnostic writing and Chapter 1 3. Prewriting techniques, peer editing: Chapter 2. 4. Review of paragraph basics, organizing a process essay: Chapter 4. 5. Organizing and expressing opinions, using transitions: Chapter 5 6. Quiz covering the first 5 Chapters of the textbook. 7. Organizing a five paragraph comparison / contrast essay: Chapter 6. 8. Describing and analyzing the steps in the problem / solution essay: Chapter 7 9. In – class timed comparison / contrast essay. 10. Review of structure of the five paragraph essay: Chapter 8. 11. Editing the essay for unity and coherence. 12. Writing summaries: Chapter 11. 13. Examples of the five paragraph essay with a review of common errors for preparation for final essay. . 14. Final in-class essay.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Success With College Writing Dorothy E. Zemach Lisa A. Rumisek Publisher –Macmillan Languagehouse	Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	K. Meehan

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to refine students' ability to write academic essays (e.g. persuasive,informative or analytical) and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse. Students will also learn how to collect and organize information,synthesize this,and quote from sources. Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes.	1. Course Introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. Organization 4. Collecting and synthesizing information 5. Paragraph to short essay 6. Descriptive essay 7. Narrative essay 8. Opinion essay 9. Peer evaluation 10. Writing final draft 11. Comparison and contrast essay 12. Paraphrasing 13. Bibliography 14. Final Examination
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook is to be announced	Evaluation will be based on attendance, assignments, and final examination.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	L.K. Hawkins

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to provide the students with a firm foundation in how to write a well structured, organized essay. We will focus on topic sentences, body paragraphs and conclusions. By the end of the course, the students should a clear understanding of what is necessary for a well-structured, university level essay.	1. Introduction and orientation 2-4 Essay #1 “Your turning point” 5-8 Essay #2 “Personal Opinion: Domestics/International 9-13 Movie Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text will be used in this class. All materials will be provided by the teacher.	Attendance, Participation, Essays

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	M.Hood

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice. Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis. One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: Summarizing Week 3: Summary Workshop Week 4: Responding Week 5: Responding Week 6: Response Workshop Week 7: Textual Analysis Week 8: Textual Analysis Week 9: Textual Analysis Workshop Week 10: Comparison & Contrast Week 11: Comparison & Contrast Week 12: Comparison & Contrast Week 13: Comparison & Contrast Workshop Week 14: Final
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text for this class, but students should bring a dictionary each week.	Grades will be based on participation and written assignments.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	M.Hood

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice. Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis. One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: Cause & Effect Week 3: Cause & Effect Week 4: Cause & Effect Workshop Week 5: Cause & Effect Workshop Week 6: Research Skills Week 7: Documentation & Plagiarism Week 8: Evaluating Sources Week 9: Problem Solving Week 10: Problem Solving Week 11: Problem Solving Week 12: Problem Solving Workshop Week 13: Problem Solving Workshop
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text for this class, but students should bring a dictionary to class each week.	Grades will be determined based on participation and written assignments.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	R.Durham

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to learn to: a) write grammatically-correct English sentences; b) communicate and explain, verbally and also in written English, about a variety of International topics, using "EQ" (Emotional Intelligence); c) write English paragraphs that effectively explain/discuss a wide range of topics, from an ***International*** point of view; d) (depending on student abilities & desires) research and write compostions about academic (university level) topics; and e) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively in English writing (and in English conversations as well).	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival　days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Writing about your part-time job. Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn &　study (especially with respect to **international** communication).* English re-writing exercises (changing 'Wasei Eigo' sentences to correct English grammar and sentences.) Week 3: Writing about your ***plans for Golden Week*** (including elaborating (explaining) about your plans. Week 4: ***"How was your Golden Week?"*** writing about what you did, during Golden Week. English re-writing exercises. Continuous assessments. Week 5: Writing and explaining about your plans for **Mother's Day**. Writing about your mother...in ***English paragraph format***. Week 6: **Writing to express your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion and writing about News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 7: Writing to expressing your opinions, part two. Ongoing assessments. Re-writing exercises. Week 8: Writing (and talking) about your **hobbies**, with elaboration thereof. Week 9: (Perhaps Student research/writing/discussion about a variety of themes which they choose, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest.) Continuous assessment. ,Week 10: **"What kind of _____ do you like?"**: Discussing and writing about **music, movies, magazines, TV shows, books, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Week 11: International News exercise, and/or video exercise, with writing & discussion about that. Re-writing exercises. Week 12: Writing, discussing, and elaborating about **future plans/career goals**. Continuous assessments. Week 14: Discussing, writing, and explaining about **plans for your Summer Break.** Re-writing exercises.

テキスト、参考文献	評価方法
To stimulate our writing and imagination, we may be using some videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, some songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **write/speak/elaborate** (explain)**/communicate** in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on.Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes***, for ***any*** reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course* (**One late = 1/2 absence**); c) if you are late/absent, and somehow miss submiting and assignment/homework, please make sure to e-mail that assignment/homework to your teacher, *before* the deadline.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング　b	担当者	R.Durham

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to learn to: a) write grammatically-correct English sentences; b) communicate and explain, verbally and also in written English, about a variety of International topics, using "EQ" (Emotional Intelligence); c) write English paragraphs that effectively explain/discuss a wide range of topics, from an ***International*** point of view; d) (depending on student abilities & desires) research and write compostions about academic (university level) topics; and e) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively in English writing (and in English conversations as well).	(* Note: This is a *tentative* schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival　days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Discussing/communicating/writing/elaborating about your ***Summer Break***., using correct modern English. Continuous assessment. Week 2: **"What do you usually do ...?"**: discussing, communicating, and writing about ***your usual activities***. English re-writing exercises (changing 'Wasei Eigo' sentences to grammatically- & cuturally-correct English sentences.) Week 3: "What do you usually do...?, part two. Writing about your usual practices on holidays/weekends/weeknights. Perhaps selecting a research topic for writing. Week 4: **"What's it like?"**: discussing and writing, to ***describe places, people, and things***, in grammatically-correct English. Re-writing exercises. Week 5: **Hallowe'en**: researching, discussing, and writing about this international 'festival'. Parts of a Hallowe'en video might be shown, to stimulate the imagination. Ongoing assessments. Week 6: **"If you went to a Hallowe'en party, what would you dress up as?"**: using your imaginative abilities to write about a possible Hallowe'en costume, and what you would do at such a party. Week 7: Choosing a country and *Fall/Winter festival* about which to write. Re-writing exercises. Week 8: Research, discussion, and writing about **Thanksgiving**. (A Song-listening exercise may be used, to stimulate discussion & writing.). Writing to answer the question, "*What are you thankful for?"* Week 9: Thanksgiving, part two: continuing to write about what you are thankful for. Continuous assessments. Week 10: Editing your composition about a Fall/Winter festival. Re-writing exercises. Week 11: **"What are your plans for Christmas?"**: discussing and writing about your plans for Christmas.(A Christmas song exercise may be introduced, in order to stimulate thinking/discussion/writing.) Week 12: Christmas writing & discussion, part two. (Parts of a Christmas video may be shown, in order to assist students to imagine Christmas possibilities.) Continuous assessments. Week 13: Finalizing your composition about a Fall/Winter festival. Re-writing exercises. Week 14: Discussion & writing about **plans for 'O Sho Gatsu'**. Continuous assessment, and final submission of Fall/Winter festival composition.

テキスト、参考文献	評価方法
To stimulate our writing and imagination, we may be using some videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, some songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **write/speak/elaborate** (explain)**/communicate** in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes***, for ***any*** reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course* (**One late = 1/2 absence**); c) if you are late/absent, and somehow miss submiting and assignment/homework, please make sure to e-mail that assignment/homework to your teacher, *before* the deadline.

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティングa	担当者	T. J. Fotos

講義目的、講義概要	授業計画
第1回目の授業時にアナウンスします。	第1回目の授業時にアナウンスします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示をする	開講時に指示をする

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティングb	担当者	T. J. Fotos

講義目的、講義概要	授業計画
第1回目の授業時にアナウンスします。	第1回目の授業時にアナウンスします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示をする	開講時に指示をする

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	Martin Darling

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this class is to help students develop the skill of academic writing by learning how to construct an essay. The focus will be on the organization and presentation of ideas, and the clarity and intelligibility of the English itself. The typical class will usually consist of a short lecture, followed by the presentation and analysis of a model writing. The class will be taught entirely in English. Students will be expected to use English to discuss their own writing and model essays which will be analyzed in the class. Ample opportunities will be provided for students to revise their writings and for sharing them in class with their peers. By the end of this course, students will be more competent writers and better understand the process of writing academic essays.	Week1: Course Introduction Week 2: Prewriting activities and Brainstorming Week 3: Writing an introduction Week 4: Developing supporting details Week 5: Writing a conclusion Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an essay outline Week 8: Brainstorming topics Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting other sources; writing task Week 11: Using statistics; writing task Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due Week 14: Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Photocopies will be provided by the instructor.	Students will be evaluated on attendance, active participation, writing assignments and their progress in writing.

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	Martin Darling

講義目的、講義概要	授業計画
Points for further consideration: ・ Students will need an English-English dictionary ・ Students will be required to have a notebook	Week1: Course Introduction Week 2: Prewriting activities and Brainstorming Week 3: Writing an introduction Week 4: Developing supporting details Week 5: Writing a conclusion Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an essay outline Week 8: Brainstorming topics Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting other sources; writing task Week 11: Using statistics; writing task Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due Week 14: Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Photocopies will be provided by the instructor.	Students will be evaluated on attendance, active participation, writing assignments and their progress in writing.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	翻訳 翻訳 a	担当者	小西　康夫

講義目的、講義概要	授業計画
目的は 翻訳実践演習(英語→日本語／日本語→英語) この授業を受けても、すぐに翻訳家になれないのは言うまでもない。それは翻訳するのには、やはり適性があるようで、それを見つけるのに役立てば、この授業を受けた甲斐があるというものである。 その適正を見つけるのに一番必要なのは、たゆまぬ努力で、翻訳はいかに難しく、またやりがいがあるのかをみつけるのも、努力する以外ほかにない。 授業は講義だけではなく演習中心に行う。 楽勝コースではない。自ら重荷を負いたい学生向きである。 欠席が 4 回で不合格となる。	第一回　英文和訳と翻訳 第二回　翻訳英文法 第三回　翻訳演習 第四回　翻訳演習 第五回　翻訳演習 第六回　翻訳演習 第七回　翻訳演習 第八回　翻訳演習 第九回　翻訳演習 第十回　　翻訳演習 第十一回　翻訳演習 第十二回　翻訳演習 第十三回　翻訳発表 第十四回　翻訳テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示	出席率＋翻訳添削＋前期試験

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	翻訳 翻訳 b	担当者	小西　康夫

講義目的、講義概要	授業計画
目的は　翻訳実践演習（英語→日本語／日本語→英語） 概要は前期と同じであるが、扱う教材は状況によるが、学生諸君の英語力、日本語力に比例する。欠席が 4 回で脱落。同様に楽勝科目ではない。	前期の授業計画参照。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で提示	出席率＋翻訳添削＋後期試験

06～08年度（春） 03～05年度（春）	翻訳　（火４） 翻訳 a （火４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、主に子供向きの読み物の抜粋(200 ワード程度)を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。	1、 英語の規則　Ⅰ「アンドとカンマ」 2、 英語の規則　Ⅱ「記号と掛かり方」 3、 児童文学「幸福の王子」Ⅰ 4、 児童文学「幸福の王子」Ⅱ 5、 詩「メリーちゃんのひつじ」 6、 詩「虹のうた」 7、 ミュージカル「オクラホマ」 8、 ロマンス小説「サラの冒険」Ⅰ 9、 ロマンス小説「「サラの冒険」Ⅱ 10、伝記「吉田寅治郎」Ⅰ 11、伝記「吉田寅治郎」Ⅱ 12、歴史「ギロチン」 13、児童文学「足長おじさん」Ⅰ 14、児童文学「足長おじさん」Ⅱ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師の手作り。初回時に渡します。 参考文献はありません。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤よみやすい日本語か、を見ます。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	翻訳　（火４） 翻訳 b （火４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座では、さまざまな分野の書籍の冒頭部分を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。	1、 古代の芸術 2、 二都物語 3、 アニマル・ヒーリング 4、 バーブラ・ストライサンド 5、 欲望の科学 6、 重力の話 ほか。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師の手作り。初回時に渡します。 参考文献はありません。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤よみやすい日本語か、を見ます。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	翻訳　　（木３） 翻訳 a　（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、主に子供向きの読み物の抜粋(200 ワード程度)を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。	1、 英語の規則　Ⅰ「アンドとカンマ」 2、 英語の規則　Ⅱ「記号と掛かり方」 3、 児童文学「幸福の王子」Ⅰ 4、 児童文学「幸福の王子」Ⅱ 5、 詩「メリーちゃんのひつじ」 6、 詩「虹のうた」 7、 ミュージカル「オクラホマ」 8、 ロマンス小説「サラの冒険」Ⅰ 9、 ロマンス小説「「サラの冒険」Ⅱ 10、伝記「吉田寅治郎」Ⅰ 11、伝記「吉田寅治郎」Ⅱ 12、歴史「ギロチン」 13、児童文学「足長おじさん」Ⅰ 14、児童文学「足長おじさん」Ⅱ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師の手作り。初回時に渡します。 参考文献はありません。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤よみやすい日本語か、を見ます。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	翻訳　　（木３） 翻訳 b　（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座では、さまざまな分野の書籍の冒頭部分を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。	1、 古代の芸術 2、 二都物語 3、 アニマル・ヒーリング 4、 バーブラ・ストライサンド 5、 欲望の科学 6、 重力の話 ほか。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師の手作り。初回時に渡します。 参考文献はありません。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤よみやすい日本語か、を見ます。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	翻訳 翻訳 a	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を明らにし、翻訳の限界と可能性について実践的に探ります。 翻訳では、原文を的確な英語あるいは日本語に置き換える際に、目的や状況などを考慮する必要があります。また、翻訳語の字数やリズムについても工夫が求められる場合もあります。 授業では、主として文系英文および和文（新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品）などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。 コトバの意味と音に関心のある学生を求めます。	第１回　ガイダンス　辞書について 第２回　翻訳の難しさと面白さについて 第３回　機械翻訳の可能性について 第４回　翻訳の実例比較検討 第５回　復習テスト 第６～１３回 学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換 第１４回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定する。なお、４回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	翻訳 翻訳 b	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。 授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。 なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。 また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。	第１回前期テストの講評および後期授業のガイダンス 第２回日英および英日翻訳の実例検討　その１ 第３回日英および英日翻訳の実例検討　その２ 第４～６回 プレゼンテーションおよびディスカッション 第７回復習テスト 第８～１３回 プレゼンテーションおよびディスカッション 第１４回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定する。なお、４回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	翻訳 翻訳 a	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
文学作品や各種のエッセイや時事英語などを英文から日本文に翻訳します。日本語の特徴をよく生かした自然な日本文にする訓練、研究をします。授業は下準備を面倒がらずに必ずしておくことが不可欠です。そして自分の意見や質問や解釈があれば、それを率直に述べてくれれば、授業が生き生きしますから歓迎します。 英文を正確に読解する能力、読解した内容を適切に日本語に移し替える能力、その日本語も、達意の明快な文章が使えるようでないといけません。良い翻訳はしたがって日本語の語彙を広げること、文体に関する研究が要求されます。 翻訳の基礎には勿論英語の読解力の基本がしっかりしていて、その能力を伸ばす強い意欲を持っていないといけません。翻訳は購読とははっきり違います。その自覚を持たずに漫然と授業を受ける学生が少なくないのですが、それでは授業もあまり身につきません。 教材には基礎的な能力養成に欠かせない語彙、文章構造を多く含んでいて、親しみやすいもの使ってゆきます。 平常点を重視しますから遅刻が多いようでは熱意のほどが疑われます。	最初の授業時に翻訳の心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。	平常点、提出物、出席を総合評価する。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	翻訳 翻訳 b	担当者	藤田　永祐

(講義目的、講義概要	授業計画
文学作品や各種のエッセイや時事英語などを英文から日本文に翻訳します。日本語の特徴をよく生かした自然な日本文にする訓練、研究をします。授業は下準備を面倒がらずに必ずしておくことが不可欠です。そして自分の意見や質問や解釈があれば、それを率直に述べてくれれば、授業が生き生きしますから歓迎します。 英文を正確に読解する能力、読解した内容を適切に日本語に移し替える能力、その日本語も、達意の明快な文章が使えるようでないといけません。良い翻訳はしたがって日本語の語彙を広げること、文体に関する研究が要求されます。 翻訳の基礎には勿論英語の読解力の基本がしっかりしていて、その能力を伸ばす強い意欲を持っていないといけません。翻訳は購読とははっきり違います。その自覚を持たずに漫然と授業を受ける学生が少なくないのですが、それでは授業もあまり身につきません。 教材には基礎的な能力養成に欠かせない語彙、文章構造を多く含んでいて、親しみやすいもの使ってゆきます。 平常点を重視しますから遅刻が多いようでは熱意のほどが疑われます。	最初の授業時に翻訳の心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。	平常点、提出物、出席を総合評価する。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	翻訳 翻訳 a	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。 春学期は Sandra Cisneros 著 *Woman Hollering Creek and Other Stories* をテキストとして使用します。これはアメリカに住むメキシコ系移民たちの物語ですが、感受性豊かな少女の視点の語り口は詩的であり、読者の想像力をかきたてます。平易な言葉だが翻訳しがいのある作品です。翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。 授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出していきましょう。 辞書は必ず持参。忘れたら欠席とします。	1. イントロダクション 2－14. 演習 各章が短いので、毎回 1、2 章程度訳していきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。 Sandra Cisneros 著 *Woman Hollering Creek and Other Stories*. Vintage Contemporaries, 1992.	授業内の提出課題、参加度、レポートの総合評価。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	翻訳 翻訳 b	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同様のスタイルで、授業を進めます。テキストも同じものを使用する予定ですが、場合によっては他の作家の文章を訳し、言葉・語り手の口調等の違いを体験してみることもあるでしょう。	1. イントロダクション 2－14. 演習 各章が短いので、毎回 1、2 章程度訳していきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。 Sandra Cisneros 著 *Woman Hollering Creek and Other Stories*. Vintage Contemporaries, 1992.	授業内の提出課題、参加度、レポートの総合評価。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義では、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、同時に更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ(授業計画1～6参照)。次に、文を構成する各要素について学ぶ(授業計画7～14参照)。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。しかし、予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。	1. 文 2. 主部 3. 述語動詞Ⅰ 4. 述語動詞Ⅱ 5. 文型 6. 文の種類 7. 名詞 8. 冠詞 9. 形容詞 10. 副詞 11. 動詞 12. 助動詞 13. 接続詞 14. 前置詞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔 (1986) A Shorter Guide to English Grammar 開拓社 参考文献：安井稔 (1996)『英文法総覧（改訂版）』開拓社	出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の２／３以上の出席が必要である。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義では、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、同時に更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 秋学期は、時制と構文について学習する。まず、時制について学ぶ（授業計画１～５参照)。次に、各構文について学ぶ（授業計画６～１４参照)。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。しかし、予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。	1. 時制 2. 呼応と時制の一致 3. 態 4. 仮定法 5. 話法 6. 不定詞 7. 分詞 8. 動名詞 9. 比較 10. 否定 11. 注意すべき主語 12. 名詞・形容詞を中心とする構文 13. 強調 14. 省略
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔 (1986) *A Shorter Guide to English Grammar* 開拓社 参考文献：安井稔 (1996) 『英文法総覧（改訂版）』開拓社	出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の２／３以上の出席が必要である。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文（1） 4・移動が関与する構文（2） 5・移動が関与する構文（3） 6・補部と付加部の区別（1） 7・補部と付加部の区別（2） 8・補部と付加部の区別（3） 9・条件の副詞節（1） 10・条件の副詞節（2） 11・Be 動詞の機能（1） 12・Be 動詞の機能（2） 13・Be 動詞の機能（3） 14・総復習 ※講義順序を変更する場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店	出席率、授業参加率、試験の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性（1） 4・解釈の曖昧性（2） 5・解釈の曖昧性（3） 6・SVOC 構文の下位区分（1） 7・SVOC 構文の下位区分（2） 8・SVOC 構文の下位区分（3） 9・一般動詞の意味特性（1） 10・一般動詞の意味特性（2） 11・一般動詞の意味特性（3） 12・情報構造（1） 13・情報構造（2） 14・総復習 ※講義順序を変更する場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店	出席率、授業参加率、試験の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
英文法に対する理解を深めること及び英文法に対する理解の深め方を修得することを目的とする。学期末には，暗記の対象としてではなく，発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目標としたい。また，英語と日本語の比較を通して，多くのものにとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。 授業では，下記のテキストの第 1 章「動詞句の分類と意味」から第 2 章「あいまい性と意味」の前半部分の内容を講義する予定である。	第 1 回 オリエンテーション（出席は必須） 第 2 回～第 7 回 動詞句の分類と意味 第 8 回～第 13 回 あいまい性と意味 第 14 回 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉川洋・友繁義典（2008） 『入門講座 英語の意味とニュアンス』 大修館書店	定期試験の結果により評価する。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
英文法に対する理解を深めること及び英文法に対する理解の深め方を修得することを目的とする。学期末には，暗記の対象としてではなく，発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目標としたい。また，英語と日本語の比較を通して，多くのものにとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。 授業では，下記のテキストの第 2 章「あいまい性と意味」の後半部分から第 3 章「類似表現と意味」の内容を講義する予定である。	第 1 回 オリエンテーション（出席は必須） 第 2 回～第 7 回 あいまい性と意味 第 8 回～第 13 回 類似表現と意味 第 14 回 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉川洋・友繁義典（2008） 『入門講座 英語の意味とニュアンス』 大修館書店	定期試験の結果により評価する。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	College Grammar （金２） カレッジ・グラマー a （金２）	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 読み・書き・話し・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする. **講義概要**: 英文法を学習する際に, トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である. 文全体から句, 句から語というような方式をとりながら, 春学期ではまず, 英文法の基本的な事項のうち, 文というものはどのようなものがあるかを考える. 文は基本的な文, 拡張的な文, 派生的な文の三種類に分けられ, 基本的な文は5文型によって説明し, 拡張的な文は一つの文に二つ以上の節（主語＋述語）を含む文であり, 重文や複文として学習する. さらに, 文の種類として, 疑問文, 感嘆文, 命令文などを学習する. それを踏まえて, 名詞, 形容詞, 副詞などを扱う. **※金4と授業内容が同じため、同時履修不可**	1. 文:主部を欠く文,「主部 + 述部」, 節・句・語 2. 主部:主部の要素と述部の要素 3. 文型:5文型, 5文型の拡張, 7文型 4. 述語動詞:述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 5. 述語動詞:自動詞型, 他動詞型, 他動詞型の述部 6. 文の種類:中心文型の文, 文の種類, 重文と複文 7. 文の種類:疑問文, 感嘆文, 命令文, 否定文 8. 名詞, 名詞の種類, 可算名詞の単数・複数形, 不可算名詞, 集合名詞, 名詞の複数形, 名詞の所有格 9. 代名詞, 代名詞の種類, 人称代名詞, 再帰代名詞 10. 指示代名詞, 疑問代名詞, 不定代名詞 11. 形容詞, 形容詞の用法, 形容詞の語順, 数詞 12. 冠詞, 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法 13. 副詞, 副詞の種類, 副詞の用法, 副詞の位置 14. 助動詞, 助動詞の用法
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar* (開拓社)　**参考書：安井稔**(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)	出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	College Grammar （金２） カレッジ・グラマー b （金２）	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的:（春学期と同じ） 読み・書き・話し・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする. **講義概要**:（春学期の続き） 秋学期ではまず, 不定詞・分詞・動名詞を学習する. 不定詞と動詞の ing 分詞（いわゆる現在分詞）には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する. 次に, 関係代名詞, 関係副詞を学習する. また, 英語の文の構成に重要な, 時制, 比較表現, 否定表現, 強調表現, 仮定法の用法を学習する. さらに, 複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する. 最後に, 強調・省略・挿入といった言語表現の情報構造に関わる構文を学習する. **※金4と授業内容が同じため、同時履修不可**	1. 不定詞 2. 分詞, 動名詞 3. 関係代名詞, 関係副詞 4. 時制:現在時制の用法, 過去時制の用法 5. 現在完了の用法, 過去完了の用法 6. 進行形の用法 7. 能動態と受動態 8. 呼応と時制の一致 9. 仮定法, 直説法と仮定法, to 不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現 10. 話法, 直接話法と間接話法 11. 比較, 原級の用法, 比較級の用法, 最上級の用法 12. 否定, 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定 13. 文の主語と情報構造, 14. 強調, 省略・挿入
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar* (開拓社)　**参考書：安井稔**(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)	出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	College Grammar （金４） カレッジ・グラマー a （金４）	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 読み・書き・話し・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする. **講義概要**: 英文法を学習する際に, トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である. 文全体から句, 句から語というような方式をとりながら, 春学期ではまず, 英文法の基本的な事項のうち, 文というものはどのようなものがあるかを考える. 文は基本的な文, 拡張的な文, 派生的な文の三種類に分けられ, 基本的な文は5文型によって説明し, 拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語＋述語)を含む文であり, 重文や複文として学習する. さらに, 文の種類として, 疑問文, 感嘆文, 命令文などを学習する. それを踏まえて, 名詞, 形容詞, 副詞などを扱う. **※金2と授業内容が同じため、同時履修不可**	1. 文:主部を欠く文,「主部 + 述部」, 節・句・語 2. 主部:主部の要素と述部の要素 3. 文型:5文型, 5文型の拡張, 7文型 4. 述語動詞:述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 5. 述語動詞:自動詞型, 他動詞型, 他動詞型の述部 6. 文の種類:中心文型の文, 文の種類, 重文と複文 7. 文の種類:疑問文, 感嘆文, 命令文, 否定文 8. 名詞, 名詞の種類, 可算名詞の単数・複数形, 不可算名詞, 集合名詞, 名詞の複数形, 名詞の所有格 9. 代名詞, 代名詞の種類, 人称代名詞, 再帰代名詞 10. 指示代名詞, 疑問代名詞, 不定代名詞 11. 形容詞, 形容詞の用法, 形容詞の語順, 数詞 12. 冠詞, 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法 13. 副詞, 副詞の種類, 副詞の用法, 副詞の位置 14. 助動詞, 助動詞の用法
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar* (開拓社)　**参考書：安井稔**(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)	出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	College Grammar （金４） カレッジ・グラマー b （金４）	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的:（春学期と同じ） 読み・書き・話し・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする. **講義概要**:（春学期の続き） 秋学期ではまず, 不定詞・分詞・動名詞を学習する. 不定詞と動詞の ing 分詞(いわゆる現在分詞)には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する. 次に, 関係代名詞, 関係副詞を学習する. また, 英語の文の構成に重要な, 時制, 比較表現, 否定表現, 強調表現, 仮定法の用法を学習する. さらに, 複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する. 最後に, 強調・省略・挿入といった言語表現の情報構造に関わる構文を学習する. **※金2と授業内容が同じため、同時履修不可**	1. 不定詞 2. 分詞, 動名詞 3. 関係代名詞, 関係副詞 4. 時制:現在時制の用法, 過去時制の用法 5. 現在完了の用法, 過去完了の用法 6. 進行形の用法 7. 能動態と受動態 8. 呼応と時制の一致 9. 仮定法, 直説法と仮定法, to 不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現 10. 話法, 直接話法と間接話法 11. 比較, 原級の用法, 比較級の用法, 最上級の用法 12. 否定, 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定 13. 文の主語と情報構造, 14. 強調, 省略・挿入
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar* (開拓社)　**参考書：安井稔**(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)	出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 英文法は，英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである．文は語から構成され，複数の語が句を構成し，句が結合されて文となる．英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている．英語ができるようになるために，この授業では英文法を身に付けることを目的とする．さらに，英文法の実践的応用としてTOEICの文法問題を練習し，その解説を行う． **講義概要**: 英文法を学習する際に，トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である．文全体から句，句から語というような方式をとりながら，春学期ではまず，英文法の基本的な事項のうち，文というものはどのようなものがあるかを考える．文は基本的な文，拡張的な文，派生的な文の三種類に分けられ，基本的な文は5文型によって説明し，拡張的な文は一つの文に二つ以上の節（主語＋述語）を含む文であり，重文や複文として学習する．さらに，文の種類として，疑問文，感嘆文，命令文，受動文，時制などを学習する． 定員を超える履修希望者がいる場合，受講者決定の4月10日前の4月8日（水）の第1回目から授業を行いますので，必ず出席してください．第1回目のテキストは準備します．	1. 文：主部を欠く文，「主部 + 述部」，節・句・語 2. 主部：主部の要素と述部の要素 3. 文型：5文型，5文型の拡張，7文型 4. 述語動詞（1）：述部，述語動詞の種類，等位叙述型，補語 5. 述語動詞（2）：自動詞型，自動詞・他動詞両用の動詞 6. 述語動詞（3）：他動詞型，他動詞型の述部 7. 文の種類（1）：文の種類，重文と複文 8. 文の種類（2）：疑問文，感嘆文 9. 文の種類（3）：命令文，否定文 10. 時制(1)：現在時制，過去時制 11. 時制(2)：現在完了形，過去完了形，進行形 12. 態（1）：能動態と受動態の区別 13. 態（2）：受動態の用法 14. 呼応と時制の一致：主語と動詞の一致
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社） **参考書**: 安井稔（1996)『英文法総覧（改訂版）』(開拓社)	出席状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる．

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的:（春学期と同じ） 英文法は，英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである．文は語から構成され，複数の語が句を構成し，句が結合されて文となる．英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている．英語ができるようになるために，この授業では英文法を身に付けることを目的とする．さらに，英文法の実践的応用としてTOEICの文法問題を練習し，その解説を行う． **講義概要**: 秋学期は，文構成に関わる，呼応や時制の一致，話法，否定，強調，省略，挿入などを含む文を扱う．さらに，時制を含まない節として，不定詞・分詞・動名詞を取り上げ，不定詞と動詞のing形には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があるとことを学習する．さらに，埋め込み文の一つとして関係詞節を学習する．最後に，文を構成する要素として，名詞・代名詞・形容詞・冠詞を学習する． 第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は，その場で選考する可能性がありますので，必ず出席してください．選考結果は当日中にお知らせします．	1. 呼応と時制の一致：時制の一致，時制の一致の例外 2. 話法(1)：直接話法と間接話法 3. 話法(2)：疑問文と命令文の間接話法 4. 比較：原級・比較級・最上級 5. 否定：部分否定と全体否定，否定語の位置，二重の否定 6. 情報構造，強調，省略，挿入 7. 非定形節(1)：不定詞 8. 非定形節(2)：分詞，動名詞 9. 関係詞節(1)：関係代名詞節 10. 関係詞節(2)：関係副詞節 11. 名詞：名詞の種類，名詞の形，名詞の特徴 12. 代名詞：代名詞の種類，代名詞の用法 13. 形容詞：形容詞の用法，形容詞の語順，数詞 14. 冠詞：不定冠詞，定冠詞，無冠詞の用法
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社） **参考書**: 安井稔（1996)『英文法総覧（改訂版）』(開拓社)	出席状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる．

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ英語学科の学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英文法の知識を身につけてもらうことである。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語という言語の規則性を探っていく習慣を身につけていく方法が、結局は効率の良い学習方法である、ということがわかるようになる。この授業では、テキストを基にした講義から、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたい。<下へ続く>	1. 現在と過去のコト 2. 未来のコト 3. 動詞で語るコト 4. 続き 5. 話し手の態度の表現（助動詞） 6. 続き（助動詞の過去形、副詞・形容詞） 7. 続き（助動詞の関連表現） 8. 表に出ない行為者（能動文と受動文） 9. 続き 10. HAVE, BE, ING のちから 11. 続き 12. 動詞の共演者と構文タイプ 13. 続き 14. 続き
テキスト、参考文献	**評価方法**
田中茂範『NHK 新感覚☆わかる使える英文法　文法がわかれば英語はわかる！』日本放送出版協会	定期試験と課題とオンライン学習の成果、および授業における参加度による。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
<上からの続き> 表現する主体（話し手もしくは書き手）と文法とはけして無関係ではないという立場から、表現主体を中心に英文法を考える。そして、表現主体が周りの世界を以下に表現するかという観点からも英文法を見る。そして、「なぜそうは言えてもこうは言えないのか？」には意味的な動機付け(semantic motivation)がある。したがって、文法は「なぜそうなのか」という問にたいしてかなりの程度説明することができということになる。そうなるとつまり、英文法は納得しながら学ぶことができ、「現在完了形と過去形の違いは何か」「a と the の違いは何か」とか、同じコトを表すのに 'I'm standing on/in the street.'の使い分けができるようになる。	1. 形容詞を中心とした構文 2. 動詞の文法の総括 3. モノ（名詞）の文法 4. 続き 5. 修飾語とその配列順 6. あとから言い足していく語り方（後置修飾） 7. 続き 8. 代名詞と指示詞、そして名詞節 9. 続き 10. 副詞で状況を語る 11. 続き 12. さまざまな副詞表現 13. 仮想の状況を設定する 14. 情報の接続と論理
テキスト、参考文献	**評価方法**
春・秋学期ともに、朝日出版社のオンライン教材（u=CAT）を教室外の学習補助教材として使用します。したがって、キーボードとパソコン操作のできることが必要である。	定期試験と課題とオンライン学習の成果、および授業における参加度による。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが母国語で表現したものを字義通り英語に直そうとすると丸で英文にならないのは、誰しも経験することですが(英語を使っていて犯す間違いの実に 90 パーセント以上が日本語に引きずられることと関連しています)、フランス人やドイツ人の英語学習者の場合事情が相当異なります。独仏人などと違い日本人やトルコ人や韓国人が英語を使うときは、文法の実践的知識は不可欠なのです。文法をいくら詳細に覚えても英語を使えないのは事実ですが、ヒアリングをどれだけ訓練してもそれだけではやはりだめで、両方面の訓練が必要なのです。日本語と英語の発想は大きく違いますから(しかも単語・語句・文章それぞれのレベルで違いますから)それらをひとつひとつ比較検討する習慣を身につけること。内容のある英語を話し・書く能力を習得するには、それは不可欠な訓練なのです。従来の多くの学習法は、英語を一方的に日本語にひきつけるやり方ですが、これは日本語に囲まれて暮らす私たちにとって自然でやむを得ぬ方法ともいえます。今度は、英語にひきつけて日本語を捉える努力をしていくと、両方の言語について気づかなかったことがいろいろ分明して、運用能力向上に役立ちます。 　ときにテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組む予定です。	テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。また、テキストは中身を消化吸収するのが肝心ですから、その進行状況を最初から各章を14こまなり28こまなりに機械的に振り当てるわけにもいきません。テキストは全体が 24 章からなっていますが、易しい章は手短に、難しいが大切な章は時間をかけて進めてゆきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　『基礎から始める英作文』(*Scaffolding*)(成美堂) 参考文献	平素の小テストと平常点。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが母国語で表現したものを字義通り英語に直そうとすると丸で英文にならないのは、誰しも経験することですが(英語を使っていて犯す間違いの実に 90 パーセント以上が日本語に引きずられることと関連しています)、フランス人やドイツ人の英語学習者の場合事情が相当異なります。独仏人などと違い日本人やトルコ人や韓国人が英語を使うときは、文法の実践的知識は不可欠なのです。文法をいくら詳細に覚えても英語を使えないのは事実ですが、ヒアリングをどれだけ訓練してもそれだけではやはりだめで、両方面の訓練が必要なのです。日本語と英語の発想は大きく違いますから(しかも単語・語句・文章それぞれのレベルで違いますから)それらをひとつひとつ比較検討する習慣を身につけること。内容のある英語を話し・書く能力を習得するには、それは不可欠な訓練なのです。従来の多くの学習法は、英語を一方的に日本語にひきつけるやり方ですが、これは日本語に囲まれて暮らす私たちにとって自然でやむを得ぬ方法ともいえます。今度は、英語にひきつけて日本語を捉える努力をしていくと、両方の言語について気づかなかったことがいろいろ分明して、運用能力向上に役立ちます。 　ときにテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組む予定です。	テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。また、テキストは中身を消化吸収するのが肝心ですから、その進行状況を最初から各章を 14 こまなり 28 こまなりに機械的に振り当てるわけにもいきません。テキストは全体が 24 章からなっていますが、易しい章は手短に、難しいが大切な章は時間をかけて進めてゆきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト『基礎から始める英作文』(*Scaffolding*)　(成美堂) 参考文献	平素の小テストと平常点。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Communicative English Communicative English Ⅱa	担当者	D. Kennedy

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to help students build confidence and fluency in discussing various issues in English. Students will be encouraged to explore their own opinions and find logical means to support them. Classroom time will be divided between short readings, vocabulary focus, class discussions, small group discussions, and presentations. Active participation in English is required.	The following is a tentative schedule for discussion, though the actual topics may change to accommodate students' interests. 1. Introduction 2. Your credo 3. Attitudes 4. Money 5. Education 6. Crime 7. Adulthood and responsibility 8. History 9. The future 10. Women in society 11. The environment 12. Practice for the speaking test 13. Speaking test and review 14. Course feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be provided by the instructor.	Grades will be based on attendance, participation, homework, and a speaking test.

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Communicative English Communicative English Ⅱb	担当者	D. Kennedy

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to help students build confidence and fluency in discussing various issues in English. Students will be encouraged to explore their own opinions and find logical means to support them. Classroom time will be divided between short readings, vocabulary focus, class discussions, small group discussions, and presentations. Active participation in English is required.	The following is a tentative schedule for discussion, though the actual topics may change to accommodate students' interests. 1. Introduction 2. Your credo 3. Attitudes 4. Money 5. Education 6. Crime 7. Adulthood and responsibility 8. History 9. The future 10. Women in society 11. The environment 12. Practice for the speaking test 13. Speaking test and review 14. Course feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be provided by the instructor.	Grades will be based on attendance, participation, homework, and a speaking test.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Communicative English Communicative English II a	担当者	D.L. Blanken

講義目的、講義概要	授業計画
Students will choose various topics, then present them as solo, pair or group work for discussion by the rest of the class. These topics can range from music (like a rap song), events and issues (like Internet or media subjects), to university or personal matters (like specific problems). Students will explain and discuss these: their presentations may entail listening to and looking at, possibly performing, topic-related things. The instructor has a large collection of clippings from newspapers and magazines for student selection. Topics for discussion will be be prepared in advance, and prints and audio-visual materials made by the instructor or brought by the student(s). Topics are interchangeable. You need to be proficient in oral English, interested in a variety of topics, punctual in your attendance, and able to hold your own in an English-only classroom.	Week 1: Introduction and selection of topics Week 2: Sample presentation/discussion by teacher Week 3: Music or film (M/F): lyrics and dialog(s) Week 4: M/F (2) Week 5: M/F (3) Week 6: Internet Issues (Net): Web sites and topics Week 7: Net (2) Week 8: Net (3) Week 9: Media (Med): TV or newspaper topics Week 10: Med (2) Week 11: Med (3) Week 12: Med (4) Week 13: Review and evaluation Week 14: Supplemental and remedial work
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced	Grades will be made from class performance, (50%), examinations and two reports per semester (40%) and from attendance (10%).

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Communicative English Communicative English II b	担当者	D.L. Blanken

講義目的、講義概要	授業計画
Students will choose various topics, then present them as solo, pair or group work for discussion by the rest of the class. These topics can range from music (like a rap song), events and issues (like Internet or media subjects), to university or personal matters (like specific problems). Students will explain and discuss these: their presentations may entail listening to and looking at, possibly performing, topic-related things. The instructor has a large collection of clippings from newspapers and magazines for student selection. Topics for discussion will be be prepared in advance, and prints and audio-visual materials made by the instructor or brought by the student(s). Topics are interchangeable. You need to be proficient in oral English, interested in a variety of topics, punctual in your attendance, and able to hold your own in an English-only classroom.	Week 1: Media (Med): TV or newspaper topics Week 2: Med (2) Week 3: Med (3) Week 4: Med (4) Week 5: Music or film (M/F): lyrics and dialog(s) Week 6: M/F (2) Week 7: M/F (3) Week 8: Student topics (ST) Week 9: ST (2) Week 10: ST (3) Week 11: ST (4) Week 12: ST (5) Week 13: Review and evaluation Week 14: Supplemental and remental and remedial work
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced	Grades will be made from class performance, (50%), examinations and two reports per semester (40%) and from attendance (10%).

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Communicative English Communicative English Ⅱa	担当者	D.Bradley

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks, group discussions and presentations. There will be a project to watch some TV clips and as a group produce a tapescript and translation.	Week 1 Introduction to the course Week 2 Consolidation Week 3 Giving opinions Week 4 Work and daily lives Week 5 Describing a place Week 6 Biographies: famous people Week 7 Biographies: famous people Week 8 Language development: conditionals Week 9 Roleplay: socializing Week 10 Language development: quiz Week 11 Listening project corrections Week 12 Listening project corrections Week 13 Review Week 14 Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and homeworks (33%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Communicative English Communicative English Ⅱb	担当者	D.Bradley

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks, group discussions and presentations. There will be a project to watch some TV clips and as a group produce a tapescript and translation.	Week 1 Introduction to the course Week 2 Consolidation Week 3 Giving opinions Week 4 Discussion Week 5 Language development: phrasal verbs Week 6 Language and culture Week 7 Language and culture Week 8 Language development: social English Week 9 Language development: quiz Week 10 Some features of British culture Week 11 London taxi Week 12 Listening project corrections Week 13 Review Week 14 Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and homeworks (33%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Communicative English Communicative English　Ⅱa	担当者	D. Baker

講義目的、講義概要	授業計画
This one term once-a-week class will expose students to a variety of English language resources and materials in order to develop language skills and stimulate curiosity. The course is designed for students who are already at least at intermediate level and able to express and present their opinions fairly confidently. The three overall objectives of this course are: ➢ to develop comprehension skills through exposure to print, online and audio-visual media ➢ to broaden understanding of the world and deepen critical thinking skills ➢ to give students opportunities to share their thoughts and opinions in forms such as group discussions, projects and presentations	1 Introduction & Orientation 2 The Problems with You 3 Energy Vampires 4 The World 5 The Red or Blue Pill? 6 Welcome to Fight Club 7 Nihilism vs. Meaning 8 The Game is Rigged 9 Culture vs. You 10 The Corporation #1 11 The Corporation #2 12 Lighten Up 13 Tragicomedy or Comic tragedy? 14 Course & Self Evaluations **In the fight between you and the world, back the world.** - Franz Kafka
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set textbook	Assessment is continuous and based on attendance, class participation and assignments

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Communicative English Communicative English　Ⅱa	担当者	D. McCann

講義目的、講義概要	授業計画
Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations. A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.	Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.	Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Communicative English Communicative English　Ⅱb	担当者	D. McCann

講義目的、講義概要	授業計画
Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations. A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.	Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.	Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Communicative English Communicative English Ⅱa	担当者	Ed. Franco

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly group discussions. The class presents an enjoyable and interesting way to read and discuss world events, news, cultural and current issues. The class seeks build critical knowledge of world events in order to improve comprehension and verbal reasoning skills. This class will use English newspaper articles to study issues of national and international political and social significance. Student will prepare an article every week and come to class prepared to present it in their own words.	Week 1: Introduction Week 2: Article # 1 Week 3: Article # 2 Week 4: Article # 3 Week 5: Article # 4 Week 6: Article # 5 Week 7: Article # 6 Week 8: Article # 7 Week 9: Article # 8 Week 10: Article # 9 Week 11: Article # 10 Week 12: Article # 11 Week 13: Article # 12 Week 14: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Daily Yomiuri	Assessment will be based on attendance and class participation.

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Communicative English Communicative English Ⅱb	担当者	Ed. Franco

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly group discussions. The class presents an enjoyable and interesting way to read and discuss world events, news, cultural and current issues. The class seeks build critical knowledge of world events in order to improve comprehension and verbal reasoning skills. This class will use English newspaper articles to study issues of national and international political and social significance. Student will prepare an article every week and come to class prepared to present it in their own words.	Week 1: Introduction Week 2: Article # 13 Week 3: Article # 14 Week 4: Article # 15 Week 5: Article # 16 Week 6: Article # 17 Week 7: Article # 18 Week 8: Article # 19 Week 9: Article # 20 Week 10: Article # 21 Week 11: Article # 22 Week 12: Article # 23 Week 13: Article # 24 Week 14: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Daily Yomiuri	Assessment will be based on attendance and class participation.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Communicative English （月５） Communicative English Ⅱa （月５）	担当者	J. Gray

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Each class will be based on a scene or scenes from a movie. Students will practice speaking and listening with each other about topics introduced through the video, text, music, and other media. Students will be required to do reading and writing in order to prepare for each classroom session. Contemporary and meaningful topics will be assigned to research and present in class. Speeches, discussions, debates, singing, listening exercises and other projects will also be assigned throughout the semester. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.	1. Introduction to the Course and Materials 2. View video section one. 3. Vocabulary Quiz 1, Discussion, Watch part 2 4. Vocabulary Quiz 2, Discussion, Watch part 3 5. Vocabulary Quiz 3, Discussion, Watch part 4 6. Vocabulary Quiz 4, Discussion, Watch part 5 7. Vocabulary Quiz 5, Discussion, Watch part 6 8. midterm 9. Vocabulary Quiz 6, Discussion, Watch part 7 10. Vocabulary Quiz 7, Discussion, Watch part 8 11. Vocabulary Quiz 8, Discussion, Watch part 9 12. Vocabulary Quiz 9, Discussion, Watch part 10 13. Vocabulary Quiz 10, Discussion, Announce final 14. Final **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced	Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Communicative English　（水５） Communicative English　Ⅱa　（水５）	担当者	J. Gray

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Each class will be based on a scene or scenes from a movie. Students will practice speaking and listening with each other about topics introduced through the video, text, music, and other media. Students will be required to do reading and writing in order to prepare for each classroom session. Contemporary and meaningful topics will be assigned to research and present in class. Speeches, discussions, debates, singing, listening exercises and other projects will also be assigned throughout the semester. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.	1. Introduction to the Course and Materials 2. View video section one. 3. Vocabulary Quiz 1, Discussion, Watch part 2 4. Vocabulary Quiz 2, Discussion, Watch part 3 5. Vocabulary Quiz 3, Discussion, Watch part 4 6. Vocabulary Quiz 4, Discussion, Watch part 5 7. Vocabulary Quiz 5, Discussion, Watch part 6 8. midterm 9. Vocabulary Quiz 6, Discussion, Watch part 7 10. Vocabulary Quiz 7, Discussion, Watch part 8 11. Vocabulary Quiz 8, Discussion, Watch part 9 12. Vocabulary Quiz 9, Discussion, Watch part 10 13. Vocabulary Quiz 10, Discussion, Announce final 14. Final **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced	Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Communicative English　（水５） Communicative English　Ⅱb　（水５）	担当者	J. Gray

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Each class will be based on a scene or scenes from a movie. Students will practice speaking and listening with each other about topics introduced through the video, text, music, and other media. Students will be required to do reading and writing in order to prepare for each classroom session. Contemporary and meaningful topics will be assigned to research and present in class. Speeches, discussions, debates, singing, listening exercises and other projects will also be assigned throughout the semester. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.	1. Introduction to the Course and Materials 2. View video section one. 3. Vocabulary Quiz 1, Discussion, Watch part 2 4. Vocabulary Quiz 2, Discussion, Watch part 3 5. Vocabulary Quiz 3, Discussion, Watch part 4 6. Vocabulary Quiz 4, Discussion, Watch part 5 7. Vocabulary Quiz 5, Discussion, Watch part 6 8. midterm 9. Vocabulary Quiz 6, Discussion, Watch part 7 10. Vocabulary Quiz 7, Discussion, Watch part 8 11. Vocabulary Quiz 8, Discussion, Watch part 9 12. Vocabulary Quiz 9, Discussion, Watch part 10 13. Vocabulary Quiz 10, Discussion, Announce final 14. Final **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced	Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Communicative English Communicative English Ⅱa	担当者	K.Meehan

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pairwork and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Introduction 2. Exchanging personal information 3. Personality Types 4. Appearances 5. Attitudes 6. Poster Presentation 7. Getting information 8. Events 9. Quiz 10. Movies 11. Music 12. Poster Presentation 13. Comparing experiences 14. Final Presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Evaluation will be based on attendance, class participation ,and final examination.

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Communicative English Communicative English Ⅱb	担当者	K.Meehan

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pairwork, and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Summer vacation 2. Personal opinions 3. Japan 4. Preferences 5. TV 6. Poster Presentation 7. Technology 8. Love and Marriage 9. Diets 10. Culture 11. Nature 12. Poster Presentation 13. Heath 14. Final Presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Evaluation will be based on attendance, class participation, and tests.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Communicative English Communicative English Ⅱa	担当者	L. K. Hawkins

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, the students will be provided with the opportunity to augment their vocabulary and knowledge of the idioms and common expressions of modern American English. This will be accomplished through structured video lessons based on Disney movies. Each week the students will view one scene and complete worksheets and exercises dealing with the language used in that scene. This method should be both interesting and instructive, and the students should have able opportunity to actually use in class the language they are learning.	Week 1: Orientation Week 2: Scene 1 Week 3: Scene 2 Week 4: Scene 3 Week 5: Scene 4 Week 6: Scene 5 Week 7: Scene 6 Week 8: Scene 7 Week 9: Scene 8 Week 10: Scene 9 Week 11: Scene 11 Week 12: Presentation Week 13: Presentation Week 14: Presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
The students will be provided with all material from the instructor	Attendance, Participation, Test and Presentation

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Communicative English Communicative English Ⅱa	担当者	P. Horness

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. Much of the material is based on previously learned concepts to help improve individual aspects of fluency. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.	1. Introduction 2. Suprasegmentals 3. Suprasegmentals 4. Simple past review 5. Fluency exercise 6. Past perfect/ Fluency exercise 7. Be going to versus will 8. Fluency exercise 9. Comparisons and superlatives 10. Conditionals 11. Conditionals 12. Review 13. Instructor-led discussion 14. Instructor-led discussion Subject to change based on class's needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Attendance, participation, written summaries, and speaking exercises

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Communicative English Communicative English Ⅱb	担当者	P. Horness

講義目的、講義概要	授業計画
This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 9-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.	1. Introduction 2. English origins 3. How are words formed & Loan words 4. Learning English 5. Learning languages 6. Survey activity 7. Culture comparisons 8. Culture and Identity 9. Reading presentation 10. Culture comparisons 11. Survey activity 12. Review 13. Instructor-led discussion 14. Instructor-led discussion Subject to change based on class's needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Attendance, participation, written summaries, and discussions

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Communicative English Communicative English Ⅱa	担当者	P. Apps

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are • To improve the students' knowledge of current English. • To improve the students' critical thinking skills • To improve the students' reading and speaking skills • To improve discussion. The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)	As this is a discussion class there is no textbook. The topics will be discussing topics that are of interest to society and university students. I hope to include topics that are in the news in 2009. The 2008 topics included • Gun control • Changing roles of men and women in society • Homelessness in the world and Tokyo • Marriage • Divorce • Unemployment
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text book for this course.	1. Student Attendance 2. Student participation 3. Small interview test 4. Homework assignment

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Communicative English Communicative English Ⅱb	担当者	P. Apps

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are • To improve the students' knowledge of current English. • To improve the students' critical thinking skills • To improve the students' reading and speaking skills • To improve discussion. The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)	In the second semester if students are continuing with this class. The topics will vary from the Spring semester.
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text book for this course.	1. Student Attendance 2. Student participation 3. Small interview test 4. Homework assignment

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Communicative English Communicative English　Ⅱa	担当者	R.Jones

講義目的、講義概要	授業計画
This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. First Semester Topics 1　Introduction to the course of studies. 2　Gender Issues. 3　Attitudes towards women. 4　The War on Terrorism. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual and keep good attendance.

テキスト、参考文献	評価方法
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Communicative English Communicative English　Ⅱb	担当者	R.Jones

講義目的、講義概要	授業計画
This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Second Semester Topics 1　Brief introduction/welcome back to class? 2　Computers and society 3　Ageing Society. 4　The Automobile Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual and keep good attendance.

テキスト、参考文献	評価方法
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Communicative English Communicative English Ⅱa	担当者	R.Durham

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to **international** communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: (Perhaps selecting and preparing for a class presentation.) Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. Week 7: (Perhaps selecting and preparing for a class presentation.) Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: (Perhaps Student research/discussion about a variety of themes which they choose, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest.) Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. (Perhaps: refining possible presentation topics.) Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. (Perhaps: preparations for making presentations.) Week 12: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Week 13: **Body Language**: Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. (Perhaps: preparations for class presentations.) Week 14: Ongoing assessment. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. (Perhaps: student presentations.)
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **speak/elaborate** (explain)**/communicate** in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes***, for ***any*** reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Communicative English Communicative English Ⅱb	担当者	R.Durham

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a *tentative* schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your ***Summer Break***, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: **"What do you usually do ...?"**: discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: **Hallowe'en**: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Week 6: Asking and communicating **train & subway directions**, in International English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and *Fall/Winter festival* about which to make a presentation. Discussion about "**EQ**", and its effect on success in International communication, and on business success. Week 8: Research and discussion re: **Thanksgiving**. Song-listening exercise. *"What are you thankful for?"* Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations: Week 11: **"How often do you ...?"**: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: **Christmas**. Continuous assessments. Week 13: Christmas song-listening exercise, part two. ***Christmas cultures*** in various countries. Class presentations. Week 14: Asking others, and elaborating about, ***New Year's wishes and plans***. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Communicative English Communicative English　Ⅱa	担当者	T. J. Fotos

講義目的、講義概要	授業計画
第 1 回目の授業時にアナウンスします。	第 1 回目の授業時にアナウンスします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示をする	開講時に指示をする

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Communicative English Communicative English　Ⅱa	担当者	T. J. Fotos

講義目的、講義概要	授業計画
第 1 回目の授業時にアナウンスします。	第 1 回目の授業時にアナウンスします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示をする	開講時に指示をする

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Discussion　（火２） Discussion a　（火２）	担当者	C.B. Ikeguchi

講義目的、講義概要	授業計画
This class will provide maximum opportunity for discussion on topics that are timely and stimulating. It will train student to welcome different opinions and present their own, using dynamic techniques required in a real discussion situation.	1. What's your goal in life? 2. Model discussion group 3. Is speaking up a big deal? 4. Model discussion group 5. You are what you eat? 6. Model discussion group 7. Do we really need information literacy? 8. Model discussion group 9. What makes traveling an enriching experience? 10. Model discussion group 11. A new culture! New expectations? 12. Model discussion group 13. Summary of the term. 14. Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced on the first day of class.	Students will be graded on their daily class participation as well as on graded discussions. It is important to prepare for (think about and get ready to discuss) the topics before coming to class.

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Discussion　（火２） Discussion b　（火２）	担当者	C.B. Ikeguchi

講義目的、講義概要	授業計画
This class will provide maximum opportunity for discussion on topics that are timely and stimulating. It will train student to welcome different opinions and present their own,　using dynamic techniques required in real life discussion situations.	1. Cultural? Or International Stereotypes? 2. Model discussion group 3. Social care- who cares? 4. Model discussion group 5. The pin-pong conversation. 6. Model discussion group 7. "Okagesamade" hypocritical? 8. Model discussion group 9. Low key expressions of affection 10. Model discussion group 11. A compliment or an insult? 12. Model discussion group. 13. Summary of the term 14. Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced on the first day of class.	Students will be graded on their daily class participation as well as on graded discussions. It is important to prepare for (think about and get ready to discuss) the topics before coming to class.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Discussion　　（火３） Discussion a　　（火３）	担当者	C.B. Ikeguchi

講義目的、講義概要	授業計画
This class will provide maximum opportunity for discussion on topics that are timely and stimulating. It will train student to welcome different opinions and present their own using dynamic techniques required in discussion.	①　Indicates weekly discussion topic →　Indicates student-initiated　discussion ①　Goals and plan of action. →　Student-initiated discussion ②　Overcoming Barriers →　Student-initiated discussion ③　Developing Respect for Others →　Student-initiated discussion ④　The Natural Way to Healthy Life →　Student-initiated discussion ⑤　The Changing Workplace →　Student-initiated discussion ⑥　Being Truly Human →　Student-initiated discussion ⑦　Enjoying Media and Technology →　Student-initiated discussion
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced on the first day of class.	Students will be graded on their daily class participation as well as on graded discussions. It is important to prepare for (think about and get ready to discuss) the topics before coming to class.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Discussion　　（火３） Discussion b　　（火３）	担当者	C.B. Ikeguchi

講義目的、講義概要	授業計画
This class will provide maximum opportunity for discussion on topics that are timely and stimulating. It will train student to welcome different opinions and present their own using dynamic techniques required in discussion.	①　Indicates weekly discussion topic →　Indicates student-initiated topic for discussion ①　Goals and plan of action. →　Student-initiated discussion ②　Overcoming Barriers →　Student-initiated discussion ③　Overcoming culture shock →　Student-initiated discussion ④　Staying Healthy →　Student-initiated discussion ⑤　The Changing Family Lifestyles →　Student-initiated discussion ⑥　Caring for Others →　Student-initiated discussion ⑦　Enjoying Media and Technology →　Student-initiated discussion →
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced on the first day of class.	Students will be graded on their daily class participation as well as on graded discussions. It is important to prepare for (think about and get ready to discuss) the topics before coming to class.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Discussion Discussion a	担当者	D.L. Blanken

講義目的、講義概要	授業計画
In this class students will form 4 groups each term to lead the talk in class about various topics that they choose, first from daily life-items like work experience and places to visit or tour. Later they will select either more challenging or more personal issues by means of brainstorming and on the basis of consensus, items like dating or social topics. Topics will be prepared in advance at a rate of one per week as the leader groups rotate. Also, the discussion format may vary: students may engage in simple debates, survey interpreting, opinion eliciting, and taking contrarian attitudes. The final two weeks will entail a full class discussion of some issue. You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.	Week 1: Introduction; how to have a discussion Week 2: Ways of handling a discussion topic Week 3: Group I: Daily life topic A Week 4: Group II: Daily life topic B Week 5: Group III: Daily life topic C Week 6: Group IV: Daily life topic D Week 7: Critique of methods and procedures Week 8: Group I: More "meaty" topic A Week 9: Group II: Meatier topic B Week 10: Group III: Meatier topic C Week 11: Group IV: Meatier topic D Week 12: Full class discussion, Part 1 Week 13: Full class discussion, Part 2 Week 14: Supplemental work as needed

テキスト、参考文献	評価方法
No textbook, but the instructor and leader groups will provide handouts and/or visual aids. Certain prints will ooncern methods and procedure.	Grades will be compiled from weekly oral work (50%, including full class discussion), work within the lead group (25%) and Qs&As with the teacher (25%).

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Discussion Discussion b	担当者	D.L. Blanken

講義目的、講義概要	授業計画
In this class students will form 4 groups each term to lead the talk in class about various topics that they choose, first from daily life-items like work experience and places to visit or tour. Later they will select either more challenging or more personal issues by means of brainstorming and on the basis of consensus, items like dating or social topics. Topics will be prepared in advance at a rate of one per week as the leader groups rotate. Also, the discussion format may vary: students may engage in simple debates, survey interpreting, opinion eliciting, and taking contrarian attitudes. The final two weeks will entail a full class discussion of some issue. You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.	Week 1: Regrouping of students and topics Week 2: Ways of handling a discussion topic Week 3: Group I: Daily life topic A Week 4: Group II: Daily life topic B Week 5: Group III: Daily life topic C Week 6: Group IV: Daily life topic D Week 7: Critique of methods and procedures Week 8: Group I: More meaty topic A Week 9: Group II: Meatier topic B Week 10: Group III: Meatier topic C Week 11: Group IV: Meatier topic D Week 12: Full class discussion, Part 1 Week 13: Full class discussion, Part 2 Week 14: Supplemental work as needed

テキスト、参考文献	評価方法
No textbook, but the instructor and leader groups will provide handouts and/or visual aids. Certain prints will ooncern methods and procedure.	Grades will be compiled from weekly oral work (50%, including full class discussion), work within the lead group (25%) and Qs&As with the teacher (25%).

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Discussion Discussion a	担当者	Ed. Franco

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions. The class seeks to provide an enjoyable and interesting way to discuss current topics and issues. Every week the topics for discussion will be both from the text and student generated. Students will be expected to research and prepare one topic per week.	Week 1: Introduction Week 2: Discussion # 1 Week 3: Discussion # 2 Week 4: Discussion # 3 Week 5: Discussion # 4 Week 6: Discussion # 5 Week 7: Discussion # 6 Week 8: Discussion # 7 Week 9: Discussion # 8 Week 10: Discussion # 9 Week 11: Discussion # 10 Week 12: Discussion # 11 Week 13: Discussion # 12 Week 14: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
McLean, P., *Discussing Issues*, Yumi Press	Assessment will be based on attendance and class participation.

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Discussion Discussion b	担当者	Ed. Franco

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions. The class seeks to provide an enjoyable and interesting way to discuss current topics and issues. Every week the topics for discussion will be both from the text and student generated. Students will be expected to research and prepare one topic per week.	Week 1: Introduction Week 2: Discussion # 13 Week 3: Discussion # 14 Week 4: Discussion # 15 Week 5: Discussion # 16 Week 6: Discussion # 17 Week 7: Discussion # 18 Week 8: Discussion # 19 Week 9: Discussion # 20 Week 10: Discussion # 21 Week 11: Discussion # 22 Week 12: Discussion # 23 Week 13: Discussion # 24 Week 14: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
McLean, P., *Discussing Issues*, Yumi Press	Assessment will be based on attendance and class participation.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Discussion Discussion a	担当者	P. Horness

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory course in discussion. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics. Students will select topics and research them for the discussions. For several weeks, students will develop their ideas in groups on a specific topic. Thereafter, each student will present his/her idea individually. Students should come to class ready to discuss material researched outside of class.	1. Introduction; select topics 2. Discussion 3. Discussion 4. Presentation 5. Discussion 6. Discussion 7. Presentation 8. Discussion 9. Discussion 10. Presentation 11. Discussion 12. Discussion 13. Presentation 14. Test Subject to change based on class's needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.	Attendance, participation, written summaries, discussion exercises, presentations, and test

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Discussion Discussion b	担当者	P. Horness

講義目的、講義概要	授業計画
Although this is the second half to the introduction of discussion, the first half semester is not a necessary requirement to participate in this class. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics. Students will select topics and research them for the discussions. For several weeks, students will develop their ideas in groups on a specific topic. Thereafter, each student will present his/her idea individually. Students should come to class ready to discuss material researched outside of class.	1. Introduction; select topics 2. Discussion 3. Discussion 4. Presentation 5. Discussion 6. Discussion 7. Presentation 8. Discussion 9. Discussion 10. Presentation 11. Discussion 12. Discussion 13. Presentation 14. Test Subject to change based on class's needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.	Attendance, participation, written summaries, discussion exercises, presentations, and test

06～08年度（春） 03～05年度（春）	Public Speaking I Public Speaking I a	担当者	A.R. Falvo

講義目的、講義概要	授業計画
In the class we will focus on three messages in public speaking: the Visual Message, the Physical Message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations.	Introduction: The Physical Message Posture and Eye Contact Informative Speech Gestures Layout Speech Voice Infection Demonstration Introduction to the Story Message The Introduction Persuasive Speech The Body Transition and Sequencers Home town speech Poshive Theory Formulation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be decided	Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches.

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	Public Speaking Ⅱ Public Speaking I b	担当者	A.R. Falvo

講義目的、講義概要	授業計画
In the class we will focus on three messages in public speaking: the Visual Message, the Physical Message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations.	Review of Term One Persuasive Speech: The Body The Conclusion Persuasive Speech: The Conclusion Introduction to the Visual Message Making Visual Aids Explaining Visual Aids Full Presentation of the Persuasive Speech with Visual Aids Power Point Introduction Video Taping Part One Video Taping Part Two Critique of Taping Story message Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be decided	Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches.

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Public Speaking Ⅰ Public Speaking Ⅰa	担当者	P. Mckevilly

講義目的、講義概要	授業計画
第 1 回目の授業時にアナウンスします。	第 1 回目の授業時にアナウンスします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示をする	開講時に指示をする

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Public Speaking Ⅱ Public Speaking Ⅱb	担当者	P. Mckevilly

講義目的、講義概要	授業計画
第 1 回目の授業時にアナウンスします。	第 1 回目の授業時にアナウンスします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示をする	開講時に指示をする

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Public Speaking Ⅰ Public Speaking Ⅰa	担当者	門倉　弘枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「異文化コミュニケーション」という言葉がよく聞かれる今日、どうしたら英語で上手くコミュニケーションがとれるようになるのでしょうか。この授業では、自分の伝えたい事を言葉のみでなく、Physical Message, Visual Message, Story Message によって如何により効果的にプリゼンテーションが出来るようになるかを学びます。 講義概要： プリゼンテーションをする時のコミュニケーションの方法と段階を上記の三つに分けます。それぞれのメッセージは'What', 'Why', 'How', 'Practice' の四項目から成り、更に'Performance'と'Evaluation' のセクションで自分のプリゼンテーションを通じて、又クラスメイトのプリゼンテーションを聞き、如何に改善すべきかを自ら学びとります。 カラーの愉快なイラストを使いながら、１００パーセント学習者参加型の演習方法で授業を進めていきます。 進度は皆さんの様子を見ながら必要に応じて調整していきます。DVD が大きな助けとなるでしょう。	1. Introduction 2. [I] THE PHYSICAL MESSAGE: What is Physical Message? 3. Posture and Eye Contact 4. Informative Speech 5. Performance 6. Gestures 7. Layout Speech 8. Performance 9. Voice Inflection 10. Demonstration Speech 11. Performance 12. [II] THE VISUAL MESSAGE: Effective Visuals (1) 13. Effective Visuals (2) 14. Performance

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：Harrington,D. & LeBeau, C. , *Speaking of Speech – New Edition-Basic Presentation Skills for Beginners.* MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2009. 2500 円 + 税	出席状況、授業への参加度、宿題、発表、試験などから総合的に評価します。主に授業中のプリゼンテーションを最重要視するので、出席は最も重要。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Public Speaking Ⅱ Public Speaking Ⅰb	担当者	門倉　弘枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 春学期と同じ。 講義概要： 春学期に引き続く。 **注意**： 何らかの理由で秋学期から履修する場合は、春学期の授業内容を理解し、且つ実際にそこまでの段階のパフォーマンスが出来るようにしておく必要があります。秋学期の最初の授業で指導致します。	1. [II] THE VISUAL MESSAGE （前期の続き） Explaining Visuals (1) 2. Explaining Visuals (2) 3. Performance 4. [III] THE STORY MESSAGE: What is Story Message? Presentation Structure 5. Introduction What is the Story Message? 6. Introductory Phrases Model Introduction 7. Performance (Introduction) 8. The Body Evidence 9. Transitions 10. Sequencers 11. Performance (Body) 12. The Conclusion – How to Make a Conclusion? 13. Performance (Conclusion) 14. Final performance

テキスト、参考文献	評価方法
春学期に同じ。	春学期に同じ。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Debate I Debate I a	担当者	J.N.Wendel

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to teach students both the skills and language strategies necessary to make discussion and debating in English not only possible, but also interesting and exciting. In addition to offering a chance to improve thinking, listening, and speaking skills, the course will follow a logical sequence of strategies to enable students to build their debating ability.	Week 1. Course introduction Week 2. Expressing your opinion Week 3. Expressing your opinion Week 4. Opinions of value, policy, and fact Week 5.Agreeing and disagreeing; opinion survey Week 6. Opinions in the news; explaining your ideas Week 7. Giving reasons by comparing and contrasting Week 8. Supporting your reasons; types of supports Week 9. Giving supports; researching supports Week 10.Organizing your opinions Week 11.Organization for the first affirmative constructive speech Week 12.Debate introductions and conclusions Week 13. Debates Week 14. Debates
テキスト、参考文献	**評価方法**
Discover Debate by Michael Lubetsky, Charles LeBeau, and David Harrington (2000). Language Solutions, Inc.	Participation 20% Debates 60% Assignments 20%

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Debate Ⅱ Debate I b	担当者	J.N.Wendel

講義目的、講義概要	授業計画
This course is a continuation of Debate I. This course is designed to teach students both the skills and language strategies necessary to make discussion and debating in English not only possible, but also interesting and exciting. In addition to offering a chance to improve thinking, listening, and speaking skills, the course will follow a logical sequence of strategies to enable students to build their debating ability.	Week 1. Review of first-semester topics Week 2. Refuting opinions Week 3. Types of refutation Week 4. Challenging supports Week 5. Asking questions; refuting a source Week 6. Organizing the refutation Week 7. Organization for the first negative constructive speech Week 8. Refutation format Week 9. Mini debates Week 10. Debate formats; responding to attacks Week 11.Rebuttal speeches Week 12. Following a debate Week 13. Debates Week 14. Debates
テキスト、参考文献	**評価方法**
Discover Debate by Michael Lubetsky, Charles LeBeau, and David Harrington (2000). Language Solutions, Inc.	Participation 20% Debates 60% Assignments 20%

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	Debate I Debate I a	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to provide students with some opportunities to learn to debate in order to improve their critical attitudes and skills to participate in communication. The basic means of our classroom communication is English except for the Warm-up Debate.	1. Course Overview 2. Structure of Argument and Advocacy 3. Debate Rules and Procedures 4. Analysis of a Model Dabate 5. Preparation for the Warm-up Dabate 6. Preparation for the Warm-up Dabate 7. Warm-up Dabate I, II, and III (in Japanese) 8. Review of the Warm-up Debate 9. Preparation for the First Debate 10. Preparation for the First Debate 11. 1st Debate I 12. 1st Debate II 13. 1st Debate III 14. Review of the First Debate
テキスト、参考文献	**評価方法**
松本茂『頭を鍛えるディベート入門』（講談社） Handouts will be provided whenever necessary.	Grades will be based on attendance and participation in debates.

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	Debate Ⅱ Debate I b	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
Debate II is a continuation of Debate I. The basic means of our classroom communication is English throughout the semester.	1. Course Overview 2. Preparation for the Second Debate 3. Preparation for the Second Debate 4. 2nd Debate I 5. 2nd Debate II 6. 2nd Debate III 7. Review of the Second Debate 8. Preparation for the Third Debate 9. Preparation for the Third Debate 10. 3rd Debate I 11. 3rd Debate II 12. 3rd Debate III 13. Review of the Third Debate 14. Course Summary
テキスト、参考文献	**評価方法**
松本茂『頭を鍛えるディベート入門』（講談社） Handouts will be provided whenever necessary.	Grades will be based on attendance and participation in debates.

06～08年度（春） 03～05年度（春）	通訳Ⅰ 通訳Ⅰa	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
通訳の基礎訓練というのは、コミュニケーション能力としての総合的語学力をアップするためシステマティックなトレーニングにほかならない。 このため、様々な方法で、リーディング、リスニング、スピーキングの技術を強化していくための練習を具体的に行っていく。	１～2 回は通訳全般についての話。３回目以降から実際のトレーニングに入るが、その内容は次のとおり： リピーティング、クイック・レスポンス、シャドーイング、ボキャビル、サイト・トランスレーション、サラマイゼーション、ワンセンテンスからパラグラフ通訳、リテンション、通訳メモの取り方 etc.
テキスト、参考文献	評価方法
プリントを使用する予定	平常の授業での評価。授業はステップ・アップ形式で進むので欠席すると大変不利。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	通訳Ⅰ 通訳Ⅰb	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上 ただし、春学期よりも内容の種類と難易度が増す。
テキスト、参考文献	評価方法
同上	同上

06～08年度（春） 03～05年度（春）	通訳Ⅰ 通訳Ⅰa	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
毎年、通訳１の履修学生の TOEIC スコアは８００点台が多い。したがって、厳しいようだが、750 点未満では授業についてこられない。 毎週行う課題を紹介する。５分から８分の物語を英語で２回流す。その間、学生はメモを取る。２回目が終わったら直ちに、メモと記憶を頼りに、今聞いた内容の「通訳」を用紙に書き提出する。制限時間は原則として「教員が書き終わった１分後」と定めている。２回しか聞けないので集中力が養われる。また、限られた時間で通訳し終わる良い実践練習にもなる。 前期は、自己嫌悪との戦いである。自分が訳し終えた時周囲の人がまだ訳しているのが聞こえてくるので、あんなに聴き取れたのかと実力の差を痛感することになる。そういう意味で、精神的に厳しい授業であるが、それもまた勉強である。 毎週出席し続けることが、上達への近道。二週続けて欠席すると、周囲の学生について行けなくなる。	＜第１回＞ 「とりあえず、挑戦してみよう。」 USB フラッシュメモリーを必ず持参すること！ 自分の声を録音し保存しておき、 後期の自分のパフォーマンスと比較することで、 自分の上達を実感することができる。 ＜第２回＞ 英語の実力テスト ＜第３回～１３回＞ ノートの取り方の勉強 短い逐次通訳の練習 物語・ビジネスの場面、各種スピーチ、 ＜第１４回＞ 定期試験 毎回 CALL 教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら実際に逐次通訳を行うという、実践的な訓練に徹する授業である。リスニング力を伸ばす訓練とメモの取り方を中心に学んでいく。各自のパフォーマンスは録音するので、家で聞くのが宿題となる。毎週、ディクテーションの宿題と単語テストを課す。 逐次通訳の練習、人物伝、物語、ビジネスの場面、各種スピーチ、さまざまな英語音声教材を用い、実践的訓練の中からメモの取り方や逐次通訳のポイントを学習する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は第１回授業時に指定する	毎週のディクテーションの宿題、毎週の単語テスト、授業中の通訳、定期試験の総合評価

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	通訳Ⅰ 通訳Ⅰb	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、CALL 教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら、実際に逐次通訳を行い、各自のパフォーマンスは録音する、という実践的な訓練を積み重ねる。 前期は、ほとんどの受講生が、「英語が速くてメモを取れない」、「自分のメモの字が読めない」、「英語の内容はわかったのに訳す段になると日本語が出てこない」、と悩むものだが、後期になると、逐次通訳がそれなりに形になってくるので、クタクタになりながらも、緊張感と達成感を楽しんでいる学生が多い。自分なりのメモの取り方を確立し、シャドーイングの効果によって日本語も口をついて出るようになり、１１月・１２月になると、理解できた英語は、全て通訳できるようになる。だからこそ、毎週のディクテーション課題でリスニング力をつけることが肝要。	＜第１回＞ 各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。 ＜第２回～９回＞ 逐次通訳の練習 ・ビジネスの場面、各種スピーチ、 ・外資系企業 CEO のインタビュー(抜粋) ＜第１０回～１３回＞ 同時通訳の基本練習 ＜第１４回＞ 定期試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
前期のテキストを引き続き使用する。 他にプリントを配布。	毎週のディクテーションの宿題、毎週の単語テスト、授業中の通訳、定期試験の総合評価

06～08年度（春） 03～05年度（春）	通訳Ⅱ 通訳Ⅱa	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
「通訳Ⅱは、通訳Ⅰと比べて一段と難しいだろうとは予想していたが、実際は『二段』くらい難しかった」とよく学生に言われる。通訳Ⅱは「通訳」の advanced level である。トップレベルの学生を対象とした授業内容にしている。 <Assignment for the first class> We will visit the HP of the U.S. White House in the class. Do you know that 70% of post-graduate citizens supported Pr. Obama as well as the majority of university students? Aren't you interested in listening to their voices? I'm planning to use youtube as listening materials for this particular class this year. Authenticity of English available on youtube is just remarkable. Be ready to translate the passage above in our first class. See you soon.	＜第１回＞ 「通訳Ⅰ」を履修していることが望ましいが、履修要件を満たし「通訳Ⅱ」から始める学生もいるので、まず、通訳の基礎、身につけるべき能力や技術について説明する。次に、それを身につけるにはどのような訓練が必要かについて話した後、早速実践的な訓練を開始する。 ＜第２回～１３回＞ ・ 現場からのニュースレポート(fiction)の逐次・同時通訳 ・ Pr. Obama's speeches ・natural speed の中でも、毎分 160～180words の fast speed speech のシャドーイング練習 ＜第１４回＞ 定期試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
１回目の授業で指定します。	毎週のディクテーションの宿題、毎週の単語テスト、授業中の通訳、定期試験の総合評価

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	通訳Ⅱ 通訳Ⅱb	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
通訳の勉強を始めて１年半が経過したこの頃なると、日本語を選びながら落ち着いた態度で訳すことができる学生が多い。 後期では、ポーズ無しに 10 分以上メモを取り続け、後でまとめて通訳する力を身に付けてほしい。 しかしながら、この段階まで上達して今更ながら悟ることは、「知らない単語は聴き取れない」という厳然たる事実である。語彙増強の必要性を実感してほしい。高度な内容のインタビューの通訳では、語彙がポイントになるのだ。 また、高度な内容の話し手は早口である場合が多い。どうすればよいかと言うと、この段階になっても、shadowing が功を奏す。まずは原稿を見ながらの Shadowing で単語や表現に慣れること、次に、何も見ずに shadowing できるようになること。そうすれば、どんなに早口の英語でも聴き取りやすくなる。 常に意識しておいてほしいことは、通訳らしい、洗練された日本語を駆使できているかという点である。	＜第１回＞ 各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。 ＜第２回～１２回＞ ① 資系企業 CEO のインタビュー(抜粋)逐次・同時通訳 ② 外資系企業オフィスで飛び交う会話、会議やプレゼンテーションの通訳 ③ 米大統領や国際的著名人のインタビュー(抜粋)の逐次通訳 ＜第１４回＞ 定期試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
前期のテキストを引き続き使用する。 他にプリントを配布します。	毎週のディクテーションの宿題、毎週の単語テスト、授業中の通訳、定期試験の総合評価

06～08年度（春） 03～05年度（春）	英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です） 国際化時代にあって、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。 しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。ビジネス英語に馴染みのない初心者に**ビジネス英語の基本を一年間かけて分かりやすく解説し、指導していきます。** 春学期１４回の履修、或いは秋学期１４回の履修では当然ながら社会に出て通用するような英語力はつきません。従って、**通年で履修する学生を対象にいたします。** 次に、**外資系企業、航空業界、貿易会社、メーカーの国際部、金融関係、ホテル業界、旅行代理店等**で英語を使用して働きたいという学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来に役立つ実践的な英語ビジネス・コミュニケーションの講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。**（下に続く）**	（１）　Business English を学ぶにあたって （２）　ビジネスレターの形式 （３）　効果的なビジネスレターを書くための１０のポイント （４）　取引の申し込み （５）　取引の申し込みに対する応答 **（６）**　引合い **以上の項目を１４回にわたって講義していきます。** **（ここからは、春・秋学期共通です）** 授業の最初に**「英字新聞ビジネス欄の読み方」**と称して、その時々の話題になっている経済問題を英字新聞から取り上げて、易しく解説し、経済問題に親しんでもらいたいと思っています。**経済の知識がないと、「英字新聞ビジネス欄」を一人ではまず学習できないと思います。この講義の特色の一つと言えるでしょう。これが、就職活動の一助になればと思っています。** 授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体の目安と考えてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
海老沢　達郎著『Business Writing---英文ビジネスレター入門』金星堂	学期末の試験（９０％）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（１０％）を参考にして総合的に評価する。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーションⅠb	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
（上から続く） 具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、Business English を国際語である英語を使用して、ビジネスを促進させるための**ビジネス・コミュニケーション**としてとらえ、効果的なビジネスレターの書き方を例を挙げて説明・指導する。また、**就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく説明・指導する。** メディア英語と併せて履修すると、国際コミュニケーションを体系的に学習することができます。一緒に一年間勉強しましょう。	（７）　英文履歴書とカバーレターの書き方 （８）　オファー （９）　オファーに対する応答 （１０）信用状 （１１）積出し （１２）クレーム （１３）英文契約書の読み方 **以上の項目を１４回にわたって講義していきます。** **（ここからは、春・秋学期共通です）** 次に、**「英文 Business Writing 実践練習」**と称して、授業で習得した知識を利用して英文 Business Writing の基本的な練習問題を行っていきます。実際に外資系企業等でよく使用されている英文 Business Writing 能力を身につけられるように指導していきたいと思っています。この練習は、春学期の後半から練習問題の形で、プリントを使用して勉強していきます。 **尚、質問はいつでも受け付けます。**
テキスト、参考文献	**評価方法**
上に同じ	学期末の試験（９０％）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（１０％）を参考にして総合的に評価する。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	英語ビジネス・コミュニケーション（木３） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（春学期はUnit1~12）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン（skeleton plan）、および専門語彙(technical terms)を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。また、毎月１回（春学期は５月、６月、7 月の最初の授業時)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト（vocabulary check）を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：　このシラバスは**木曜日 3 時限**の授業のものです。杉山担当のもう１つの同一名称科目とは内容が異なります。	1　春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2　ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3　「市況」の実務知識と通信文の読解・作成 4　「取引先の発見」の実務知識と通信文の読解・作成（第１回語彙力診断テストを実施します） 5　「取引の申込み」の実務知識と通信文の読解・作成 6　「信用照会」の実務知識と通信文の読解・作成 7　「引合い」の実務知識と通信文の読解・作成 8　「引合いに対する返事」の実務知識と通信文の読解・作成（第２回語彙力診断テストを実施します） 9　「オファー」の実務知識と通信文の読解・作成 10　「カウンター・オファー」の実務知識と通信文の読解・作成 11　「注文」の実務知識と通信文の読解・作成 12　「注文の受諾と謝絶」の実務知識と通信文の読解・作成（第３回語彙力診断テストを実施します） 13　「成約」の実務知識と通信文の読解・作成 14　春学期の授業の総復習を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
(テキスト)　杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講』(三恵社、2007 年）および配布プリント （参考書）　杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メールパーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)	出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	英語ビジネス・コミュニケーション（木３） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠb（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（秋学期はUnit13~21）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙（technical terms)を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。また、毎月１回（秋学期は 10 月、11 月、12 月の最初の授業時)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト（vocabulary check）を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：　このシラバスは**木曜日 3 時限**の授業のものです。杉山担当のもう１つの同一名称科目とは内容が異なります。	1　秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2　ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3　「信用状の開設と訂正」の実務知識と通信文の読解・作成 4　「海上保険」の実務知識と通信文の読解・作成（第４回語彙力診断テストを実施します） 5　「輸出手配」の実務知識と通信文の読解・作成 6　「船積」の実務知識と通信文の読解・作成 7　「輸入手配」の実務知識と通信文の読解・作成 8　「決済」の実務知識と通信文の読解・作成（第５回語彙力診断テストを実施します） 9　「クレーム」の実務知識と通信文の読解・作成 10　「クレーム調整」の実務知識と通信文の読解・作成 11　「会社社交文」（推薦状）の実務知識と通信文の読解・作成 12　「会社社交文」（案内状）の実務知識と通信文の読解・作成（第６回語彙力診断テストを実施します） 13　「会社社交文」（礼状・見舞い状）の実務知識と通信文の読解・作成 14　秋学期の総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
(テキスト)　杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講』(三恵社、2007 年）および配布プリント （参考書）　杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メールパーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)	出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	英語ビジネス・コミュニケーション（木４） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business　Documents) の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。 具体的には、工業製品 (manufactured goods) の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。春学期は、成約にいたるまでの段階に登場する代表的なビジネス文書として、レター・オブ・インテント (letter of intent ; LOI) 、スポット売買契約書(one-shot sales contract) の表面約款と裏面約款、長期売買契約書 (long-term sales contract) 、取扱説明書(instruction manual) などを扱います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：このシラバスは**木曜日４時限**の授業のものです。	1　春学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2　レター・オブ・インテントの意義と目的や作成上の注意点について説明し、実際のサンプルを検討します。 3　同上 4　レター・オブ・インテント作成の実習を行います。 5　同上 6　スポット販売契約書（売主側作成）とスポット購買契約書(買主側作成)の目的や作成上の注意点について説明し、実際の「表面約款」のサンプルを検討します。 7　一般取引条件(general terms and conditions)、すなわちスポット売買契約書の「裏面約款」の目的、作成上の注意点、書式の闘い（battle of forms）等について説明し、実際のサンプルを逐条的に検討します。 8　同上 9　長期売買契約書について説明し、実際のサンプルを実質条項を中心に検討します。 10　同上 11　製造物責任（Product Liability）の観点から、英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明します。 12　Plain Englishでの取扱説明書の方略を検討します。 13　同上 14　春学期の授業の総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意するプリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)	出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	英語ビジネス・コミュニケーション（木４） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠb（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business　Documents) の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。 具体的には、工業製品 (manufactured goods) の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。秋学期は、履行および決済の段階に登場する代表的なビジネス文書として、商業送り状 (commercial invoice)、包装明細書 (packing list)、船荷証券 (bill of lading)、保険証券 (insurance policy) 等の船積書類、輸出申告書と輸入申告書、荷為替信用状 (documentary letter of credit) などを扱います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：このシラバスは**木曜日４時限**の授業のものです。	1　秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2　各種の船積書類(shipping documents; S/D)の意義と目的、作成上または読解上の注意点等を説明します。 3　商業送り状と梱包明細書の実際のサンプルを検討します。 4　商業送り状と梱包明細書を作成する実習を行います。 5　船荷証券と保険証券の実際のサンプルを検討します。 6　船荷証券と保険証券の記載事項を読解する実習を行います。 7　通関手続 (customs clearance) について詳しく説明し、輸出申告書と輸入(納税)申告書の実際のサンプルを検討します。 8　輸出申告書 (export declaration) を作成する実習を行います。 9　同上 10　輸入(納税)申告書 (import declaration) 作成する実習を行います。 11　同上 12　荷為替信用状による決済の仕組を詳しく説明します。 13　荷為替信用状の実際のサンプルを検討し、信用状の記載事項を読解する実習を行います。 14　秋学期の授業の総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意するプリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)	出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一に尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　ビジネス英語の特徴 2　プリント①（英文ビジネスコラム） 3　国際取引概略Ⅰ 4　プリント② 5　国際取引概略Ⅱ 6　プリント③ 7　引合（inquiry） 8　プリント④ 9　オファーⅠ（offer） 10　プリント⑤ 11　オファーⅡ 12　プリント⑥ 13　授業時に説明 14　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『マルチトピックのビジネス英語』信　達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信　達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢25%、発表／リサーチレポート25%。ペーパーテスト50%。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　契約1（contract） 2　プリント⑦ 3　契約Ⅱ 4　プリント⑧ 5　クレームⅠ（claim） 6　プリント⑨ 7　クレームⅡ 8　プリント⑩ 9　企業内組織の英語 授業と平行して、10月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『マルチトピックのビジネス英語』信　達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信　達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢25%、発表／リサーチレポート25%。ペーパーテスト50%。

06～07 年度（春） 03～05 年度（春）	英語ビジネス・コミュニケーション実務 英語ビジネス・コミュニケーションⅡa	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
下記の英文テキストおよび豊富な参考資料を活用して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。特に貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務の全体にわたって満遍なく、かつ細かく勉強することを狙いとします。 春学期には、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に６つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティング段階、取引関係創設段階、成約段階）を詳しく学習します。 履修者はあらかじめテキストの所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業はテキストの内容を補助プリントで敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書（信用調査報告書、一般取引条件、注文書、売買契約書、商業送り状、船荷証券、保険証券、輸出申告書、輸入申告書、荷為替信用状等々）に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限りつくります。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	１　春学期の授業内容および授業計画の説明 ２　貿易の基本概念(1)：比較優位、貿易形態など ３　貿易の基本概念(2)：貿易関係機関、関税など ４　貿易の基本概念(3)：貿易実務の遂行手順の概観 ５　貿易の基本概念(4)：ビジネス・コミュニケーションが貿易取引の遂行と促進に果たしている役割 ６　貿易マーケティング段階：市場調査（market research）と販売戦略調査（marketing research） ７　取引関係創設段階(1)：取引先選定と引合い ８　取引関係創設段階(2)：銀行への信用照会 ９　取引関係創設段階(3)：商業興信所への信用照会 １０　成約段階(1)：一般取引条件（general terms & conditions）のうち、いわゆる「主要５条件」（品質・数量・価格・船積・決済）と保険に関する規定 １１　成約段階(2)：一般取引条件のうち、当事者関係、準拠法、定型貿易条件などに関する規定 １２　成約段階(3)：一般取引条件のうち、不可抗力、クレーム、仲裁などに関する規定 １３　成約段階(4)：オファー、カウンター・オファー、発注と受注、各種契約関係書類など １４　春学期の授業の総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）伊東ほか『現代商業英語読本（英文）』（英潮社、1988 年）および配布プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

06～07 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語ビジネス・コミュニケーション実務 英語ビジネス・コミュニケーションⅡb	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
下記の英文テキストおよび豊富な参考資料を活用して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。特に貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務の全体にわたって満遍なく、かつ細かく勉強することを狙いとします。 秋学期には、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に６つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）を詳しく学習します。 履修者はあらかじめテキストの所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業はテキストの内容を補助プリントで敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書（信用調査報告書、一般取引条件、注文書、売買契約書、商業送り状、船荷証券、保険証券、輸出申告書、輸入申告書、荷為替信用状等々）に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限りつくります。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	１　秋学期の授業内容および授業計画の説明 ２　履行段階(1)：信用状（Letter of Credit; L/C） ３　履行段階(2)：他法令による許可、承認等の取得 ４　履行段階(3)：一連の輸出通関手続き ５　履行段階(4)：海上貨物保険（marine cargo insurance） ６　履行段階(5)：在来船（conventional vessel）への船積の場合の一巡の手続き ７　履行段階(6)：コンテナ船（container vessel）への船積の場合の一巡の手続き ８　履行段階(7)：航空輸送の場合の一巡の手続き ９　履行段階(8)：各種船積種類（shipping documents; S/D） １０　決済段階(1)：為替リスクの回避法（先物為替の予約、インパクト・ローン等） １１　決済段階(2)：荷為替手形（documentary draft） １２　クレームおよびクレーム調整の段階(1)：苦情とクレーム、クレームの種類、クレームの予防など １３　クレームおよびクレーム調整の段階(2)：　国際商事紛争の解決法（和解、訴訟、仲裁等） １４　秋学期の授業の総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）伊東ほか『現代商業英語読本（英文）』（英潮社、1988 年）および配布プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	メディア英語Ⅰ メディア英語Ⅰa	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です） 国際化時代にあって、国際語としての英語の重要性は極めて高いので、本講義では、**「英字新聞丸かじり」**と称して、「英字新聞の基本的な読み方」を指導し、これに対応する授業にしたいと思っています。 しかし、TOEIC で９００点を取得しても英字新聞を読みこなすことはできません。また、大半の学生が卒業しても、英字新聞を読めないのが現状であります。英字新聞をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。英字新聞に馴染みのない学生に**英字新聞の読み方を一年間かけて分かりやすく解説し、指導していきます。** 春学期１４回の履修、或いは秋学期１４回の履修では当然ながら社会に出て通用するような英語力はつきません。従って、**通年で履修する学生を対象にいたします。** 次に、**外資系企業、航空業界、貿易会社、メーカーの国際部、金融関係、ホテル業界、旅行代理店等で、**英語を使用して働きたいという学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来に役立つ実践的なメディア英語の講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。 **（下に続く）**	（１）　英字新聞を読む意義について （２）　英字新聞の特徴について （３）　Headline（見出し）の読み方 （４）　Lead（記事の第１節）の読み方 （５）　社会面の記事の読み方 （６）　英字新聞でよく使用される語彙の勉強 **以上の項目を１４回にわたって講義していきます。** **（ここからは、春・秋学期共通です）** 授業の最初に、**「英字新聞の読み方のコツ」**と称して、大きな問題となったトピックスを紹介し、英字新聞に頻出する語彙等を解説・説明いたします。同時に、「約４００語の英字新聞に頻出する基本語彙集」のプリントを配布いたします。更に、**「英字新聞に頻出する語彙練習問題」を行い、受講生の語彙増強を図ります。これにより、秋学期の終わりには、英字新聞をある程度読めるようになると確信しております。** 授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体の目安と考えて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（９０％）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（１０％）を参考にして総合的に評価する。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	メディア英語Ⅰ メディア英語Ⅰb	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
（上から続く） 具体的に講義を説明いたします。本講義では、「英字新聞丸かじり」と称して、英字新聞の読み方の基本を勉強していきます。プリントを使用して、英字新聞を読む意義、英字新聞の特徴、Headline（見出し）の読み方、Lead（記事の第１節）の読み方などの基本をまず指導していきます。次に、具体的に、社会面・政治面・経済面・国際面の記事、社説の読み方、コラムの読み方、オピニオン欄の読み方などを勉強していき、英字新聞全体をある程度読みこなす力を養成していきたいと思っています。 英語ビジネスコミュニケーションと併せて履修すると、国際コミュニケーションを体系的に学習することができます。一緒に一年間勉強しましょう。	（７）　政治面の記事の読み方 （８）　経済面の記事の読み方 （９）　国際面の記事の読み方 （１０）社説の読み方 （１１）コラムの読み方 （１２）オピニオン欄の読み方 （１３）英字新聞でよく使用される語彙の勉強 **以上の項目を１４回にわたって講義していきます。** **（ここからは春・秋学期共通です）** 好評である**「英語で何と言うの?コーナー」**を再度設けて、英語でどう表現しているかを学びます。例えば、「ワンルームマンション、経済格差、Ｃ型肝炎、賞味期限、過労死、無差別殺傷事件、派遣労働者」と言ったその時々に話題となった問題を取り上げて紹介し、解説していきます。昨年・一昨年度に行った「英語で何と言うの？コーナー」約１８０例のプリントを授業で配布いたします。 **このように、本講義は、「英字新聞丸かじり」の授業です。尚、質問はいつでも受け付けます。**
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（９０％）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（１０％）を参考にして総合的に評価する。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	メディア英語　I メディア英語　I a	担当者	岡田　誠一

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカ国内でのテレビニュースの英語はかなり早い速度である。使われる単語は一音節の短いものが多く、文章は単文が多用される。また、ニュースに緊張感・臨場感を持たせるために、不完全な文が使われることもある。 このような英語に慣れるため、この授業では、ビデオやテープを用いて、速度の早い英語を聴き取る練習をする。 何度も繰り返し聴いていると、次第に耳が慣れてきて、ニュースの内容もつかめるようになってくる。 また、新聞で使われる英語についても学んでいく。これも小説や随筆で使われる英語とは異なり一種独特なものである。その特徴を把握し、苦労せずに英字新聞が読めるようになるよう指導する予定。 漫画も利用するが、背景となっているアメリカ文化についての知識が如何に重要かがわかるであろう。 その他に、ネイティヴ並みの英文を書けるようになるために翻訳を活用する方法も学ぶ予定。 つまり、メディアで使われる英語に慣れること、速度の早い英語を聴き取る力を養うこと、がこの授業の目的である。	テキストは１５課から成り立っているが、一回の授業で１課終わらせる。春学期には７課まで進む予定。 この他、新聞、ラジオ（FEN）、漫画なども活用する計画。更に、ヒヤリング能力を向上させるため、アメリカ映画も利用する予定である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
ABC World News 11　金星堂 参考書は授業において適宜指示する。	出席状況、予習をして授業に臨んだか否か、授業中の発言・質問、期末の試験、などにより評価が決定される。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	メディア英語　I メディア英語　I b	担当者	岡田　誠一

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	秋学期はテキストの８課から最後の課まで終わらせる予定。 春学期同様、新聞、ラジオの英語についても学ぶ。 また、アメリカ映画も活用の予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	金子　節也

講義目的、講義概要	授業計画
日米関係、ハイテク、日欧関係、アジア問題等の専門家・第一人者へのインタビューを中心に、日本の今後の進路と他国との協調共存を考える。テキストのほか、インターネット、英字新聞をはじめ、CNN、ABC、BBC などの英語放送やサブテキストを使って、テキストを renewal する。	1. オリエンテーション 2. 日米関係 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 日欧関係 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. アジア関係 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 全体まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
English through the News Media ほか	テストと出欠を含む平常点。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	金子　節也

講義目的、講義概要	授業計画
同上	1. 指導者たちの英語（ブッシュ、ブレアーなど） 2. 同上 3. 同上 4. アジア英語（シンガポール、マレーシアなど） 5. 同上 6. 同上 7. 日本人の英語（小泉首相、長谷川滋利選手など） 8. 同上 9. 同上 10. 共通語としての英語 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 全体まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	小林　愛明

講義目的、講義概要	授業計画
新聞やインターネット等に載せられている情報を通じて、様々な「メディア」の英語を読み・聴き・理解する術を習得していく。なお、“軸”としては今一番ホットな話題であるオバマ大統領を中心として展開していく予定。同時にアメリカにおける人種間の軋轢を、映画などを通じて紹介していく。	1.　　イントロダクション 2～15. メディア英語（実践）
テキスト、参考文献	**評価方法**
① テキストはプリントにて配布。 ② 辞書は毎回必ず持参してくること。（電子辞書で OK）	出席・発表・学期末のレポートを総合して決める。4 回以上欠席した場合やレポートに不備（資料の無断盗用など）がある場合に関しては評価対象外となるので注意。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	小林　愛明

講義目的、講義概要	授業計画
新聞やインターネット等に載せられている情報を通じて、様々な「メディア」の英語を読み・聴き・理解する術を習得していく。なお、“軸”としては今一番ホットな話題であるオバマ大統領を中心として展開していく予定。同時にアメリカにおける人種間の軋轢を、映画などを通じて紹介していく。	1.　　イントロダクション 2～15. メディア英語（実践）
テキスト、参考文献	**評価方法**
① テキストはプリントにて配布。 ② 辞書は毎回必ず持参してくること。（電子辞書で OK）	出席・発表・学期末のレポートを総合して決める。4 回以上欠席した場合やレポートに不備（資料の無断盗用など）がある場合に関しては評価対象外となるので注意。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	メディア英語　Ⅰ メディア英語　Ⅰa	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ 授業の目的は、英語のメディアを通じて現代国際社会を理解する英語力を養成することにある。新聞記事、雑誌記事、オンライン・ニュース、ニュース映像など生の教材を使用し、実践的な英語力の向上を試みる。 授業の概要 　この授業では、新聞・雑誌記事の構成などの基礎をまず学び、リーディング、リスニング、ディクテーション、グループ・ディスカッションなどの実践的な学習を通じて、メディアで使用される英語に慣れ親しみ、メディアを通じて発信される情報を理解するのに必要な英語力の習得を目指す。 　現代社会の直面する問題を中心に、毎週異なるテーマを扱う。学期中に一度英字新聞記事の発表をしてもらう。詳細は初回の授業にて説明する。	第１回：ガイダンス 第２回：英字新聞の特徴、構成 第３回：新聞以外のメディアの特徴 第４回：世界の食事情①先進国と開発途上国 第５回：世界の食事情②肥満 第６回：世界の食事情③栄養失調／飢餓 第７回：世界の人口問題①少子高齢化／人口減少 第８回：世界の人口問題②人口増加／移民 第９回：世界の労働問題①ニート 第１０回：世界の労働問題②児童労働 第１１回：世界の紛争①少数民族問題 第１２回：世界の紛争②軍事拡散 第１３回：世界の環境問題①地球温暖化 第１４回：世界の環境問題②エネルギー事情
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし。教員が毎回プリントを配布する。 参考書　：適宜紹介する。	出席、発表、定期試験の総合評価とする。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	メディア英語　Ⅰ メディア英語　Ⅰb	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ 授業の目的は、英語のメディアを通じて現代国際社会を理解する英語力を養成することにある。新聞記事、雑誌記事、オンライン・ニュース、ニュース映像など生の教材を使用し、実践的な英語力の向上を試みる。 授業の概要 　この授業では、新聞・雑誌記事の構成などの基礎をまず学び、リーディング、リスニング、ディクテーション、グループ・ディスカッションなどの実践的な学習を通じて、メディアで使用される英語に慣れ親しみ、メディアを通じて発信される情報を理解するのに必要な英語力の習得を目指す。 　現代社会の直面する問題を中心に、毎週異なるテーマを扱う。学期中に一度英字新聞記事の発表をしてもらう。詳細は初回の授業にて説明する。	第１回：ガイダンス 第２回：英字新聞の特徴、構成 第３回：新聞以外のメディアの特徴 第４回：世界の食事情①先進国と開発途上国 第５回：世界の食事情②肥満 第６回：世界の食事情③栄養失調／飢餓 第７回：世界の人口問題①少子高齢化／人口減少 第８回：世界の人口問題②人口増加／移民 第９回：世界の労働問題①ニート 第１０回：世界の労働問題②児童労働 第１１回：世界の紛争①少数民族問題 第１２回：世界の紛争②軍事拡散 第１３回：世界の環境問題①地球温暖化 第１４回：世界の環境問題②エネルギー事情
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし。教員が毎回プリントを配布する。 参考書　：適宜紹介する。	出席、発表、定期試験の総合評価とする。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	メディア英語 Ⅱ メディア英語 Ⅱ a	担当者	A.R. Falvo

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. By the end of the Spring term students should be able to use POWER POINT for at least one presentation PER TERM! The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class.	Introduction Route 66, Weekly Current Event The American RED Cross, Weekly Current Event The Boston Ballet, Weekly Current Event Comedy, Weekly Current Event Political Protest, Weekly Current Event The Yellow Pages, Weekly Current Event The Dangers of Fast Food, Weekly Current Event The JOYS of Italian Cooking, Weekly Current Event Healthy Life Styles, Weekly Current Event Supermarkets, Weekly Current Event Apples in the US Northwest, Weekly Current Event Final Evaluation（Ⅰ） Final Evaluation（Ⅱ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be determined	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	メディア英語 Ⅱ メディア英語 Ⅱ b	担当者	A.R. Falvo

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. Students will use POWER POINT for at least one presentation this term. As in the Spring term, students will submit homework by email. Students will be filmed by video camera and will be responsible for one presentation this term in a group project.	Introduction Tennessee, Weekly Current Event The Special Olympics, Weekly Current Event Sports Shoes, Weekly Current Event Charities for Children, Weekly Current Event Health and Comedy, Weekly Current Event Broadway Musical, Weekly Current Event Country Western Singers, Weekly Current Event Space Exploration, Weekly Current Event Video Taping of Group Project Part One Video Taping of Group Project Part Two Critique of the Group Projects Final Presentation（Ⅰ） Final Presentation（Ⅱ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be determined	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	メディア英語 Ⅱ メディア英語 Ⅱ a	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
テレビ、ラジオの放送、新聞、雑誌の記事、パソコンや各種携帯携帯端末向けに配信される記事や文章等、現代は複雑多岐にわたる様々な情報の溢れる時代と言えましょう。そんな時代に生きる我々に必要なことの一つは、過多な情報に翻弄されずに、正しい情報を選びとり、正確に要点をつかんだ上で、その事柄に対し自らの考えを的確に表すことなのではないでしょうか。この授業では、主に新聞記事を扱いますが、①英文を正確に読解する力、②記事の要点を正確に把握する力、更に、③記事についての自分の考えを分かりやすく表わす力を養うことを目的とします。また、様々な記事を媒介として、社会の様々な事象について共に考える場を持ち、情報化社会の一員として必要な、情報を見極める目を養いたいと思います。 授業では、テクストの各ユニットで扱っているトピックについて２週かけて取り組みます。 １週目には、①記事の内容確認をした後、②サマリーを作成する練習や③記事に表わされた事柄に対する自分の考えを的確に表わす練習をします。また、時間が許せば、テキスト付随のリスニングの練習問題をします。その後、２週目には、テキスト以外の関連記事を読んだり、グループワークで意見交換などを行い、第１週目に読んだ事柄について、更に深く考察したいと思います。また、関連記事については、受講者からも提供してもらうようにして、一方通行でない授業を心がけます。特に、各自関心のある事柄については、他の新聞や雑誌、インターネットのニュースなどから関連記事を探して比較検討し、内容説明や気付いた事柄、感想などを授業中に発表して下さい。皆さんの積極的な授業参加を期待してます。	1: Introduction: 2: Unit 1: Gorilla Tourism 3: " 4: Unit 2: Reducing Poverty in India and Bangladesh 5: " 6: Unit 3: The Center for Alternative Technology 7: " 8: Unit 4: Clearing Landmines 9: " 10: Unit 5: An Ethical Bank 11: " 12: Unit 6: Stewardship Programs 13: " 14: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
David Peaty, *Good News (Book 2)*, Longman	出席（30%）、定期試験(30%) 、授業中の発表、提出物(40%)を総合的に評価します。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	メディア英語 Ⅱ メディア英語 Ⅱ b	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同様です。	1: Introduction: 2: Unit 7: Medicine for the Poor 3: " 4: Unit 8: A Computer for Every Child 5: " 6: Unit 9: The Eco-Economy 7: " 8: Unit 10: Buying Paradise 9: " 10: Unit 11: Environment-Friendly Paper 11: " 12: Unit 12: Combating Global Warming 13: " 14: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
David Peaty, *Good News (Book 2)*, Longman	出席（30%）、定期試験(30%) 、授業中の発表、提出物(40%)を総合的に評価します。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	メディア英語 Ⅱ メディア英語 Ⅱ a	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
英字新聞の記事を読む。いろいろな内容の報道記事や特集記事を読むことを通して一般社会で必要とされる英語の語彙力を養成する。予習してきた事を確認するために、毎回簡単な単語テストを行う。教材については、次の授業で使う記事のコピーを毎回配布するので、出来るだけ欠席しないことが大切である。授業では英文記事を和訳しながら内容理解に務めたい。	毎回、授業の初めに単語小テストを行う。授業では主に和訳をしながら記事を読み進める。
テキスト、参考文献	**評価方法**
次の授業で使う教材を毎回配布する。	出席、授業態度、単語小テストの結果から総合的に評価する。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	メディア英語 Ⅱ メディア英語 Ⅱ b	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ。	春学期に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
次の授業で使う教材を毎回配布する。	出席、授業態度、単語小テストの結果から総合的に評価する。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	シネマ英語 シネマ英語 a	担当者	岡田　誠一

講義目的、講義概要	授業計画
百年前の映画も、ビデオで日常的に観ることができる世の中となった。こういう時代に生きて、「映画」を放っておくことはないと思う。芸術、教養として、また、娯楽として、映画をもう一度考え直してみることが必要ではないだろうか。この授業では、映画に関する様々なことを学んでいく。そして、映画の歴史について学ぶことにより、アメリカ文化についての理解を深めるのが、この授業の目標の一つである。 授業では、テキストの精読だけでなく、他の参考書（抜粋のプリント）もできる限り用いる予定。英語を読む力を培うのがこの授業のもう一つの大きな目標である。 また、出来るだけビデオを利用して、映画について様々なことを学んで行く予定。少なくとも、映画が嫌いでない、できれば、映画が好き、という人に受講してもらいたい。	（初期の映写機；映画の誕生；特殊効果はどのようにして生まれたか；最初のスタジオ；トーキーの出現；初期のハリウッド；30 年代に活躍した俳優たち）などについて学ぶ計画。 　また、クロスカッティング、シークエンス、ディゾルヴ、トラッキング・ショット、ドリーなどの基本的な映像用語についても解説を加える。 さらに、過去の名画を数本鑑賞の予定である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『楽しい映画文化史』　成美堂	出席回数、予習をして授業に臨んだか否か、試験、などによって総合的に評価する。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	シネマ英語 シネマ英語 b	担当者	岡田　誠一

講義目的、講義概要	授業計画
前期と同じ。	（ハリウッドとスター・システム；検閲とヘイズコード；カラー映画の出現；アニメ映画の製作；セルの活用；ディズニー映画）などについて学ぶ予定。 　また、前期も同様であるが、毎回、テキストに入る前に、古い映画を部分的に観ることにより、映画史的なことがらを学んでいく。 前期同様、過去の名画を鑑賞する計画である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『楽しい映画文化史』　成美堂	出席回数、予習をして授業に臨んだか否か、試験、などによって総合的に評価する。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	シネマ英語 シネマ英語 a	担当者	門倉　弘枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 公開後 60 年を経ても今尚その輝きを失わない名画、「カサブランカ」。（アカデミー賞受賞）第二次世界大戦のヨーロッパ、モロッコを舞台に繰り広げられる物語をＤＶＤで観賞し、生き生きとしたオーセンテイックな使える英語を学び、発表などを通じて実際に使えるようにしていきます。時代的背景の中で深みのある台詞でつずられていくストーリーを楽しみながら学べると思います。 講義概要： DVD を見てスクリプトをよく理解し、Exercise で確認します。チャプターごとに好きな表現を選び、ペアでスキットを作成し発表して、生きた英語を身につけていきます。	1. Introduction 2. The Background of ‘Casablanca’ 3. Chapter 1　This Place Is Full Of Vultures 4. Chapter 2　Will You Keep This For Me? 5. Chapter 3　You Are At Heart A Sentimentalist 6. Chapter 4　Rick Is Completely Neutral About Everything 7. Chapter 5　Play “As Time Goes By.” 8. Chapter 6　I’m Waiting For A Lady 9. Chapter 7　Kiss Me As If It Were The Last Time 10. Chapter 8　Why Did You Come To Casablanca? 11. Chapter 9　Nobody Is Supposed To Sleep Well In Casablanca 12. Chapter 10　You’re A Fat Hypocrite 13. 発表 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ed. by K. Sonoda, M. Ishigaki, K. Nakagaki, C. Nagao, T. Mitsui. *Casablanca.*（映画シナリオ　カサブランカ）鶴見書店。￥１９００　＋税	出席状況、授業への参加度、宿題、発表、エッセイ提出等から総合的に評価します。授業中のプリゼンテーションも重要視しますので、出席は最も重要。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	シネマ英語 シネマ英語 b	担当者	門倉　弘枝

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ。	1. Chapter 11　Victor Laszlo Is My Husband 2. Chapter 12　Ugarte Left Those Letters With M’sieur Rick 3. Chapter 13　I Blow With The Wind 4. Chapter 14　Everybody In Casablanca Has Problems 5. Chapter 15　The Place Is To Be Closed 6. Chapter 16　Were You Lonely In Paris? 7. Chapter 17　I Wish I Didn’t Love You So Much 8. Chapter 18　It Seems That “Destiny” Has Taken A Hand 9. Chapter 19　I’m Taking A Friend With Me 10. Chapter 20　Not So Fat, Louise 11. Chapter 21　We’ll Always Have Paris 12. Chapter 22　This Is The Beginning Of A Beautiful Friendship 13. 発表 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

06～08 年度（春）	英語学の世界	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
[目標] 英語学(Enlgish linguistics)の学問研究から得られた英語についての知見を紹介することを通じ、高校時代までに習ってきた英語の知識（単語の意味・イントネーション・語法・構文）のうちで間違って習った点を正しながら、さらに一歩掘り下げ、正しい知識であっても、なぜそのように言えて別の言い方ができないのかということを中心に解説する。したがってこの講義を受講すると、例えば、高校時代に楽器には定冠詞を付けて play the guitar と言わなければならないと教わるが、冠詞を付けなくとも、あるいは a と the のどちらを付けてもよく、ただ単にギターという楽器にたいする意味づけの仕方が異なるだけであるということがわかるようになる。 [概要] 右の授業計画に沿い、高校時代までに学習してきた英語の知識にたいし、「どうしてそうは言えてもこうは言えないのか？」という素朴な疑問に対し、英語学(English linguistics)の観点からの説明を試みる。	第１回：ガイダンス 第２回：不定冠詞付き名詞は何を意味するか？ 第３回：定冠詞付き名詞は何を意味するか？ 第４回：数えられる名詞と数えられない名詞 第５回：時制と相（現在時制と過去時制・進行相） 第６回：時制と相（完了相） 第７回：モダリティ（命題態度表現） 第８回：モダリティ（発話態度表現） 第９回：動詞の意味と構文（自他の交替） 第 10 回：動詞の意味と構文（構文交替のメカニズムを探る） 第 11 回：存在を表す構文（There 構文、はだか存在文、提示文） 第 12 回：否定の意味（文否定と構成素否定・二重否定） 第 13 回：否定の意味（部分否定と全体否定） 第 14 回：否定の意味 （much・any/some・few/a few/several） 第 15 回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：本学の講義支援ポータルサイトを通じてプリントを配布する。 参考書：授業中に適宜紹介する。	課題と小テストおよび定期試験で決める。

06～08 年度（秋）	英語学の世界	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

08 年度以前（春）	言語情報処理 Ｉa	担当者	木村　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 　この授業では，言語が機械（コンピューター）可読の資料になったとき，それらをどのような方法で分析し，その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り，考えることを目的とする． [概要] 　コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい，近年では数多くの辞書や文法書，外国語学習書にその分析結果が生かされている．コンピューターを利用することにより，人間の目あるいは直感では知りえないことがわかってくるということがある．たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ 10 は何か」とか，「日本の高校で使われている単語は，英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである． 　本授業では，さまざまなジャンル，モード，発話者から集められたコーパスを，専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる． ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい	1. ガイダンス 2. コーパスとは何か 3. コンピューターの基本操作: テキストエディタ 4. コンピューターの基本操作: MS Excel 5. 高度な Web 検索方法 6. British National Corpus（BNC）の紹介 7. BNC を利用した語句検索 8. BNC を利用した共起検索 9. BNC を利用した話し言葉と書き言葉の比較 10. コーパスの作成: 映画コーパスを作る 11. 映画コーパスの分析: 口語表現の特徴 12. 映画コーパスの分析: ジャンルによる違い 13. 映画コーパスの分析: 品詞分析 14. 最終レポートの準備
テキスト、参考文献	**評価方法**
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する．	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する． 特に出席については，累積で失格，欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること．

08 年度以前（秋）	言語情報処理 Ｉb	担当者	木村　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 　春学期に引き続き，コーパス分析を行うが，今学期は英語学習者による話し言葉・書き言葉を集めた，「学習者コーパス」を分析の対象とする．私たち自身を含む英語学習者の発話を分析することにより，どのような語彙・文法使用および誤り（エラー）がわれわれ日本人英語学習者の特徴なのかを知り，今後の学習や教育に生かすことを目的とする． [概要] 　前半は日本人 1200 人分の英語によるインタビューデータを収集し，コーパス化した NICT JLE Corpus を扱う．後半は日本人中高生の 1 万におよぶ英作文を集めた JEFLL Corpus を扱う．いずれも異なる英語力を持つ学習者グループのデータを含んでいるため，「英語力が低い人と高い人は具体的に何が違うのか？」という疑問に対する答えを求めるため，語彙，文法，談話，誤り等の観点から分析を行う． ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい ※ 「言語情報処理 Ｉa」を受講していることが望ましい	1. ガイダンス 2. 学習者コーパスとは 3. NICT JLE Corpus の概要 4. NICT JLE Corpus の分析（1） 5. NICT JLE Corpus の分析（2） 6. NICT JLE Corpus の分析（3） 7. NICT JLE Corpus の分析（4） 8. JEFLL Corpus の概要 9. JEFLL Corpus の分析（1） 10. JEFLL Corpus の分析（2） 11. JEFLL Corpus の分析（3） 12. JEFLL Corpus の分析（4） 13. 最終レポートの準備（1） 14. 最終レポートの準備（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する．	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する． 特に出席については，累積で失格，欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること．

08 年度以前（春）	言語情報処理 Ｉa	担当者	吉成　雄一郎

講義目的，講義概要

（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です）

本講義では，最終的にはコンピュータというメガネを通して，「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば，皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時，どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが，必ずしも近くにいるとは限りませんし，聞く相手によって答えが揺れることもあります。

そんな時に，一つのヒントを与えてくれるものが，「コーパス」です。コーパスというのは，コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで，普通の辞書では得られない例文を見つけたり，また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。

本講義では，まず春学期に情報処理の基本的な考え方，発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析

（下に続く↓）

授業計画

1　講義のガイダンス：言語情報処理とは何か
2　言語情報処理とコーパス・表計算一巡り
3　計算(計算式，計算式のコピー，セルの相対参照，絶対参照等)
4　Excel 関数(算術・統計関数を中心に)
5　Excel 関数(文字列操作関数を中心に)
6　Excel 関数(論理関数を中心に)
7　Excel 関数のネスト（１）
8　Excel 関数のネスト（２）
9　データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)
10　データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)
11　データベース上のデータの蓄積方法
12　自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など
13　まとめと演習

テキスト，参考文献

テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。

評価方法

学期末試験および２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

08 年度以前（秋）	言語情報処理 Ｉb	担当者	吉成　雄一郎

講義目的，講義概要

には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが，それらのツールは特定の処理には適しているものの，汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく，あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。

秋学期は，春学期に学んだ Excel の知識を活用して，学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から，コーパスの構築の仕方，および Excel で KWIC Concordance を実現する手法，および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに，本格的なコーパス，約 1 億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は，コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。

本講義で修得したコンピュータを使った見方と，構築した自分専用のコーパスは，講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。

授業計画

1　講義のガイダンス：コーパスとその応用
2　Access 上にデータを格納
3　Access のデータを引き出して Excel で分析
4　コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。
5　コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。
6　コンコーダンスラインの利用(3)：演習
7　品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて，より精密な分析を試みる。また，自動タグ付けも試みる。
8　タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。
9　最先端のコーパスの現状：体験アクセス
10　「文体」をどうとらえるか。－文の長さ－
11　文の長さが意味するもの－標準偏差・変動係数
12　語彙密度・K 特性値
13　まとめと演習

テキスト，参考文献

テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。

評価方法

学期末レポートおよび２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

08 年度以前（春）	言語情報処理Ⅱa	担当者	吉成　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
「言語情報処理Ⅱ」は「言語情報処理Ⅰ」の履修を前提としません。はじめての人も受講を歓迎します。 現代社会にあって、外国語を習得することと同様に学生時代に身につけておきたい能力が情報処理です。英語が使えることに加えて、コンピュータが使いこなせなければ、どのような分野で仕事をしていても、速く、正確に遂行することができます。 この講義では、英語を使って、将来教職に就きたい人、ビジネスの第一線で働きたい人、研究職に就きたい人などを対象に、基本的な情報処理について学びます。単にスキルを身につけるというだけでなく、情報処理するということはどのようなことなのかをアカデミックに、しかも楽しく勉強します。できれば通年で履修してもらいたいと思います。もちろん、はじめての人にもわかりやすくゆっくりと進めます。 春学期には、基本的な情報処理の考え方を学びます。使うソフトは主に、Microsoft Excel ですが、PowerPoint や Word などの連携などもにも触れたいと思います。	1　講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2　言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3　計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4　Excel 関数の扱い 5　Excel 関数のネスト 6　データベース処理 7　データベース上のデータの蓄積方法 8　PowerPoint や Word との連携 ＊その他受講生の皆さんの理解度と反応によって、コンテンツを提供します。

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。	学期末試験および２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

08 年度以前（秋）	言語情報処理Ⅱb	担当者	吉成　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
「言語情報処理Ⅱ」ははじめての人の受講を歓迎します。ただし、IIb から始めるのではなく、なるべく IIa から履修することを推奨します。 獨協大生の 4 人に一人は末っ子だ、と聞いて、驚きますますか、納得しますか。実はこの数字が、獨協の友達 4 人に聞いたらそのうちの一人が末っ子を聞いて、それから導き出された結論だとしたらいかがですか。 社会にはデータがあふれています。これらのデータをうまく処理することで、物事の本質の一面を正しくとらえることができるのです。逆にデータの処理の仕方を誤ると、間違った結論にもなってしまうわけです。 本講義では、春学期に学んだ Microsoft Excel(以下 Excel)を使って、データの処理の仕方を学んでいきます。また、処理した結果をグラフ化したり、Word に貼り付けてレポートを作ったり、PowerPoint で表示させてみましょう。分からないことは何でも質問してください。 この講義が終わることには、Excel の使い方に精通しているだけでなく、統計処理の基本概念が身についていることでしょう。この知識は将来、きっと様々なところで役に立つと思います。	1　講義のガイダンス：Excel と統計 2　統計って何？ 3　平均にだまされるな 4　ばらつきって何？ 5　度数分布 6　相関 7　「偏差値」とは何だったのか 8　検定 ＊その他受講生の皆さんの理解度と反応によって、コンテンツを提供します。

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。	学期末試験および２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

06～08 年度（春）	英語発音教授法	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。そのためにも自分の発音を再確認し、自信をもって教えられるようにすることを目的とする。 実践を通して、子音、母音、弱形、音の同化、連接、強勢とリズム、抑揚などについて発音仕方の再確認とその教授法を学ぶ。講義にはプリントを用いるが、中学校・高校の教科書等を教材として用い、実際に教授法を工夫し、発表する。 聞き取りの力をつけるために授業時に Quiz を、課外用に dictation の宿題を出す。USB を用意すること。 英語教育に関心のある２年生以上を対象とする**半期完結科目**。免許課程登録者でなくても履修可。 **受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。** 定員は２５名。受講希望者は春学期の最初の授業に必ず出席すること。	1. Introduction 2. Pre-test, 英語の母音の特徴 3. 〃 4. 〃 (Presentation & Quiz) 5. 英語の子音の特徴 6. 〃 7. 〃 (Presentation & Quiz) 8. まとめ（対話や散文等を用いた練習）, 音声提出(1) 9. 英語の強勢とリズム 10. 〃 (Presentation & Quiz) 11. 英語のイントネーション 12. 〃 (Presentation & Quiz) 13. 英語の音変化 14. 〃 (Presentation & Quiz), 音声提出(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントおよび『５分間　英語発音』南雲堂 参考文献：P. Avery and S. Ehrlich, *Teaching American English Pronunciation*, OUP.　その他、授業中に随時紹介する。	出席状況　2/3 以上出席していること 平常点：Presentation　&Quiz 10%、宿題　20% 音声提出：30% 期末試験：40%

06～08 年度（秋）	英語発音教授法	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。そのためにも自分の発音を再確認し、自信をもって教えられるようにすることを目的とする。 実践を通して、子音、母音、弱形、音の同化、連接、強勢とリズム、抑揚などについて発音仕方の再確認とその教授法を学ぶ。講義にはプリントを用いるが、中学校・高校の教科書等を教材として用い、実際に教授法を工夫し、発表する。 聞き取りの力をつけるために授業時に Quiz を、課外用に dictation の宿題を出す。USB を用意すること。 英語教育に関心のある２年生以上を対象とする**半期完結科目**。免許課程登録者でなくても履修可。 **受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。** 定員は２５名。受講希望者は秋学期の最初の授業に必ず出席すること。	1. Introduction 2. Pre-test, 英語の母音の特徴 3. 〃 4. 〃 (Presentation & Quiz) 5. 英語の子音の特徴 6. 〃 7. 〃 (Presentation & Quiz) 8. まとめ（対話や散文等を用いた練習）, 音声提出(1) 9. 英語の強勢とリズム 10. 〃 (Presentation & Quiz) 11. 英語のイントネーション 12. 〃 (Presentation & Quiz) 13. 英語の音変化 14. 〃 (Presentation & Quiz), 音声提出(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントおよび『５分間　英語発音』南雲堂 参考文献：P. Avery and S. Ehrlich, *Teaching American English Pronunciation*, OUP.　その他、授業中に随時紹介する。	出席状況　2/3 以上出席していること 平常点：Presentation　&Quiz 10%、宿題　20% 音声提出：30% 期末試験：40%

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	シンタクス a 統語論 a	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんは中高6年間英語を学び、かなりの文法知識を持っていることと思う.しかし、いざ英語でまとまった文章を書いたり、家庭教師として英文解釈の説明をしようとすると、その知識のあやふやさに気づくことがあるのではないだろうか.この授業では、英語の文構造を分析的に整理（＝シンタクス）していく.分析的に英語を見直していくことによって、実用的な英語力が高まるだけでなく、私たちが無意識に使っている日本語とも多くの共通性があることを知ることになるだろう.さらに、何語であれ言語は私たちの知的活動に不可欠なものなので、英語のシンタクスを学ぶことにより、人間とは何かについても考察して行きたい. 扱う英語のデータは主に単文である.授業は講義形式で進めるが、講義の後半には講義内容に関する英語のデータを受講者に分析して提出してもらう.次週に返却して解説する.期末試験はこの提出課題を積み重ねたものになる	1. シンタクスとは？ 2. 句構造 3. X-bar Syntax （一般句構造理論） 4. X-bar Syntax （一般句構造理論） 5. X-bar Syntax （一般句構造理論） 6. 幼児が持つ高度な認知能力について 7. 主要部による語彙選択 8. 節の内部構造 9. 節の内部構造 10. 主語と助動詞の倒置 11. 本動詞・助動詞と時制辞の分布 12. 動詞句の省略 13. Yes/No 疑問文・Wh 疑問文 14. 質問
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし。参考文献は*Transformational Syntax* (A. Radford, CUP) *Introduction to Government and Binding Theory* (L. Haegeman, Blackwell).**『生成文法の基礎』（中村捷他、研究社）**	定期試験による．授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である．定期試験は授業の課題に沿って出題される．

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	シンタクス b 統語論 b	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
シンタクス a に準じる。 扱うデータは主に that 節や不定詞節を含む英語の複文である.	1. シンタクス a 定期試験の解説など 2. 機能範疇と語彙範疇 3. persuade と expect の統語的差異 4. likely と eager の統語的差異 5. 不定詞補文一般について 6. 名詞句の分布と格理論 7. 格理論と名詞句移動 8. 格理論と名詞句移動 9. 言語障害について 10. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係 11. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係 12. 名詞句移動の局所性 13. he などの代名詞と先行詞との構造的関係 14. 質問
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし。参考文献は*Transformational Syntax* (A. Radford, CUP) *Introduction to Government and Binding Theory* (L. Haegeman, Blackwell).**『生成文法の基礎』（中村捷他、研究社）**	定期試験による．授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である．定期試験は授業の課題に沿って出題される．

08 年度以前（春）	意味論 a	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は，言語学・英語学における意味論と呼ばれる分野の基本的な考え方を身につけることである。そして，これにより，英語に対する理解が深まり，さらに，間違いのない英語から英語らしい英語へと関心の持ち方が変わるはずである。また，英語に対する深い理解は，同時に，多くのものにとっての母語である日本語に対する理解をも深めることになるであろう。 授業では，下記のテキストの第 1 章「ことばと意味」，第 2 章「語彙の中の意味関係」，第 3 章「文法と意味」及び第 4 章「意味とコンテクスト」の前半部分の内容を講義する。学期末には，たとえば，*A large peach flowed down the river.という文が不適格であるという事実や I believe John honest.という文と I believe that John is honest.という文の間の意味の違いを知識として知るだけでなく，これらの事実に対する説明を与えることができるようになっているはずである。英語に対するこのような接し方は，単なる暗記の対象としての英語，意思伝達の道具としての英語という見方を考え直す契機となるであろう。	第 1 回 オリエンテーション（出席は必須） 第 2 回～第 7 回 ことばと意味（二重文節の仕組み，語義をめぐる原則と逸脱，語義と指示物のズレ，他），語彙の中の意味関係（文の構造と語彙の構造，同義語か類義語か，選択制限，他） 第 8 回～第 13 回 文法と意味（文法と語法，動態的か状態的か，構文と意味の関係，他），意味とコンテクスト（文法・語法が正しくとも不自然な表現，何がテクスト／談話を成立させるのか，なぞなぞから民話まで，他） 第 14 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
池上嘉彦（2006） 『英語の感覚・日本語の感覚―〈ことばの意味〉のしくみ』東京：日本放送出版協会	定期試験の結果により評価する。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

08 年度以前（秋）	意味論 b	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は，言語学・英語学における意味論と呼ばれる分野の基本的な考え方を身につけることである。そして，これにより，英語に対する理解が深まり，さらに，間違いのない英語から英語らしい英語へと関心の持ち方が変わるはずである。また，英語に対する深い理解は，同時に，多くのものにとっての母語である日本語に対する理解をも深めることになるであろう。 授業では，下記のテキストの第 4 章「意味とコンテクスト」の後半部分，第 5 章「意味の変化のダイナミズム」，第 6 章「言語の普遍性と相対性」及び第 7 章「ことばの限界を越えて」の内容を講義する。学期末には，たとえば，I listened but heard nothing.という文が矛盾なく使えるという事実や“Where am I?”に対応する日本語が「ここはどこですか」であることを知識として知るだけでなく，これらの事実に対する説明を与えることができるようになっているはずである。英語に対するこのような接し方は，単なる暗記の対象としての英語，意思伝達の道具としての英語という見方を考え直す契機となるであろう。	第 1 回 オリエンテーション（出席は必須） 第 2 回～第 7 回 意味とコンテクスト（〈テクストを読む〉とはどういう営みか，テクスト成立の基準，共同の原則，他），意味の変化のダイナミズム（「ことばの場」という考え方，意味変化の伝統的な分類，連想の型に基づく意味変化の分類，他） 第 8 回～第 13 回 言語の普遍性と相対性（自然な表現・不自然な表現，言語間の表現の好みの差，主客対立と主客合体，他），ことばの限界を越えて（ことばの牢獄，〈他者〉としての言語，〈詩のことば〉と〈日常のことば〉，他） 第 14 回 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
池上嘉彦（2006） 『英語の感覚・日本語の感覚―〈ことばの意味〉のしくみ』東京：日本放送出版協会	定期試験の結果により評価する。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

08 年度以前（春）	音声・音韻論 a	担当者	青柳 真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1年生の「英語音声学」で学んだことを基にさらに発展させ，英語と日本語を中心に様々な音の特徴や変化についてそのしくみや法則を考えていく。 音声には音声的な側面と音韻的な側面が表裏一体となって存在する。音声は常に変化する量的なもので千差万別であり，空中に音波としての実体がある。一方，音韻はその変化する音声に，A なら A，B ならBという質的(非量的)な記号を当てて脳に格納されている抽象的実体である。 音声の特徴や変化の法則性(音韻)について、その背後にある音声実態(音声)の多様性を紹介しながら、音声と音韻の関係という言語音声の表裏一体性について導入を試みる。 講義概要 毎回の読み課題や練習課題をもとに、解説・補足の講義をする。クイズで理解を確認する。予習、出席、提出などに積極的な参加が求められる。 メッセージ ２年秋に音声学ゼミ入志望（2, 3 次希望でも）の可能性がある学生は是非学んで欲しい。08 年度の担当者の特講と一部重複部分があります。	1. 第 1 章 音と文字 2. 第 2 章 子音の調音 3. 第 3 章 母音の調音 4. 母音の有標性、子音の有標性、Exercises 5. 第 3 章 音素と音素体系 6. 第 4 章 音と意味 7. 第 5 章 音声特徴 8. 弁別素性、Exercises 9. 第 6 章 音節と音の並び方 （音韻的分節、音声的分節、分綴法） 10. 音節とモーラ 11. 第 10 章 語アクセント 12. 語アクセント (2)、第二アクセント、無アクセント 13. 第 11 章 リズムとイントネーション 14. リズムとイントネーション (2)

テキスト、参考文献	評価方法
川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館（1999） （ISBN4-469-21232-6), その他 配布資料 (参考書) 窪薗晴夫『音声学・音韻論』くろしお出版（1998）	出席、毎回の課題、期末テスト・課題の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。

08 年度以前（秋）	音声・音韻論 b	担当者	青柳 真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 春学期に同じ。 講義概要 春学期に同じ。	1. Review セグメント，音節，フット，アクセント(語，句) 2. 第 7 章 音韻現象を探る 3. 音韻現象を探る (2) Exercises 4. 第 8 章 同化現象 5. 同化現象 (2) 6. 第 9 章 形態音素 7. 音声と統語構造，意味構造とのインターフェース 8. Review Exercises 9. 音韻表示と音声実現 (1) 音素と音響的特長 10. 音韻と音声 (2) 音声の知覚、音声から音韻へのマッピング 11. 音韻と音声 (3) 鼻母音と鼻音化母音 12. 音韻と音声 (4) 母音の脱落と調音重複，脱落と無声化 13. 最適性理論 14. Rreview Exercises

テキスト、参考文献	評価方法
川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館（1999） （ISBN4-469-21232-6), その他 配布資料 (参考書) 清水克正『英語音声学 理論と学習』勁草書房（1995）	出席、毎回の課題、期末テスト・課題の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。

08 年度以前（春）	英語学特殊講義 a	担当者	鈴木　英一

講義目的・講義概要	授業計画
講義目的: 英語の文構造は基本的に述語動詞によって決定されるので，動詞の特徴は文構造を考える上で重要である．ここでは，Vendler（1967）とDowty（1979）などで提案されている語彙的・意味的な特徴に基づく動詞の分類を考えながら，このような動詞の特徴がどのように文構造に反映されるかを考える． **講義概要**: まず，動詞の分類がこれまでどのような基準によってなされているかを概観する．次に，具体的に，多動性・能動性・非対格性といった特徴やVendler（1967）とDowty（1979）で提案されている動詞の表す〈相〉の特徴に基づく動詞の分類を検討する．さらに，動詞の特徴と動詞の分類が受動文・中間構文・存在文・非人称構文・繰り上げ構文といった文構造にどのように関連するかを考え，また，動詞がどのような補部要素をとるかを検討することにより，動詞の特徴と文型の決定との関係を考察する．	1. 動詞の特徴と基本的な文型と可能な文構造 2. 様々な基準による動詞の分類 3. 他動性による動詞の分類 4. Vendler(1967)の動詞の分類（1） 5. Vendler(1967)の動詞の分類（2） 6. Dowty(1979)の動詞の分類（1） 7. Dowty(1979)の動詞の分類（2） 8. 受動態の可能な動詞 9. 中間構文と可能な動詞 10. 二重目的語をとる動詞 11. 補語や目的語＋補語をとる動詞 12. 存在文の可能な動詞 13. 非人称構文の可能な動詞 14. 繰り上げ構文の可能な動詞
テキスト・参考文献	評価方法
テキスト: プリントを使用． **参考文献**: 鈴木英一『統語論』開拓社．影山太郎『動詞意味論』くろしお出版．鈴木英一・安井泉『動詞』研究社出版．	出席状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる．

08 年度以前（秋）	英語学特殊講義 b	担当者	鈴木　英一

講義目的・講義概要	授業計画
講義目的: 伝統文法でも記述文法でも生成文法でもあまり研究されていない前置詞と前置詞句を取り上げる．前置詞句があまり研究されないのは，前置詞句が副詞句と同様に，文の中で義務的な必須の要素として用いられることがないと考えられるためであるが，これは誤りであり，前置詞句も副詞句も文構造で重要な役割を果たしている．ここでは，前置詞句が文の中でどのような役割を果たすかを明らかにしたい． **講義概要**: 英語の前置詞句の統語的・意味的特徴を明らかにするために，前置詞句の内部構造，文における前置詞句の用法，前置詞句の認可条件，前置詞句全体の意味解釈の決定方法といった問題を考察する． 前置詞句の内部構造と文中での役割は，Jackendoff（1973）とJackendoff（1977）を出発点として，前置詞と〈同音異義語〉と考えられる従位接続詞や補文標識を含む構造を比較検討しながら考察する．さらに，時や場所や様態を表す前置詞句の意味解釈を考えながら，前置詞句の意味解釈方法と文中での認可条件を検討する．	1. 前置詞と前置詞句の一般的特徴 2. 前置詞と従位接続詞と補文標識について 3. 前置詞と従位接続詞との関係（1） 4. 前置詞と従位接続詞との関係（2） 5. 従位接続詞と補文標識の関係（1） 6. 従位接続詞と補文標識の関係（2） 7. 前置詞と従位接続詞の選択制限（1） 8. 前置詞と従位接続詞の選択制限（2） 9. 前置詞に選択される補文の種類（1） 10. 前置詞に選択される補文の種類（2） 11. 前置詞句の意味解釈の仕組み 12. 時を表す前置詞句 13. 場所を表す前置詞句 14. 様態を表す前置詞句
テキスト・参考文献	評価方法
テキスト: プリントを使用． **参考文献**: Ray Jackendoff. *X-bar Syntax*. MIT Press.丸田忠雄・平田一郎『語彙範疇（Ⅱ）－名詞・形容詞・前置詞』研究社．	出席状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる．

08 年度以前（春）	英語学特殊講義 a	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
英語では物事の空間関係を表す際には前置詞を用います。しかし、日本人にとっては前置詞に対応する語がなく、しかも空間関係のとらえ方が異なるため、英語の前置詞の習得は非常に難しいと言われています。英語は前置詞があるおかげで、「ベッドの下の猫」を表現するときは'a cat under the bed'というふうに、a cat と the bed の位置関係を under によって結び表すことができます。では、ここで under に相当する日本語表現はいったい何でしょうか。「下」は形式名詞ですから「x の下（上・中・外・内側・表面）のように名詞 x と組み合わせて用いられので、'a cat under the bed'の場合の under は（ベッド）「の下の」となります。<下へ続く>	1. はじめに 2. 認知言語学の考え方 3. 続き 4. 続き 5. 空間的シーンと概念化 6. out の意味 7. up の意味 8. in の意味 9. on の意味 10. 続き 11. at の意味 12. to の意味 13. 続き 14. 続き
テキスト、参考文献	**評価方法**
タイラー&エバンズ（国広哲弥 監訳・木村哲也 翻訳）2005.『英語前置詞の意味論』研究社	定期試験と課題による。

08 年度以前（秋）	英語学特殊講義 b	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
<上からの続き> しかし、その他'Have you looked under the bed?'などの例も考慮に入れると、under は「の下の（を・で・に・等々）」と幾通りかに分析されるように見えます。また、ほかの前置詞、例えば along の意味は「x に沿って」と動詞のような動きのある意味をもっていると言わなければならなくなります。このように、日本語と英語では、空間関係の表現方法に違いが見られます。 この授業では、英語の前置詞のもつ意味を、主に（認知）意味論や関連性理論の枠組を用いて説明しようと試みます。 ※ 講義の狙いは春学期・秋学期ともに同じです。	1. for の意味 2. 続き 3. 続き 4. over の意味 5. 続き 6. 続き 7. 関連性理論における手続き的意味 8. with の意味 9. 続き 10. 続き 11. by の意味 12. 続き 13. through の意味 14. その他の前置詞の意味
テキスト、参考文献	**評価方法**
田中茂範 1997.「空間表現の意味・機能」中右実編『空間と移動の表現』研究社出版 pp. 1-123. プリント（学習支援ポータルサイトの講義支援システムより受講者がダウンロードして入手）	定期試験と課題によります。

07 年度以前（春）	英語学文献研究 a （第二言語習得）	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
誰でも外国語を学習すると効果的で効率よくその言語を身につけたいと思う。しかし、母語(第１言語：Ｌ１)と第二言語（Ｌ2）の違い、学習者の年齢、動機、学習環境など、いくつもの要因が絡まっている。第二言語習得理論はまだ、研究途上の学問分野であるが、現在どのようなことが研究されており、その成果と今後の研究課題を探る。 外国語としての第二言語も含めた第二言語習得(second language acquisition: SLA)に関わる論文を読み、日本での言語教育について考える。そのためのリサーチ方法を探る。テキストは簡潔に書かれており、より具体的な事柄は他の SLA 研究論文により学び、討議する。 SLA についての予備知識は特に求めないが、言語教育、言語習得研究に興味を持っていることが必要。	1. Introduction 2. 第二言語習得(SLA)とはどのような学問か 3. SLA 研究の事例 4. SLA 研究方法 5. 学習者の言語（１）(誤答分析) 6. 学習者の言語（２）(第二言語の習得段階) 7. 中間試験（Mid-Term Test） 8. 中間言語とはなにか 9. 言語習得の個人差（１）言語能力 10. 〃　（２）　動機 11. 〃　（３）　学習方略 12. 言語教授と SLA (1) Form-focused instruction 13. 〃　（２）Learner－instruction matching 14. 〃　（３）Strategy training

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：Rod Ellis, *Second Language Acquisition*, Oxford University Press. (ISBN 0-19-437212-X) 参考文献：S. M. Gass & A. Mackey, *Data Elicitation & Foreign Language Research*, Routledge.	平常点　10% 中間テスト　40% 期末テスト　50%

07 年度以前（秋）	英語学文献研究 b　（第二言語習得）	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に学んだ中間言語（interlanguage）について、さらに詳しく学ぶ。テキストの Chapters 4－7 を中心に読み、考える。また、個人研究として関連した分野の論文を選んで発表してもらう。	1. 中間言語と社会　（１） 2. 〃　（２） 3. 〃　（３） 4. 中間言語と談話　（１） 5. 〃　（２） 6. 〃　（３） 7. 個人研究発表 8. 中間言語と心理言語学（１） 9. 〃　（２） 10. 〃　（３） 11. 中間言語と言語学　（１） 12. 〃　（２） 13. 〃　（３） 14. 個人研究発表

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：Rod Ellis, *Second Language Acquisition*, Oxford University Press. (ISBN 0-19-437212-X) 参考文献：S. M. Gass & A. Mackey, *Data Elicitation & Foreign Language Research*, Routledge.	平常点　10% 個人研究レポート　40% 期末テスト　50%

07 年度以前（春）	英語学文献研究 a	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
N. Tsujimura (2007)は日本語の構造ををメインテキストに、日本語の構造を分析的に見直し、私たちが無意識に使っている日本語の知識がいかに緻密であるかを知ることを目的とする。 学期の初めには、M. Baker (2001)から抜粋した言語一般に関する興味深い論文も読む。 データは主に、日本語の音声、音韻現象と語彙を扱う。授業では、毎週 2 人ずつ受講生にテキストを分担してレポートしてもらう。授業の後半は関連するデータを各自で分析してもらう。	1. 分担決定および Baker (2001) Chapter 1 "The code talker paradox" 2. Baker (2001) Chapter 1 "The code talker paradox" (cont.) 3. Introduction & Phonetics 4. Phonology: 高母音の無声化など 5. Phonology: 連濁（「しろい」と「あおじろい」） 6. Phonology: 拍と音節（「ミカン」は 3 拍で 2 音節） 7. Phonology: アクセント（「カレー」と「チキンカレー」） 8. Phonology: 擬音語・擬態語（「びちゃぴちゃ」） 9. Phonology: 長さの制約（「うまい」と「まいうーん」） 10. Morphology: 品詞 11. Morphology: 語形成（「話し手」「パソコン」） 12. Morphology: 自動詞と他動詞のペア（「始まる」と「始める」） 13. Morphology: 合成語（「金儲け」） 14. まとめと質問
テキスト、参考文献	**評価方法**
M. Baker (2001) *The Atoms of Language*. Basic Books. N. Tsujimura (2007) *Introduction to Japanese Linguistics.* Blackwell.	授業内のレポートと期末試験（すべて持ち込み可）による

07 年度以前（秋）	英語学文献研究 b	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
英語文献研究 a に準じる。 データは主に、日本語の統語現象 、方言、子供の言語習得を扱う。	1. Syntax: 構成素 2. Syntax: Yes/No 疑問文と Wh 疑問文 3. Syntax: かき混ぜ規則 4. Syntax: 音のない代名詞 5. Syntax:「自分」と「自分自身」 6. Syntax: 受動文 7. Syntax: 使役文 8. Syntax: 関係節 9. Syntax: 非対格構文 10. Syntax:「〜する」 11. Language Variation: 12. Language Acquisition 13. Language Acquisition 14. まとめと質問
テキスト、参考文献	**評価方法**
N. Tsujimura (2007) *Introduction to Japanese Linguistics.* Blackwell.	授業内のレポートと期末試験（すべて持ち込み可）による

06～08 年度（春）	英語圏の文学・文化	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
イギリスの歴史から 3 つの時代を取り上げ、それぞれの時代の文化について理解を深めることを目指す。3 つの時代はいずれも女王が君主となり、新たな文化が生み出された時代である。それぞれの時代の文化について、文学、宗教、科学の 3 つの視点から論じる。 取り上げる 3 つの時代は下記のとおりである。 1. エリザベス一世の時代 2. ヴィクトリアの時代 3. エリザベス二世の時代 この 3 人の女王の治世は、初期近代(early-modern)、近代(modern)、ポストモダン(postmodern)と区分される時代にあたっている。それぞれの時代の文化を理解することによって、近代がどのように成立し、変容してきたのかが見えてくる。それぞれの時代の様相を示す英文テキストを読みながら、各時代の文化について考えていきたい。	1. Elizabeth I の時代(1)：宗教改革と近代の始まり 2. Elizabeth I の時代(2)：Shakespeare と近代英語 3. Elizabeth I の時代(3)：Shakespeare と大衆娯楽 4. Elizabeth I の時代(3)：Bacon と近代科学 5. Victoria の時代(1)：世界の工場と大英帝国 6. Victoria の時代(2)：Dickens を読んだ中流市民 7. Victoria の時代(3)：Dickens が描いた貧困層 8. Victoria の時代(4)：Darwin と進化論 9. Elizabeth II の時代(1)：Pax Britannica の終焉 10. Elizabeth II の時代(2)：Becket と不条理演劇 11. Elizabeth II の時代(3)：The Beatles と若者文化 12. Elizabeth II の時代(4)：羊の Dolly と遺伝子の時代 13. Elizabeth II の時代(5)：Bridget Jones と消費文化 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。参考文献は追って知らせる。	学期末試験の成績で評価する。

08 年度以前（春）	英語圏の小説 a	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的　イギリスを中心とした英語圏の小説に親しんでもらうことがねらいです。だれもが知っている有名なものから問題作まで、原則として一回一作品ずつ、できるだけ幅広く、年代順に取り上げます。また、少しずつですが、原文も味わいます。 講義概要　毎回課題が出ます。作品の一部を和訳してもらう課題です。受講者には、知らない単語を自分で調べ、自分なりの訳を作って提出してもらいます。授業では、課題の答え合わせのあと、作者がどんな人で、作品のあらすじと読みどころはどこにあるのか、文化的背景はどんなものだったかを、担当者が解説します。一部映像を使用します。 ＊＊＊注意事項＊＊＊ ・ TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600 点以下でも受講できますが、その分、課題に時間をかけて取り組んでください。 ・ 作品の選択は、若干変更する可能性があります。 ・ 辞書を持参してください。電子辞書でもかまいません。 ・ 欠席が４回を越える場合は評価の対象外とします。	1. Introduction: English literature?　Literature in English? 2. Daniel Defoe, *Robinson Crusoe* (1719) 3. Jane Austen, *Pride and Prejudice* (1813) 4. Charles Dickens, *Oliver Twist* (1837-39) 5. Charlotte Bronte, *Jane Eyre* (1847) 6. Lewis Carroll, *Alice in Wonderland* (1865) 7. Arthur Conan Doyle, *A Study in Scarlet* (1886) 8. J.M. Barrie, *Peter Pan* (1911) 9. E.M. Forster, *A Passage to India* (1924) 10. Virginia Woolf, *Orlando* (1928) 11. D.H. Lawrence, *Lady Chatterley's Lover* (1928) 12. Alan Sillitoe, *The Loneliness of the Long Distance Runner* (1959) 13. A.S. Byatt, *Possession* (1990) 14. Nick Hornby, *About a Boy* (1998)
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。 参考文献は授業中に提示します。	毎回の課題と学期末試験（英文和訳等を出題）。 欠席が四回を越える場合は評価の対象としません。

08 年以前（秋）	英語圏の小説 b	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ 　アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ小説の魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考える。 授業の概要 　まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リアリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深めることに重点を置く。	第 1 回：序論（gender/race/class） 第 2 回：アメリカ小説の概略 1　(歴史) 第 3 回：アメリカ小説の概略 2　(文化・社会) 第 4 回:リアリズム小説 1　(第一世代と第二世代のリアリストたち) 第 5 回：リアリズム小説 2　(Mark Twain) 第 6 回：リアリズム小説 3 (The Adventures of Huckleberry Finn) 第 7 回：モダニズム小説 1 (アメリカ小説のモダニストたち) 第 8 回：モダニズム小説 2 (William Faulkner と’"That Evening Sun”) 第 9 回：モダニズム小説 3 (William Faulkner と The Sound and the Fury) 第 10 回：モダニズム小説 4 (William Faulkner の世界) 第 11 回：多文化主義小説 1 (多文化主義とアメリカ小説) 第 12 回：多文化主義小説 2 (黒人作家とユダヤ系作家) 第 13 回：多文化主義小説 3 (Bernard Malamud と “The First Seven Years”) 第 14 回：多文化主義小説 4 (「寓話」としての “The First Seven Years”)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを使用 参考書：随時、授業にて紹介する	定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。

08 年度以前（春）	英語圏の詩 a（アメリカ詩入門）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
授業のタイトル通り、アメリカの詩を読む。「アメリカ詩史」をどこから始めるか、これは大問題だ。「アメリカ文学概論」などで耳にしたであろう Anne Bradstreet から始めるか？　この授業では、 Native American （いわゆるインディアン）の口承詩から始める。そして、着地点は、獨協に２度も来てポエトリー・リーディングをした、ピュリッツァー賞、ボリンゲン賞受賞の大詩人、 Gary Snyder だ。さて、ネイティヴ・アメリカンの詩と、Snyder の詩、その間になにがあったのか、それが重要だ。なぜ、 Snyder と Native American の詩がつながるのか、そのあいだに、どのような詩が書かれてきたのか、それを考察する。もちろん、すべてを扱うことはできないので、代表的な詩人の作品を精読する。詩は、れっきとした言語芸術だ。「さくら、さくら、今、咲き誇る」といった表現に感動するのは、誰かが言ってから普通の表現となったものを、再確認して安心しているだけだ。この授業では、太古、そして１９世紀、２０世紀の「前衛」、つまり、だれも言ったことのなかった表現をした詩人たちの言語表現を、現在まで、大まかにたどる。	授業計画 １：Introduction ２：Native American の詩 ３：Walt Whitman, “Poets to Come!,” “I Hear America Singing” など ４：Emily Dickinson, “Because I could not stop for Death,” “I taste a liquor never brewed” など ５：Robert Frost, “Stopping by Woods on a Snowy Evening,” “After Apple-Picking” など ６：Ezra Pound, Imagism 期の短詩、” Hugh Selwyn Mauberley I” など ７：Ezra Pound の *The Cantos* のいくつか ８：William Carlos Williams, “The Red Wheelbarrow,” “Nantucket,” “Poem” などの初期の短詩 ９：Wallace Stevens, “The Snow Man,” “Thirteen Ways of Looking at a Blackbird” １０：H. D., “Oread,” “Heat” など １１：T. S. Eliot, “Preludes” など １２：Robert Lowell, “For the Union Dead” など １３：Sylvia Plath, “Daddy,” “Lady Lazarus” １４：Gary Snyder, “Magpie’s Song,” “For the Children” など １５：モダニズムからポストモダンへの移行、そのまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：*Sixteen Modern American Poets* (英宝社)およびプリント。 参考書：授業中に、適宜紹介する。	2000 字以上のレポート。詳細は追って報告する。

08 年度以前（秋）	英語圏の詩 b（イギリス詩入門）	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ワーズワス（W.Wordsworth 1770-1850）の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。 **講義概要** 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。　次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。　そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。　なるべく video などの視聴覚教材を利用する。 **参考文献** 新井明著　『英詩鑑賞入門』　研究社　１９８７	1. 詩形について 2. ＜マザーグース＞　I 3. ＜マザーグース＞II　（video 鑑賞） 4. ＜現代英詩アラカルト＞I　T.S.Eliot（1888-1965）（video 鑑賞、字幕なし、以下同じ） 5. ＜同＞II　T.Hughes(1992-1985))など（video 鑑賞） 6. Alfred Tennyson(1809-92),RobertBrowing(1812-89) 7. ＜ロマン派の曙＞　W.Blake(1757-1827), video 鑑賞 8. ＜ロマン派の詩＞　I　ワーズワス、video 鑑賞 9. ＜ロマン派の詩＞　II　S.T.Coleridge(1772-1834)と G.G. Byron(1788-1824)　（video 鑑賞） 10. ＜ロマン派の詩＞　III　P. B. Shelley(1792-1822)と J. Keats(1795-1821) 11. ＜ロマン派の詩＞　総括　解説と video 鑑賞 12. Thomas Gray(1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard”(1751)を読む。　Video 鑑賞 13. John Milton(1608-74) *Paradise Lost*(1667)のさわり、ソネット２３．Video 鑑賞 14. William Shakespeare(1564-1616),解説と video 鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂　１９８７ （プリント）	テストを課す。　数回の video は、時に字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。

08年度以前（春）	英語圏の演劇a	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。	第1回：導入（劇場の説明、シラバスの説明など） 第2回：歌舞伎（英訳版） 第3回：ギリシア悲劇（英訳版） 第4回：イギリス現代演劇――喜劇 第5回：イギリス現代演劇――悲劇 第6回：アイルランド現代演劇――喜劇 第7回：アイルランド現代演劇――悲劇 第8回：アメリカ現代演劇――喜劇 第9回：アメリカ現代演劇――悲劇 第10回：Musical Plays――West End 第11回：Musical Plays――Broadway 第12回：ヨーロッパの演劇（英訳版） 第13回：ヨーロッパの演劇（英訳版） 第14回まとめ 「今日の世界は演劇によって再現できるか」 教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにしていますので、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。よって上記の計画はきわめて流動的であると承知しておいてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	観劇レポート（800字）2編で60%。授業で40%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。

08年度以前（秋）	英語圏の演劇b	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。	第1回：導入（劇場の説明、シラバスの説明など）、 第2回：歌舞伎（英訳版） 第3回：ギリシア悲劇（英訳版） 第4回：イギリス現代演劇――喜劇 第5回：イギリス現代演劇――悲劇 第6回：アイルランド現代演劇――喜劇 第7回：アイルランド現代演劇――悲劇 第8回：アメリカ現代演劇――喜劇 第9回：アメリカ現代演劇――悲劇 第10回：Musical Plays――West End 第11回：Musical Plays――Broadway 第12回：ヨーロッパの演劇（英訳版） 第13回：ヨーロッパの演劇（英訳版） 第14回まとめ 「今日の世界は演劇によって再現できるか」 教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにしていますので、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。よって上記の計画はきわめて流動的であると承知しておいてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	観劇レポート（800字）2編で60%。授業で40%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません

08 年度以前（春）	英語圏の社会と思想 a	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。 なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。	１．ガイダンス　父性神と母性神 ２．ヘレニズムとヘブライズム ３．ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 ４．ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 ５．イングランドのキリスト教化 ６．デーン人とアルフレッド大王 ７．カロリング王朝とイングランドのキリスト教 ８．グレゴリウス７世の教会改革 ９．イングランドの教会改革 １０．中世の異端 １１．地獄堕ちへの恐怖 １２．黒死病と農民一揆 １３．教皇権の栄光と下降 １４．中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。	出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。

08 年度以前（秋）	英語圏の社会と思想 b	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じる。	１．ルター：我ここに立つ ２．ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 ３．イングランドの宗教改革：ヘンリー８世 ４．エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 ５．エリザベス１世の宗教改革 ６．ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 ７．スチュワート王朝の国教会 ８．国王の処刑とピューリタニズム ９．ピルグリム＝ファーザーズ １０．王政復古から名誉革命以降 １１．啓蒙主義時代 １２．19 世紀以降現代 １３．アメリカの場合 １４．まとめ 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期に準じる。

08 年度以前（春）	英語圏の歴史 a	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
国際情勢の中で中東がかつてなかった程重みを増す今日、中東政策はアメリカ外交の大きな柱となっている。その米中東政策に力をふるっているのがユダヤ・ロビーである。春学期の授業ではこのユダヤ・ロビーを中心に同盟関係にあるキリスト教右派等に焦点をすえることで、これまで見えてこなかったアメリカ政治史の特質を解明する。 「ユダヤの視点でみるアメリカ政治史」が春学期のテーマとなる。	1．ＮＨＫ特派員報告「強い少数派」の映像解説　－72 年と 04 年の大統領選挙の比較－ 2．イラク戦争と在米ユダヤ人の苦悩 3．検証、「最強のユダヤ・ロビー」AIPAC 4．同床異夢の同盟；キリスト教右派とユダヤ・ロビー 5．連邦議会における代理人；ユダヤ人議員団の実像 6．ユダヤ・マネーの仕組；二大政党の政治資金 7．歴代政権と在米ユダヤ人社会；ＦＤＲよりニクソン再選まで 8．歴代政権と在米ユダヤ人社会Ⅱ；クリントン政権まで 9．ブッシュ政権とユダヤ人社会 10. 検証；ユダヤ・ロビー勝敗の事例 11. ユダヤ・パワーの源泉、在米ユダヤ人の経済力を探る 12. 放送大学「アメリカの中東政策」の映像解説 13. 検証・2008 年・大統領選挙とユダヤ・パワーの将来 14. ユダヤの視点で読む新生オバマ政権
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤唯行著『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』（2006 年 ダイヤモンド社）1,600 円	評価はクイズ形式による筆記試験（5 択 20 問）によってのみ決定する。試験はテキストの持ち込み可。出席はとらない。

08 年度以前（秋）	英語圏の歴史 b	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
映画を入り口にしながら、アメリカを代表するエスニックグループの歴史と現状を学ぶことをこの講義の目的とします。 毎回 10 本近い映像ソフトを担当者が持参し、具体的場面をピックアップしながら、各エスニックグループが抱えているジレンマ、課題などを解説してゆく。つまり、エスニック・ヒストリーの専門家からみた各映像作品のみどころ、眼目を紹介するというスタイルです。 かつて高名な映画評論家は「映画を通じて人生を知った」と語ったことがあったが、人種関係史を専攻とする担当者にとって映画は自分の研究対象に対して構築してきたイメージを再確認するための手段といえるのです。この授業では 20 年間にわたる担当者の研究成果をあますところなくお伝えします。	1．はじめに 2．先住民インディアン 3．越境するヒスパニック 4．今を生きる黒人 5．歴史の中の黒人 6．　　〃 7．等身大のユダヤ人 8．反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター 9．歴史の中のユダヤ人 10. アジア系－日系、中国系、韓国系－ 11. ホワイト・エスニック－アイルランド系、イタリア系、など過去において蔑視された白人集団 12. 異人種・異教徒間カップル 13. おわりに 14. 試験対策
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤唯行著、『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（2008 年 NTT 出版）1,600 円	春学期と同じ

08 年度以前（春）	英語圏のエリア・スタディーズ a（英語圏の文化的社会的背景）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
英語学科の文学・文化コースには様々な学問的テーマを抱えた多彩な顔ぶれがそろっています。　この講義では夫々の先生方にとり、御自身の専門の内、もっとも話しやすいテーマをオムニバス形式でお話しいただきます。	1. オリエンテーション（佐藤）4/8 2. 英語圏の外国語教育事情を考える（1）（浅岡）4/15 3. 英語圏の外国語教育事情を考える（3）（浅岡）4/22 4. グローバリゼーションとイギリス文学（前沢）4/29 5. Education in two Societies：origins & development of Educations in America. 5/13（ダゲン） 6. Education in two Societies：Life in American Universities. 5/20（ダゲン） 7. アジア準英語圏の社会と文化（金子）5/27 8. イギリス今昔（白鳥）6/3 9. ミルトンとその時代（白鳥）6/10 10. 日系米人の歴史と現状（1）（佐藤）6/17 11. 日系米人の歴史と現状（2）（佐藤）6/24 12. アメリカ社会と妊娠中絶（片山）7/1 13. アメリカ社会と十代の妊娠（片山）7/8 14. ロス暴動と在米コリアン社会（佐藤）7/15
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし　原則として各講師が毎回レジメを配布します。	Quiz 形式の試験を定期試験期間中に実施。毎回出席カードを回収する。試験は一切持ち込み不可。

08 年度以前（秋）	英語圏のエリア・スタディーズ b（英語圏の文化的社会的背景）	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じる。	第１回:福井嘉彦　ガイダンス及びアメリカ建国神話の形成 第２回:福井嘉彦　現代アメリカのキリスト教保守派 第３回:J.ｳｪﾝﾃﾞﾙ　The Culture of American Exceptionalism Part1 第４回:J.ｳｪﾝﾃﾞﾙ　The Culture of American Exceptionalism Part2 第５回:工藤和宏　ｱｼﾞｱ太平洋地域における高等教育のｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化 第６回:工藤和宏　国際化に対する日本の大学のアンビバレンス 第７回:永野隆行　戦後国際政治における英語諸国同盟 第８回:永野隆行　戦後イギリスの文化外交 第９回:鍋倉健悦　日本語と英語の発想　Ⅰ 第１０回:鍋倉健悦　日本語と英語の発想 Ⅱ 第１１回:佐野康子　多様なアフリカの文化と社会(1) 第１２回:佐野康子　多様なアフリカの文化と社会(2) 第１３回:佐藤勉　　近代とは何かー英語圏のエリアを中心に 第１４回:佐藤勉　　近代とは何かー英語圏のエリアを中心に 第１５回:福井嘉彦　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各講師が語る。	春学期に準じる。

08 年以前（秋）	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
講義タイトル　ブラック・デイアスポラの世界地図 目的　ディアスポラという存在に注目し、国民国家の境界線でしきられた通常の地図とは別のもうひとつの世界地図について考える。また、ディアスポラの文学・文化表現に触れ、自分とは圧倒的に異なる歴史を生きる個人の暮らしとこころのあり方を想像する訓練をする。 概要　ワシントンから数えて 44 人目、初の黒人大統領の誕生は、合衆国の国境を越えて、アフリカへ、英国へ、カリブ海へ、そして欧州へ、世界中に散らばったアフリカン・ディアスポラに希望のメッセージを送っているが、本講義では、英語圏のブラック・ディアスポラの歴史と文化・文学を扱う。まずは合衆国における黒人の歴史を、間大西洋の奴隷貿易史、ブラック・ディアスポラの歴史のなかに位置づけ、アフリカン・アメリカンと、英国やカリブ海における黒人との共通点と相違点を確認する。そのうえで、アフリカン・ディアスポラにとっての文化表現の意味を考える。	1. アフリカン・アメリカンとは誰か(1)―アメリカの理想と矛盾 2. アフリカン・アメリカンとは誰か(2)―「いつも感じる自分の二重性――アメリカ人でありニグロであることの」 3. 資本主義と奴隷制(1) 4. 資本主義と奴隷制(2) 5. ブラック・ディアスポラとは誰か(1) 6. ブラック・ディアスポラとは誰か(2)――移民とディアスポラ 7. 奴隷貿易、奴隷制廃止運動における黒人作家(1) 8. 奴隷貿易、奴隷制廃止運動における黒人作家(2) 9. ディアスポラと文化表現(1)――収奪と人種言説 10. ディアスポラと文化表現(2)――記憶とアイデンティティ 11. Richard Wright を読む 12. James Baldwin を読む 13. ブラック・ブリティッシュの文学(1) 14. ブラック・ブリティッシュの文学(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 『あたらしい世界のかたち―黒人の歴史文化とディアスポラの世界地図』キャリル・フィリップス（明石書店）	コメントペーパーとテスト（論述が中心）。

08年以前（春）	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 旅が、人間の根源的な欲求に基づく行動であり、文化現象であることを理解する。又、旅や観光を、語源、歴史的背景等々多面的に学習することにより、文化や文明との関わりを、より深く考察する。 講義概要 21世紀は「人類大移動の時代」と称せられようになり、観光は、産業としてのみならず文化的にも現代社会の重要な要素の一つになっている。旅や観光に関する英語、日本語の語源に触れながら、旅と観光の持つ意義を文化、文明史的に考察する。 併せて、グローバル化の進む今日的課題である異文化理解を、観光の視点から学習することにより、文化と観光を身近な問題として把握する。 又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々　観光文化関連報道記事を適宜取り上げ、学習の参考にしたい。	１．講義の概要 ２．旅の語源　①観光の語源と概念・定義 ３．旅の語源　②漢字と大和ことばにおける旅の語源 ４．旅の語源　③英語における旅の語源 ５．旅と観光の歴史　①古代から中世 ６．旅と観光の歴史　②グランドツアーとトーマスクックの時代 ７．旅と観光の歴史　③近世から現代 ８．旅と観光の歴史　④マスツーリズムの時代 ９．旅と観光資源　①宗教と人文観光資源 １０．旅と観光資源　②宗教と人文観光資源 １１．旅の形態　①ビジネスとしての旅 １２．旅の形態　②フィクションとしての旅 １３．旅と文明　旅と文明・文化の関係 １４．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。	試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。

08年以前（秋）	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を、観光人類学見地より考察し、観光の多様性を理解する。 講義概要 近年、文化人類学の研究対象にもなっている観光現象を、文化の視点から検証し、観光と文化、観光人類学の定義、課題等、基本的なことを学習する。 観光を、擬似イベント、イメージ、メディアの視点からも考察し、観光現象を多面的に理解する。 併せて、観光開発の光と影にも触れ、文化の変容についても考える。 又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々　観光文化関連報道記事を適宜取り上げ、学習の参考にしたい。	１．講義の概要 ２．文化への新しいアプローチとしての観光 ３．観光の誕生・擬似イベントとしての観光 ４．観光旅行の諸類型・疑似体験としての観光旅行 ５．観光を作り出す仕掛け・イメージの形成とメディア ６．文化現象としての観光・観光文化のグローカル化と商品化 ７．文化の商品化と観光文化 ８．観光の文化的インパクト １０．観光による楽園の創造 １１．模型文化と観光芸術 ①ポリネシア文化センター １２．模型文化と観光芸術 ②ディズニーランド １３．新たな観光へ １４．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。	試験結果と授業への参加度等を総合的に評価する。

08 年度以前（春）	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
（表象文化論） 表象(representation)と文化の関係を考察します。 テクストは文化研究の主要な論客である、Stuart Hall が、イギリスの Open University のために編纂した、*Representation: Cultural Representations and Signifying Practices* (London: Sage, 1997)から抜粋(pp. 13-74)を用います。テクストは講義支援システムからダウンロードできるようになっています。ただ、登録期間が終わるまでは、自分のアカウントには入っていないので、担当教員名（高橋雄一郎）から、授業科目を探してください。図書館の指定図書コーナーに原本を配架してあるので、それをコピーしてもよいでしょう。 初回の授業には 15 ページから、19 ページの上半分までを必ず予習して出席してください。 なお、昨年度との重複履修は認められません。	1. 1.Representation, Meaning and Language & 1.1 2. 1.2 & 1.3 3. 1.4, 1,5 & 1.6 4. 2. Saussure's Legacy & 2.1 5. 2.2 & 2.3 6. 3. From Language to Culture: Linguistics to Semiotics & 3.1 7. Extra Reading on Barthes's Myth 8. 4. Discourse, Power, and the Subject & 4.1 9. 4.2, 4.3 & 4.4 10. 4.5 11. 5. Where is 'The Subject'? 12. 5.1 13. 6 14. Catch Up & Wrap Up

テキスト、参考文献	評価方法
上記のテクスト以外の参考文献は、バルト『神話作用』、フーコー、『言葉と物』。その他は、適宜、授業中に紹介します。	平常点、学期中の小テスト、小レポート、学期末レポートの総合によります。

08 年度以前（秋）	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
（パフォーマンス研究入門） パフォーマンス研究は近年欧米で注目を集めている学際的で、インター・カルチュラルな研究領域であり、個人や集団により反復される行為（パフォーマンス）が、文化の組成やアイデンティティの構築にかかわっているとの認識の下に、権力の所在を顕在化し、支配の構造にメスを入れようとします。研究対象は、舞台芸術に限らず、日常生活や儀礼、スポーツなどのイヴェント、国家によって執り行われる儀式など幅広いのが特徴です。 この授業ではまず参加者にパフォーマンス研究に興味を持ってもらうことを第一の狙いとし、既に興味のある人には、さらに深い研究のための指針を提供します。 テクストはこの分野の第一人者である Richard Schechner による *Performance Studies: An Introduction*: 2nd edition (Routledge, 2006)を用います。原本が図書館の指定図書コーナーに配架してあるので、そちらからコピーしてください。講義支援システムからもダウンロードできるようにする予定です。 初回の授業には２８,２９ページを予習してきてください。 なお、昨年度との重複履修は認められません。	主にテクストの第２章、"What is Performance?"と第３章、"Ritual"を扱います。 授業計画や毎週の進度は、受講者の英語力と学習意欲を反映した柔軟なものにならざるを得ませんが、１４回目には「まとめ」がおこなえるよう工夫しましょう。 英語圏の文学・文化特殊講義 a を履修していなくても、秋学期のみの受講も可能です。

テキスト、参考文献	評価方法
上記の他、高橋雄一郎『身体化する知』（せりか書房-Duo に発注済）を是非読んで欲しい。その他の参考文献は図書館の指定図書にあるか、授業中に配布する。	平常点、学期中の小テスト、小レポート、学期末レポートの総合による。

08 年以前（秋）	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：イギリスの俳優たち “Reel Britannia”と呼ばれるほど、現在のハリウッドでは多くのイギリス人の映画関係者が大活躍している。イギリスには演劇の長い伝統があり、そこで育まれたしっかりとした演技をする役者たちが、シェイクスピア劇でイギリスの観客をうならせるだけではなく、ハリウッド映画のスクリーンを通して世界中の観客に大きな印象を残している。 この授業では 20 世紀のイギリス演劇界を代表した俳優たちと、21 世紀まさに活躍中の俳優たちから何人かを取り上げ、彼らの出演した戯曲、映画を論じていく。それぞれの役者の個性とともに、時代による演劇の変化、舞台と映画の関係、イギリス俳優とアメリカ映画の関係、1990 年代以降のイギリス文化政策などへの理解を深めることを目的とする。	1. イギリス俳優と演劇教育 2. 20 世紀の巨星：Lawrence Olivier と John Gielgud 3. 祖国を離れて：Charles Chaplin と Claire Bloom 4. イギリス映画の再興：Ian Holm と Ben Kingsley 5. 文芸作品の映画化：Emma Thompson 6. Shakespeare の映画化：Kenneth Branagh 7. 老いてますます元気なイギリス女優達 (1)： Vanessa Redgrave と Judi Dench 8. 老いてますます元気なイギリス女優達 (2)： Maggie Smith と Helen Mirren 9. Homosexuality とイギリス演劇界： Ian MaKellen と Simon Russell Beale 10. ハリウッド・スターと West End (1) Rachel Weisz と Kate Winslet 11. ハリウッド・スターと West End (2) Ralph Fiennes 12. Cool Britannia と Reel Britannia：1990 年代以降のイギリス文化 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	コメント・カード：40% 学期末試験：60%

07 年度以前（春）	英語圏の文学・文化文献研究 a	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
ここで言う文献研究とは、英語で書かれた作品および文化的に重要な文章を理解するために不可欠な歴史的、文化的な変遷や文学的な側面としての英語を対象とする研究を意味する。 この授業は大きく２つの部分からなる。第１には、文献研究を実際に実践していただく。初めに導入として、レポートの書き方や論文の書き方について若干講じ、次いで学生諸君に「自由レポート」として１０００字程度のレポートを毎回書いてきてもらい、そしてそれを皆の前で発表し提出し、翌週には、文献をチェックして返される。 第２には、西欧文化の１部である英語圏の文化の基盤となっている聖書、ギリシャ神話、マザー・グースなどを渉猟する。教材は全てプリントで配布され、授業の半分は、これの読解に当てられる。	１．文献研究入門 ２．レポートの書き方、文献のつけ方 ３．論文の書き方、A.　日本語　B. 英語 ４―13 実践　A. 自由レポート Ｂ．プリント読解 a. The Bible b. Greek Mythology c. Nursery rhymes d. Proverbs e. Miscellaneous 14. 全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント（授業の初めに配布する）	学期末のテスト（70%）と自由レポート(30%)による。

07 年度以前（秋）	英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
中世イングランドの歴史と文化を学ぶ。	学生同士でテキストを訳読する。進度は時として変化する。テキストの難易度などにもよる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Medieval and Tudor Britain　またテキストの変更もありうる。	定期試験の結果による。

08 年度以前（春）	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
「グローバル化時代」を生きる「私たち」にとって、「異文化間コミュニケーション」は「不可避な現象」であると広く捉えられているようです。しかし、「異文化間コミュニケーション」とは一体何を意味するのでしょうか。「異なる文化の間のコミュニケーション」という字面通りの意味でよいのでしょうか。あるいは、何か特別な知的・身体的営為なのでしょうか。そもそも「異文化」や「コミュニケーション」とは何でしょうか。「異文化（間）」と言う時、既に何らかの偏った前提が潜んではいないのでしょうか。そして、学問としての「異文化間コミュニケーション論」が目指すもの、「私たち」がこの学問をすることの意義とは何なのでしょうか。本講義では、講義担当者や受講生による語り、「異文化」体験、「異文化間コミュニケーション論」の解体と再構築という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。 講義内容についての意見を毎回求めますので、英文テキストの指定個所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから講義に出席してください。	1. 導入 2. 異文化間コミュニケーション論の落し穴 3. Introduction: Defining concepts (基本教材: pp. 2-5) 4. Identity: People like me (基本教材: pp. 6-10) 5. Identity: Artefacts of culture (基本教材: pp. 10-15) 6. Identity card (基本教材: pp. 16-20) 7. Otherisation: Communication is about not presuming (基本教材: pp. 21-25) 8. Otherisation: Cultural dealing (基本教材: pp. 25-30) 9. Otherisation: Power and discourse (基本教材: pp. 30-35) 10. Representation: Cultural refugee (基本教材: pp. 36-41) 11. Representation: Complex images (基本教材: pp. 41-47) 12. Disciplines for intercultural communication (基本教材: pp. 48-49) 13. Japanese university students overseas: Intercultural struggles, learning and future careers 14. まとめ ＜参考書＞ 稲賀繁美 編著（2000）『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。 戴エイカ（1999）『多文化主義とディアスポラ』明石書店。 津田幸男・関根久雄 編著（2002）『グローバル・コミュニケーション論』ナカニシヤ出版。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント教材を使用します。	多数の受講者が見込まれるので、英語による学期末試験のみにて評価します。

08 年度以前（秋）	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
異文化間コミュニケーション研究の重要性を理解していくことが当講座の目的。このため文化とコミュニケーションを広範囲な視点から見ていきたい。その大まかな内容は、文化と価値観、文化と言語行動、文化と非言語行動のかかわりについてである。	1．ガイダンス 2．コミュニケーションとは何か 3．異文化コミュニケーションから何を学ぶか 4．異文化コミュニケーションと心理世界 5．異文化コミュニケーションの難しさ 6．異文化コミュニケーションの歴史 7．異文化コミュニケーションの重要性 8．異文化コミュニケーション研究のスタート 9．異文化コミュニケーションの背景 10. 異文化コミュニケーションの現状 11. 異文化コミュニケーションの体験 12. 異文化コミュニケーションと国際英語の時代 13. 文化とグーバル化 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー	毎回の授業内容に関するターム・ペーパーによるので、欠席すると大変不利

08 年度以前（春）	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
異文化間コミュニケーション研究の重要性を理解していくことが当講座の目的。このため文化とコミュニケーションを広範囲な視点から見ていきたい。その大まかな内容は、文化と価値観、文化と言語行動、文化と非言語行動のかかわりについてである。	1．ガイダンス 2．コミュニケーションとは何か 3．異文化コミュニケーションから何を学ぶか 4．異文化コミュニケーションと心理世界 5．異文化コミュニケーションの難しさ 6．異文化コミュニケーションの歴史 7．異文化コミュニケーションの重要性 8．異文化コミュニケーション研究のスタート 9．異文化コミュニケーションの背景 10．異文化コミュニケーションの現状 11．異文化コミュニケーションの体験 12．異文化コミュニケーションと国際英語の時代 13．文化とグーバル化 14．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー	毎回の授業内容に関するターム・ペーパーによるので、欠席すると大変不利

08 年度以前（秋）	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
「グローバル化時代」を生きる「私たち」にとって、「異文化間コミュニケーション」は「不可避な現象」であると広く捉えられているようです。しかし、「異文化間コミュニケーション」とは一体何を意味するのでしょうか。「異なる文化の間のコミュニケーション」という字面通りの意味でよいのでしょうか。あるいは、何か特別な知的・身体的営為なのでしょうか。そもそも「異文化」や「コミュニケーション」とは何でしょうか。「異文化（間）」と言う時、既に何らかの偏った前提が潜んではいないのでしょうか。そして、学問としての「異文化間コミュニケーション論」が目指すもの、「私たち」がこの学問をすることの意義とは何なのでしょうか。本講義では、講義担当者や受講生による語り、「異文化」体験、「異文化間コミュニケーション論」の解体と再構築という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。 講義内容についての意見を毎回求めますので、英文テキストの指定個所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから講義に出席してください。	1. 導入 2. 異文化間コミュニケーション論の落し穴 3. Introduction: Defining concepts (基本教材: pp. 2-5) 4. Identity: People like me (基本教材: pp. 6-10) 5. Identity: Artefacts of culture (基本教材: pp. 10-15) 6. Identity card (基本教材: pp. 16-20) 7. Otherisation: Communication is about not presuming (基本教材: pp. 21-25) 8. Otherisation: Cultural dealing (基本教材: pp. 25-30) 9. Otherisation: Power and discourse (基本教材: pp. 30-35) 10. Representation: Cultural refugee (基本教材: pp. 36-41) 11. Representation: Complex images (基本教材: pp. 41-47) 12. Disciplines for intercultural communication (基本教材: pp. 48-49) 13. Japanese university students overseas: Intercultural struggles, learning and future careers 14. まとめ ＜参考書＞ 稲賀繁美 編著（2000）『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。 戴エイカ（1999）『多文化主義とディアスポラ』明石書店。 津田幸男・関根久雄 編著（2002）『グローバル・コミュニケーション論』ナカニシヤ出版。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント教材を使用します。	多数の受講者が見込まれるので、英語による学期末試験のみにて評価します。

06～08年度（春） 03～05年度（春）	メディア・コミュニケーション論 a マス・コミュニケーション論 a	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義の主目的は、多様なメディアが溢れ出る現代社会を理解する為に必要な理論とその歴史的考察を進めていく。メディアと現代社会の関係を考える際に注意しなくてはならないのは、コミュニケーションを単純にメッセージの送受信の過程や効果、もしくは伝達の技術装置として捉えてはいけない点にある。 メディアはマイノリティを排除したり、規範を自然のこととして受け入れさせる力を持つと考えられることが多い。しかし、現代のメディア研究では、文化規範に抑圧的な力が備わっていると仮定することは出来ないことは常識である。 したがって、メディア研究には、文化に批判的に介入する為の理論と歴史的研究の理解が肝心となる。メディアを１つのコミュニケーション実践としてとらえ、そこに見いだされる文化を批判的に読み解く必要がある。我々が日々接している情報や媒体を自明視させる文化の成り立ちに注目することで、文化を構成するコミュニケーションの書き換えの為の実践を学んでいく。	1. コース概要 2. メディアとは何か（第１章） 3. メディアの時代　メディアの理論（第２章） 4. マス・コミュニケーション理論の展開とその限界（第４章） 5. メディア革命と知覚の近代（第５章） 6. カルチュラル・スタディーズの介入（第６章） 7. カルチュラル・スタディーズの介入（第６章） 8. カルチュラル・スタディーズの介入（第６章） 9. 新聞と近代ジャーナリズム（第７章） 10. 誰が映画を誕生させたのか（第９章） 11. テレビが家にやって来た（第１１章） 12. 電話が誕生したのはいつだったのか（第８章） 13. ケータイが変える都市の風景（第１２章） 14. パソコンとネットワーク化する市民社会（第１３章） ／グローバル・メディアとは何か（第１４章）　前期総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉見俊哉『メディア文化論』有斐閣　２００４年	評価は定期試験又はレポート及び不定期に課す課題等による総合評価。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	メディア・コミュニケーション論 b マス・コミュニケーション論 b	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
前期の講義を踏まえて、メディアを限定した上で、多様な分析の理論と手法を学ぶ。	1. コース・オリエンテーション 2～14. 映像資料や文献を使用した具体的なメディアの分析と分析の為の理論の学習
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示する。	評価は定期試験又はレポート及び不定期に課す課題等による総合評価。

08 年度以前（春）	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
理 論 編 ①スピーチ・コミュニケーションとは、スピーチ（広義の「発話」）をコミュニケーション過程に投じることによって、既存の文化に「政治的」に参加する行為です。ここでいう「政治的」とは、「雄弁な政治家のように」という意味ではなく、批判精神を持って、既存の思考や行動様式、言説や規範などについて、自分の立ち位置を確立した上で、意見を述べていくという意味です。このようなことができなければ、グローバル化によって様々な文化や思惑がぶつかり合う社会生活において、日々の語学訓練の成果を十分活かすことはできないでしょう。このクラスでは、こうした認識に基づく理論（春学期）と実践（秋学期）を通じて、スピーチ・コミュニケーションを学んでいきます。 ②内容 : 批判的思考 (critical thinking) が必要となるため、批評理論を中心に学びます。理論解説の事例として、主にテレビ番組やテレビ CM、映画などの映像資料を用います。 ③その他：授業時間外でのグループ活動が必要となるため、活動に参加できる学生を対象とします。	1. 講義概要 2. 管理されるコミュニケーション 1 3. 管理されるコミュニケーション 2 4. 管理されるコミュニケーション 3 5. 言説・法・文化とコミュニケーション 1 6. 言説・法・文化とコミュニケーション 2 7. 言説・法・文化とコミュニケーション 3 8. 理論のまとめ、研究活動中間報告 9. コミュニケーション分析の進め方 10. 理論的分析：報告会 1 11. 理論的分析：報告会 2 12. 報告に対する講評 13. 応用分析セッション 1 14. 応用分析セッション 2 （研究グループ数によっては変更の可能性もあります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配布する予定 参考文献：鈴木 健 編著『説得コミュニケーション論を学ぶ人のために』（世界思想社）	①応用分析（20%） ②研究活動（参加＋発表＋審査 80%）

08 年度以前（秋）	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
実 践 編 ①春学期の「スピーチ・コミュニケーション論 a（理論編を受講した学生を対象にしますが、それ以外の学生でも努力をすれば十分についていけるはずです。 ②今学期のキーワードは「工夫」です。このクラスでは、スピーチ（広義の「発話」）を通じて、異文化コミュニケーションを実践していきます。ここでいう「異文化コミュニケーション」とは、既存の文化のロジックでコミュニケーションしているであろう人々に対して、文化的に新しいことを工夫しながら提案していく行為です。また、「実践」とは、単なる個人の「実技」ではなく、社会に政治的に参加することを意味します。 ③授業時間外のループ活動が不可欠となるため、活動に参加できる学生を対象としています。 ④音(楽)・画像・動画・文字・環境をフル活用した制作活動や実演活動に向けて取り組んでいきます。 ⑤春学期に学ぶ批評理論を活用した発表が期待されます。	1. 概略説明 2. 論理の組み立て 1：問題 3. 論理の組み立て 2：立証 4. 論理の組み立て 3：提案 5. 論理の組み立て 4：構成 6. 事例研究 1、戦略会議 1（企画案） 7. 事例研究 2、戦略会議 2（再検討） 8. 事例研究 3、戦略会議 3（決定） 9. 理論のまとめ、戦略会議 4（リハーサル） 10. 発表と審査 1 11. 発表と審査 2 12. 発表に対する講評 13. 応用分析セッション 1 14. 応用分析セッション 2 （研究グループ数によっては変更の可能性もあります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配布する予定 参考文献：鈴木 健 編著『説得コミュニケーション論を学ぶ人のために』（世界思想社）	①クイズ（不定期１～２回、20%） ②研究活動（参加＋発表＋審査 80%）

08 年度以前（春）	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 現代のコミュニケ―ション論の様々な方向性を概観する。権力概念を中心としたコミュニケーション論を基に、文化テクストを解読することを学ぶ。 **講義概要** 取り上げられるトピックは我々のコミュニケーションを規定している権力の磁場を構成している。現代コミュニケーションの問題の中心は権力関係にある。そこで、メディアやレトリック等のスピーチ・コミュニケーション研究にとって重要な理論的概念を『現代コミュニケーション学』（有斐閣）を通じて講義する。コミュニケーションの分析にとって重要な権力概念を、＜今＞に生きる自らの問題として把握し批評する視点を学習する。	1　オリエンテーション：スピーチ・コミュニケーション研究の視点 2　時計時間の支配 3　空間と権力 4　アイデンティティの問い 5　レトリックと権力 6　レトリックと権力 7　家庭内コミュニケーション 8　ジェンダーとコミュニケーション 9　ジェンダーとコミュニケーション １０　テクノロジーとコミュニケーション １１　テクノロジーとコミュニケーション １２　メディアのレトリック １３　多文化主義とコミュニケーション １４　グローバル化と日本社会／前期総括
テキスト、参考文献	評価方法
池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣、2006.	評価は定期試験又はレポート及び不定期に課す課題等による総合評価。

08 年度以前（秋）	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解／実践できるようになることである。講義における学生の目標は以下の２点である。第一に口承、文学、さらには電子メディアを媒介した表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第二にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に応用できるようになることである。 **講義概要** 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 b では、２０世紀のレトリック批評への諸アプローチを紹介する。これらの批評理論研究を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。スピーチ・コミュニケーション論 a と継続性のある講義なので、すべての学生がスピーチ・コミュニケーション論 a の講義で学習したことを既に理解していることを前提に講義を進めていく。	1　オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論 2　フェルディナン・ド・ソシュールと記号論 3　ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L. オースティンと発話行為理論 4　ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L. オースティンと発話行為理論 5　精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク 6　精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク 7　ミシェル・フーコーと表象 8　ミシェル・フーコーと表象 9　ミシェル・フーコーと表象 １０　ミシェル・フーコーと表象 １１　エドワード・サイードとオリエンタリズム １２　エドワード・サイードとオリエンタリズム １３　エドワード・サイードとオリエンタリズム １４　後期総括
参考文献	評価方法
立川健二・山田広昭『現代言語論―ソシュール　フロイト　ウィトゲンシュタイン』新曜社 土田土則・神郡悦子・伊藤直哉『現代文学理論―テクスト・読み・世界』新曜社	評価は定期試験又はレポート及び不定期に課す課題等による総合評価。

07 年度以前（春）	コミュニケーション論特殊講義 a　　（月 5）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，「市民参加のまちづくり論」として，日本と海外，都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い，そこにある普遍的な理論や問題を考えます。 まちづくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること，景観を整備すること，商店街を活性化させること，等々。本講義では，「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょうか。それは互いに異なる者同達が，コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては，ゴミリサイクルによる地産地消，都市近郊での環境教育，ニューヨークのドッグラン，インドネシアでのＮＧＯ活動，大分県湯布院の観光開発など，多様ですが，人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。 教科書として指定する書籍には，やや専門的な内容も含まれますが，できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので，この点に関する心配は無用です。	1．講義の概要 2．地域の発展を理解するための視座 3．組織・制度化（institutionalization） 4．住民参加(participation)の意義と多義性 5．事例研究：参加型開発 6．内発的発展におけるキーパーソン 7．共益から公益の創出へ：ドッグランを例として 8．ビデオ：地域通貨（community money）を考える 9．コミュニティ開発とミスコミュニケーション 10. 過疎地の地域づくりととＵターン・Ｉターン 11. ツーリズムと地域活性化 12. 大学とまちづくり 13. 多文化共生とまちづくり 14. まとめ：物づくりから人づくりへ

テキスト、参考文献	評価方法
教科書：北野収編著『共生時代の地域づくり論：人間・学び・関係性からのアプローチ』（農林統計出版、2008 年）	評価方法：期末試験の結果（70%）によって評価すますが、平常授業による課題レポートなどの実績も評価対象とします（30%）。

07 年度以前（秋）	コミュニケーション論特殊講義 b　　（月 5）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
「トランスナショナル社会学」として、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の実際を知ること、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③「国際」的視点のみならず「民際」的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、以上３点が本講義の目標およびテーマです。 21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。	1．講義の概要 2．社会学とはどのような学問か 3．国家と社会との関係 4．アイヌからみた日本とロシア 5．文化と政治との関係 6．国民概念の誕生：消えた民「サンカ」を例として 7．グローバル化と越境現象 8．外国人労働者問題 9．日本人の国際結婚とﾃﾞｨｱｽﾎﾟﾗとしての外国人花嫁 10. 国家とアイデンティティ 11. 発想の転換：「国際」から「民際」へ 12. ﾄﾗﾝｽﾅｼｮﾅﾙ社会学からみたツーリズム 13.「多文化共生」とトランスナショナリゼーション 14. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
特に教科書は指定しません。講義に使用した参考文献は、各回の配布資料または板書によってお知らせします。	評価方法：期末試験の結果（80%）によって評価しますが、平常授業による課題レポートなどの実績も評価対象とします（20%）。

07 年度以前（春）	コミュニケーション論特殊講義 a　　（金２）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
近年，alternative（もう１つの）という言葉を時々耳にします。グロバール化の進展に対抗するように，ローカルな文化や環境を重視した，もう１つの動きが社会運動として世界各地で活発化してきています。グローバルとローカルなものの対抗・交渉（コミュニケーション）は現代社会を考える重要な視座の１つです。 この講義は，「開発文化論」として，グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は，私の最新の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが，アジアその他の地域の事例も適宜交え，より普遍的な視点から，発展途上地域の開発問題について考察します。学部学科にかかわらずＮＧＯや開発ワーカーに関心がある学生の受講を歓迎いたします。 教科書として指定する書籍には，やや専門的な内容も含まれますが，できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので，この点に関する心配は無用です。	１．講義の概要 ２．開発と文化変容（ビデオ：インド・ラダック） ３．社会的構築物としての貧困とポスト開発論 ４．ある女性 NGO ワーカーの遍歴と教訓 ５．フェアトレードの父の思想と哲学 ６．伝統文化と教育・学び ７．グローバル化・伝統・ジェンダー ８．宗教と社会開発 NGO ９．地域メディアとアイデンティティ戦略 10．コミュニティと外部を結ぶ人材（カタリスト） 11．開発ワーカーと異文化適応（事例：ネパール協力隊） 12．構造調整と農民・先住民の自己防衛 13．巨大開発計画と地域住民・NGO 14．まとめ：文化変容とグローカル公共空間
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書:北野収著『南部メキシコの内発的発展と NGO』(勁草書房、2008 年)	評価方法：期末試験の結果（60%）によって評価しますがが、平常授業による課題レポートなどの実績も評価対象とします（40%）。

07 年度以前（秋）	コミュニケーション論特殊講義ｂ　　（金２）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
近年、環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ，学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。 本講義は、「サスティナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローカルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えていきます。 なお、サスティナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサスティナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため)。	１．講義の概要 ２．ｻｽﾃｨﾅﾌﾞﾙ･ﾂｰﾘｽﾞﾑという「現象」を語る多様な視座 ３．環境問題と持続可能性 ４．思想的源流と「エコ」「LOHAS」に至るまで ５．「田園風景」「田舎」イメージの形成と視覚的消費 ６．ｻｽﾃｨﾅﾌﾞﾙ･ﾂｰﾘｽﾞﾑの定義と類型 ６．ヨーロッパのｻｽﾃｨﾅﾌﾞﾙ･ﾂｰﾘｽﾞﾑ ７．アメリカのｻｽﾃｨﾅﾌﾞﾙ･ﾂｰﾘｽﾞﾑ ８．日本のｸﾞﾘｰﾝﾂｰﾘｽﾞﾑ：過疎対策・定住促進のための都市農村交流 ９．日本のｸﾞﾘｰﾝﾂｰﾘｽﾞﾑ：日本型の特徴と課題 10．ｸﾞﾘｰﾝﾂｰﾘｽﾞﾑの批判的検討 11．計画と運営：ツーリズムの二面性とプランニング 12．計画と運営：実際の事業展開フロー 13．ﾂｰﾘｽﾞﾑと障害者・高齢者・外国人 14．まとめ:真の「ｻｽﾃｨﾅﾌﾞﾙ」ﾂｰﾘｽﾞﾑに向けて
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に教科書は指定しません。講義に使用した参考文献は、各回の配布資料または板書によってお知らせします。	評価方法：期末試験の結果（80%）によって評価しますが、平常授業による課題レポートなどの実績も評価対象とします（20%）。

07 年度以前（春）	コミュニケーション論特殊講義 a　　（金４）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
「江戸・東京・Tokyo」をテーマに、フィールドワークと呼ばれる学問的営みを、実践的に身につけることを目的としている。人類学者・社会学者・地理学者・建築学者などによって書かれたテクストを参考にして、実際に東京の街を歩き、東京という都市の成り立ちや人々の営みなどについて「解読」を行なう。 受講者は複数のグループに分かれ、担当教員が指定した 5~6 つのコースを 1 つ選択し、5 月から 6 月の週末に一緒に歩いてもらう（実費負担）。そして町歩きの成果について、各々のコースに関連する文献資料の収集・議論を踏まえた上で、学期末にグループ発表を行なう。 なお本講義は、グループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備・街歩きの実習に積極的に参加できる者のみ履修を認める。 **受講定員：30 名**（オンライン登録による抽選のため 結果を必ず確認してください。）	1. 趣旨説明・グループ分け 2. 各町歩きコースに関する講義・解説（5 回） (1) 山の手と下町 ・城北地区（本郷、谷中、根津、千駄木） ・城南地区（赤坂、六本木） (2) ウォーターフロントから「新」下町へ ・深川、佃、月島 (3) 「おばあちゃんの原宿」 ・巣鴨 (4) 繁華街の過去・現在・未来 ・渋谷 (5) エスニック・タウン ・新宿、新大久保 3. 発表準備のためのグループワーク(2 回) 4. 各グループの発表・議論(5～6 回)
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。随時、プリントや文献リストを配布します。	授業での発表（70%）、学期末レポート（30%）

07 年度以前（秋）	コミュニケーション論特殊講義 b　　（金４）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。 オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムや農村観光、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に開発学・文化人類学などの視点から検討し、その可能性について考える。 なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニア、アフリカなどの非西洋地域が中心となる。 **受講定員：30 名**（オンライン登録による抽選のため 結果を必ず確認してください。）	1. 趣旨説明 2. マスツーリズムの発展と弊害 3. オルタナティブ・ツーリズムの背景 4. ビデオ上映(タイ・プーケット島の観光開発) 5. 場所の商品化―アマンリゾーツの戦略 6. エスニック・ツーリズム 7. 参加型・体験型観光 8. エコツーリズムとは何か？ 9. エコリゾート 10. 先住民にとってのエコツーリズム 1(エクアドル) 11. 先住民にとってのエコツーリズム 2(タイ) 12. バックパッカー1 ビデオ上映（『深夜特急』） 13. バックパッカー2 ビデオ上映（The Beach） 14. まとめ・予備日 (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	出席+レスポンスペーパー(30%)、レポート(70%)。

07 年度以前（春）	コミュニケーション論特殊講義 a　　（金５）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、非常に多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする際の方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。 本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という 3 つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、一定レベルの予習・復習が求められる。 **受講定員：30 名**（オンライン登録による抽選のため結果を必ず確認してください。）	1. 趣旨説明 2. 観光の誕生 3. 観光における本物と偽物 4. 観光のまなざしと人類学のまなざし 5. 情報資本主義と近代観光、絵はがきと観光 6. メディアと観光―ハワイ 7. 観光から読み解くポストコロニアリティ 8. サンタクロース観光 9. 楽園の創造 10. アーバン・エスニックツーリズム 11. 観光と性 12. 文化の客体化 13. 先住民・アート・観光 14. ヘリテージ・ツーリズム (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。随時、文献リストを配布します。	授業毎のレスポンスペーパー+2 回の小レポート(50%)、期末テスト(50%)

07 年度以前（秋）	コミュニケーション論特殊講義 b　　（金５）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における 1 泊 2 日の研修旅行を通じて、世界各地のツーリズムに関連する幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指す。 リトルワールドには、22 カ国、33 の地域・民族の家屋や生活道具が移築・復元されている。受講者は、複数のグループに分かれ、そのなかから 1 つの地域・民族を選び、それぞれの地域や民族の文化や習慣について、事前に資料収集を行なう。そして、こうした文献調査を踏まえた上で、研修旅行では、各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらう。さらに、これらの文献調査・研修旅行の成果を踏まえた上で、学期末に報告書を作成する。 本講義は、リトルワールドにおける実習を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となる。またグループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備に積極的に参加できる者のみ履修を認める。 **受講定員：30 名**（オンライン登録による抽選のため結果を必ず確認してください。）	1. 趣旨説明・グループ分け 2. 講義(2 回) 文化の収集と展示の歴史、芸術―文化システム論など異文化展示・博物館論に関する基礎的な概念についての紹介。 3. 発表・議論（3～4 回） 各グループによる、発表計画・中間報告。 4. 研修旅行 11 月 7 日、8 日に実施予定。費用は往復新幹線利用で 3.5 万円程度。 5. 発表・議論（6 回） 文献資料・博物館での実習を踏まえた、成果報告についての発表。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	研修旅行での案内（30%）、成果発表・報告（70%）

07 年度以前（春）	コミュニケーション論文献研究 a	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
・本学協定校の一つであるヨーク大学が開発した高校生向けの異文化間コミュニケーションの授業概要を理解し、特に我が国の社会・文化（言語、ビジネス、歴史、地理）がどの様にとらえられているかを知り、上記の４つのモジュールの関連性を把握する。また、それぞれに関する文献を読んで内容について個人発表する。半期で十数冊読み、レポートすることになる。その過程で関連文献検索や論文の書き方を学ぶ。 ・文献は主として新書を利用する予定。	１．序章：概要説明 ２．日本語の特徴 ３．同上 ４．同上 ５．日本的ビジネス ６．同上 ７．同上 ８．近現代史 ９．同上 10.　同上 11.地政学的特徴 12.　同上 13.　同上 14. 終章：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ota,Norio（1995）*Cross-cultural Communication Through Japanese,* Concordia Univ. Press	出席／発表／レポート

07 年度以前(秋)	コミュニケーション論文献研究 b	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
コミュニケーションに関わる学会の研究紀要に掲載された日本社会・文化関連の論文を読む。	１．序章：概要説明 ２．各テーマのプレゼンテーションと討論 ３．同上 ４．同上 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．同上 ９．同上 10.　同上 11.　同上 12.　同上 13.　同上 14.　終章：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
日本多文化関係学会紀要 日本コミュニケーション学会紀要 日本カナダ学会紀要 その他	出席／発表／レポート

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	グローバル社会論 a 国際社会論 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル社会の特徴を理解するために、基本用語・理論・モデルの解説を行います。国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。同じ食材でも西洋料理、インド料理、中華料理、日本料理では味覚が異なります。分析方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。 「グローバル社会を見る眼」を養うこと――これが授業の目標です。グローバル社会の変化に着目し、歴史を現代に引き寄せます。情報のフローと共にストックを重視し、表面的な現象に振り回されるのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。 授業の前半では毎回、CNN や BBC 等の海外ＴＶニュースをリアルタイムで紹介。その日の世界ニュースに触れることができます。後半は、テキストを解説します。	１．オリエンテーション 国際情報ツールの説明 ２．国際社会を見る眼――木・林・森 ３．国際社会の基本システム：世界帝国（１５） ４．国際社会の基本システム：中世社会とアナキー ５．古典外交とヨーロッパ（１０～１１、１９～２０） ６．２つの政治観：リアリズムとリベラリズム（6） ７．政治プロセス：状況・制度・組織（２１～２７） 政治的権威：権力＋正統性（４７～４８） ８．国内政治と国際政治の相違（４９～５０） ９．質疑応答、前半の授業総括 １０．国際社会と思想家：ホッブス（５２～５３） １１．国際社会と思想家：カントとグロチウス １２．国際政治観の比較：リアリズムと相互依存論 （５９、１１８） １３．国際政治観の比較：「中心―周辺」の従属論 （５９、１５８～１６１） １４．多国間主義（１７１～１７２） １５．質疑応答、後半の授業総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
『グローバル社会論資料集』	登録確認作業の出席点、中間テスト、期末試験の ３点セットで評価します。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	グローバル社会論 b 国際社会論 b	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ： 本講義の到達目標は、学生が一年時に学習した国際関係論の基礎から更に理解を深め、国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになること。 授業の概要： 本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組みとしての主体ならびに分析視点として理論をあつかう。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体的な事象として取り上げ、理論的アプローチを適用することでグローバル社会の実態の把握にせまる。	第１回　ガイダンス 第２回　グローバル化する国際社会と国際政治 第３回　国際政治の理論とは何か 第４回　国際政治の分析枠組み①国際関係 第５回　国際政治の分析枠組み②国家 第６回　国際政治の分析枠組み③個人 第７回　国際政治のアプローチ①現実主義 第８回　国際政治のアプローチ②理想主義 第９回　国際政治のアプローチ③コンストラクティズム／小テスト 第１０回　安全保障 第１１回　国際経済関係 第１２回　地球環境 第１３回　人権 第１４回　貧困と開発
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考書：適宜指定する。	出席、中間テスト、学期末レポートの総合評価とする。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	グローバル社会論 a 国際社会論 a	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ： 本講義の到達目標は、学生が一年時に学習した国際関係論の基礎から更に理解を深め、国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになること。 授業の概要： 本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組みとしての主体ならびに分析視点として理論をあつかう。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体的な事象として取り上げ、理論的アプローチを適用することでグローバル社会の実態の把握にせまる。	第１回　ガイダンス 第２回　グローバル化する国際社会と国際政治 第３回　国際政治の理論とは何か 第４回　国際政治の分析枠組み①国際関係 第５回　国際政治の分析枠組み②国家 第６回　国際政治の分析枠組み③個人 第７回　国際政治のアプローチ①現実主義 第８回　国際政治のアプローチ②理想主義 第９回　国際政治のアプローチ③コンストラクティズム／小テスト 第１０回　安全保障 第１１回　国際経済関係 第１２回　地球環境 第１３回　人権 第１４回　貧困と開発
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考書：適宜指定する。	出席、中間テスト、学期末レポートの総合評価とする。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	グローバル社会論 b 国際社会論 b	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル社会の特徴を理解するために、基本用語・理論・モデルの解説を行います。国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。同じ食材でも西洋料理、インド料理、中華料理、日本料理では味覚が異なります。分析方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。 「グローバル社会を見る眼」を養うこと――これが授業の目標です。グローバル社会の変化に着目し、歴史を現代に引き寄せます。情報のフローと共にストックを重視し、表面的な現象に振り回されるのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。 授業の前半では毎回、CNN や BBC 等の海外ＴＶニュースをリアルタイムで紹介。その日の世界ニュースに触れることができます。後半は、テキストを解説します。	１．オリエンテーション 国際情報ツールの説明 ２．国際社会を見る眼――木・林・森 ３．国際社会の基本システム：世界帝国（１５） ４．国際社会の基本システム：中世社会とアナキー ５．古典外交とヨーロッパ（１０～１１、１９～２０） ６．２つの政治観：リアリズムとリベラリズム（６） ７．政治プロセス：状況・制度・組織（２１～２７） 政治的権威：権力＋正統性（４７～４８） ８．国内政治と国際政治の相違（４９～５０） ９．質疑応答、前半の授業総括 １０．国際社会と思想家：ホッブス（５２～５３） １１．国際社会と思想家：カントとグロチウス １２．国際政治観の比較：リアリズムと相互依存論 （５９、１１８） １３．国際政治観の比較：「中心―周辺」の従属論 （５９、１５８～１６１） １４．多国間主義（１７１～１７２） １５．質疑応答、後半の授業総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
『グローバル社会論資料集』	登録確認作業の出席点、中間テスト、期末試験の３点セットで評価します。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	英語圏の国際関係 a 国際関係史 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の問題意識】 日本が 21 世紀においてアジア太平洋地域の平和と安定のために積極的に関わろうとするとき、日本とオーストラリアの連携・パートナーシップはとりわけ重要である。それは、両国が自由主義的民主主義、そして市場経済という政治的・経済的基本理念、またアジア太平洋地域の平和と安定の実現という戦略的価値観を共有すると同時に、こうした価値観とは必ずしも同調し得ないアジアの歴史と伝統のなかで生きているというアイデンティティをも共有しているからである。日豪両国こそが、ともに信頼できるパートナーとして、国際社会において共同行動をとっていけるし、採っていかなければならないであろう。 【講義概要】 春学期の講義では、イギリスによるオーストラリア植民地の形成（18 世紀後半）から、第二次世界大戦終結までのオーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国）やアメリカ、アジア地域との関係性のなかで概観していく。 本講義は、パワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。	第１回：イントロダクション～オーストラリアを学ぶ意義 第２回：植民地オーストラリア① ～植民地の誕生と発展 第３回：植民地オーストラリア② ～大英帝国とオーストラリア 第４回：ゴールドラッシュと白豪主義政策 第５回：多文化主義社会オーストラリア 第６回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ～「二つのナショナリズム」 第７回： 20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とアンザック精神 第８回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とオーストラリア国内社会 第９回： 第二次世界大戦～アジア国際関係と黄禍論 第 10 回：２つの捕虜収容所 第 11 回：対日講和問題とオーストラリア 第 12 回：オーストラリアにおける先住民問題① ～1970 年代まで 第 13 回：オーストラリアにおける先住民問題② ～ラッド首相の「謝罪演説」まで 第 14 回： まとめ（質疑応答）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：竹田、森、永野編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	英語圏の国際関係 b 国際関係史 b	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の問題意識】 日本が 21 世紀においてアジア太平洋地域の平和と安定のために積極的に関わろうとするとき、日本とオーストラリアの連携・パートナーシップはとりわけ重要である。それは、両国が自由主義的民主主義、そして市場経済という政治的・経済的基本理念、またアジア太平洋地域の平和と安定の実現という戦略的価値観を共有すると同時に、こうした価値観とは必ずしも同調し得ないアジアの歴史と伝統のなかで生きているというアイデンティティをも共有しているからである。日豪両国こそが、ともに信頼できるパートナーとして、国際社会において共同行動をとっていけるし、採っていかなければならないであろう。 【講義概要】 秋学期の講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリアの歴史を概観していく。 本講義は、パワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。	第１回：イントロダクション ～オーストラリア外交を見る眼 第２回：チフリー労働党政権の外交 ～新たな国際関係構築の模索 第３回：アンザス同盟の実現 第４回：冷戦下のアジア① ～第一次インドシナ危機 第５回：冷戦下のアジア② ～イギリスの「アジアの戦争」 第６回：冷戦下のアジア③ ～アメリカの「アジアの戦争」 第７回：ポストベトナムのオーストラリア外交 第８回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ～オーストラリアの「アジア化」 第９回：ミドルパワー外交①PKO、多国間主義 第 10 回：ミドルパワー外交②移民、難民、援助 第 11 回：ミドルパワー外交③核軍縮 第 12 回：日豪関係の歴史的展開～敵国から同盟国へ 第 13 回：ラッド労働党政権の政治と外交 第 14 回：まとめ（質疑応答）
テキスト、参考文献	**評価方法**
竹田、森、永野編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。

06～08 年度（春） 05 年度以前（春）	国際開発論 国際開発協力論 a	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、開発途上国における貧困および開発の実態を明らかにし、さらにグローバル化時代において開発途上国が直面する課題と可能性について検討します。 講義は３つのシリーズから構成されます。第１の「開発途上国の貧困」では、貧困の実態を紹介するとともにその要因を多面的に捉えます。第２の「開発途上国の開発とその実態」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、グローバリゼーションが開発途上国に与えている影響に関して検討し、さらに中国・インドの経済発展の実態についてその弊害を含めて探ります。第３の「グローバル化時代の国際開発」では、グローバル化時代における開発の新たなトレンドを探りつつ、地球環境問題の展開や新たなビジネスの可能性について考えます。 なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	１．イントロダクション：開発と国際関係 **＜開発途上国の貧困＞** ２．貧困の現状／歴史的要因（1）：植民地支配の影響 ３．歴史的要因（2）：アジアにおける植民統治 ４．政治的要因（1）：民主主義と開発 ５．政治的要因（2）：開発独裁体制 ６．社会・文化的要因：インド・カースト制度 **＜開発途上国の開発とその実態＞** ７．経済開発の方法とパターン ８．開発途上国とグローバリゼーション ９．中国経済発展の光と影（1）発展の勢い 10．中国経済発展の光と影（2）弊害と矛盾 11．インドの発展と停滞 **＜グローバル化時代の国際開発＞** 12．地球環境問題と開発 13．国際ビジネスの新展開（1）：ポップカルチャー 14．国際ビジネスの新展開（2）：医療・観光・食品
テキスト、参考文献	**評価方法**
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。	学期末試験の成績を中心に評価を行います。

06～08年度(春) 05年度以前(春)	国際協力論 国際開発協力論ｂ	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目標は、国際協力の多様性を理解することです。国際協力の担い手も先進国、国際機関、国際ＮＧＯなど多様です。またアジアやアフリカの途上国そのものが、国際協力の担い手となる南南協力もあります。 本講義では、グローバル社会における先進国と発展途上国の関係を、国際協力の視点から取り上げます。世界は９・１１テロ事件によって大きく変化し、国際協力のあり方も見直されるようになりました。 授業計画の前半では、９・１１テロ事件が発生する以前の時代を扱い、後半では９・１１テロ事件以後の時代に焦点を当てます。国際協力のフィールドに立った気持ちで、現場の感覚や匂いを伝えられるような授業を目指します。 各授業の前半では、CNN やＢＢＣなどの海外ＴＶニュースをリアルタイムで紹介。その日の世界ニュースに触れることができます。各授業の後半は、テキストを解説します。	１．オリエンテーション 国際情報ツールの説明 ＜９・１１同時テロ以前＞ ２．ミドルパワーの役割（序、１章） ３．地域協力：APEC とケアンズ・グループ（６章３節） ４．内戦：東チモールと和平プロセス（６章４節） ５．内戦：カンボジアとエバンス提案（６章３節） ６．難民：ベトナム（６章２節） ７．移民：アジア系（６章２～３節） ８．質疑応答、前半の授業総括 ＜９・１１同時テロ以後＞ ９．国際テロとイスラム過激派（序３－８頁） １０．アルカイダの誕生（１章２０－２２頁） １１．失業、海外の拠点、再就職（２３－３４頁） １２．ビンラディンの人物像（３５－４３頁） １３．テロ対策と国際協力（２２６－２３３頁） １４．同時テロ以後の世界：非伝統的安全保障 １５．質疑応答、後半の授業総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』(中公新書、２０００年)、同『国際テロネットワーク』(講談社現代新書、２００６年）の２冊。	登録確認作業の出席点、中間テスト、期末試験の３点セットで評価します。

06～08 年度（春）	国際交流論	担当者	小松　諄悦

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流の三分野における、国際文化交流事業の実践を検証します。 分野ごとの文化交流事業の実践を学習しながら、文化交流政策、文化交流の目的についても、考察していきたいと思います。 国際環境の変化が、いかに文化交流に影響を与えるかも、検討したいと考えています。	１．国際文化交流の歴史 ２．国際交流基金の歴史 ３．芸術交流 ４．芸術交流の実践 ５．芸術交流の実践（2） ６．日本語教育 ７．日本語教育の実践 ８．日本研究 ９．日本研究事業の実践 １０．知的交流 １１．知的交流の実践 １２．知的交流の実践（2） １３．国際環境の変化と国際文化交流の変遷 １４．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	期末レポートによって評価（80%）するが、出席率も考慮に入れる（20%）。

06～08年度（秋）	国際ツーリズム論	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 国際関係の分野で重要な役割を果たすソフトパワーとしての観光の力を認識し、国際的規模での観光動向に関する基礎知識を習得する。又、わが国の観光立国政策への理解を深め、併せて、韓国、中国、台湾、米国等の訪日旅行有力市場特性を理解する。 講義概要 わが国の観光立国政策を理解し、国際観光は、国際収支改善、雇用促進、地域開発などの経済的側面のみならず社会、文化、教育、環境など非常に広範囲な分野に強い影響力を及ぼしていることを学習する。日本における国際観光の意義、国際観光の歴史的経緯を学びながら、経済的、文化的、社会的側面を考察し、その重要性を認識する。ことに、日本人の海外旅行者数と訪日外国人旅行者数のアンバランスは重大問題として学習する。訪日外国人旅行者の動向、日本の観光魅力、主要国の国際観光の状況と日本との交流、国際観光マーケティングについても理解を深める。 又、流動的な旅行業界や航空業界の動き等々、観光関連報道記事を適宜取り上げたい。	１．講義の概要 ２．観光とは、意義と役割 ３．国際関係に見るソフトパワーとは ４．日本のソフトパワーと観光 ５．ソフトパワーとしての国家の観光魅力 ６．国際観光立国の今日的意義 ７．インバウンド観光（訪日外国人）の現状 ８．国際観光と観光マーケティング ９．観光立国推進基本法と実施策（VJC） １０．インバウンド振興と観光政策 １１．日本の海外旅行市場動向 １２．日本の海外旅行市場振興 １３．国際観光の展望 １４．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。	試験結果と授業への参加度を総合的に評価する。

06～08 年度（秋）	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化、多極化、多様化といった現象が進む現代社会において、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。また、国際協力を担う主体も多様化し、国家、国際機関、企業などとともに非政府組織（NGO）にも注目が集まっています。本講義では、国際協力、とりわけ開発援助における NGO の機能と役割に注目しながら、現代の国際社会が抱える開発協力の諸問題について考えます。 本講義は３つのシリーズから構成されます。第１の「開発援助の仕組みと展開」では、政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODA の新たなトレンドと課題を探ります。第２の「NGO の役割と課題」では NGO のあり方について歴史的背景を踏まえながら捉え、さらに開発と NGO との関係について具体的なケースを取り上げながら考えます。最後の「国際協力の新たなテーマと NGO」では、近年注目されている国際協力の幾つかの側面に着目しながら、新たな NGO の役割と課題について検討します。	１．イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO **＜開発援助の仕組みと展開＞** ２．ODA の仕組みとトレンド ３．日本の ODA の歴史的展開と特徴 ４．国際援助の新たなアジェンダと課題 ５．グローバル化時代の国際協力と NGO **＜NGO の役割と課題＞** ６．NGO の機能と役割 ７．NGO 活動の歴史と変遷 ８．開発と NGO：ケーススタディ(1)バングラデシュ ９．開発と NGO：ケーススタディ(2)マレーシア 10．日本の国際 NGO 活動 **＜国際協力の新たなテーマと NGO＞** 11．ジェンダー問題と国際協力 12．マイクロクレジットという方法 13．大規模自然災害と国際協力 14．NGO の課題と展望
テキスト、参考文献	**評価方法**
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。	学期末試験の成績を中心に評価を行います。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	国際関係特殊講義 a 国際関係論特殊講義 a	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 国際観光事業において重要な役割を担う国際航空産業は、各国の経済力や政策に左右される国際政治の影響を受けやすい。国際航空業の仕組みや成り立ちを、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れを学習することにより把握する。併せて、わが国の航空政策の現状と課題、及び将来の展望について理解する。 講義概要 国際線運航の原則、航空の国際的組織、国際航空の潮流、わが国の航空政策等々を学習することにより、国際航空運送の仕組みを理解する。又、各国の航空規制緩和がもたらした航空業界の変革について、アメリカの航空政策の規制緩和を中心に学習する。殊に、ローコストキャリア（新規低運賃航空会社）の台頭が著しい欧米、アジアの現状を検証する。一方、羽田の国際化問題で揺れるわが国の航空運送の現状について、空港問題を中心に航空政策の課題についても触れ、今後の展望を学習する。 又、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。	１．講義の概要 ２．国際線運航の原則 ①領空主権主義と運輸権 ３．国際線運航の原則 ②シカゴ条約と空の自由 ４．国際線運航の原則 ③2 国間協定とカボタージュ ５．航空の国際的組織 ①ICAO と IATA　②その他の組織 ６．米国の.航空規制緩和 ７．航空規制緩和と LCC（ロー・コスト・キャリア） ８．米国の新規航空企業 ①サウスウエスト航空の事例　1 ９．米国の新規航空企業 ②サウスウエスト航空の事例 １０．航空経営戦略の潮流（ハブ・アンド・スポークとアライアンス） １１．日本の航空政策と規制緩和 １２．日本の空港の現状と課題① １３．日本の空港の現状と課題② １４．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。	試験結果と授業への参加度等で総合的に評価する。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 地球温暖化防止に対する、国連を初めとする国際機関の取り組みを学習し、持続可能なツーリズムとしての新しい概念であるエコツーリズムを理解する。 講義概要 今、われわれはマスツーリズムの恩恵を享受しているが、地球温暖化等々環境問題は、観光分野にも大きな影を落としている。エコツーリズムは、単なる新しい観光形態ではなく、従来の観光の概念とまったく違う新しい考え方に基づき、自然・文化環境の保全と、経済的プラスを両立させる新しい観光概念である。エコツーリズムについて、その概念、定義、歴史、ガイドラインを学習し、自然を守り、観光資源に負荷を与えずに、地域への理解を深める手段としてのエコツーリズムを深く理解する。併せて、世界各国と日本のエコツーリズムへの取り組み、地域、旅行業界との関連等を学習する。 又、流動的な旅行業界や航空業界の動き等々、観光関連報道記事を適宜取り上げ学習の参考にしたい。	1.　講義の概要 ２．　環境問題とは ３．　観光と環境 ４．　地球温暖化と観光 ５．　環境問題とサスティナブルツーリズムの概念 ６．エコツーリズムの考え方 ７．エコツーリズムとエコツアー ８．エコツーリズムへの取り組みとルール ９．エコツーリズム推進法 １０．エコツーリズム推進地域の事例　①　日本 １１．エコツーリズム推進地域の事例　②　日本 １２．エコツーリズム推進地域の事例　③　オセアニア １３．エコツーリズム推進地域の事例　④　ヨーロッパ １４．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。	試験結果と授業への参加度等を総合的に評価する。

06～08 年度（春） 03～05 年度（春）	国際関係特殊講義 a 国際関係論特殊講義 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
【本講義の目標】 本講義の目的は、20 世紀の国際関係の歴史の全体像を把握し、それを 21 世紀の国際関係の理解に役立てることである。国際政治の現象の理解に必要なのは、理論的な枠組みと歴史的背景である。前者の理論的枠組みについては、「グローバル社会論」（国際コース必修科目）を中心に講義がなされているが、歴史関連科目については、学生諸君が学ぶ機会は限られており、この講義が歴史的知識を習得する機会を与える一つとなるだろう。 【講義概要】 本講義では、第二次世界大戦後の歴史を主として冷戦という観点から振り返っていくが、「核兵器」、「脱植民地化」、「経済」、「文化」、「市民社会」などテーマを絞って過去およそ 50 年間の歴史を振り返りたい。 本講義は、パワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。抜き打ちで出欠調査を兼ねたリアクションペーパーの提出を求める。 なお、本講義は昨年度までの「英語圏の国際関係 a」（春学期）の講義内容を再構成したものである。同科目の既習者の登録を妨げるものではないが、履修にあたっては注意してほしい。	第 1 回：イントロダクション～歴史を学ぶとは？ 第 2 回：20 世紀はどんな時代であったか ～ナショナリズムの時代 第 3 回：20 世紀はどんな時代であったか ～大量破壊兵器の時代 第 4 回：20 世紀はどんな時代であったか ～国際関係の多民族化・多文化化 第 5 回：20 世紀はどんな時代であったか ～資本主義経済のグローバル化 第 6 回：冷戦とは何であったのか 第 7 回：冷戦の開始・冷戦の起源 第 8 回：冷戦の展開と激化 第 9 回：冷戦と日本 第 10 回：冷戦と経済 第 11 回：冷戦と文化 第 12 回：冷戦と市民社会 第 13 回：冷戦の終焉と 21 世紀の国際関係 第 14 回： まとめ（質疑応答）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。 講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。	抜き打ち的に実施するリアクションペーパーの提出（30%）と学期末試験（70%）による。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
数多くのアフリカ諸国が独立を果たした 1970 年代は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から四半世紀を経過した今なお、アフリカ諸国は良くも悪くも国際社会の関心の的となっている。国際社会の安全と平和の推進に大きな役割を担う国連安保理の議題の約 6 割がアフリカ関連事項であるという事実もこれを裏付ける。本講義では、現代アフリカを理解するのに必要な視点ならびに情報を提供する。 本講義では、サハラ以南アフリカ諸国に焦点を当て、政治、経済、社会などさまざまな側面からアフリカの実情を把握し、グローバル社会の中での位置づけを把握することを試みる。映像資料を積極的に使用することで、学生の理解の向上に努めたい。 アフリカ地域また国際協力に関心のある学生の受講を望む。	第 1 回　グローバリゼーション時代のアフリカ 第 2 回　アフリカの歴史① 第 3 回　アフリカの歴史② 第 4 回　国際支援とアフリカ① 第 5 回　国際支援とアフリカ② 第 6 回　天然資源と経済成長 第 7 回　紛争と平和構築① 第 8 回　紛争と平和構築② 第 9 回　民主主義とガバナンス 第 10 回　地域協力体制 第 11 回　女性と人権 第 12 回　地球環境問題 第 13 回　日本の対アフリカ政策 第 14 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜紹介する。	出席と学期末試験の総合評価とする。 3 回を超えて欠席したものは、単位修得の権利を失う。

06～08 年度（秋） 03～05 年度（秋）	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	小松　諄悦

講義目的、講義概要	授業計画
「国際交流論」で分野ごとに検証した国際文化交流事業の実践を、この講義では、日本にとって重要な地域（アジア）・国（アメリカ）ごとの、国際文化交流事業の実践を検証します。 南アジア、東南アジア、北東アジア、さらにアメリカの、それぞれの特性を考察しながら、その特性に応じた、適正な文化交流事業を検討していきたいと思います。 欧米における新しい文化交流とみなされているパブリック・ディプロマシー（広報外交）の有効性についての私論も展開する。	１．国際文化交流の歴史 ２．南アジアの特性 ３．南アジアとの文化交流 ４．東南アジアの特性 ５．東南アジアとの文化交流 ６．北東アジアの特性 ７．中国との文化交流 ８．韓国との文化交流 ９．アジアとの文化交流：（東）アジア共同体 １０．　アメリカの特性 １１．　アメリカとの文化交流 １２．　アメリカとの文化交流（2） １３．　パブリック・ディプロマシーの有効性 １４．　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	期末レポートによって評価（80%）するが、出席率も考慮に入れる（20%）。

06～08年度（秋） 03～05年度（秋）	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
国際的なリゾート地やリゾート開発現場は、多様なリスク（危険）と背中合わせです。客船によるクルージングは、マラッカ海峡、カリブ海、アデン湾におけるパイレーツ（海賊）を警戒しなければなりません。また世界中のリゾート客を魅了してきたバリ島は、爆弾テロ事件に巻き込まれたことがあります。国際的なツーリズム産業は、海賊・テロ・組織犯罪などのリスクと真正面から向き合わなければなりません。 本講義では国際ツーリズムを取り巻く多様なリスクを分析し、リスクの発生原因やその影響、さらにリスク回避の対策などを具体的に講義します。 各授業の前半では、CNNやBBCなどの海外ニュースをリアルタイムで紹介。その日の世界ニュースに触れることができます。各授業の後半では、テキストを解説します。 ２年生から受講できます。	１．オリエンテーション 国際情報ツールの説明 ２．国際テロ組織「アルカイダ」 （１章１～３） ３．テロの資金源　（４章１～３） ４．テロの資金源 ５．テロ資金の管理　（４章４） ――金・ダイヤモンド・ハワラ ６．金・ダイヤモンド・ハワラ ７．ビンラディンの「聖戦」（１章４～５） ８．質疑応答、前半の授業総括 ９．東南アジア活用法（２章） １０．アルカイダ系テロ組織（３章１） 「ジェマー・イスラミア」（３章２） １１．東南アジアのテロ組織（３章３～５） １２．同上 １３．国際テロと向き合う（終章） １４．質疑応答、後半の授業総括 また授業計画を一部変更して、パイレーツ（海賊）も扱う予定です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
竹田いさみ『国際テロネットワーク』 （講談社現代新書、２００６年）。	登録確認作業の出席点、中間テスト、期末テストの３点セットで評価します。

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	国際関係文献研究 a 国際関係論文献研究 a	担当者	鈴木　絢女

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、米国の *Foreign Affairs* 誌や *National Interest* 誌などに掲載された論文、政治家のスピーチ、新聞・雑誌記事などを主なテキストとして、アメリカの論壇で影響力を持った議論を読むことで、（1）国際関係の大まかな流れを理解し、（2）国際関係分野の理解に必要な英語能力を習得し、また、（3）プレゼンテーション能力を構築することを目指します。 講義は、履修者による報告と討論、国際関係論の解説から成ります。テーマとしては、冷戦、冷戦の終結、文明の衝突論などを予定していますが、履修者の関心を反映して、柔軟に編成します。	第 1 回：イントロダクション・国際関係の流れの解説・割り当ての決定 第 2 回～13 回：履修者による報告、討論 第 14 回：おさらい 第 2 回～第 4 回の基本文献は以下のとおり。 ▫ Kaplan, Robert D., “The Coming Anarchy,” *The Atlantic Monthly,* February 1994. ▫ Ikenberry, John G., “The Myth of Post-Cold War Chaos,” *Foreign Affairs*, 75 (3), 1996, pp.79-91. 履修者の国際関係、世界史分野の知識量に応じて、適宜解説を加えながら進めます。また、具体的な出来事に関する記事や映像を交えながら、できるだけ具体的に国際関係を捉えるようにします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
文献のコピーはこちらで用意します。	出席状況、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度などにより評価します。単位取得のためには、2/3 以上の出席が必要です。

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	国際関係文献研究 b 国際関係論文献研究 b	担当者	鈴木　絢女

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、米国の *Foreign Affairs* 誌や *National Interest* 誌などに掲載された論文、政治家のスピーチ、新聞・雑誌記事などを主な教材として、アメリカの論壇で影響力を持った議論を読み、（1）国際関係の大まかな流れを理解し、（2）国際関係論の理解に必要な英語能力を習得し、また、（3）プレゼンテーション能力を構築することを目指します。 講義は、履修者による報告と討論、国際関係論の解説から成ります。テーマとしては、文明の衝突論、アジア的価値、アメリカ帝国論、アメリカ衰退論などを予定していますが、履修者の関心を反映して、柔軟に編成します。	第 1 回：イントロダクション・国際関係の流れの解説・割り当ての決定 第 2 回～13 回：履修者による報告、討論 第 14 回：おさらい 第 2 回～第 3 回の基本文献としては、次の論文を予定しています。 ▫ Zakaria, Fareed, “Culture is Destiny: A Conversation with Lee Kuan Yew,” *Foreign Affairs*, 73 (2), 1994, pp.109-26. ▫ Kim Dae Jung, “Is Culture Destiny?: The Myth of Asia’s Anti-Democratic Values,” *Foreign Affairs*, 73 (6), 1994, pp. 184-94. 履修者の国際関係、世界史分野の知識量に応じて、適宜解説を加えながら進めます。また、具体的な出来事に関する記事や映像を交えながら、できるだけ具体的に国際関係を捉えるようにします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
文献のコピーはこちらで用意します。	出席状況、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度などにより評価します。単位取得のためには、2/3 以上の出席が必要です。

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	国際関係文献研究 a 国際関係論文献研究 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、以下の３つの目標が設定されています。 第１の目標は、英語圏の国際関係を、国際テロ組織アルカイダが関与したテロ問題に注目して討論することです。 第２の目標は、英語の運用能力を高めることです。 第３の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。 テキストは、国際テロ問題に関して米国の特別調査委員会が作成した委員会レポートを扱う予定です。 毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。 課題テーマに関する発表資料を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。 重複履修は原則として出来ません。	受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマと発表者を決めます。 １　オリエンテーション ２　テーマごとのプレゼンテーションと討論 ３　同上 ４　同上 ５　同上 ６　同上 ７　同上 ８　同上 ９　同上 １０　同上 １１　同上 １２　同上 １３　同上 １４　同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
The National Commission on Terrorist Attacks upon the United States, *The 9/11 Commission Report, Authorized Edition,* NY: W.W. Nortone, 2004.	出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備などで評価します。

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	国際関係文献研究 b 国際関係論文献研究 b	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、以下の３つの目標が設定されています。 第１の目標は、英語圏の国際関係を、国際テロ組織アルカイダが関与したテロ問題に注目して討論することです。 第２の目標は、英語の運用能力を高めることです。 第３の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。 テキストは、国際テロ問題に関して米国の特別調査委員会が作成した委員会レポートを扱う予定です。 毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。 課題テーマに関する発表資料を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。 重複履修は原則として出来ません。	受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマと発表者を決めます。 １　オリエンテーション ２　テーマごとのプレゼンテーションと討論 ３　同上 ４　同上 ５　同上 ６　同上 ７　同上 ８　同上 ９　同上 １０　同上 １１　同上 １２　同上 １３　同上 １４　同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
The National Commission on Terrorist Attacks upon the United States, *The 9/11 Commission Report, Authorized Edition,* NY: W.W. Nortone, 2004.	出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備などで評価します。

03～07 年度（春）	特別セミナー（Edo-Period Painting & the Art of Noh Masks）	担当者	A. Zollinger

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting and noh theatrical masks. Semester 1 will include lectures on Yamato-e, Tosa school painting, Kano school painting, and Rinpa school painting. Noh masks, their varieties, usage and manufacture, will be examined in relation to the development of the noh theatre, its traditions and myths. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings and masks, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. In addition, supplemental readings and associated vocabulary exercises will be provided to ensure comprehension of unfamiliar, specialized language and difficult-to-understand points. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal paintings and mask varieties and have the means to discuss each in basic English. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis. Lectures will be given in English, with some Japanese used in relation to terminology. Please note the number of students to be accepted is 25.	1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. The Basic Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e "Pictures of Japan" 5. Artists and Paintings of the Tosa school 6. Artists and Paintings of the Kano school 7. Artists and Paintings of the Kano school 8. Artists and Paintings of the Rinpa school 9. Artists and Paintings of the Rinpa school 10. Artists and Paintings of the Rinpa school 11. Museum Trip 12. Noh mask varieties and usage 13. The development and manufacture of noh masks 14. The development and manufacture of noh masks
テキスト、参考文献	**評価方法**
Much of the course content will be presented through power point slides. Supplementary reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (40%). Students missing more than four class sessions will not receive course credit.

03～07 年度（秋）	特別セミナー（Edo-Period Painting & the Art of Noh Masks）	担当者	A. Zollinger

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting and noh theatrical masks. Semester 2 will include lectures on Maruyama-Shijo school painting, Southern school (Literati) painting, the painting of independent artist Ito Jakuchu, and Ukiyo-e painting and prints. Noh masks, their varieties, usage and manufacture, will be examined in relation to the development of the noh theatre, its traditions and myths. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings and masks, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. In addition, supplemental readings and associated vocabulary exercises will be provided to ensure comprehension of unfamiliar, specialized language and difficult-to-understand points. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal paintings and mask varieties and have the means to discuss each in basic English. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis. Lectures will be given in English, with some Japanese used in relation to terminology. Please note the number of students to be accepted is 25.	1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. The Life and Works of Maruyama Okyo 4. The Life and Works of Maruyama Okyo 5. Southern school (Literati) Artists and Paintings 6. Southern school (Literati) Artists and Paintings 7. Artists and Paintings of the Shijo school 8. Artists and Paintings of the Shijo school 9. Museum Trip 10. The Individualist Ito Jakuchu 11. The Individualist Ito Jakuchu 12. Ukiyo-e Artists, Paintings and Prints 13. Ukiyo-e Artists, Paintings and Prints 14. Noh Masks of the Omi Izeki Line of Hereditary Mask Makers
テキスト、参考文献	**評価方法**
Much of the course content will be presented through power point slides. Supplementary reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (40%). Students missing more than four class sessions will not receive course credit.

03 年度以降（春）	総合講座（音楽とことば・文学①）	担当者	コーディネーター 木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
この総合講座では、音楽とことば・文学に関する幅広い内容を扱います。 この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が、映像資料や録音資料、生演奏等を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、音楽が中心になったり、文学や地域論に重点が置かれたり、歌詞の観点から音楽を論じたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。 注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。	1．木村佐千子（本学ドイツ語学科准教授）〈オリエンテーション〉〈バッハの《マタイ受難曲》における音楽とことば〉 2．前沢浩子（本学英語学科准教授）〈シェイクスピアと音楽〉 3．佐藤亜紀子（リュート奏者、東京芸術大学教育研究助手）〈リュート音楽（レクチャーコンサート）〉 4．佐野康子（本学英語学科専任講師）〈多様なるアフリカの人と文化〉 5．渡部重美（本学ドイツ語学科教授）〈詩を読むための作法～韻律論入門～〉 6．下川浩（本学ドイツ語学科教授）〈ドイツ歌曲〉 7．高橋雄一郎（本学交流文化学科教授）〈ヴェトナム戦争と映像・舞台・音楽（1）〉 8．高橋雄一郎〈ヴェトナム戦争と映像・舞台・音楽（2）〉 9．松橋麻利（本学フランス語学科非常勤講師）〈象徴主義の詩と歌曲〉 10. 若森栄樹（本学フランス語学科教授）〈フランスのシャンソンにおける言葉と音楽〉 11. 原成吉（本学英語学科教授）〈Poetry in Music －Ballad tradition & Bob Dylan〉 12. 原成吉〈Music in Poetry －Poetry Performance of Gary Snyder〉 13. 前原恵美（有明教育芸術短期大学専任講師）〈歌舞伎における音楽描写について〉 14. 木村佐千子〈標題音楽について〉〈まとめ〉 ※内容や担当者は変更となる場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に適宜紹介します。	出席を重視し（10 回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。

03 年度以降（秋）	総合講座（音楽とことば・文学②）	担当者	コーディネーター 木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
この総合講座では、音楽とことば・文学に関する幅広い内容を扱います。 この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が、映像資料や録音資料等を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、音楽が中心になったり、文学や地域論に重点が置かれたり、歌詞の観点から音楽を論じたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。 注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。	1．木村佐千子（本学ドイツ語学科准教授）〈オリエンテーション〉〈バッハのカンタータにおける音楽とことば〉 2．児嶋一男（本学英語学科教授）〈O'Conner の "Famine" から映画 *Once* まで ――U2 やエンヤの国の様変り〉 3．上野直子（本学英語学科教授）〈レゲエの根っこと根無しのカリブ〉 4．上野直子〈ラサの Bob・東京の "Redemption Song"〉 5．森立子（日本大学非常勤講師）〈フランスのバロック･オペラ〉 6．松橋麻利（本学フランス語学科非常勤講師）〈オペラにおける人間表現〉 7．谷口亜沙子（本学フランス語学科専任講師）〈「カルメン」をめぐって〉 8．諏訪功（元本学ドイツ語学科特任教授、一橋大学名誉教授）〈「音楽とことば」。音楽とことばに共通する線的性質〉 9．近藤静乃（東京芸術大学非常勤講師）〈現代における「声明（しょうみょう）」の魅力――日本伝統音楽の源流として〉 10. 工藤達也（本学ドイツ語学科准教授）〈生命と神話――クラーゲスの『リズムの本質』を中心に〉 11. 木村佐千子〈ルター派のコラール　～クリスマスの音楽を中心に～〉 12. 山本淳（本学ドイツ語学科教授）〈「詩」としてのドイツ・ポップス〉 13.. 園田みどり（本学全学共通カリキュラム非常勤講師）〈イタリア語の韻律と音楽のかかわりについて〉 14. 木村佐千子〈交響詩について〉〈まとめ〉 ※内容や担当者は変更となる場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に適宜紹介します。	出席を重視し（10 回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。

03 年度以降（春）	総合講座（EU の歴史と現状 1）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。 地域統合の歴史的前例としての EU について学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。	講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 5~7. 第 2 次大戦・戦後復興と欧州統合 8~9. EU の制度的起源(1)：ECSC の成立 10~11. EU の制度的起源(2)：EEC の成立 12~13. EEC の定着期 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合―歴史的大実験の展望』、創元社、2005 年	平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）

03 年度以降（秋）	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。	講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 通貨統合 5~6. マーストリヒト条約以降の EU 7~8. EU の制度 9~10. EU の諸政策 11. 加盟国と EU 12~13. EU 域外との関係 14. まとめ：EU の現在の課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合―歴史的大実験の展望』、創元社、2005 年	平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）

03 年度以降（春）	情報科学概論 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（1）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（2）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（3）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1　講義の概要と目標、情報科学とは 2　データ表現、基数変換、論理演算 3　コンピュータの構成要素 4　ソフトウェアの役割、体系と種類 5　オペレーティングシステム（0S） 0S の基礎概念、0S の役割と原理 6　プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7　データ構造―リスト、スタック、キュー、2 分木 8　アルゴリズムーアルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9　コンピュータによる言語情報処理技術（1） 10 コンピュータによる言語情報処理技術（2） 11　機械翻訳システムの演習 12　自然言語質問応答システム 13　インターネット上の多言語処理技術 14　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

03 年度以降（春）	［入門］情報科学各論（情報処理演習）[総合]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）〔英語〕〔ヨーロッパ言語〕」との重複履修はできない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『文科系学生のための情報活用』（共立出版） 各担当教員の指定する参考文献を使用する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［入門］情報科学各論（情報処理演習）[総合]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件・概要：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『文科系学生のための情報活用』（共立出版） 各担当教員の指定する参考文献を使用する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［入門］情報科学各論（情報処理演習）[英語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）[総合] [ヨーロッパ言語]」との重複履修はできない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［入門］情報科学各論（情報処理演習）[英語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［入門］情報科学各論（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）〔総合〕〔英語〕」との重複履修はできない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［入門］情報科学各論（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」との重複履修はできない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『文科系学生のための情報活用』（共立出版） 各担当教員の指定する参考文献を使用する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『文科系学生のための情報活用』（共立出版） 各担当教員の指定する参考文献を使用する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」との重複履修はできない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［応用］情報科学各論（Office 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［応用］情報科学各論（Office 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（HTML 入門）（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために）（HTML 応用 1)」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（HTML 中級)」との重複履修はできない。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（HTML 入門）（HTML 応用 1）（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［HTML］情報科学各論（HTML 中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：　評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために）（HTML 応用 1)」のいずれかを履修した人は履修できない。	1　ガイダンスとイントロダクション 2　HTML と FTP の復習（1） 3　HTML と FTP の復習（2） 4　インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5　プログラミングの基礎知識 6　JavaScript（1） 7　JavaScript（2） 8　JavaScript（3） 9　JavaScript（4） 10　JavaScript（5） 11　CGI の利用 12　総合課題（1） 13　総合課題（2） 14　鑑賞・報告会
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。	授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。 最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。

03 年度以降（春）	経済原論 a (経済学 a)	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　経済学の目的と方法 ２．　家計の行動① ３．　家計の行動② ４．　家計の行動③ ５．　企業の行動① ６．　企業の行動② ７．　企業の行動③ ８．　市場の理論① ９．　市場の理論② １０．　厚生経済学の基本定理 １１．　不完全競争市場① １２．　不完全競争市場② １３．　市場の失敗 １４．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として定期試験の成績で評価する。

03 年度以降（秋）	経済原論 b (経済学 b)	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　マクロ経済学の体系 ２．　国民所得の諸概念 ３．　消費と貯蓄の理論 ４．　投資の理論 ５．　国民所得決定の理論 ６．　生産物市場の分析 ７．　金融市場の分析 ８．　IS-LM 分析① ９．　IS-LM 分析② １０．　インフレとデフレ １１．　政府債務と財政赤字 １２．　経済成長論 １３．　開放マクロ経済 １４．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として定期試験の成績で評価する。